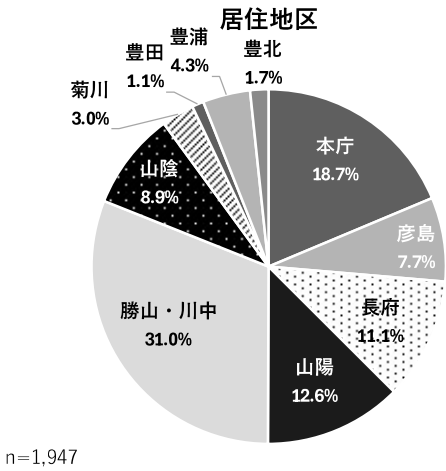


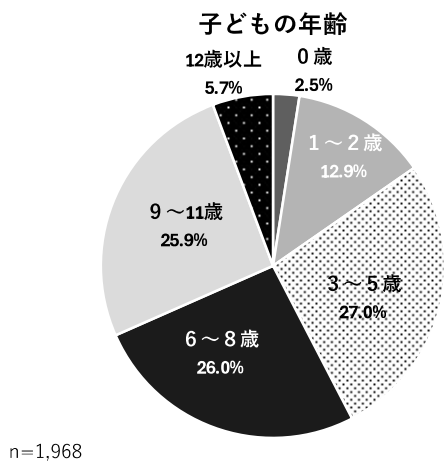
Ⅲ 調査結果（就学前児童及び就学児童の保護者）

1 属性

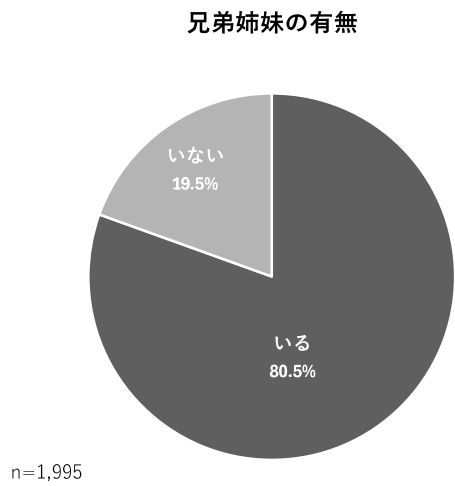
(1) 居住地区（校区に基づき分類）



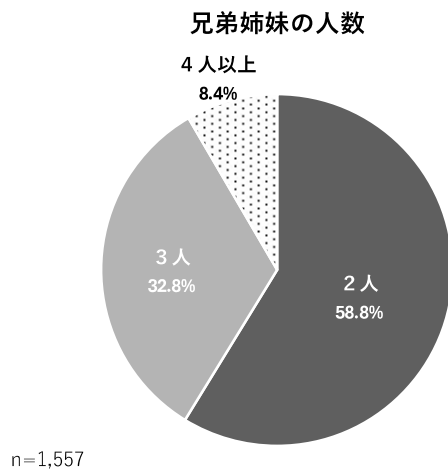
(2) 子どもの年齢（生年に基づき集計）



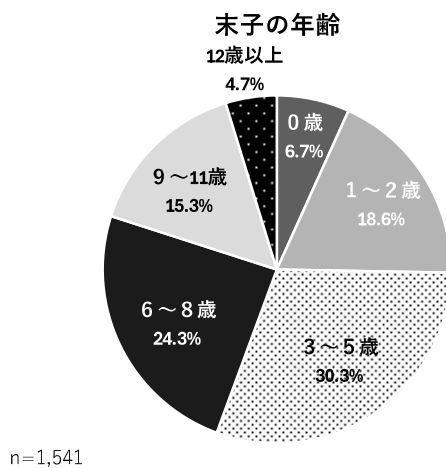
(3)-1 兄弟姉妹の有無



(3)-2 兄弟姉妹の人数（兄弟姉妹がいる世帯のみ）



(4) 末子の年齢



(5) 国籍

子ども：日本国籍 99.7%、その他 0.4%（n=1,990）

＊その他の国籍：ベトナム（3名）、韓国、朝鮮、中国、台湾、タイ

母親：日本国籍 99.6%、その他 0.4%（n=1,985）

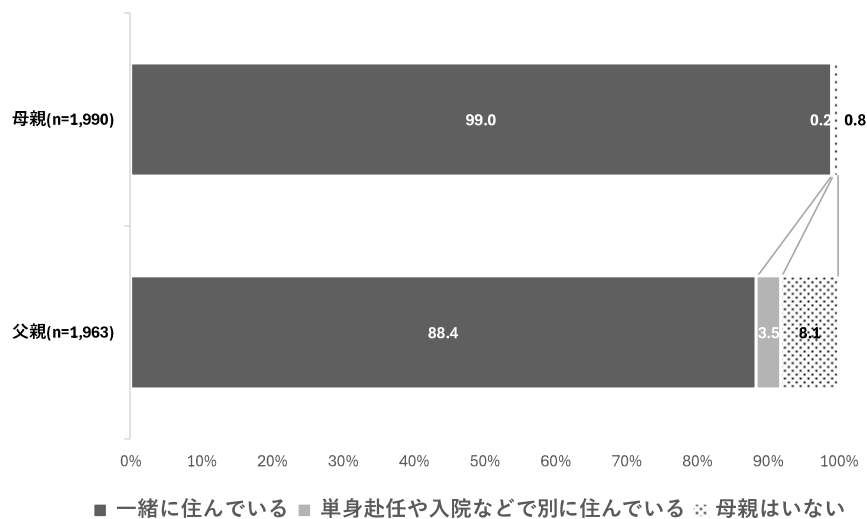
＊その他の国籍：ベトナム（3名）、韓国、中国、タイ

父親：日本国籍 99.0%、その他 1.0%（n=1,977）

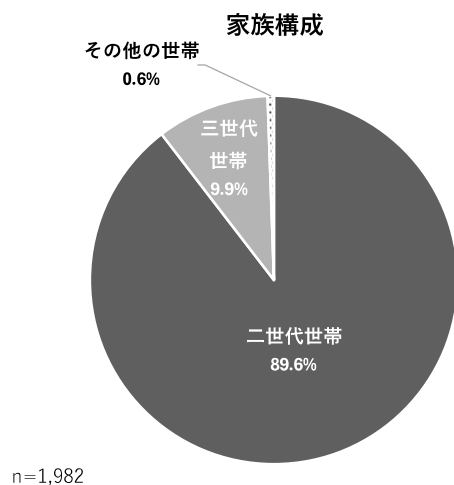
＊その他の国籍：韓国（6名）、朝鮮（3名）、中国（3名）、台湾、マレーシア、カナダ

(6) 両親の状況

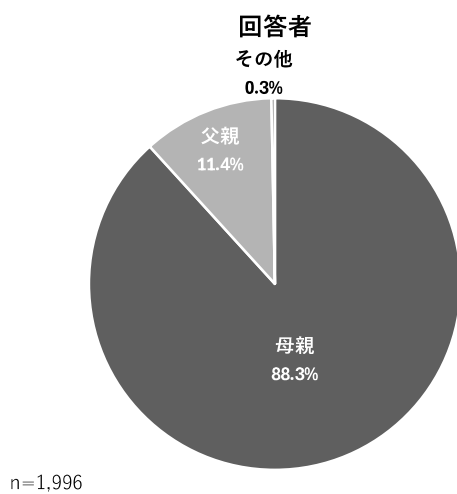
母親・父親の状況



(7) 世帯構成



(8) 調査票回答者



2 家族や住まいの状況

(1) 暮らしの状況

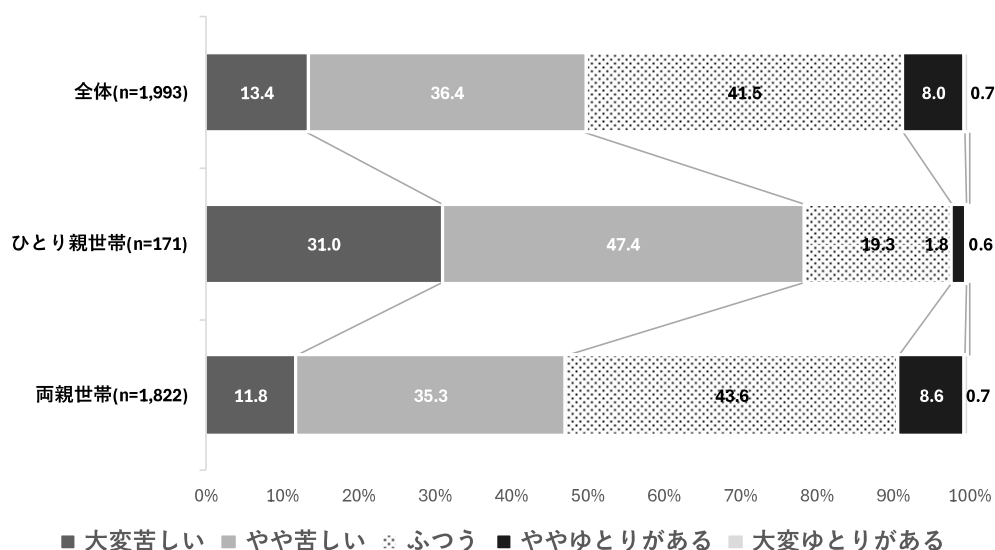
問9 現在の暮らしの状況について、どう感じていますか。【〇は1つ】

暮らしの状況については、『苦しい』（「大変苦しい」＋「やや苦しい」）と回答した割合が49.8%となっている。

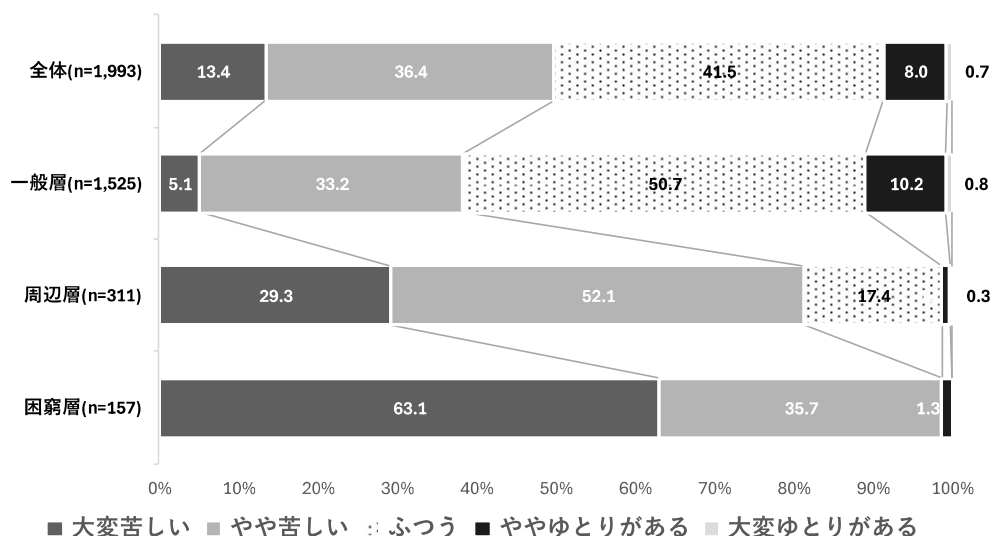
世帯状況別にみると、ひとり親世帯で『苦しい』と回答した割合が78.4%に達している。

生活困難層に係る分類でみると、『苦しい』と回答した割合が困窮層の98.8%を占めているほか、周辺層でも81.4%に達している。

暮らしの状況（世帯の状況別）



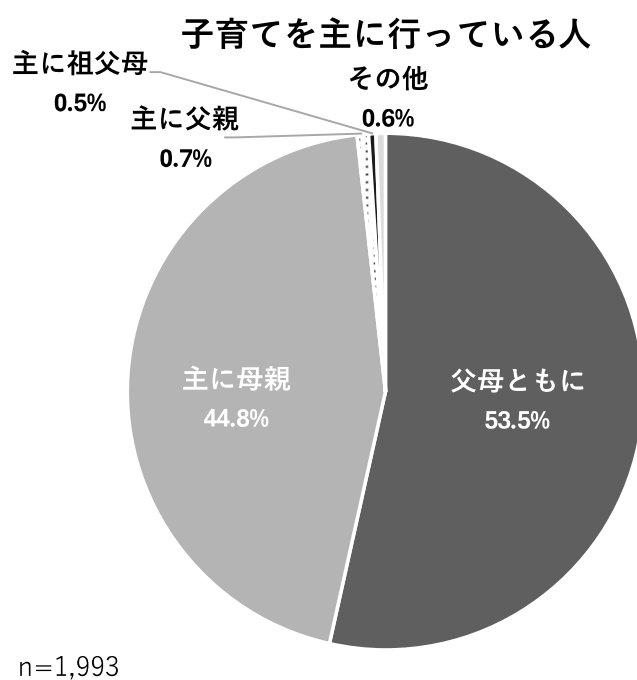
暮らしの状況（生活困難度別）



(2) 主な子育て（教育）者

問 11 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。あて名のお子さんからみた関係で回答してください。【〇は1つ】

主な子育て（教育）者については、「父母ともに」と回答した割合が 53.5%、「主に母親」と回答した割合が 44.8%となっている。



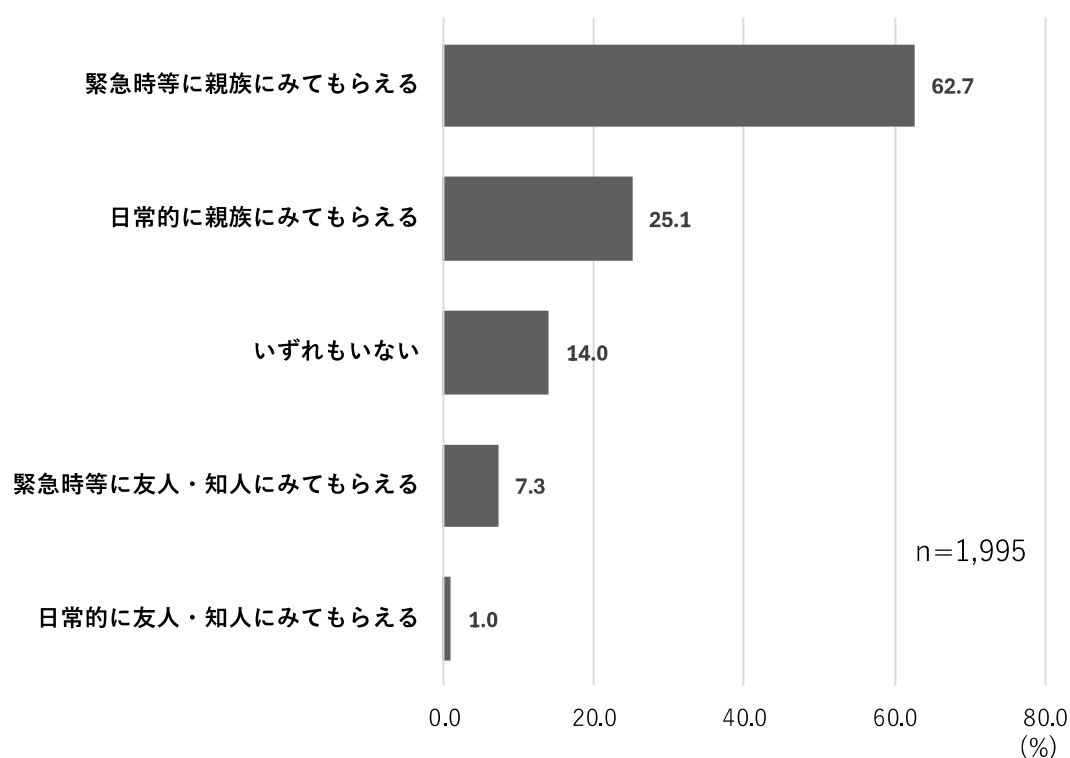
(3) 子どもをみてもらえる親族・知人の有無

問 12 日頃、あて名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。【あてはまるもの全てに○】

子どもをみてもらえる親族・知人の有無については、「緊急時や用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」と回答した割合が 62.7%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」と回答した割合が 25.1%となっている。

一方、「いずれもない」と回答した割合は 14.0%となっている。

子どもをみてもらえる親族・知人の有無

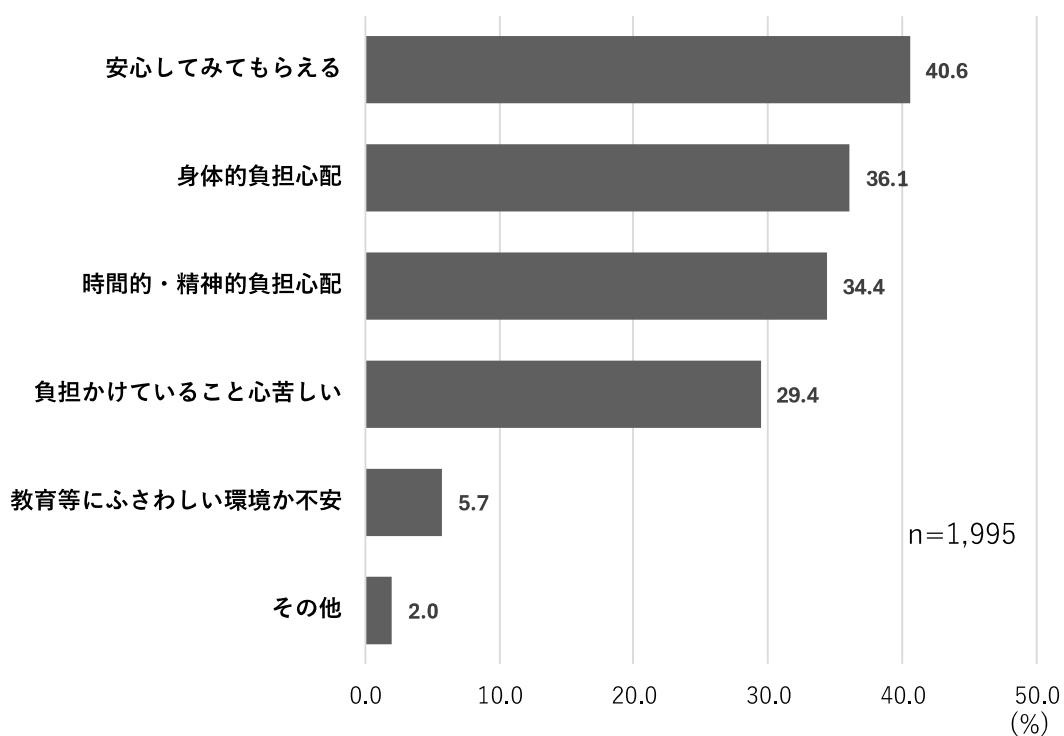


問 12 で「1」から「4」（みてもらえる親族・知人がいる）と回答した人のみ回答

問 12-1 祖父母等の親族、友人・知人にお子さんをみてもらっている状況について回答してください。【あてはまるもの全てに○】

子どもをみてもらえる親族・知人の状況については、「祖父母、友人等の身体的・精神的な負担や時間的な制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」と回答した割合が 40.6%となっている。一方、「祖父母、友人等の身体的な負担が心配である」が 36.1%、「祖父母、友人等の時間的な制約や精神的な負担が心配である」が 34.4%、「親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が 29.4%となっている。

子どもをみてもらっている状況



(4) 住居の状況

問 13 あなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。【○は1つ】

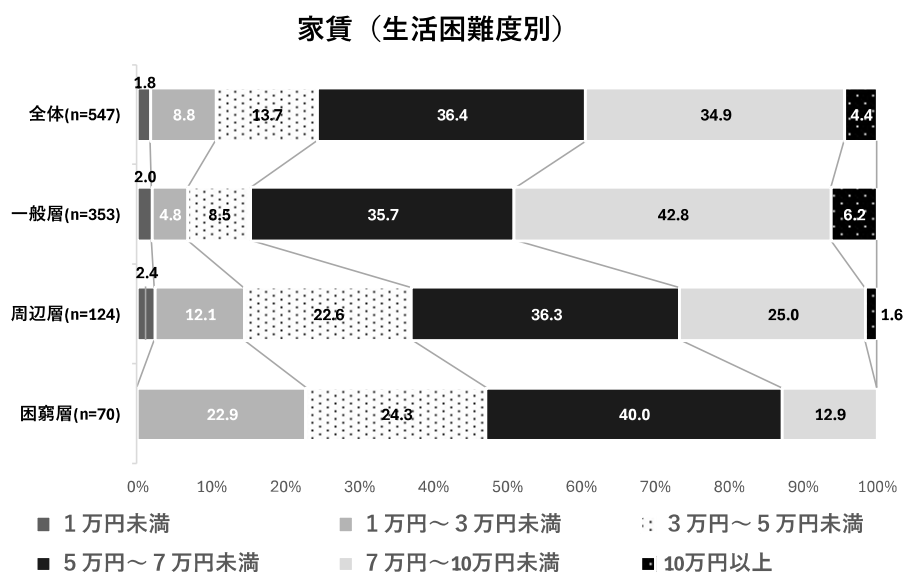
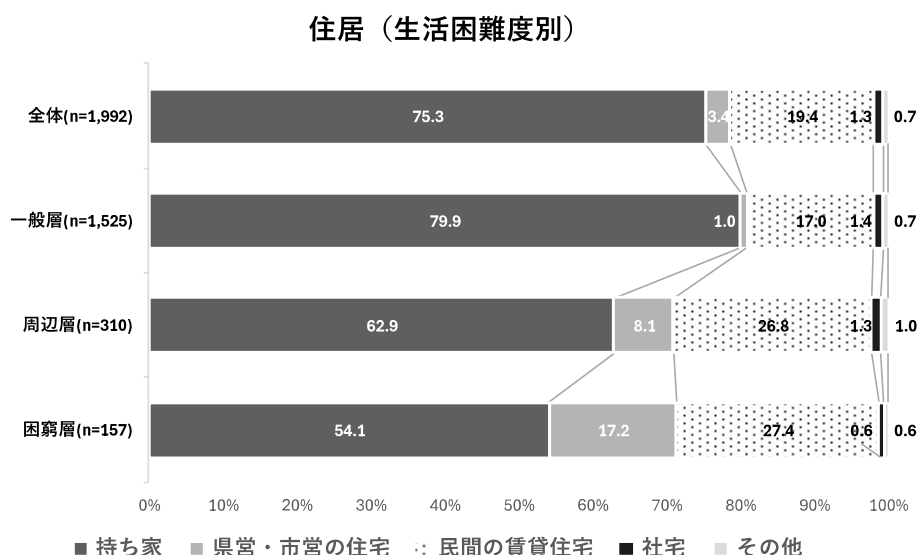
また、「2」から「5」と答えた方は、1か月あたりの家賃もお答えください。

現在の住居について、「持ち家（一戸建て・マンションを含む。親・兄弟姉妹の名義を含む。）」と回答した割合が 75.3%、「民間の賃貸住宅」が 19.4%となっている。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層でも「持ち家」と回答した割合が 54.1%となっており、経済的負担の軽減のために親族と同居をしていたり、持ち家にこだわり過ぎて家計バランスが崩れていたりする可能性が示唆できる。

「持ち家（一戸建て・マンションを含む。親・兄弟姉妹の名義を含む。）」以外の人に1か月あたりの家賃を具体的な数値で尋ね、その結果を集計したところ、「5万円～7万円未満」が 36.4%、「7万円～10万円未満」が 34.9%、「3万円～5万円未満」が 13.7%となっている。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層の 47.2%は家賃が5万円未満となっている。



3 両親の就労状況

(1) 母親の就労状況

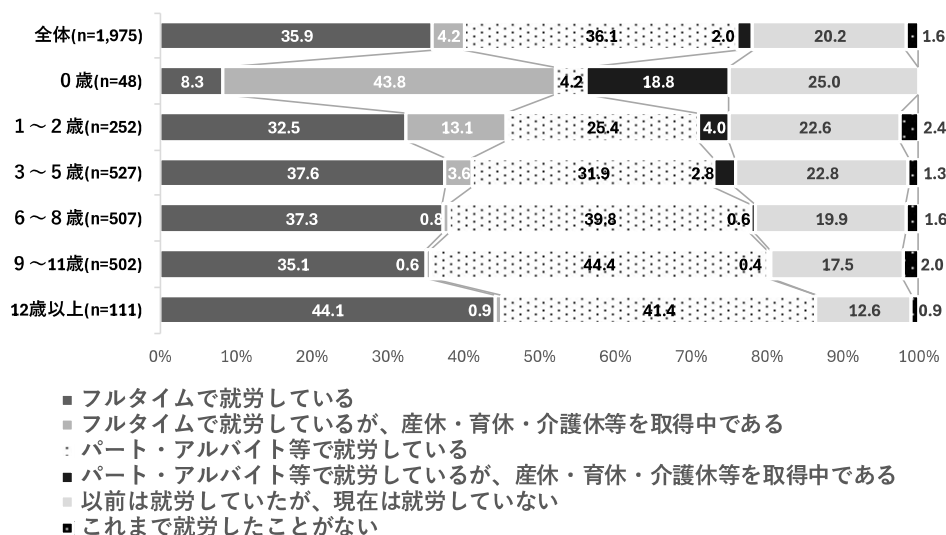
問 14 お母さんの就労状況を回答してください。【〇は1つ】

母親の就労状況について、『フルタイムで就労している』（「フルタイムで就労している」＋「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休等を取得中である」）と回答した割合が40.1%、『パート・アルバイト等で就労している』（「パート・アルバイト等で就労している」＋「パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休等を取得中である」）と回答した割合が38.1%、『就労していない』（「以前は就労していたが、現在は就労していない」＋「これまで就労したことがない」）と回答した割合が21.8%となっている。

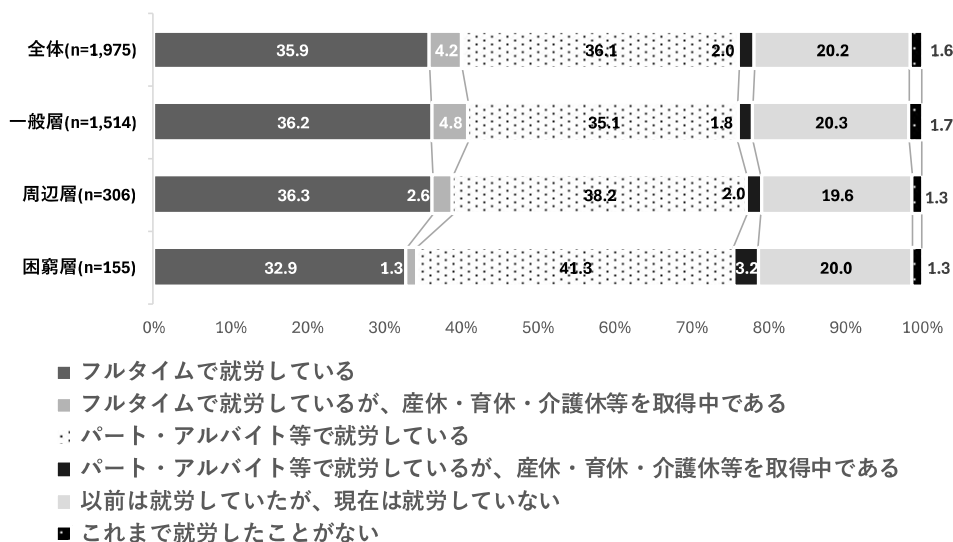
年齢別にみると、「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休等を取得中である」と回答した割合は年齢が上がるにつれて低くなっている。

生活困難層に係る分類でみると、大きな差はみられない。

母親の就労状況（年齢別）



母親の就労状況（生活困難度別）

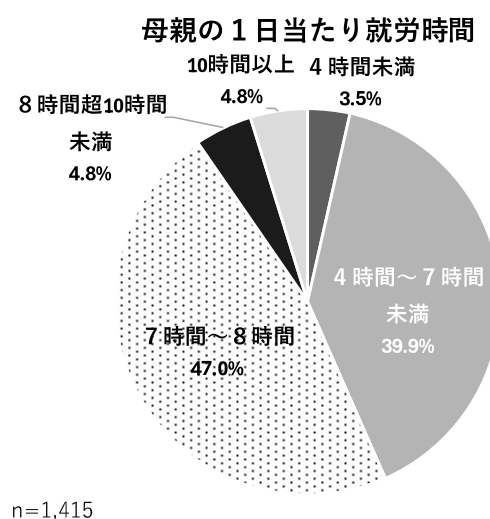
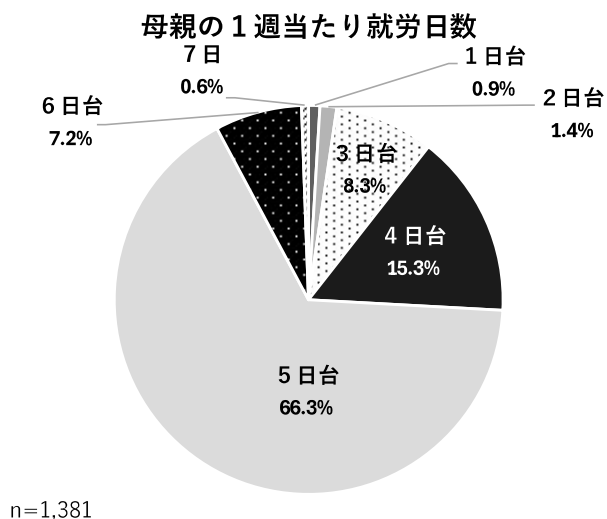


問 14 で「1」から「4」（就労している）と回答した人のみ回答

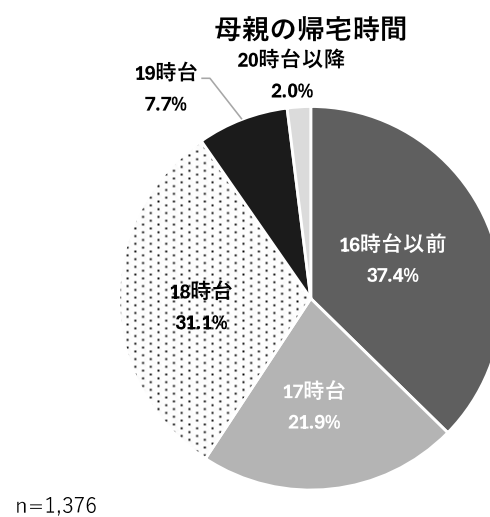
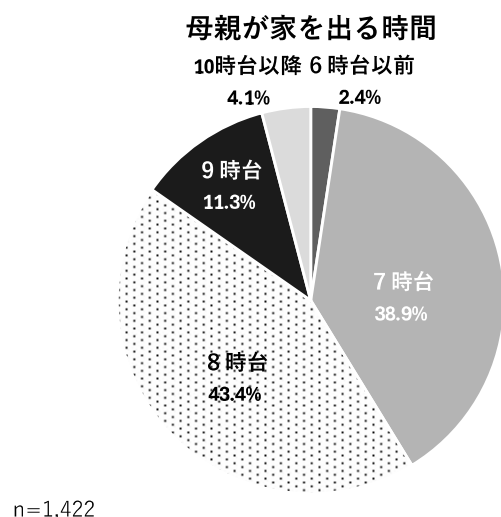
問 14-1 お母さんの1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」、家を出る時間・帰宅時間、土曜日・日曜日・祝日の勤務状況を回答してください。【数字を記入・土日祝の勤務状況は○は1つ】

母親の1週当たりの就労日数については、「5日台」と回答した割合が66.3%と最も高い。

母親の1日当たりの就労時間について、「7時間～8時間」と回答した割合が47.0%、「4時間～7時間未満」が39.9%となっている。また、8時間超が9.6%となっている。



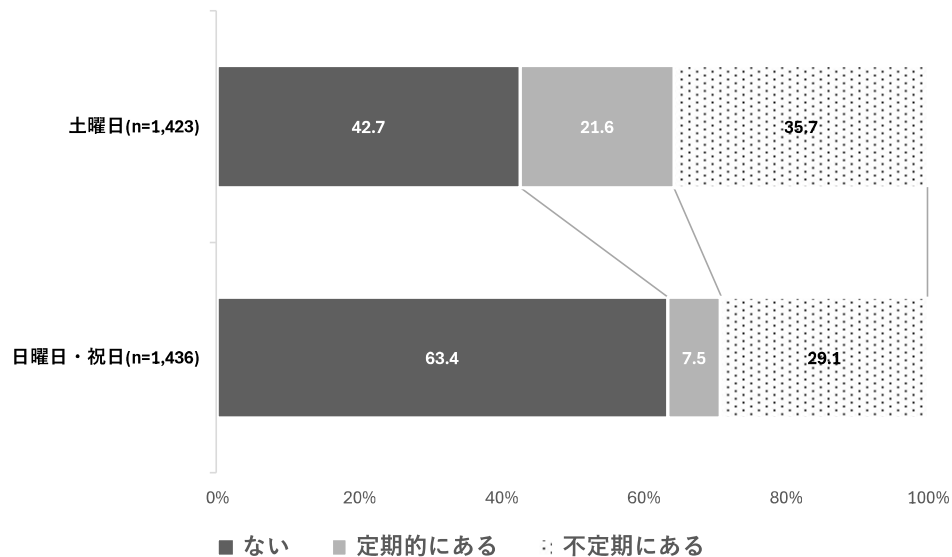
家を出る時間については、「8時台」が43.4%、「7時台」が38.9%となっている。帰宅時間は、「16時台以前」が37.4%、「18時台」が31.1%となっている。



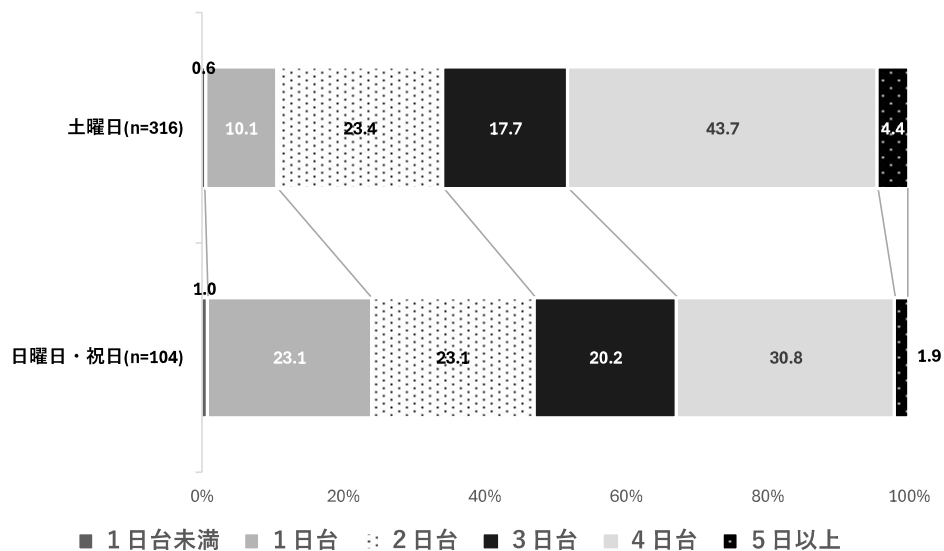
土曜日の勤務については、『ある』（「定期的にある」＋「不定期にある」）と回答した割合が 57.3%となっている一方、日曜日・祝日の勤務については、『ある』が 36.6%となっている。

1 か月あたりの勤務日数については、土曜日は「4 日台」と回答した割合が 43.7%、日曜日・祝日は「4 日台」が 30.8%となっている。

母親の土曜日及び日曜日・祝日の勤務



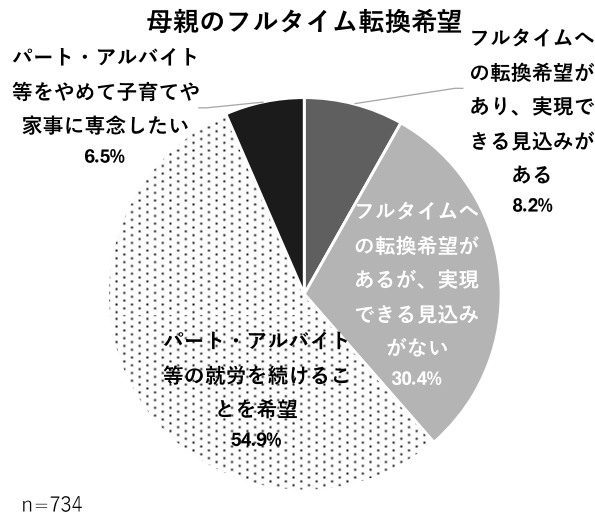
母親の土曜日及び日曜日・祝日の 1 か月あたり勤務日数



問 14 で「3」または「4」（パート・アルバイト等で就労している）と回答した人のみ回答

問 14-2 お母さんはフルタイムへの転換希望はありますか。【○は1つ】

母親のフルタイムへの転換希望については、『フルタイムへの転換希望がある』と回答した割合が 38.6%となっている。



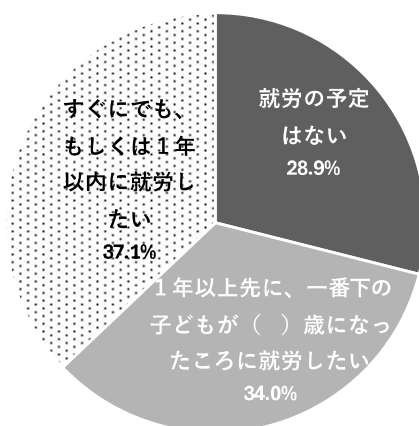
問 14 で「5」または「6」（現在就労していない）と回答した人のみ回答

問 14-3 お母さんは就労したいという希望はありますか。【○は1つ】

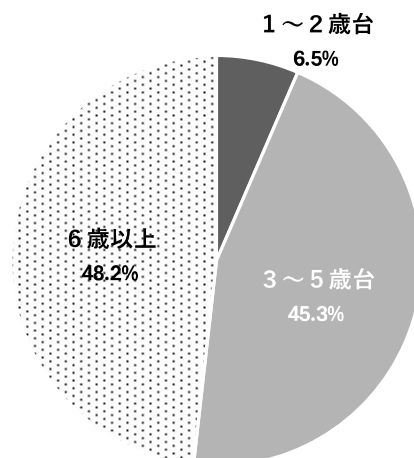
母親の就労希望については、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した割合が 37.1%、「1年以上先に、一番下の子どもが（ ）歳になったところに就労したい」と回答した割合が 34.0%となっている。

就労を希望する子どもの年齢については、「6歳以上」が 48.2%、「3～5歳台」が 45.3%となっている。

母親の就労希望



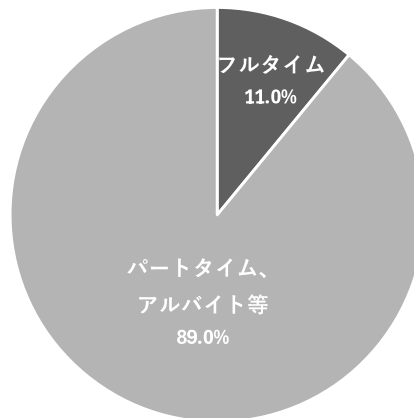
母親が就労を希望する際の子どもの年齢



母親が希望する就労形態については、「フルタイム」と回答した割合が 11.0%、「パートタイム、アルバイト等」と回答した割合が 89.0%となっている。

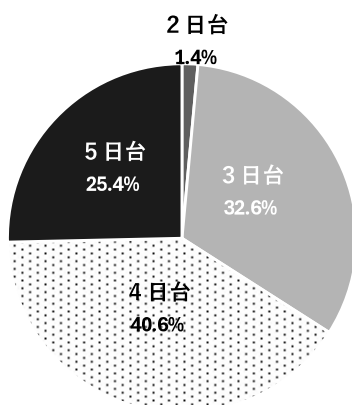
「パートタイム、アルバイト等」における 1 週間あたりの就労希望日数は、「4 日台」が 40.6%、「3 日台」が 32.6%となっている。また、1 日あたりの就労希望時間は、「4 時間～7 時間未満」が 93.7%となっている。

母親の就労希望形態



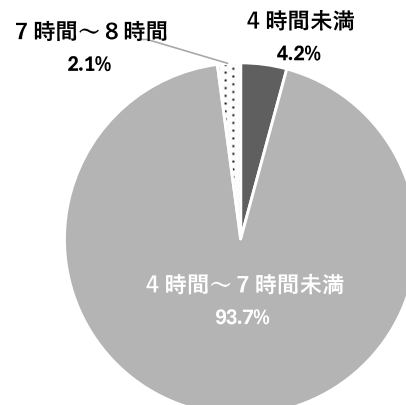
n=155

母親がパート等で就労する場合の 1 週間あたり就労希望日数



n=138

母親がパート等で就労する場合の 1 日あたり就労希望時間



n=142

(2) 父親の就労状況

問 15 お父さんの就労状況を回答してください。【○は1つ】

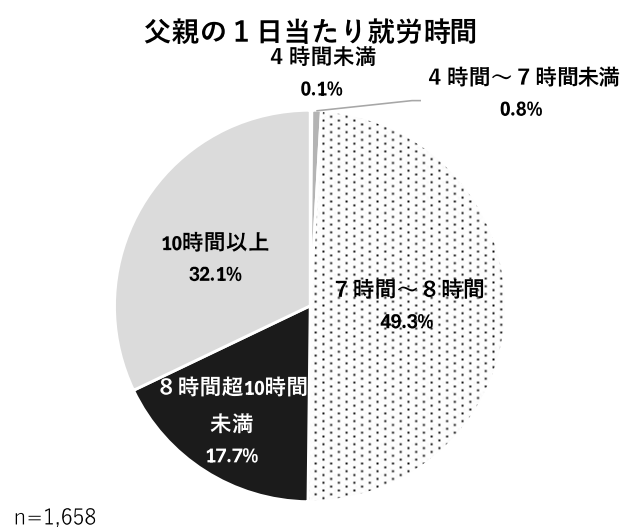
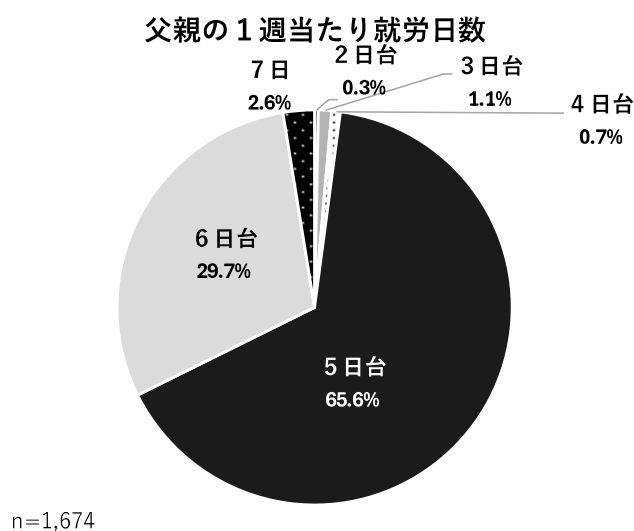
父親の就労状況（n=1,825）については、『フルタイムで就労している』と回答した割合が98.9%となっている（「フルタイムで就労している」98.8%、「フルタイムで就労しているが、育休・介護休等を取得中である」0.1%）。他には、「パート・アルバイト等で就労している」が0.3%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が0.8%であった。

問 15 で「1」から「4」（就労している）と回答した人のみ回答

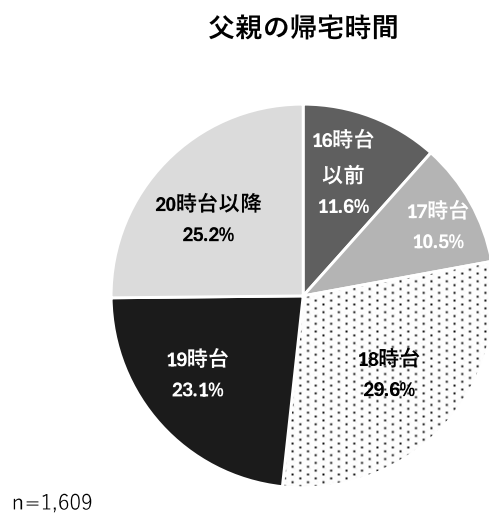
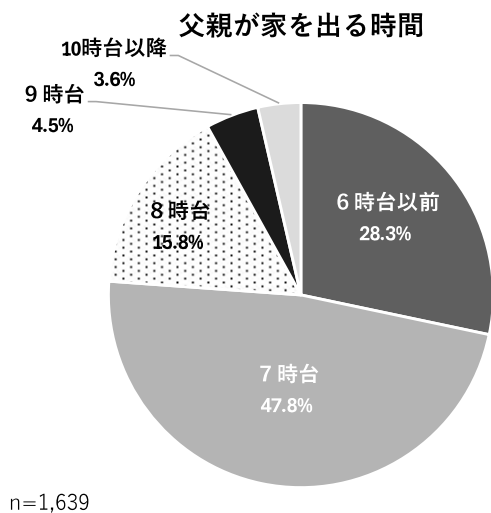
問 15-1 お父さんの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」、家を出る時間・帰宅時間、土曜日・日曜日・祝日の勤務状況を回答してください。【数字を記入・土日祝の勤務状況は○は1つ】

父親の1週当たりの就労日数については、「5日台」と回答した割合が65.6%と最も高く、次いで「6日台」が29.7%となっている。

父親の1日当たりの就労時間については、「7時間～8時間」と回答した割合が49.3%となっているほか、「10時間以上」が32.1%となっている。

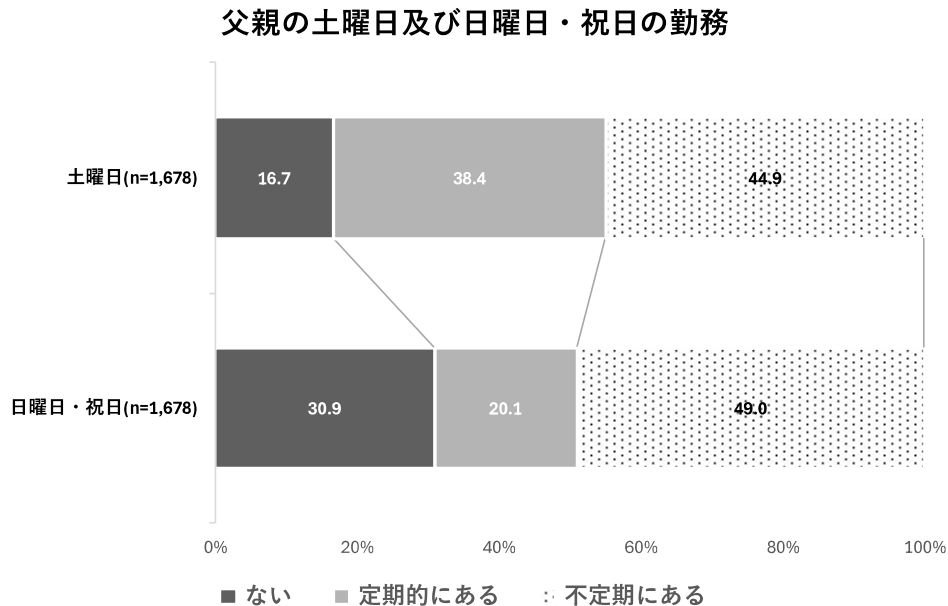


家を出る時間については、「7 時台」が 47.8%、「6 時台以前」が 28.3%となっている。
 帰宅時間は、「18 時台」が 29.6%、「20 時台以降」が 25.2%となっている。

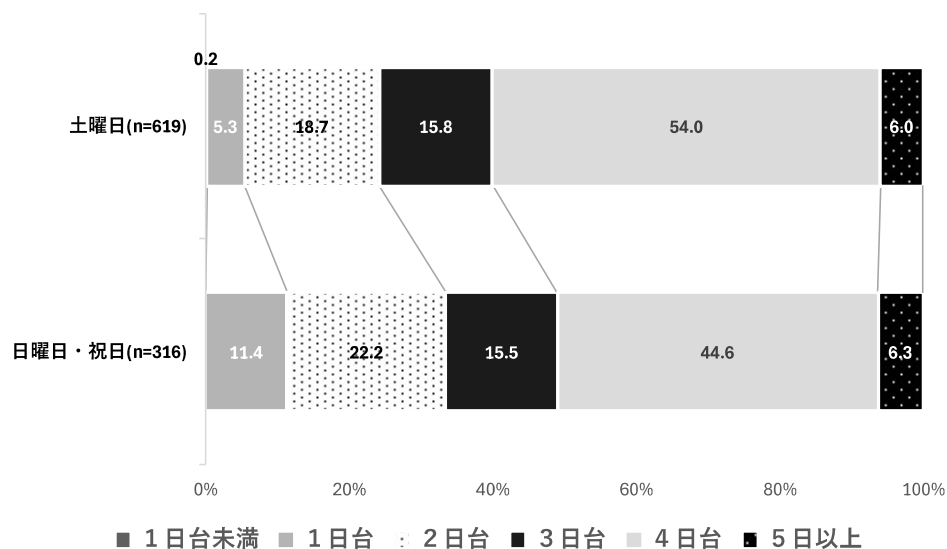


土曜日の勤務については、『ある』（「定期的にある」＋「不定期にある」）と回答した割合が 83.3%となっている一方、日曜日・祝日の勤務については、『ある』が 69.1%となっている。

1 か月あたりの勤務日数については、土曜日は「4 日台」と回答した割合が 54.0%、日曜日・祝日は「4 日台」が 44.6%となっている。



父親の土曜日及び日曜日・祝日の1か月あたり勤務日数



問 15 で「3」または「4」（パート・アルバイト等で就労している）と回答した人のみ回答

問 15-2 お父さんはフルタイムへの転換希望はありますか。【○は1つ】

父親のフルタイムへの転換希望については（n=5）、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が1名、「フルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みがない」と「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」がそれぞれ2名となっている。

問 15 で「5」または「6」（現在就労していない）と回答した人のみ回答

問 15-3 お父さんは就労したいという希望はありますか。【○は1つ】

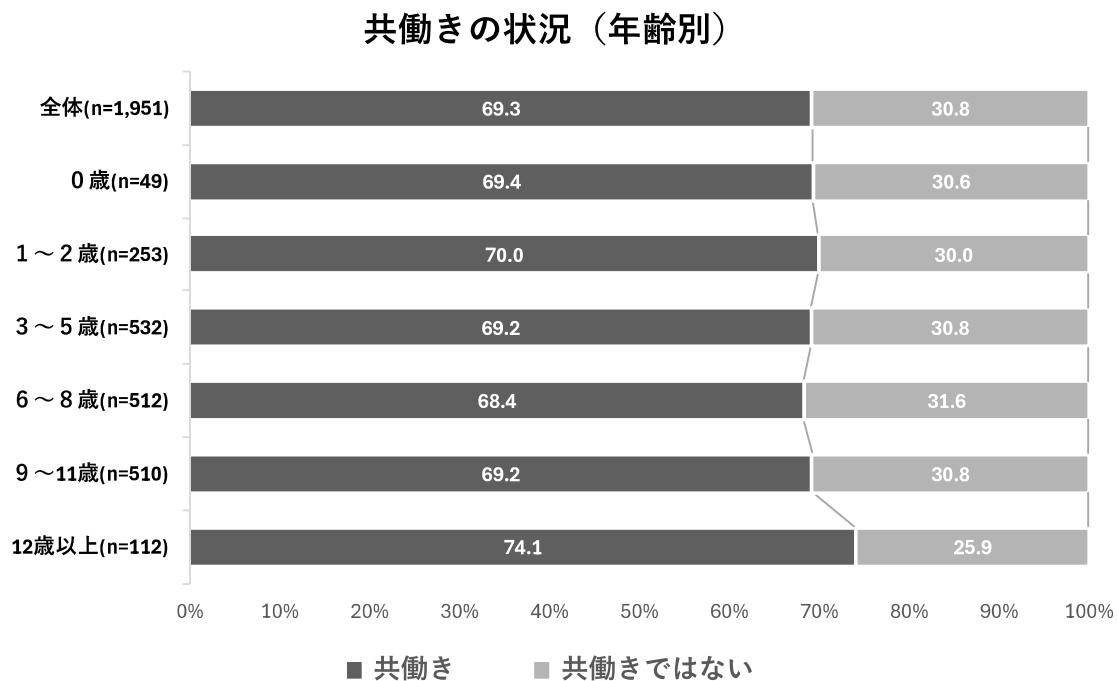
父親の就労希望については（n=14）、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が10名、「就労の予定はない」が4名となっている。

父親が希望する就労形態については、全員「フルタイム」と回答している。

(3) 共働きの状況

母親及び父親の就労状況に基づく共働き家庭の割合は、69.3%となっている。

年齢別にみると、12歳以上における共働き家庭の割合が74.1%と、6つの年齢区分の中では最も高くなっている。



4 教育・保育事業の利用（就学前児童の保護者）

(1) 教育・保育事業の利用状況

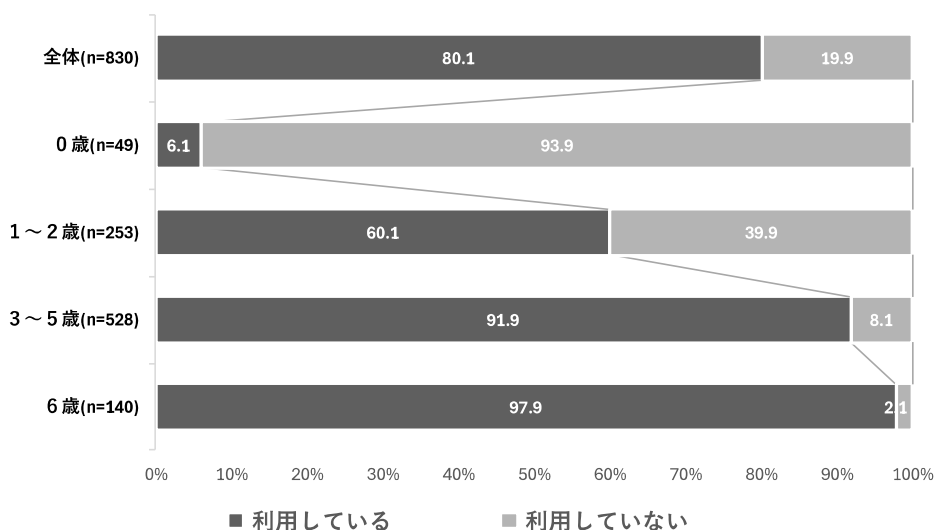
問 16 あて名のお子さんは現在、幼稚園や保育園や認定こども園などの教育・保育事業を利用していますか。【〇は1つ】

教育・保育事業の利用状況については、「利用している」と回答した割合が 80.1%となっている。

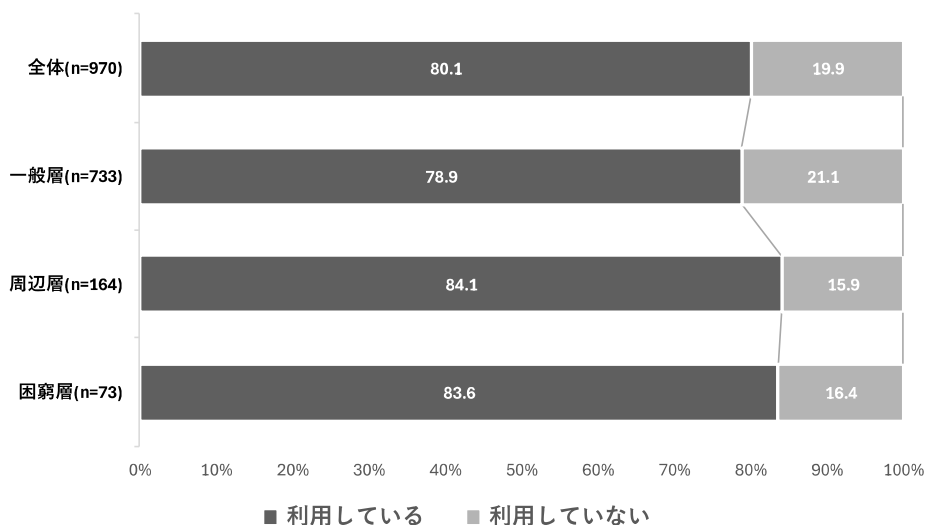
年齢別にみると、「利用している」と回答した割合は年齢が高くなるほど高くなっている。

生活困難層に係る分類でみると、周辺層や困窮層の方が一般層よりも「利用している」と回答した割合が高くなっており、教育・保育事業の効果が発揮されていることを確認できる結果となった。

教育・保育事業の利用状況（年齢別）



教育・保育事業の利用状況（生活困難度別）



問 16 で「1 利用している」と回答した人のみ回答

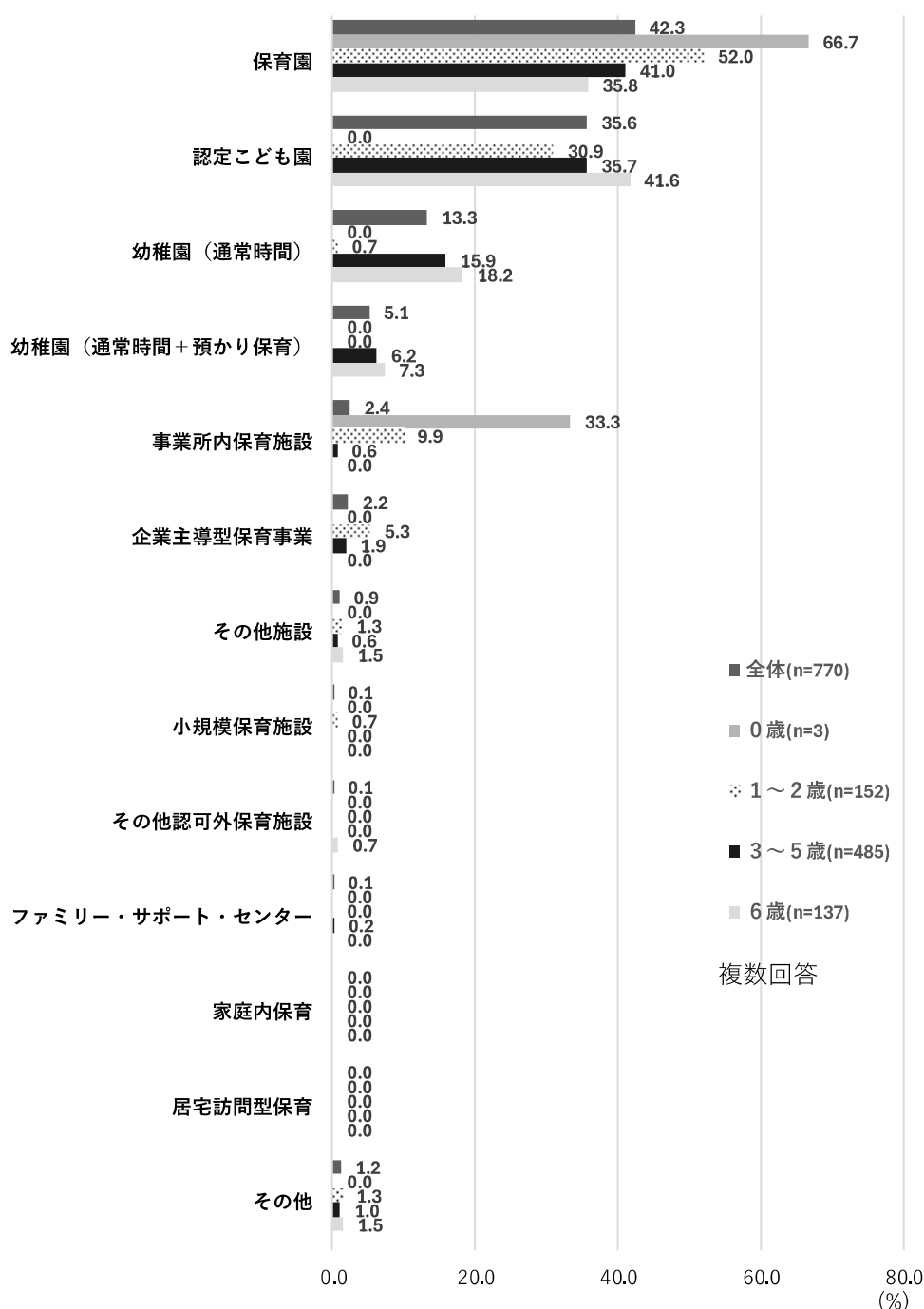
問 16-1 あて名のお子さんが、平日に、年間を通じて定期的に利用している事業を回答してください。【あてはまるもの全てに○】

利用している教育・保育事業については、「保育園」と回答した割合が 42.3%と最も高く、次いで「認定こども園」が 35.6%、「幼稚園（通常の時間の利用）」が 13.3%となっている。

年齢別にみると、6 歳では「認定こども園」が 41.6%と最も多くなっている。

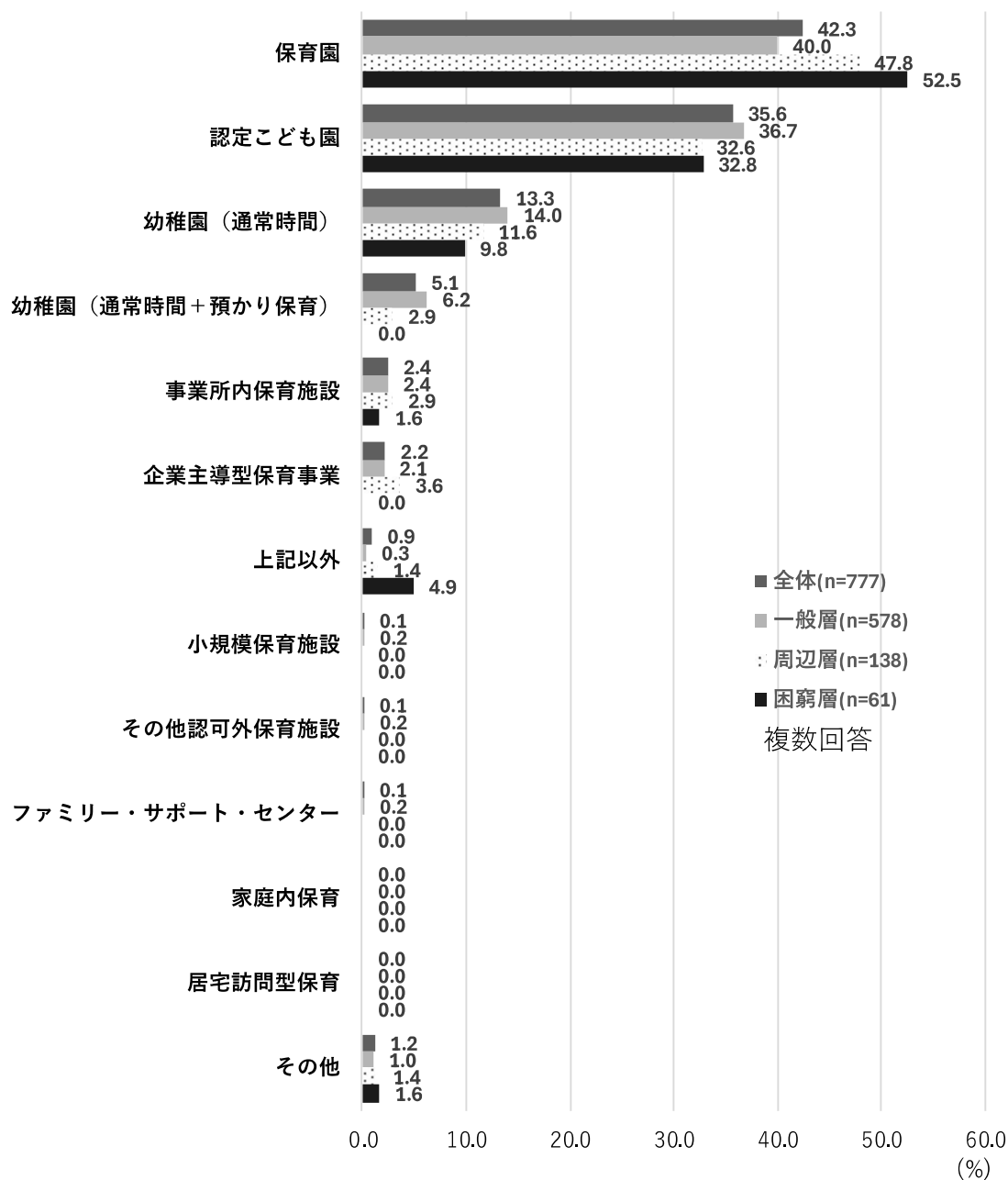
また、「幼稚園（通常の時間の利用）」と回答した割合は 3～5 歳と 6 歳で、「事業所内保育施設」と回答した割合は回答数の少ない 0 歳（3 名中 1 名）以外では 1～2 歳で高くなっている。

平日の教育・保育事業利用（年齢別）



生活困難層に係る分類でみると、困窮層では「保育園」と回答した割合が 52.5%となっている。

平日の教育・保育事業利用（生活困難度別）



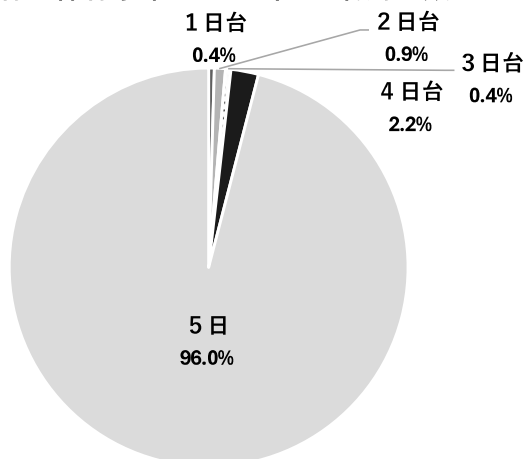
問 16ー2 平日、定期的に幼稚園や保育園や認定こども園などをどのくらい利用していますか。
【1週当たりの日数と利用時間（何時から何時まで）を数字で記入】

幼稚園等の利用日数については、「5日」と回答した割合が96.0%となっている。

利用開始時間については、「8時台」と回答した割合が51.5%と最も高く、次いで「9時台」が26.9%となっている。

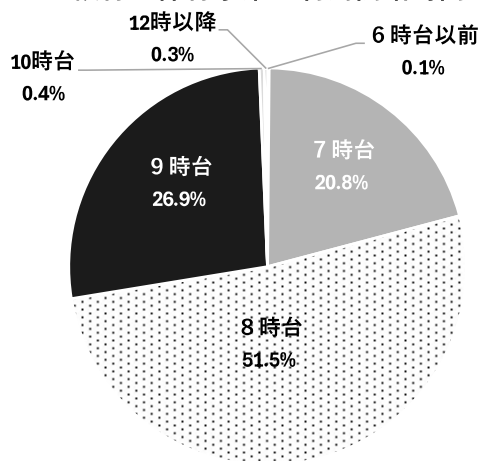
利用終了時間については、「17時台」と回答した割合が30.8%と最も高く、次いで「16時台」が26.4%となっている。

教育・保育事業の1週当たり利用日数



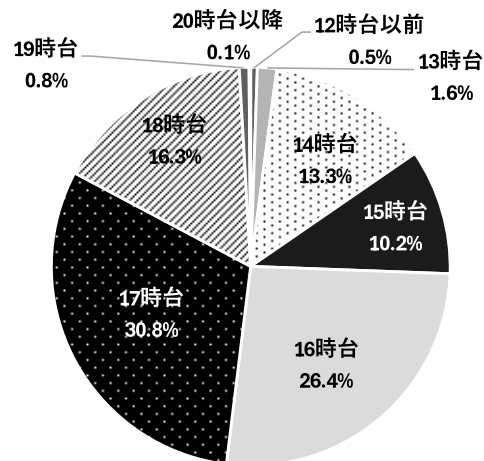
n=669

教育・保育事業の利用開始時間



n=761

教育・保育事業の利用終了時間



n=766

問 16-3 現在、利用している幼稚園や保育園や認定こども園などはどの小学校区にありますか。

利用している幼稚園や保育園等のある地区（小学校区を地区別に分類）については、「川中・勝山」と回答した割合が 24.5%と最も高く、次いで「本庁」が 22.4%、「山陽」が 12.7%となっている。

居住地区別にみると、「勝山・川中」は同じ地区内の比率が 69.7%と全ての地区の中で最も低いほか、「山陰」や「菊川」、「本庁」も 70%台にとどまっている。

利用している幼稚園や保育園等のある地区（居住地区別）

（単位：％）

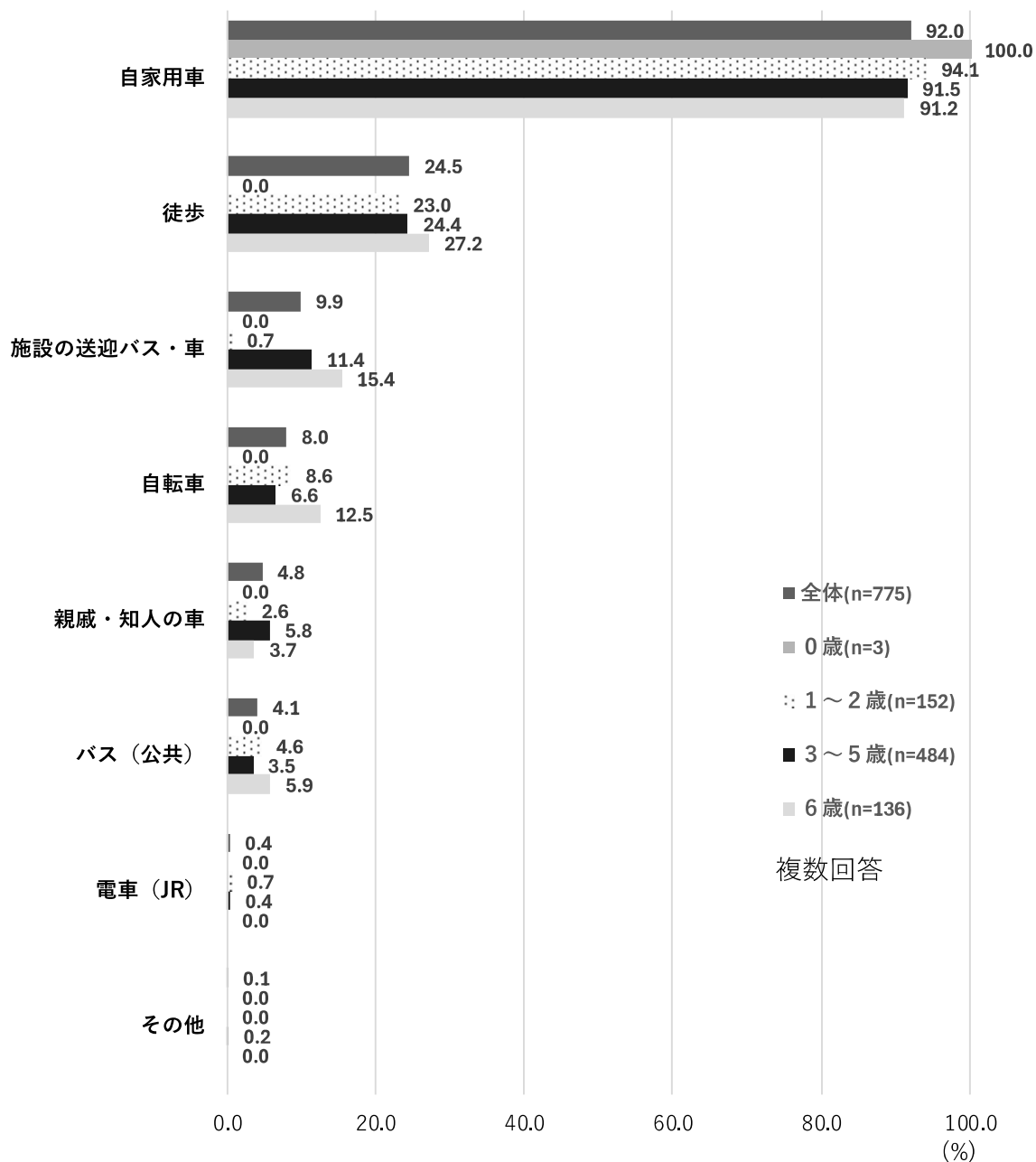
		利用している幼稚園や保育園等のある地区									
		本庁	彦島	長府	山陽	勝山・川中	山陰	菊川	豊田	豊浦	豊北
全体(n=710)		22.4	9.0	12.4	12.7	24.5	10.0	2.4	1.4	3.4	1.8
居住地区	本庁(n=143)	76.9	4.9	0.7	1.4	12.6	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	彦島(n=53)	3.8	94.3	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	長府(n=75)	6.7	0.0	88.0	2.7	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	山陽(n=95)	0.0	0.0	11.6	84.2	1.1	2.1	0.0	0.0	1.1	0.0
	勝山・川中(n=201)	16.9	3.0	3.5	0.5	69.7	6.0	0.5	0.0	0.0	0.0
	山陰(n=68)	7.4	1.5	2.9	0.0	14.7	72.1	1.5	0.0	0.0	0.0
	菊川(n=19)	0.0	0.0	0.0	15.8	0.0	0.0	73.7	10.5	0.0	0.0
	豊田(n=8)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	豊浦(n=27)	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	11.1	0.0	0.0	81.5	3.7
	豊北(n=12)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	91.7

問 16-4 現在、利用している幼稚園や保育園などには、どのような手段で通うことが可能ですか。（緊急時は含みません）【○は家庭で利用することが可能な手段全て】

幼稚園や保育園などに通う手段については、「自家用車」と回答した割合が 92.0%と最も高く、次いで「徒歩」が 24.5%となっている。

年齢別にみると、3歳以上では「施設の送迎バス・車」が 10%超となっている。

平日の教育・保育事業利用時の移動手段（年齢別）

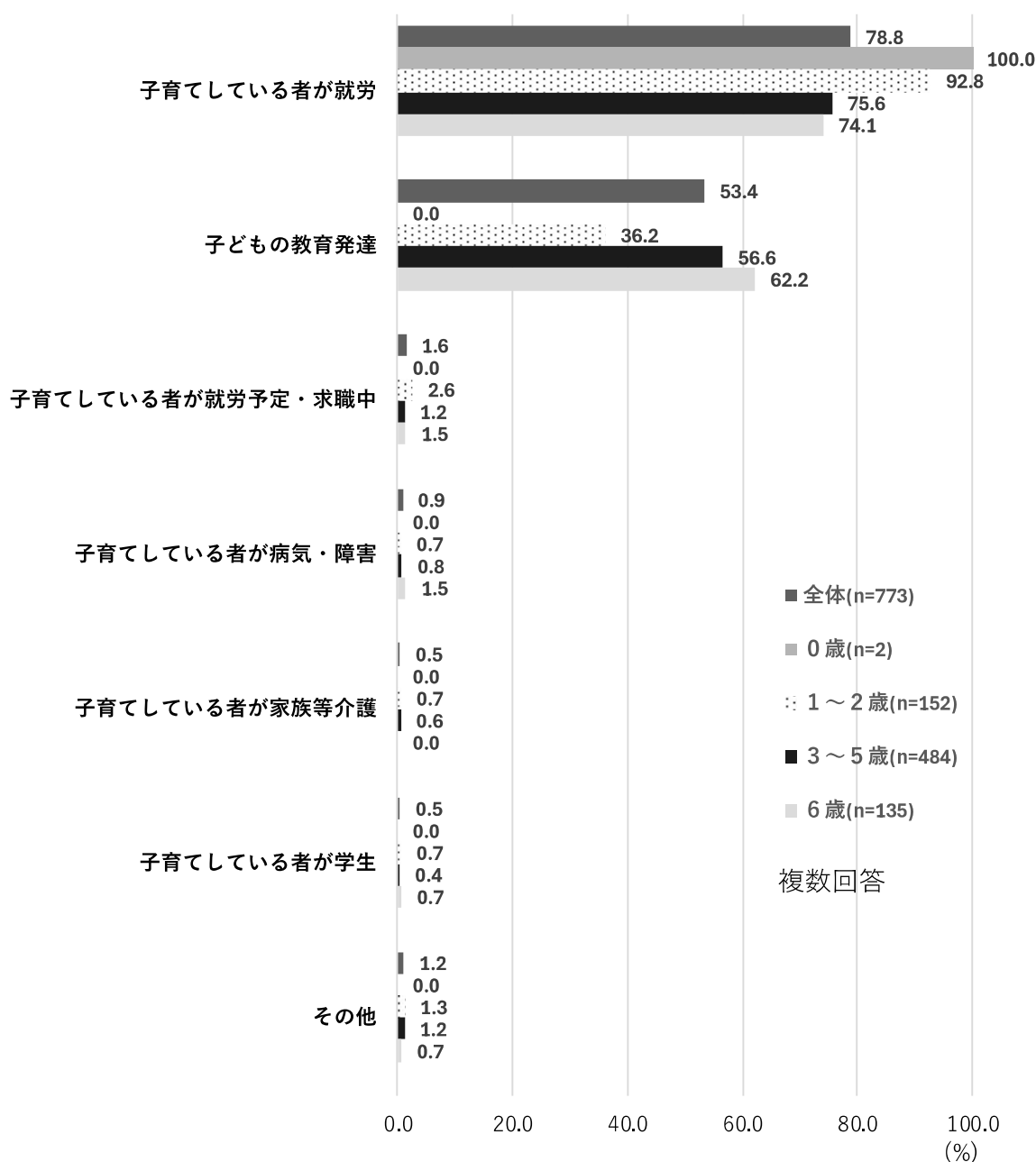


問 16-5 平日、定期的に幼稚園や保育園などを利用している主な理由を回答してください。
【あてはまるもの全てに○】

幼稚園や保育園などを利用している理由については、「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」と回答した割合が 78.8%と最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」が 53.4%となっている。

年齢別にみると、「子どもの教育や発達のため」との回答割合は年齢が上がるにつれて高くなっている。

平日の教育・保育事業利用理由（年齢別）



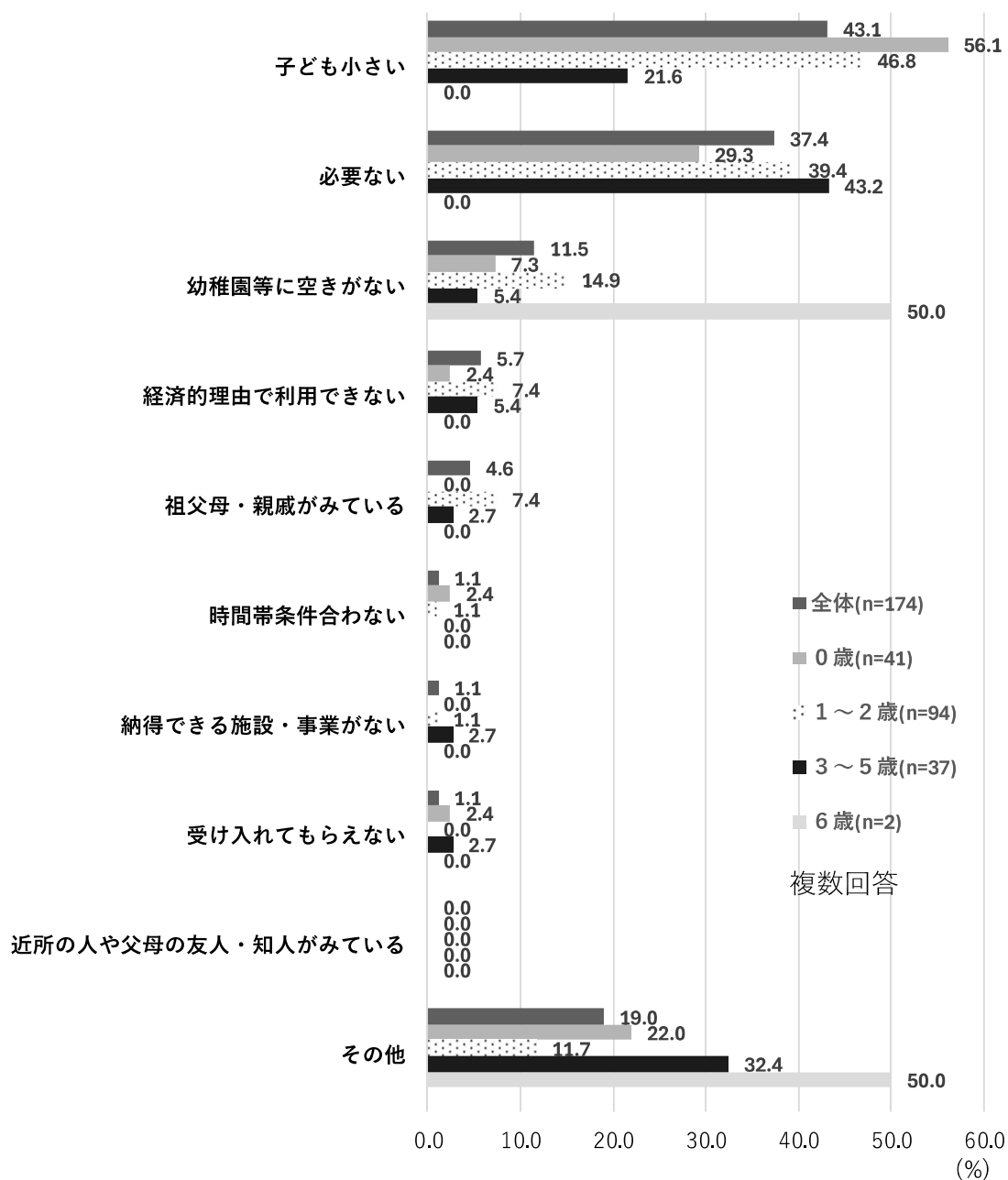
問 16 で「2 利用していない」と回答した人のみ回答

問 16-6 現在、幼稚園や保育園などを利用していない主な理由を回答してください。
【あてはまるもの全てに○】

幼稚園や保育園などを利用していない理由については、「子どもがまだ小さいため」と回答した割合が 43.1%と最も高く、次いで「利用する必要がある（子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由）」が 37.4%となっている。

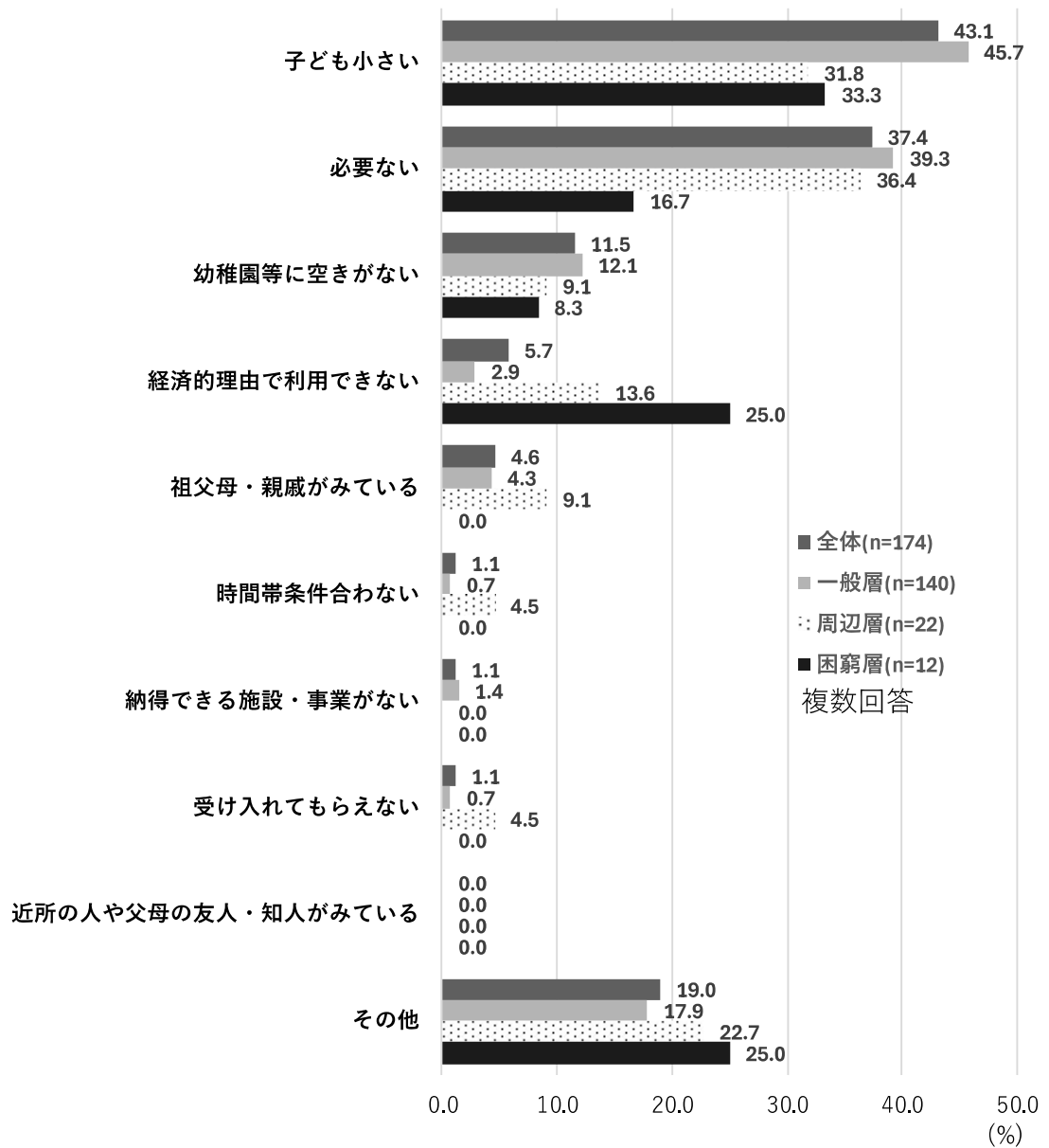
年齢別にみると、「子どもがまだ小さいため」と回答した割合は0歳、1～2歳で高くなっている。

平日の教育・保育事業利用していない理由（年齢別）



生活困難層に係る分類でみると、困窮層では「経済的理由で利用できない」と回答した割合が25.0%と他の層を大きく上回っている。

平日の教育・保育事業利用していない理由 (生活困難度別)



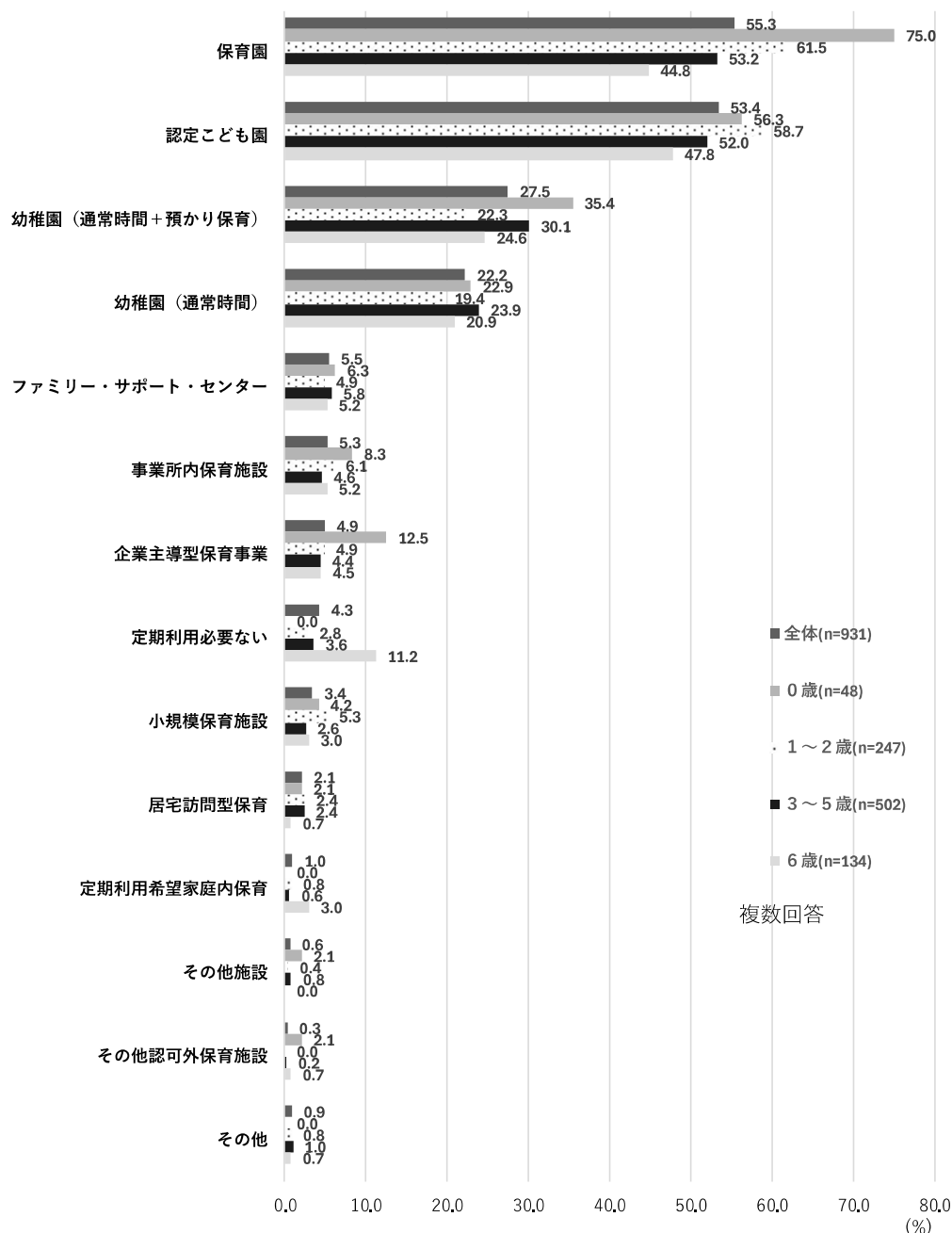
(2) 教育・保育事業の利用希望

問 17 あて名のお子さんについて、今後、平日、定期的にどのような施設や事業を利用したいと思いますか。現在、利用している、利用していないにかかわらず回答してください。
【あてはまるもの全てに○】

利用を希望する施設や事業については、「保育園」と回答した割合が 55.3%と最も高く、次いで「認定こども園」が 53.4%、「幼稚園（通常の時間の利用＋定期的に預かり保育を利用）」が 27.5%となっている。

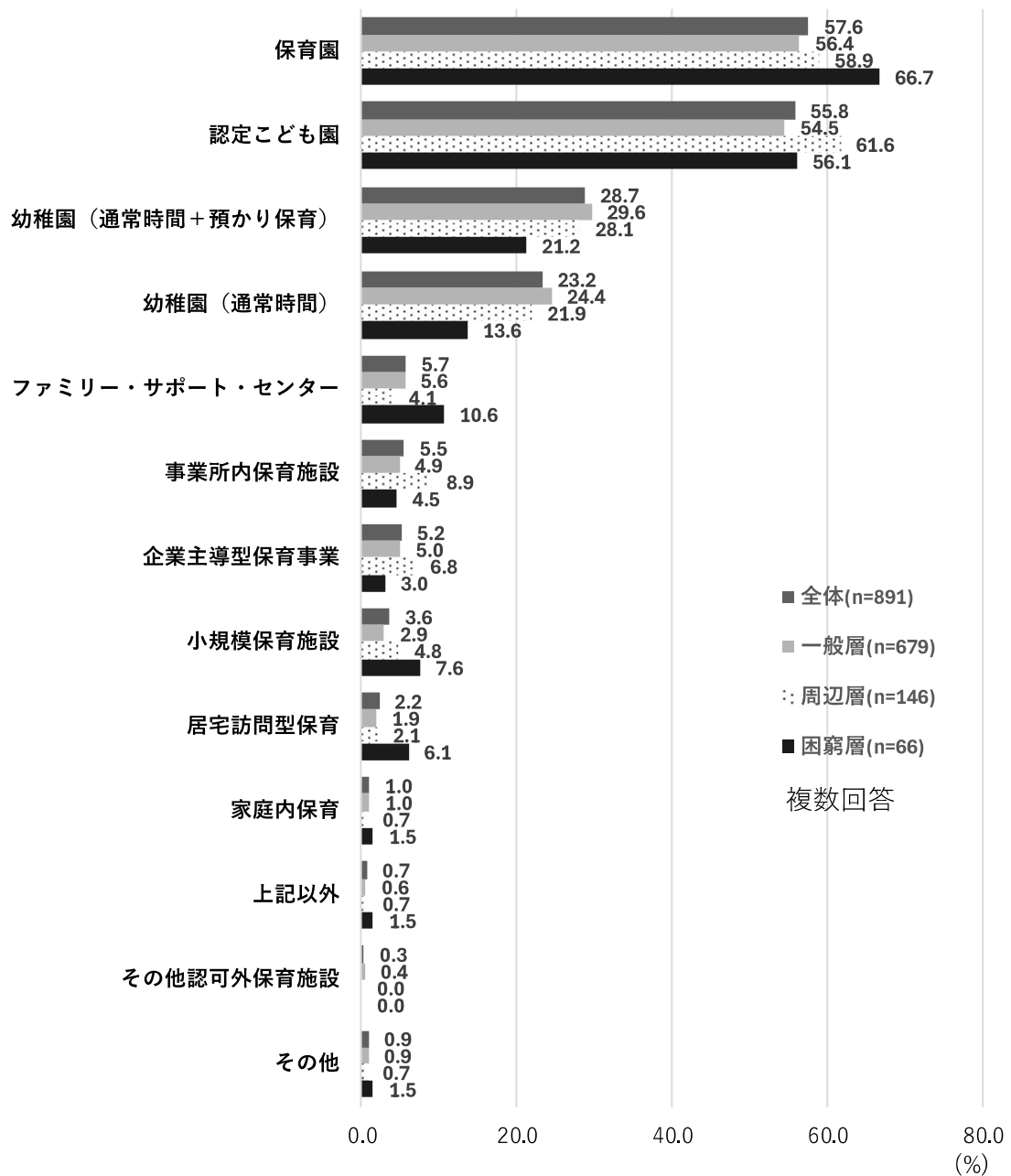
年齢別にみると、0歳、1～2歳、3～5歳では「保育園」と回答した割合が最も高く、次いで「認定こども園」となっており、6歳では「認定こども園」と回答した割合が最も高く、次いで「保育園」となっている。

平日の教育・保育事業利用希望（年齢別）



生活困難層に係る分類でみると、困窮層では「保育園」と回答した割合が 66.7%と他の層を上回っている。

平日の教育・保育事業利用希望（生活困難度別）



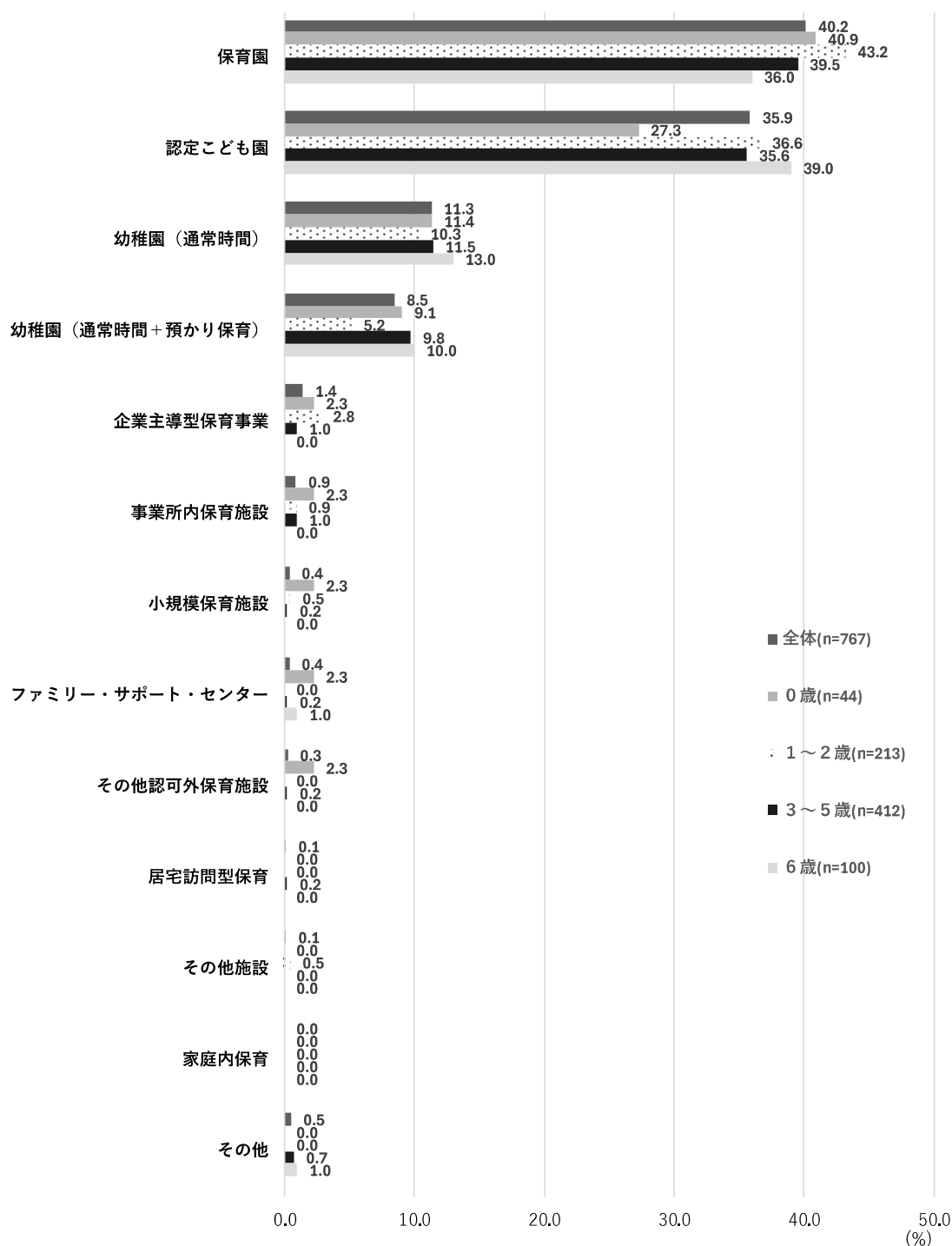
問 17 で「1」から「11」と回答した人のみ回答

問 17-1 利用を希望する施設や事業のうち、希望する順に上位3つを回答してください。【事業の番号を記入】

1 番目に利用を希望する施設や事業については、「保育園」と回答した割合が 40.2%と最も高く、次いで「認定こども園」が 35.9%、「幼稚園（通常の時間の利用）」が 11.3%となっている。

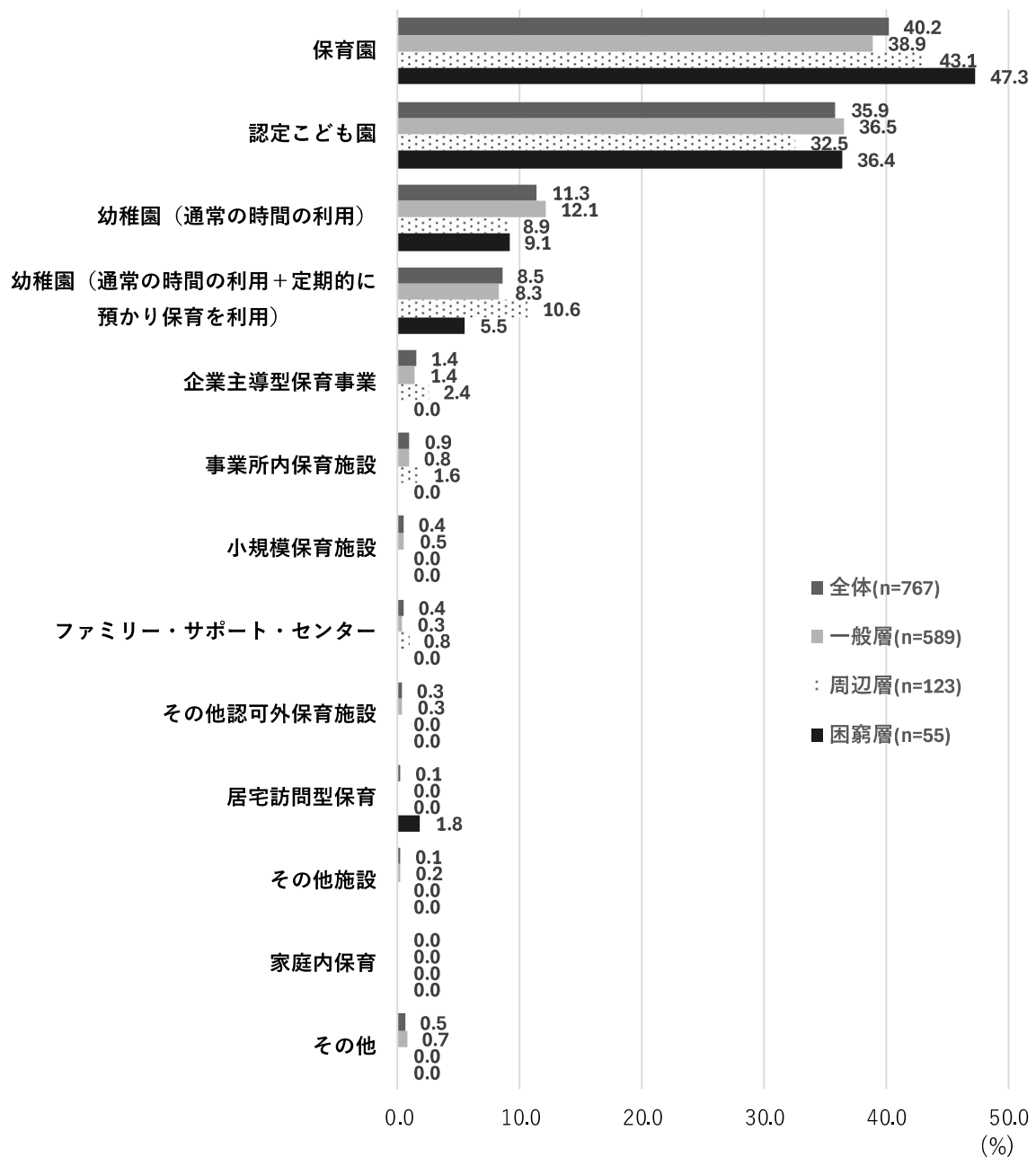
年齢別にみると、「保育園」と回答した割合は0歳、1～2歳、3～5歳においても最も高い一方、6歳では「認定こども園」が最も高くなっている。

平日の教育・保育事業利用希望1位（年齢別）



生活困難層に係る分類でみると、困窮層では「保育園」と回答した割合が 47.3%と他の層を上回っている。

平日の教育・保育事業利用希望 1 位（生活困難度別）



なお、利用希望１位の施設や事業のうち回答数が１０件を超えたものについて、これらの施設等を挙げた保護者の２位及び３位の希望との関係を見ると、以下のとおりとなった。

利用希望１位を「保育園」としている保護者の希望２位は「認定こども園」が５５．５％と最も多く、３位については「幼稚園（通常の時間の利用＋定期的に預かり保育を利用）」が２７．５％と最多である。一方、利用希望１位を「認定こども園」としている保護者の希望２位は「保育園」が５４．０％と最も多く、３位については「幼稚園（通常の時間の利用＋定期的に預かり保育を利用）」が３２．８％と最多である。

利用したい教育・保育事業

（単位：％）

		利用希望 2 位												
		幼稚園 (通常時間)	幼稚園 (通常時間＋ 預かり保育)	保育園	認定こども園	事業所内 保育施設	企業主導型 保育事業	小規模 保育施設	家庭内保育	その他認可外 保育施設	居宅訪問型 保育	ファミリー・ サポート・ センター	その他施設	その他
全体 (n=671)		10.1	23.7	25.8	28.9	2.1	1.8	2.1	0.1	0.3	1.3	2.2	1.0	0.4
利 用 希 望 1 位	幼稚園 (通常時間) (n=78)	10.3	60.3	2.6	17.9	1.3	1.3	0.0	0.0	0.0	1.3	3.8	1.3	0.0
	幼稚園 (通常時間＋ 預かり保育) (n=60)	38.3	5.0	15.0	30.0	1.7	3.3	0.0	1.7	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0
	保育園 (n=254)	4.3	18.1	8.7	55.5	2.0	1.6	3.5	0.0	0.4	2.4	1.6	1.6	0.4
	認定こども園 (n=237)	8.9	24.1	54.0	4.6	3.0	1.3	0.8	0.0	0.4	0.4	1.7	0.8	0.0

（単位：％）

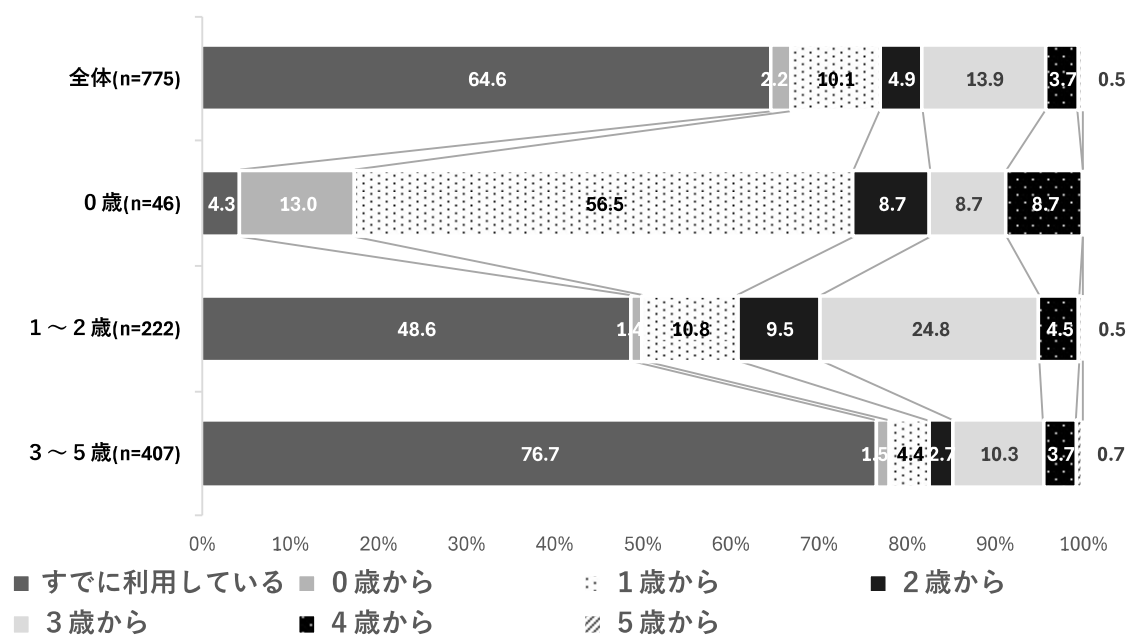
		利用希望 3 位												
		幼稚園 (通常時間)	幼稚園 (通常時間＋ 預かり保育)	保育園	認定こども園	事業所内 保育施設	企業主導型 保育事業	小規模 保育施設	家庭内保育	その他認可外 保育施設	居宅訪問型 保育	ファミリー・ サポート・ センター	その他施設	その他
全体 (n=578)		12.6	23.9	16.8	16.6	4.8	3.8	7.1	1.0	0.3	1.6	4.3	3.6	3.5
利 用 希 望 1 位	幼稚園 (通常時間) (n=67)	9.0	7.5	25.4	38.8	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	1.5	4.5	4.5	6.0
	幼稚園 (通常時間＋ 預かり保育) (n=57)	17.5	3.5	26.3	29.8	3.5	7.0	7.0	1.8	0.0	1.8	0.0	0.0	1.8
	保育園 (n=218)	11.9	27.5	8.3	15.6	6.4	3.7	9.2	0.5	0.9	1.8	5.0	5.0	4.1
	認定こども園 (n=201)	14.9	32.8	18.4	5.5	5.5	3.5	8.0	1.5	0.0	1.0	4.0	3.5	1.5

問 17-2 お子さんが何歳のときから利用したいと思いますか。【〇は1つ】

事業の利用希望開始年齢については、「すでに利用している」を除くと、「3歳から」と回答した割合が13.9%、「1歳から」が10.1%となっている。

年齢別にみると、0歳では「0歳から」と回答した割合が13.0%、「1歳から」と回答した割合が56.5%となっている。

教育・保育事業を利用したい子どもの年齢（年齢別）



問 17-3 希望として、どのくらいの日数、時間を利用したいですか。【1週当たりの日数と利用時間を数字で記入】

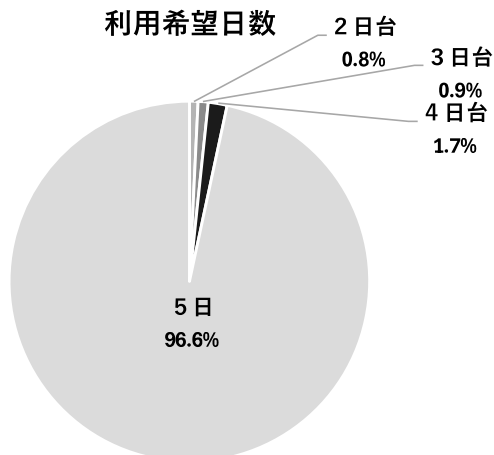
利用希望日数については、「5日」と回答した割合が96.6%となっている。

利用希望開始時間について、「8時台」と回答した割合が52.3%と最も高く、次いで「7時台」が27.2%となっている。

利用希望終了時間については、「18時台」と回答した割合が28.4%と最も高く、次いで「17時台」が25.8%となっている。

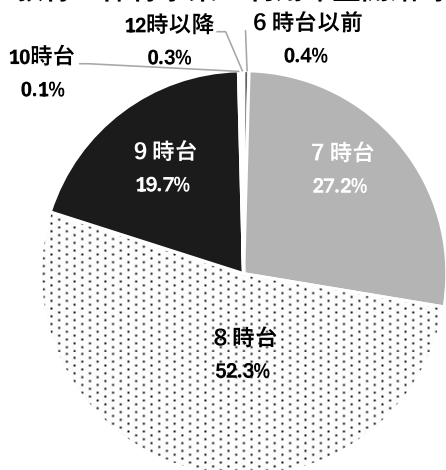
教育・保育事業の1週当たり

利用希望日数



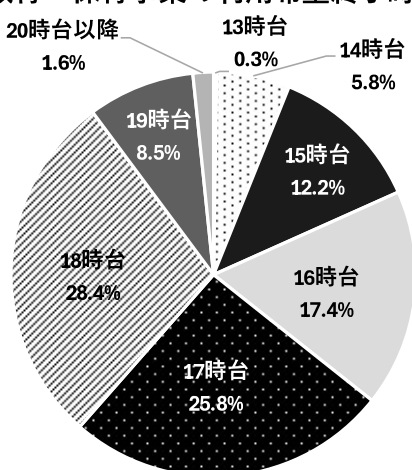
n=651

教育・保育事業の利用希望開始時間



n=742

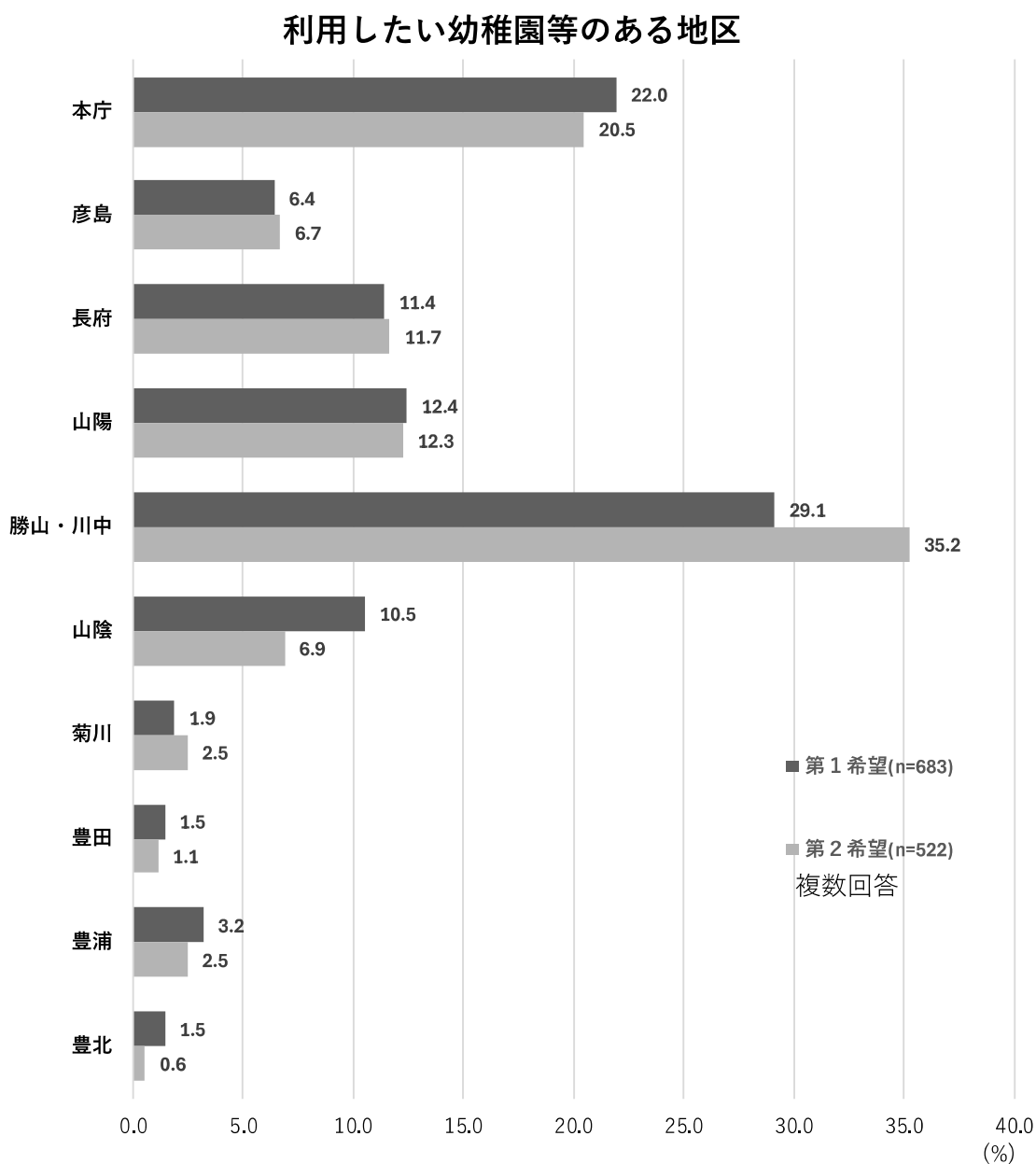
教育・保育事業の利用希望終了時間



n=742

問 17-4 どの地域の幼稚園や保育園などを利用したいと思いますか。ある場合は、第2希望まで回答してください。

利用したいと思う幼稚園や保育園の地区については、第1希望、第2希望ともに「勝山・川中」と回答した割合が最も高くなっている。



第1希望について居住地区別にみると、居住地区外の教育・保育事業の利用を希望する回答の割合は、「勝山・川中」で「本庁」、「山陰」で「本庁」と「勝山・川中」、「菊川」で「山陽」が高くなっている。

利用したい幼稚園や保育園等のある地区（第1希望：居住地区別）

（単位：％）

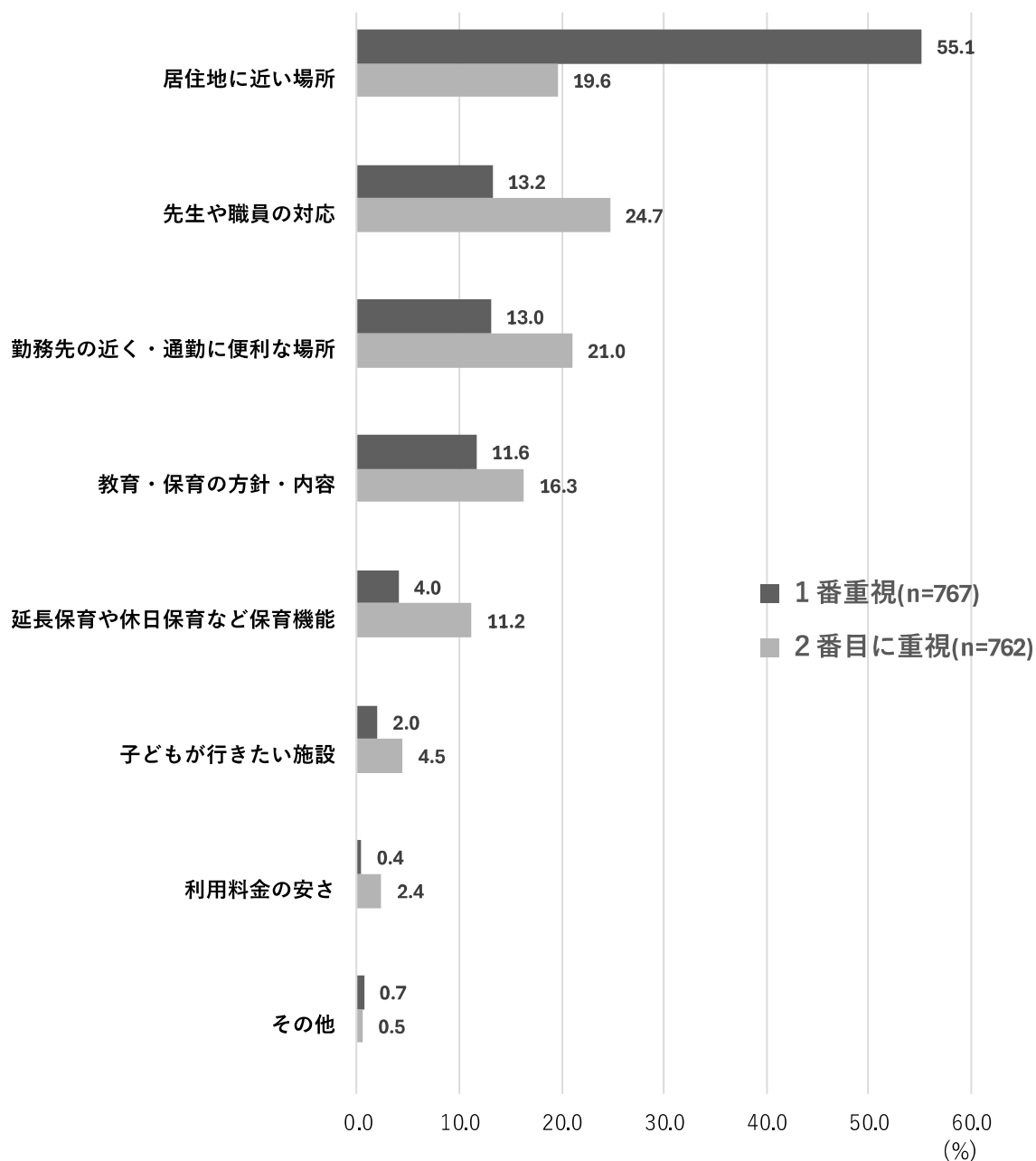
		利用したい幼稚園や保育園等のある地区（第1希望）									
		本庁	彦島	長府	山陽	勝山・川中	山陰	菊川	豊田	豊浦	豊北
全体(n=683)		22.0	6.4	11.4	12.4	29.1	10.5	1.9	1.5	3.2	1.5
居 住 地 区	本庁(n=124)	96.0	0.8	0.8	0.0	1.6	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	彦島(n=44)	4.5	95.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	長府(n=71)	0.0	0.0	94.4	1.4	2.8	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0
	山陽(n=84)	1.2	0.0	6.0	92.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	勝山・川中(n=219)	9.1	0.5	1.4	0.5	84.9	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	山陰(n=71)	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6	85.9	1.4	1.4	0.0	0.0
	菊川(n=16)	0.0	0.0	6.3	18.8	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0
	豊田(n=8)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	豊浦(n=24)	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	8.3	0.0	0.0	87.5	0.0
	豊北(n=9)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問 17-5 幼稚園や保育園などの教育・保育事業を選ぶときに特に重視することを回答してください。【最も重視する・2番目に重視する選択肢の番号を回答】

教育・保育事業を選ぶときに重視することのうち、最も重視することに関しては「居住地に近い場所」と回答した割合が 55.1%と最も高く、次いで「先生や職員の対応」が 13.2%、「勤務地の近く・通勤に便利な場所」が 13.0%となっている。

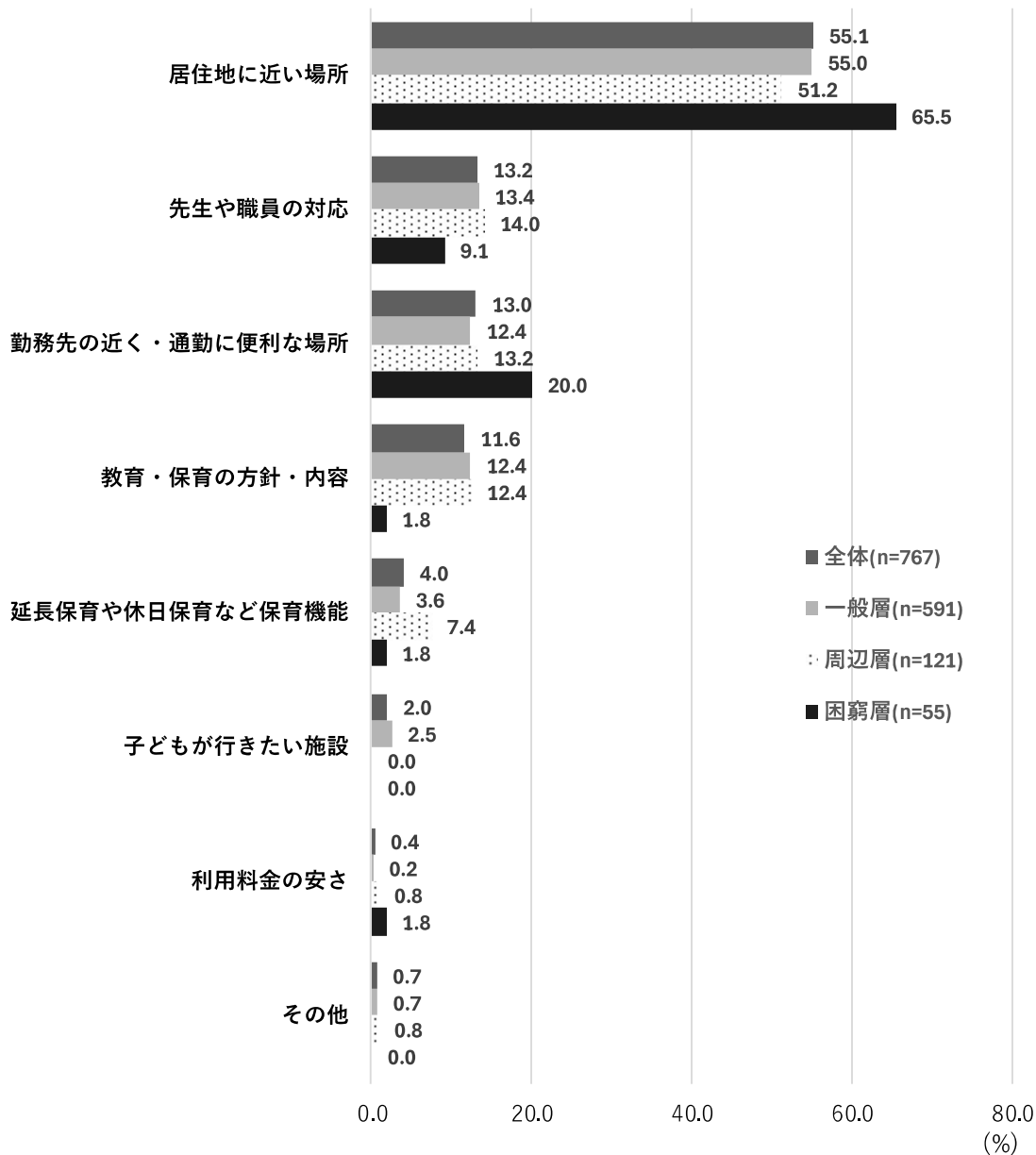
2番目に重視することについては、「先生や職員の対応」と回答した割合が 24.7%と最も高く、次いで「勤務先の近く・通勤に便利な場所」が 21.0%、「居住地に近い場所」が 19.6%となっている。

平日の教育・保育事業利用で重視すること



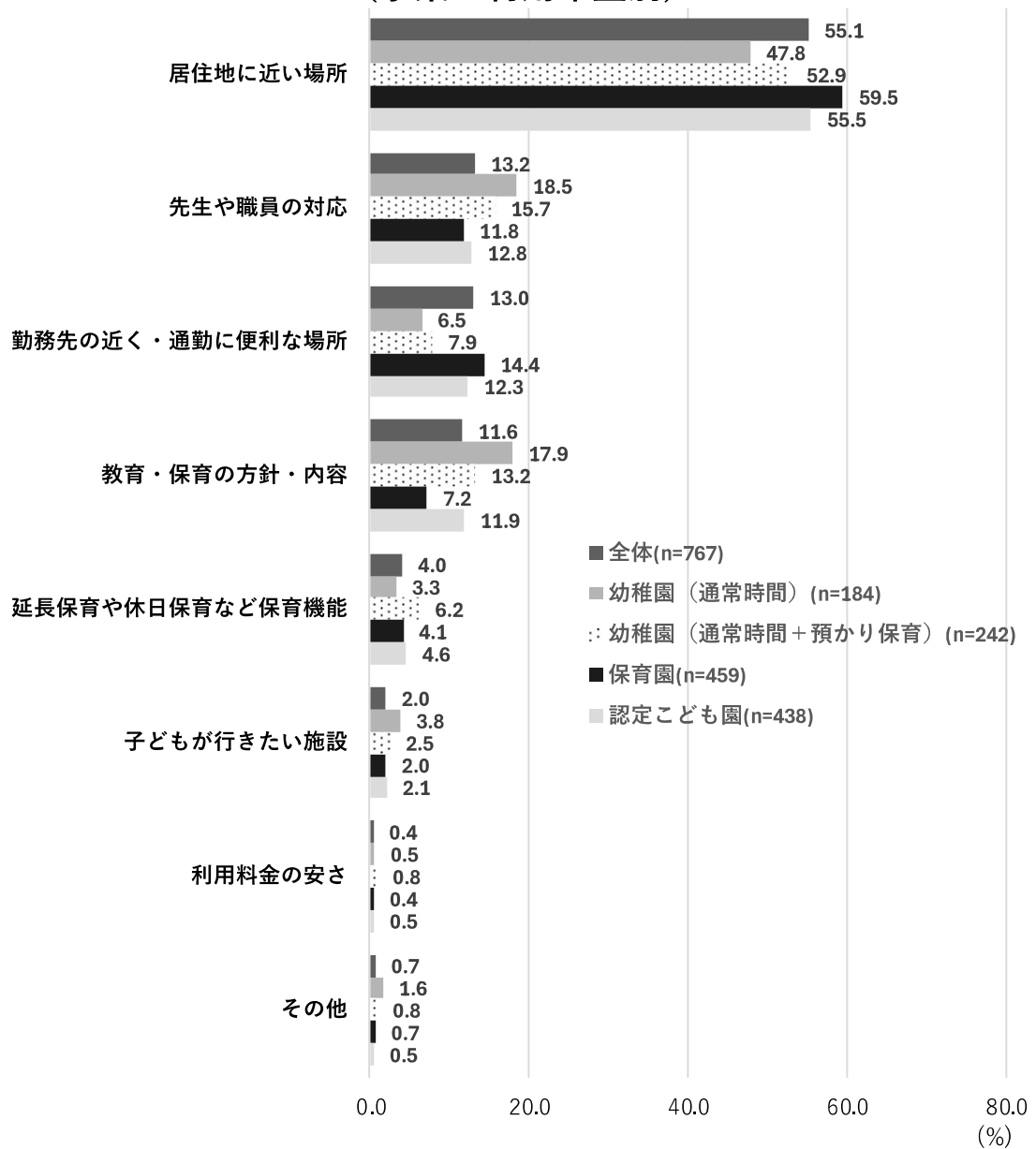
1番重視することについて、生活困難層に係る分類でみると、困窮層では「居住地に近い場所」や「勤務先の近く・通勤に便利な場所」と回答した割合が他の層よりも高くなっている。

平日の教育・保育事業利用で1番重視すること (生活困難度別)



利用を希望する教育・保育事業別にみると、「居住地に近い場所」と回答した割合は保育園利用希望者で、「教育・保育の方針・内容」と回答した割合は幼稚園（通常時間）利用希望者で高くなっている。

平日の教育・保育事業利用で1番重視すること (事業の利用希望別)

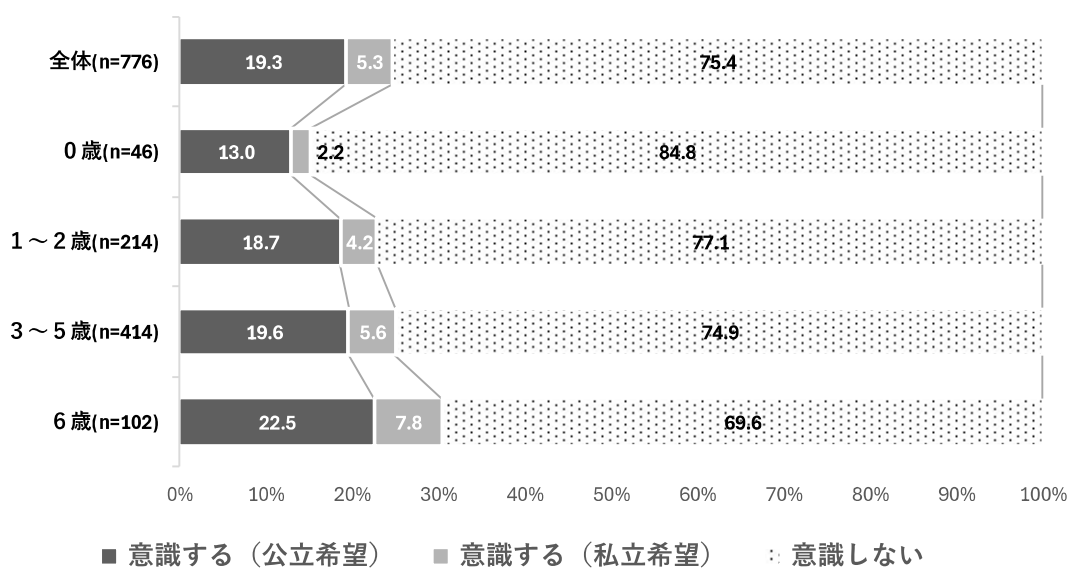


問 17-6 幼稚園や保育園や認定こども園などの教育・保育事業を選ぶときに運営主体が公立・私立であることを意識しますか。【〇は1つ】

教育・保育事業を選ぶときに運営主体が公立・私立であることを意識するかについては、「意識しない」と回答した割合が 75.4%、「意識する（公立希望）」が 19.3%、「意識する（私立希望）」が 5.3%となっている。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「意識する」の割合が高くなっている。

教育・保育事業利用希望における公立・私立の意識
(年齢別)

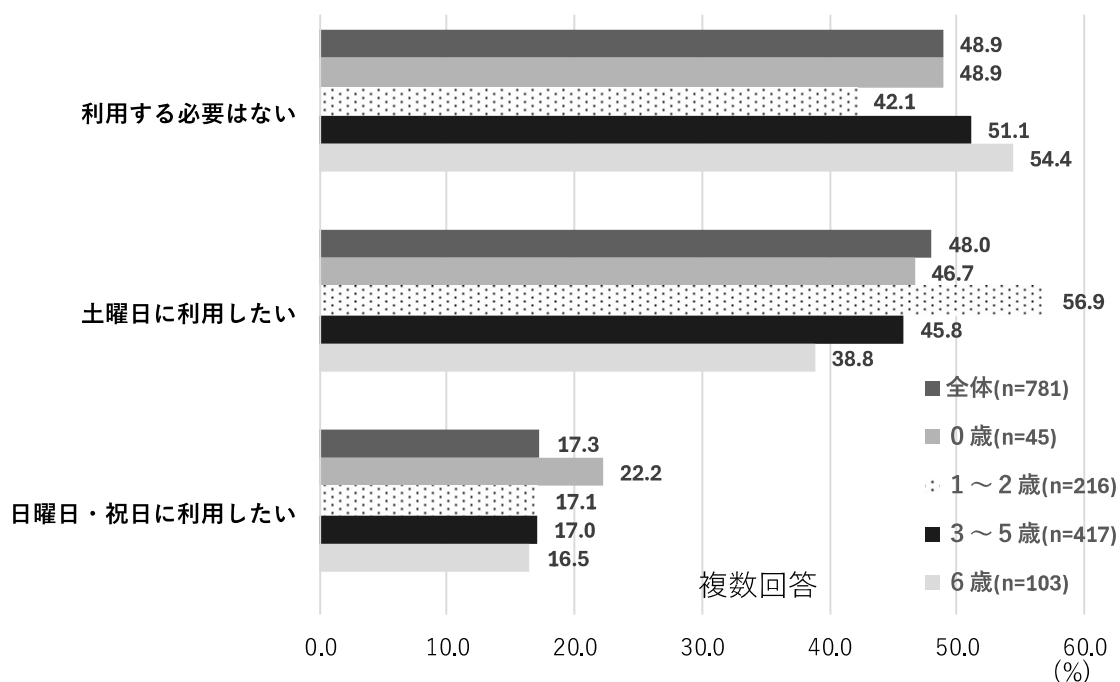


問 17-7 あて名のお子さんについて、土曜日や日曜日・祝日に、定期的に幼稚園や保育園や認定こども園などを利用したいですか。【○はあてはまるもの全て・利用を希望する場合は利用希望頻度・時間を記入】

土曜日・日曜日等の幼稚園や保育園の利用希望については、「土曜日に利用したい」と回答した割合が48.0%、「日曜日・祝日に利用したい」と回答した割合が17.3%となっている。

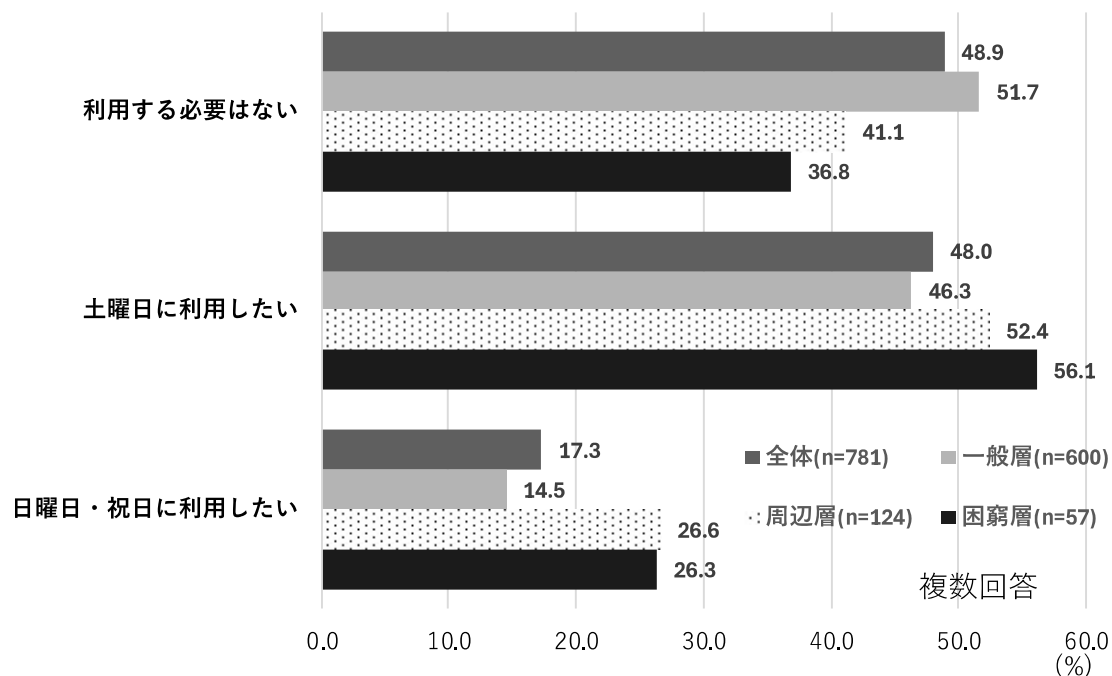
年齢別にみると、1～2歳では「土曜日に利用したい」が56.9%に達している一方、「年齢が上がるにつれて「利用する必要はない」の回答割合が高くなっている。

土曜日や日曜日・祝日の教育・保育事業利用希望 (年齢別)



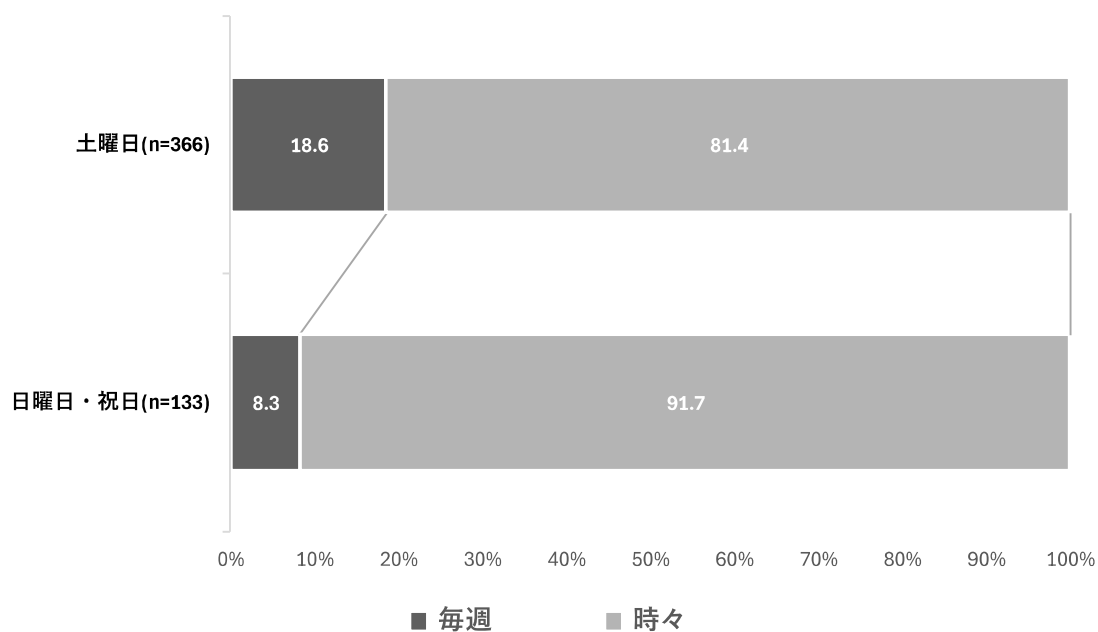
生活困難層に係る分類でみると、困窮層では「土曜日に利用したい」が 56.1%に達している。

土曜日や日曜日・祝日の教育・保育事業利用希望 (生活困難度別)



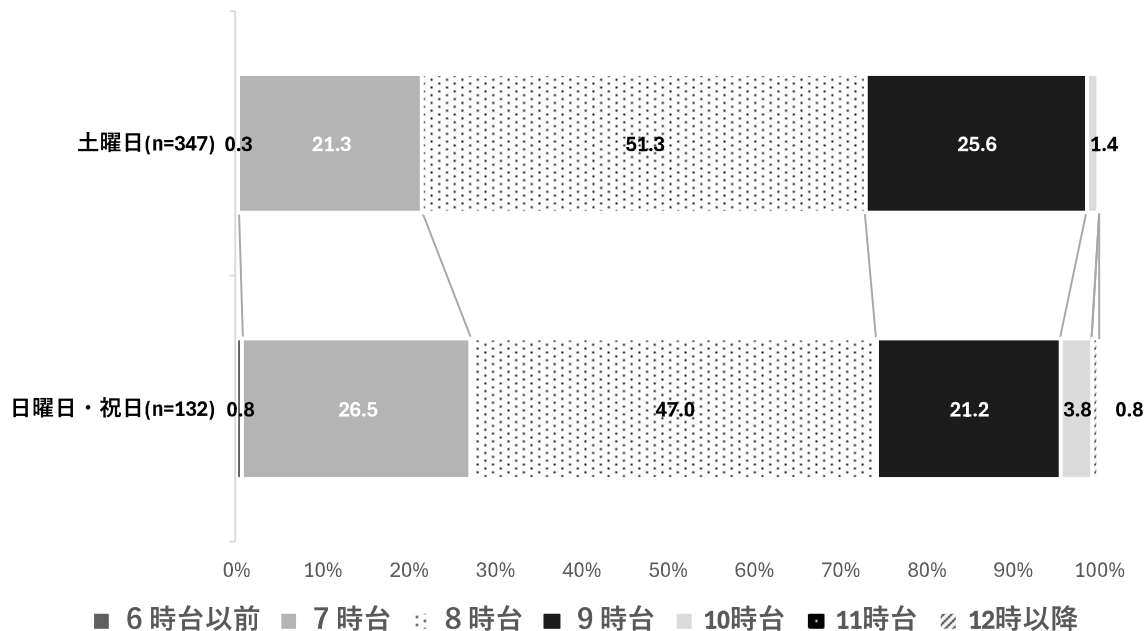
土曜日・日曜日等の利用希望頻度については、「毎週」と回答した割合は土曜日で 18.6%、日曜日・祝日で 8.3%となっている。

教育・保育事業利用希望頻度

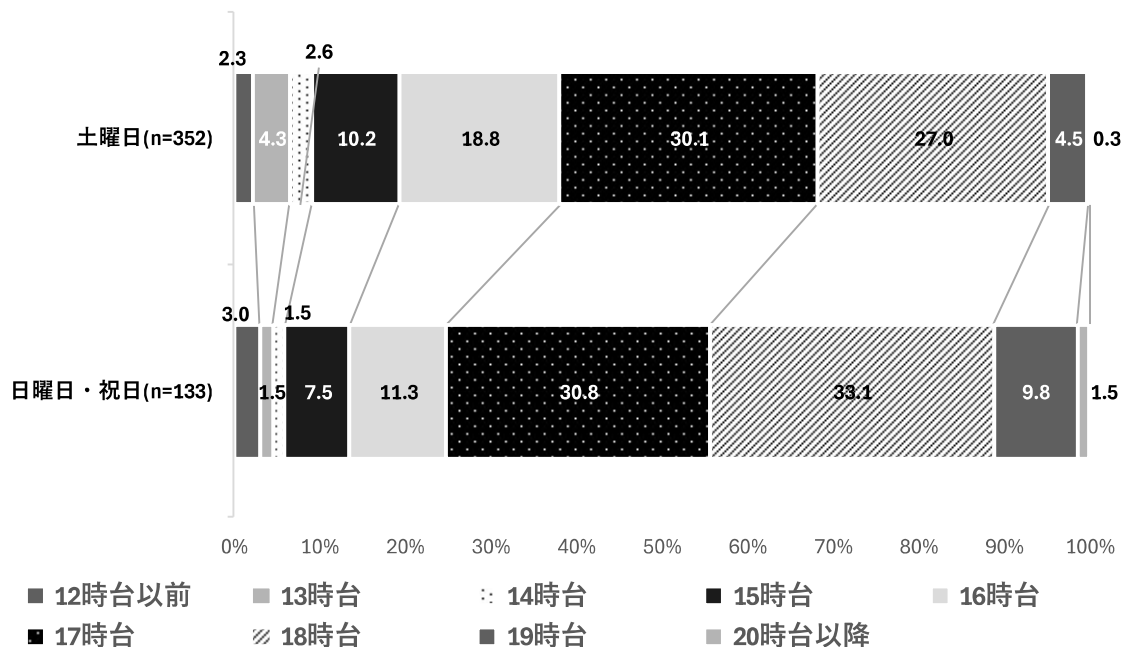


土曜日・日曜日等の利用希望時間については、開始時間は土曜日、日曜日・祝日共に「8時台」と回答した割合が最も高くなっている。また、終了時間については、土曜日は「17時台」、日曜日・祝日は「18時台」と回答した割合が最も高くなっている。

教育・保育事業利用希望開始時間



教育・保育事業利用希望終了時間

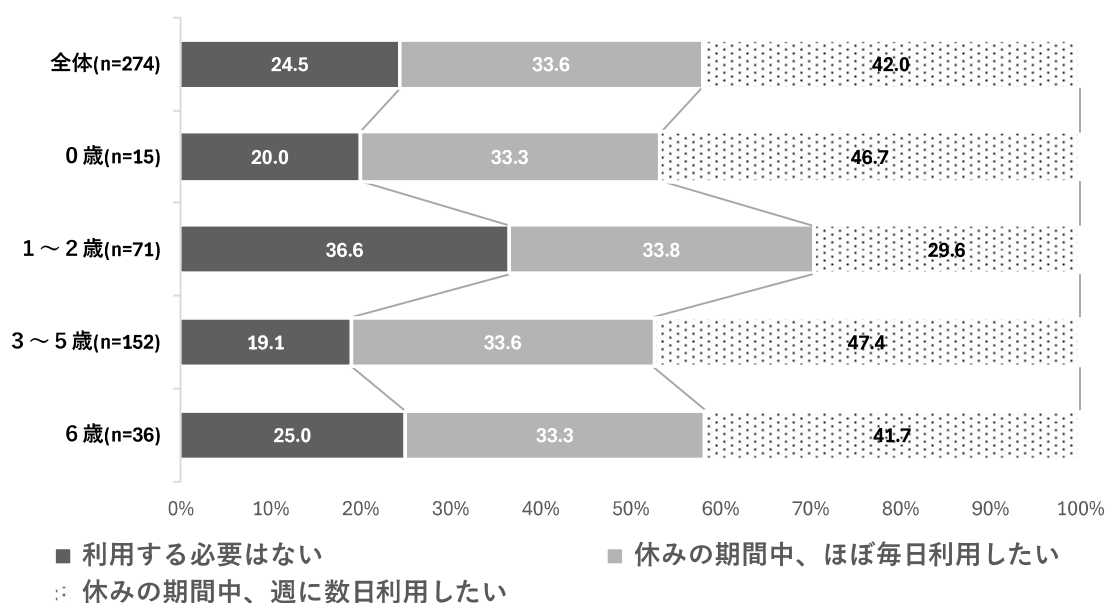


問 17 で幼稚園を利用したいと回答した人のみ回答

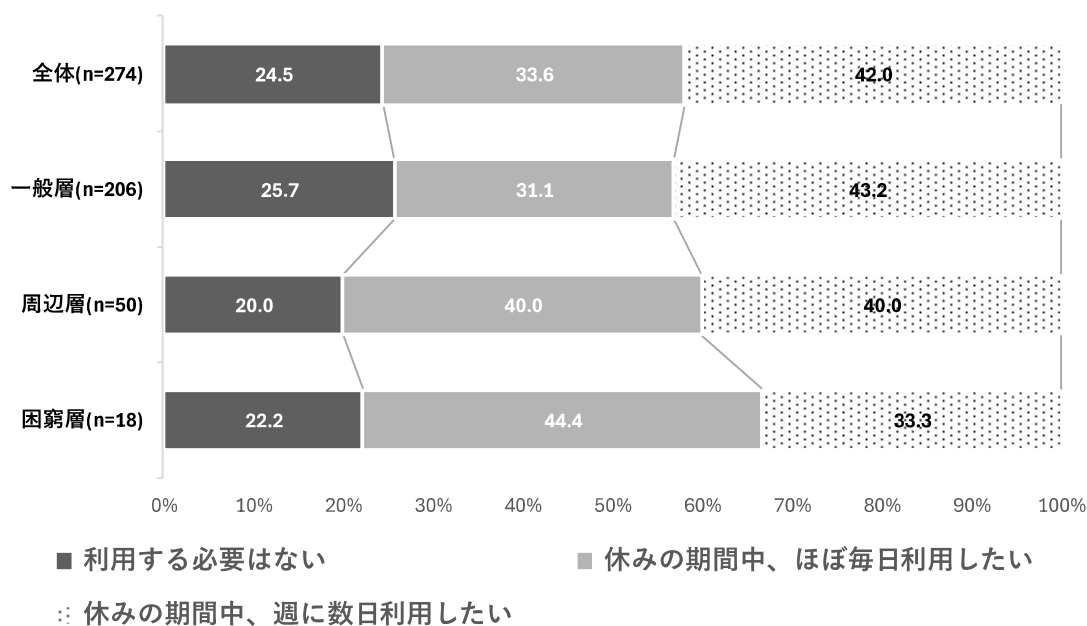
問 17-8 あて名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中に幼稚園を利用したいですか。【〇は1つ】

長期休暇中の幼稚園の利用希望については、『利用したい』（「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」＋「休みの期間中、週に数日利用したい」）と回答した割合が 75.6%となっている。年齢別にみると、3～5歳における『利用したい』の割合が 81.0%となっている。生活困難層に係る分類でみると、大きな差はみられない。

長期休暇中の幼稚園利用希望（年齢別）

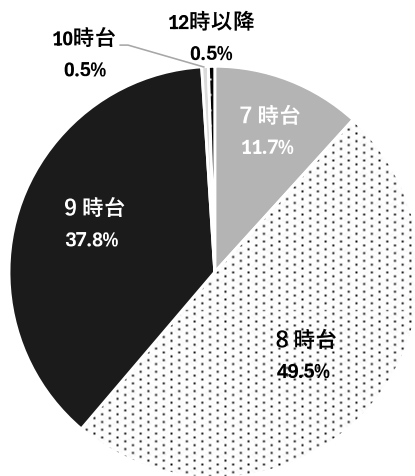


長期休暇中の幼稚園利用希望（生活困難度別）



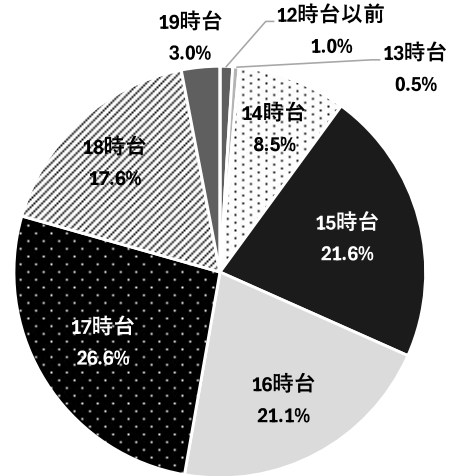
長期休暇中の利用希望時間については、開始時間は「8 時台」と回答した割合が 49.5%と最も高く、終了時間は「17 時台」が 26.6%と最も高くなっている。

長期休暇中の幼稚園利用希望開始時間



n=196

長期休暇中の幼稚園利用希望終了時間



n=199

5 病気の際の対応

(1) 病気等により幼稚園・保育園等を利用できなかった経験

問 16 で「1」（平日に幼稚園や保育園などの教育・保育事業を利用している）と回答した人のみ回答

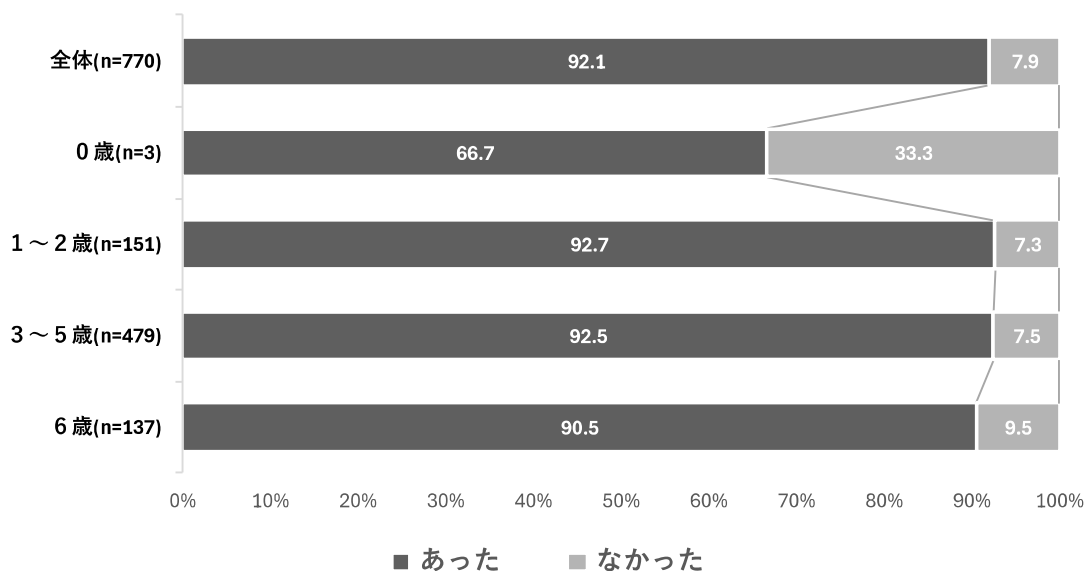
問 18 この1年間に、お子さんが病気やケガで幼稚園や保育園や認定こども園などの教育・保育事業を利用できなかったことはありましたか。【〇は1つ】

病気等により幼稚園・保育園等を利用できなかった経験について、「あった」と回答した割合が 92.1%となっている。

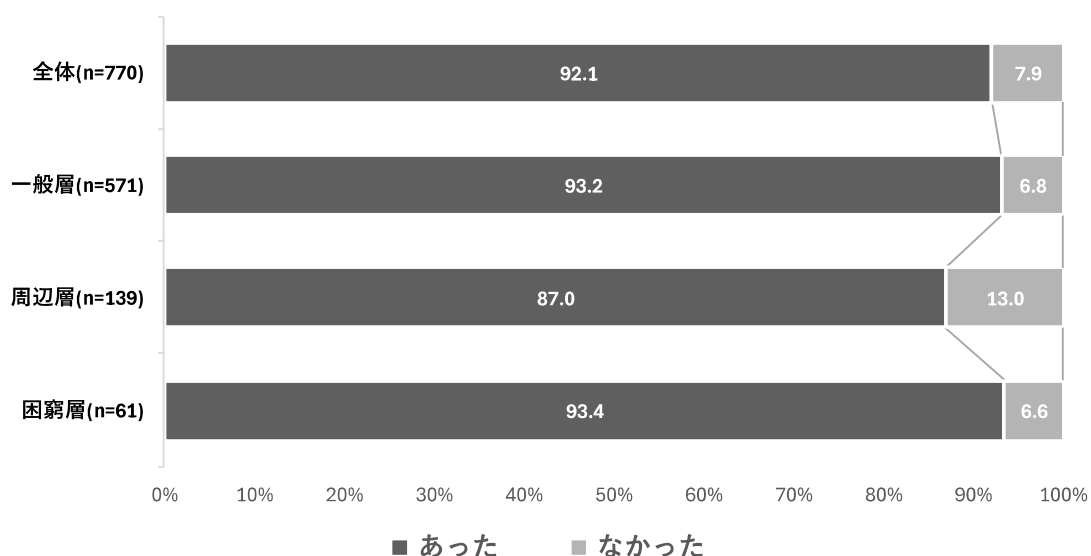
年齢別にみると、回答数の少ない0歳以外では大きな差はみられない。

生活困難層に係る分類でみると、大きな差はみられない。

子どもの病気等で教育・保育事業が利用できなかった経験 (年齢別)



子どもの病気等で教育・保育事業が利用できなかった経験 (生活困難度別)



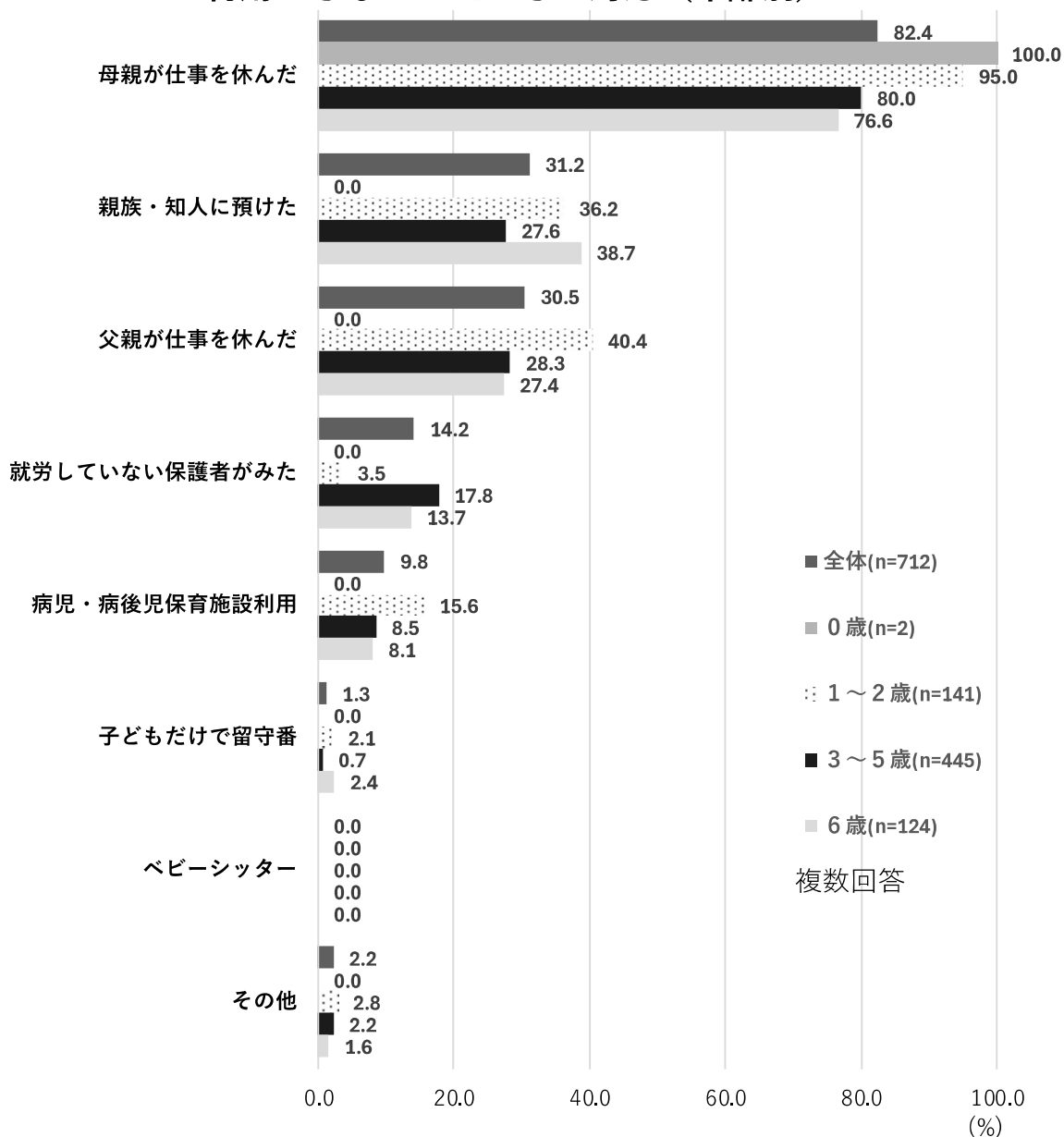
問 18 で「1 あった」と回答した人のみ回答

問 18-1 この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで普段利用している幼稚園や保育園や認定こども園などの教育・保育事業を利用できなかった場合に、どのように対応しましたか。【〇はあてはまるもの全て】

病気等により幼稚園・保育園等を利用できなかった際の対応方法については、「母親が仕事を休んだ」と回答した割合が 82.4%と最も高く、次いで「(同居者を含む) 親族・知人に預けた」が 31.2%、「父親が仕事を休んだ」が 30.5%となっている。

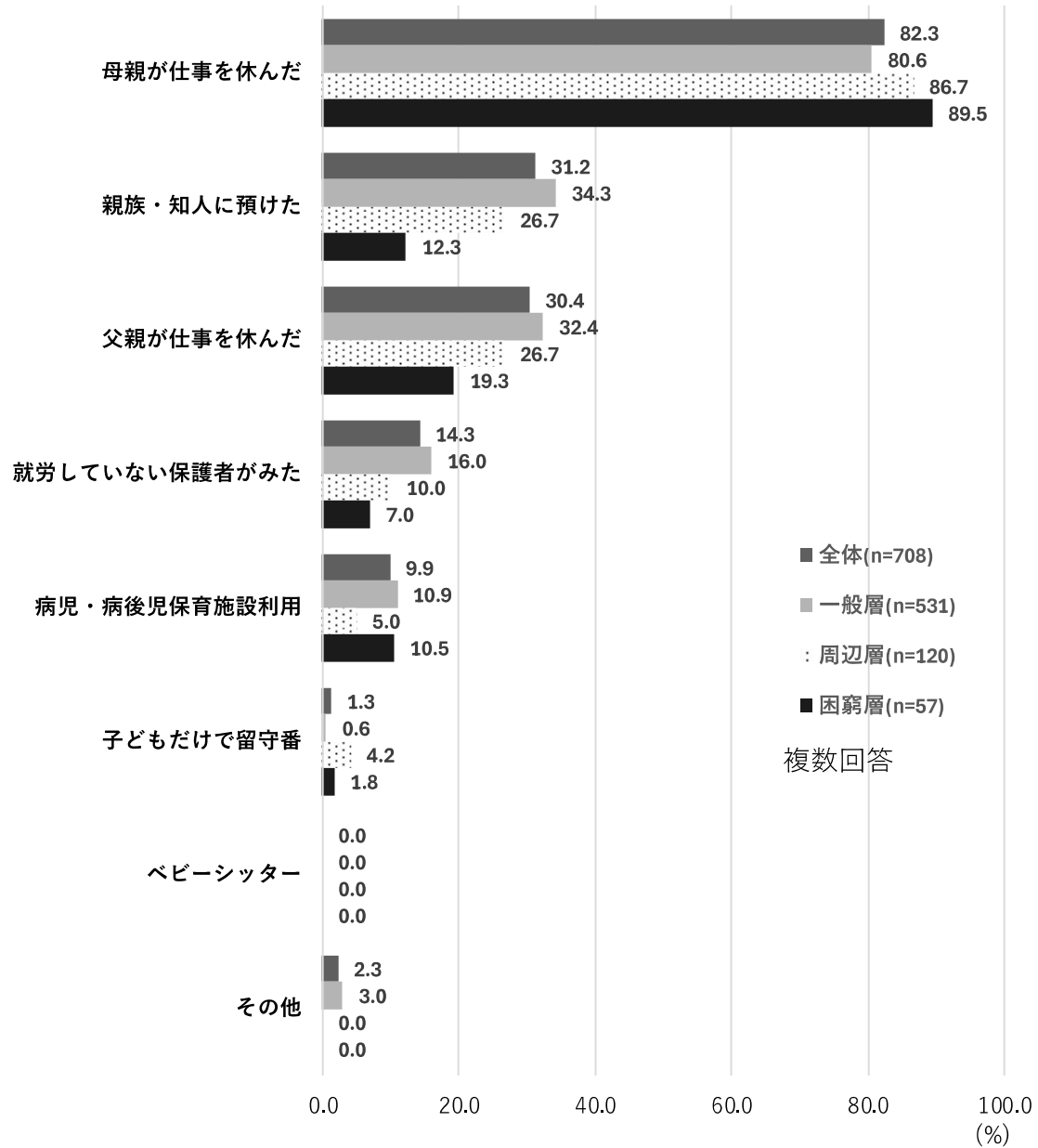
年齢別にみると、1～2歳では「母親が仕事を休んだ」や「父親が仕事を休んだ」の回答割合が回答数の少ない0歳を除く他の年齢よりも高くなっている。

子どもの病気等で教育・保育事業が 利用できなかったときの対応（年齢別）



生活困難層に係る分類でみると、困窮層は「母親が仕事を休んだ」と回答した割合が他の層を上回っている。

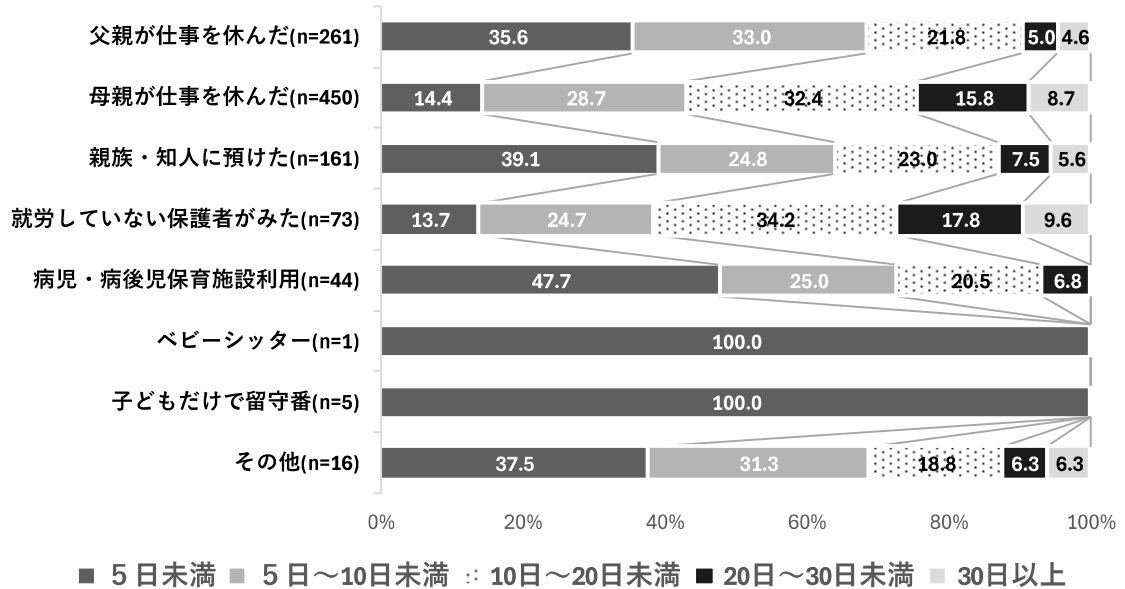
子どもの病気等で教育・保育事業が 利用できなかったときの対応（生活困難度別）



病気等により幼稚園・保育園等を利用できなかった際の年間対応日数については、「母親が仕事を休んだ」及び「就労していない保護者がみた」の日数が長くなっている。

子どもが病気等で教育・保育事業を利用できなかった

ときの対応日数



(2) 病児・病後児保育施設の利用希望

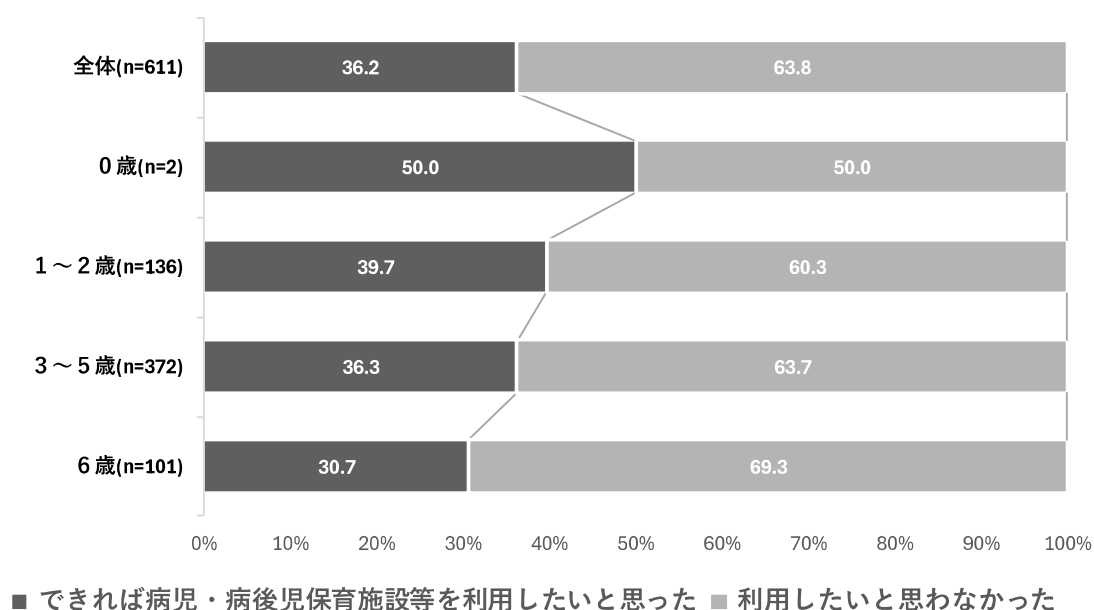
問 18-1 で「1」または「2」（父親・母親が仕事を休んだ）と回答した人のみ回答

問 18-2 父親・母親が休んだ際に、病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思いましたが。【〇は1つ】

病児・病後児保育施設の利用希望について、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したいと思った」と回答した割合が 36.2%となっている。

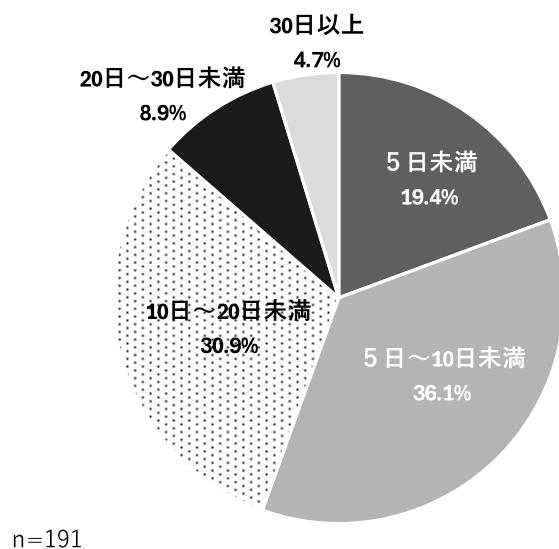
年齢別にみると、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したいと思った」と回答した割合は年齢が低いほど高くなっている。

病児・病後児保育施設を利用したかったか（年齢別）



利用希望日数については、「5日～10日未満」が 36.1%、「10日～20日未満」が 30.9%となっている。

病児・病後児保育施設等利用希望日数

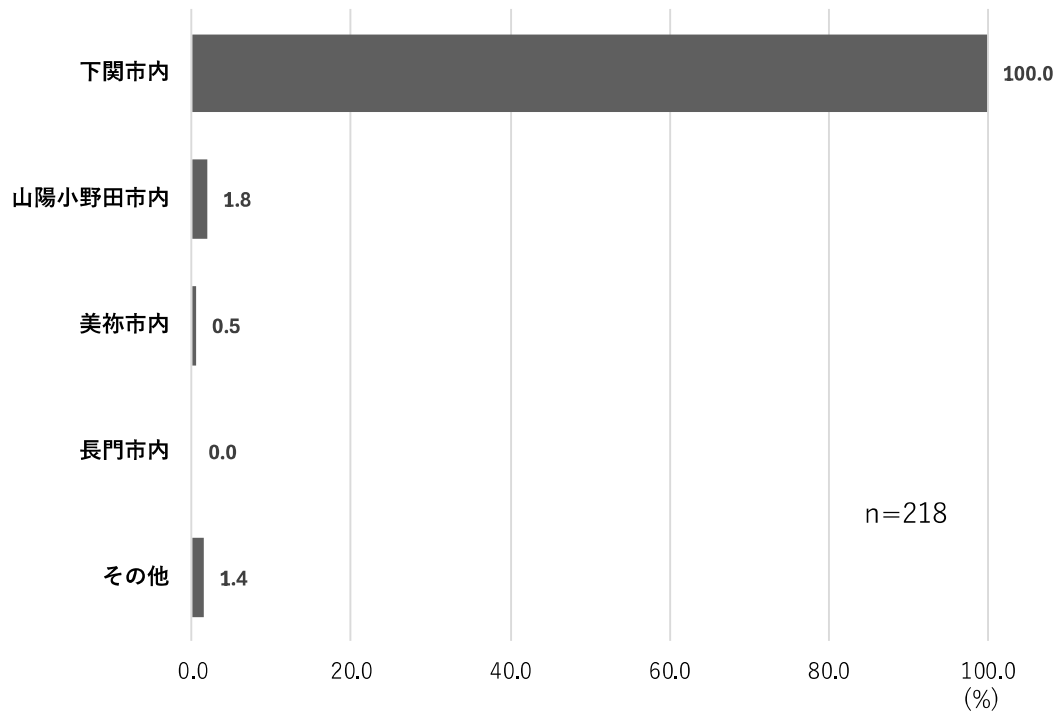


問 18-2 で「1 できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と回答した人のみ回答

問 18-3 どの地域の事業であれば利用したいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】

事業の利用希望地域については、回答者全員が「下関市内」を挙げている。

病児・病後児保育施設等の希望地域



「下関市内」と回答した保護者に具体的な地区（小学校区で回答したものを地区別に分類）を尋ねたところ、「勝山・川中」と回答した割合が 29.5%と最も高く、次いで「本庁」が 23.5%、「山陽」が 13.1%となっている。

居住地区別にみると、回答数の少ない「豊浦」以外は、同じ地区内の比率が 90%台～100%となっている。

利用したい病児・病後児保育施設等のある地区（居住地区別）

（単位：％）

		利用したい病児・病後児保育施設等のある地区									
		本庁	彦島	長府	山陽	勝山・川中	山陰	菊川	豊田	豊浦	豊北
全体(n=183)		23.5	9.8	9.8	13.1	29.5	9.3	1.1	0.5	2.2	1.1
居住地区	本庁(n=41)	97.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	彦島(n=18)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	長府(n=16)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	山陽(n=25)	0.0	0.0	4.0	96.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	勝山・川中(n=57)	5.3	0.0	1.8	0.0	93.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	山陰(n=14)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	菊川(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	豊田(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	豊浦(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	66.7	16.7
	豊北(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

6 不定期の保育事業（就学前児童保護者）

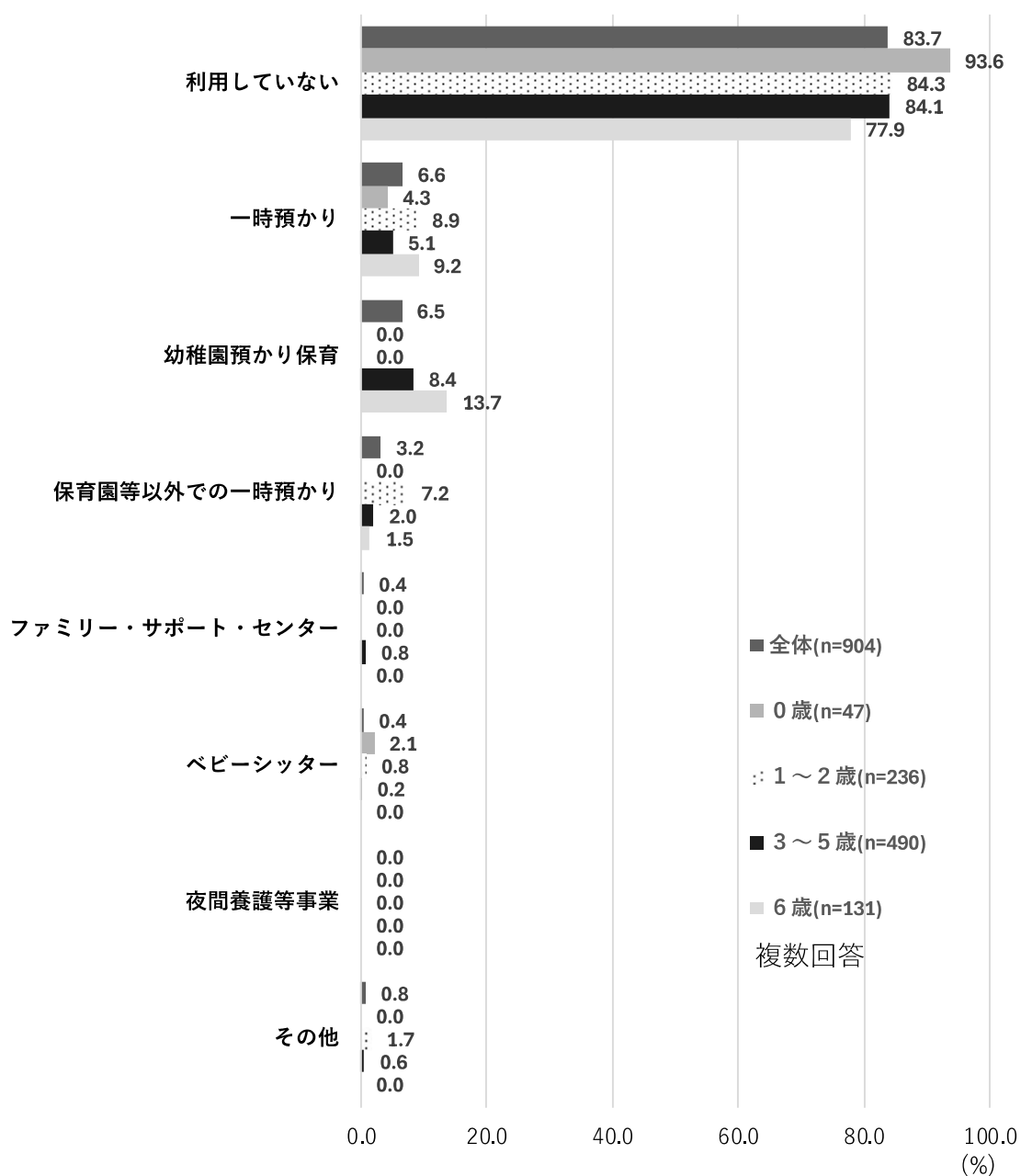
(1) 不定期に利用したサービス

問 19 あて名のお子さんについて、この1年間に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用したサービスはありますか（宿泊は伴わない）。【あてはまるもの全てに○】

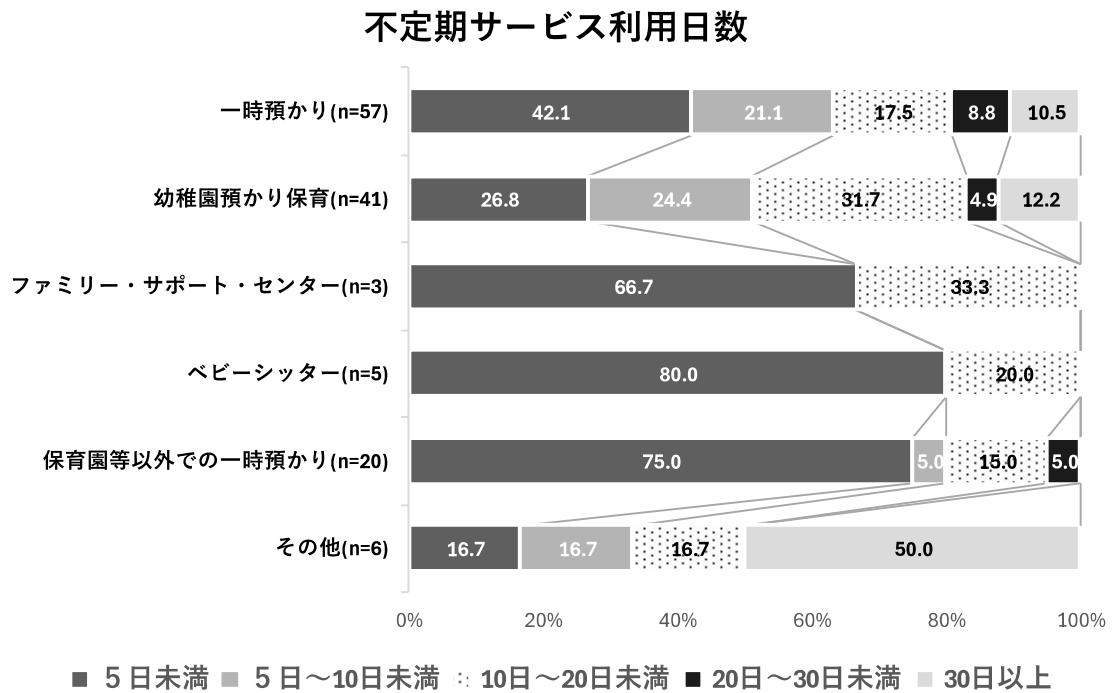
不定期に利用したサービスについては、「一時預かり」と回答した割合が6.6%と最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」が6.5%となっている。

また、「利用していない」と回答した割合が83.7%となっている。

不定期サービス利用（年齢別）



不定期のサービスの年間利用日数については、「幼稚園の預かり保育」及び「一時預かり」の日数が長くなっている。



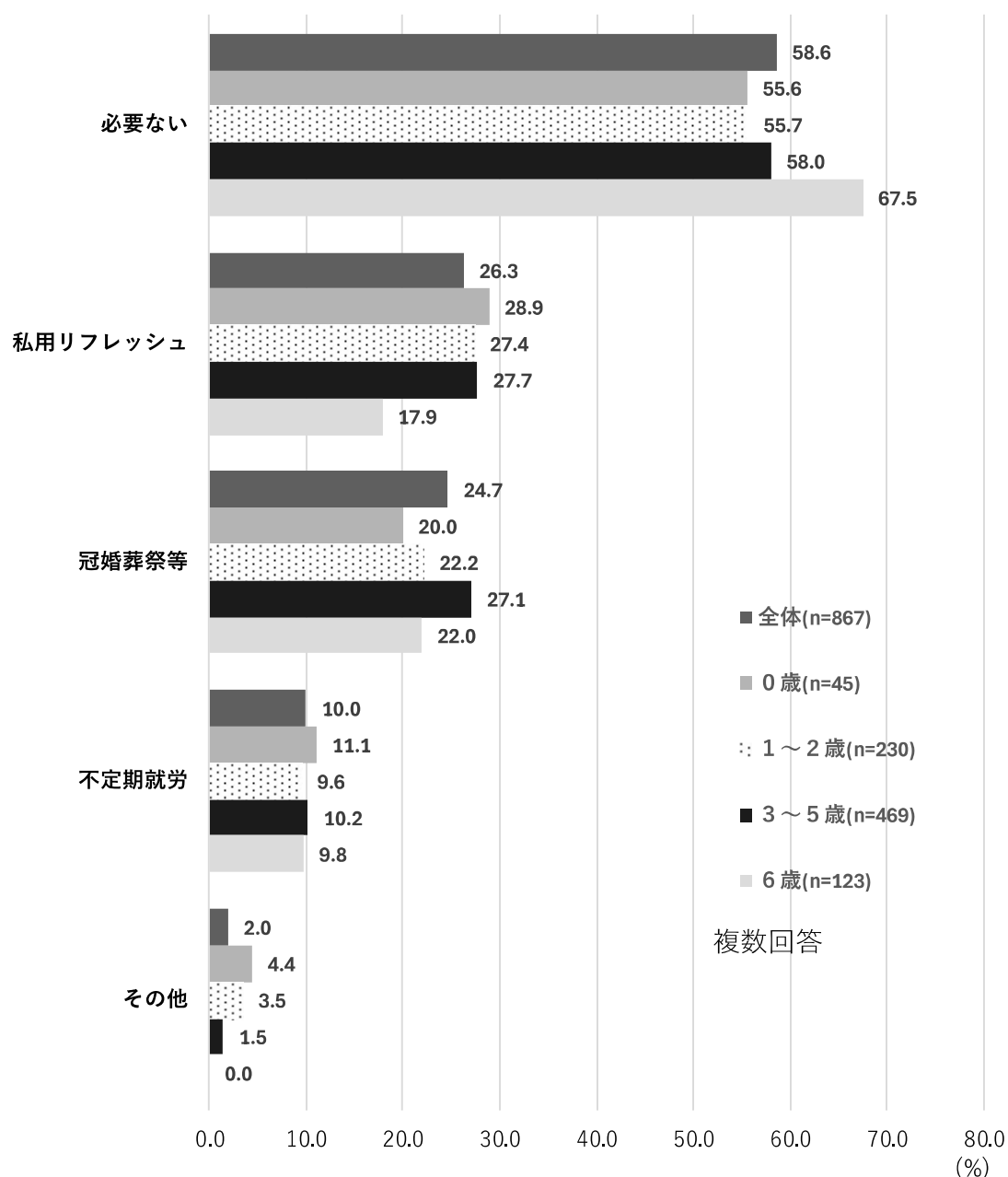
(2) 不定期に子どもを預ける事業の利用希望

問 20 あて名のお子さんについて、今後、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、子どもを預ける事業を利用したいと思いますか（宿泊は伴わない）。【あてはまるもの全てに○】

不定期に子どもを預ける事業の利用希望については、「利用する必要はない」が 58.6%となっており、「利用していない」（58 ページ）とのギャップ（25.1%）は”利用ニーズはあるが利用できていない”と判断できる。

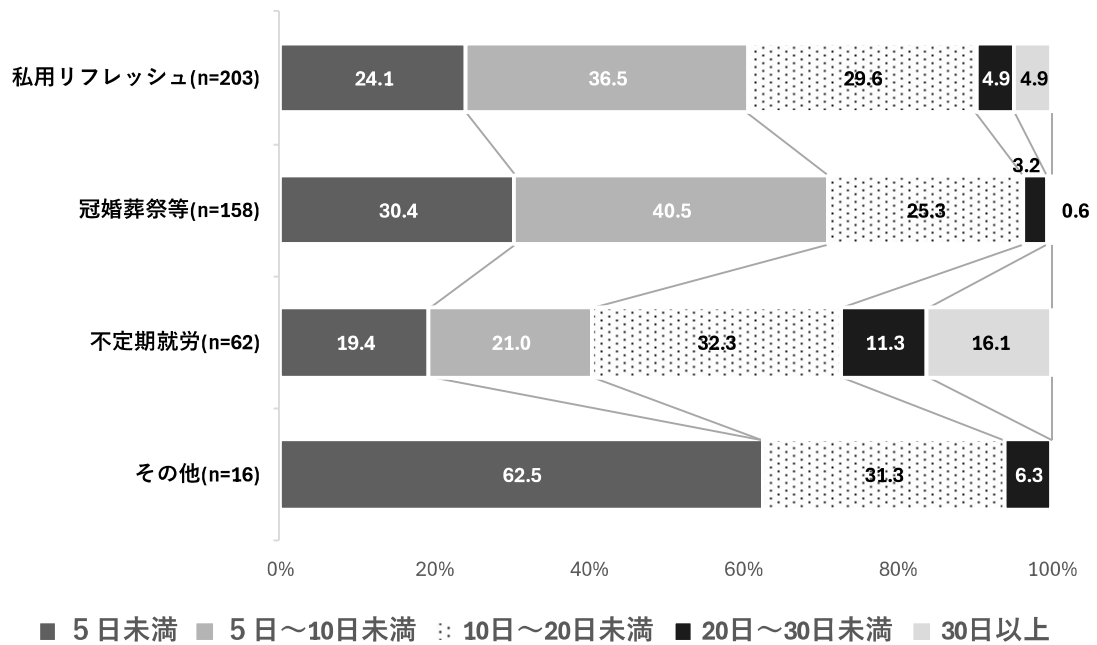
利用希望者については、「私用（買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）やリフレッシュ目的で利用したい」が 26.3%と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等で利用したい」が 24.7%となっている。

子どもを預ける事業の利用希望（年齢別）



不定期に子どもを預ける事業の年間利用希望日数については、「不定期の就労で利用したい」との理由での日数に関して、10 日以上を希望する回答の割合が 59.7%となっている。

子どもを預ける事業の利用希望日数

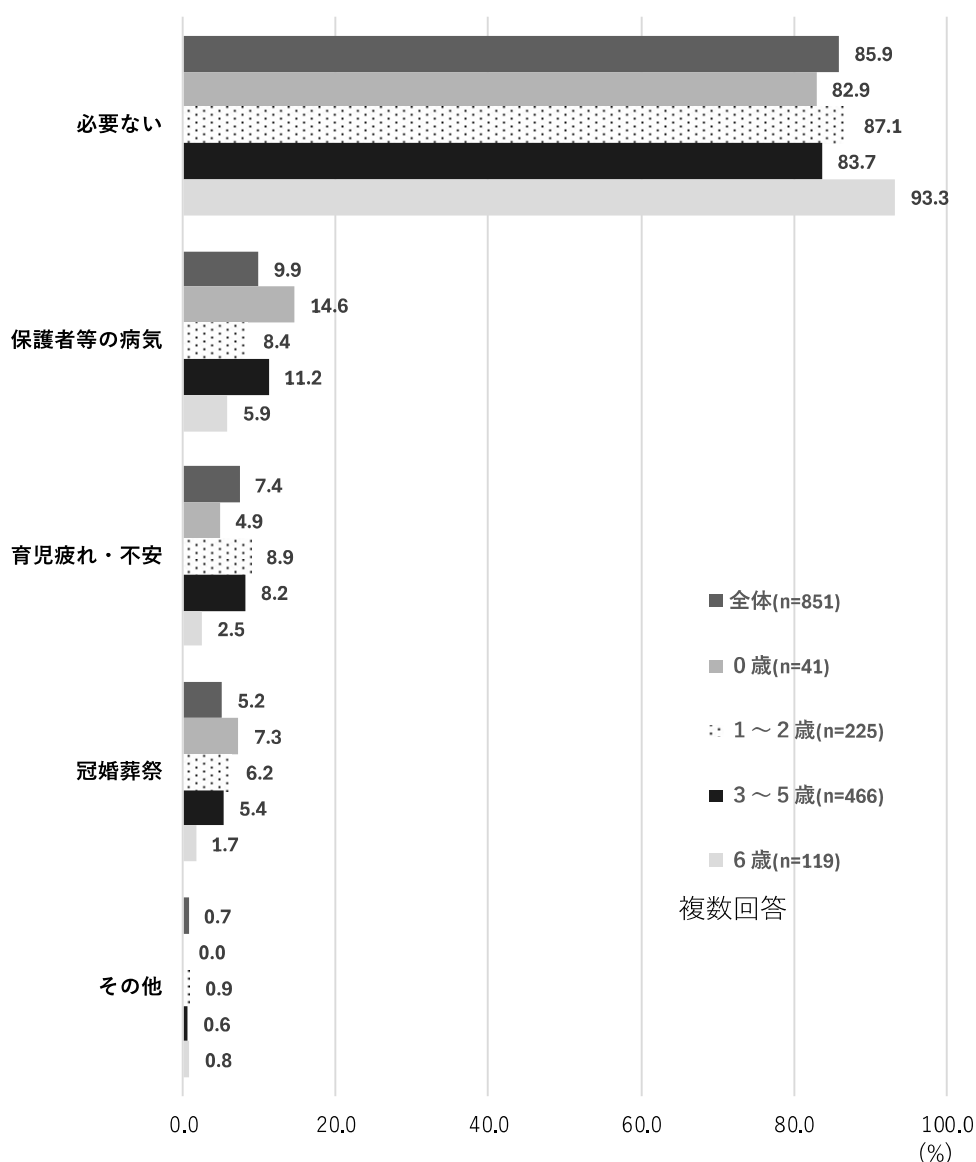


(3) 泊りがけで家族以外に子どもを預ける事業の利用希望

問 21 あて名のお子さんについて、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。短期入所生活援助（ショートステイ）事業（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）の利用希望の有無についてあてはまる番号・記号全てに○をつけ、必要な泊数をご記入ください（利用したい泊数の合計と、目的別の内訳の泊数をカッコ内に数字でご記入ください）。【あてはまるもの全てに○】

泊まりがけで家族以外に子どもを預ける事業の利用希望については、「利用する必要はない」が 85.9%となっている。次いで「保護者や家族の病気」での利用が 9.9%、「保護者や家族の育児疲れ・不安」での利用が 7.4%となっている。「利用する必要はない」は不定期に子どもを預ける事業（58 ページ）と同程度の回答割合であるものの、利用を希望する割合は不定期に子どもを預ける事業よりも圧倒的に低い。

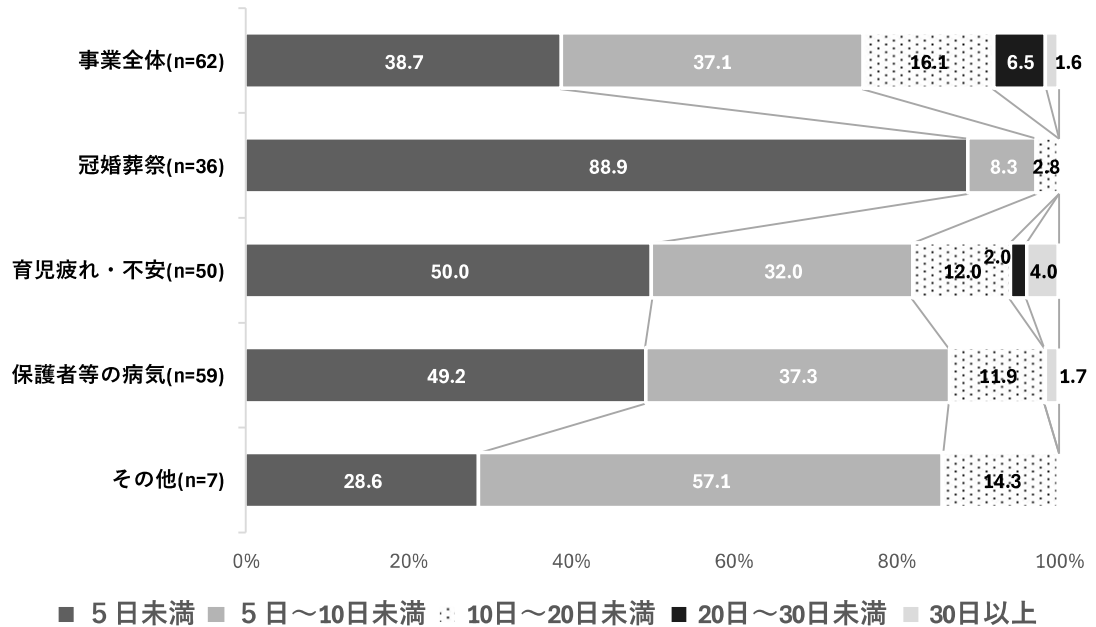
子どもを泊りがけで預ける事業の利用希望（年齢別）



泊まりがけで家族以外に子どもを預ける事業の年間利用希望日数（泊数）については、事業全体では「5日未満」が38.7%、「5日～10日未満」が37.1%となっている。

理由別にみると、「保護者等の病気」での利用希望日数に関して、5日以上と回答した割合が50.9%となっている。

子どもを泊りがけで預ける事業の利用希望日数



7 地域子育て支援拠点事業

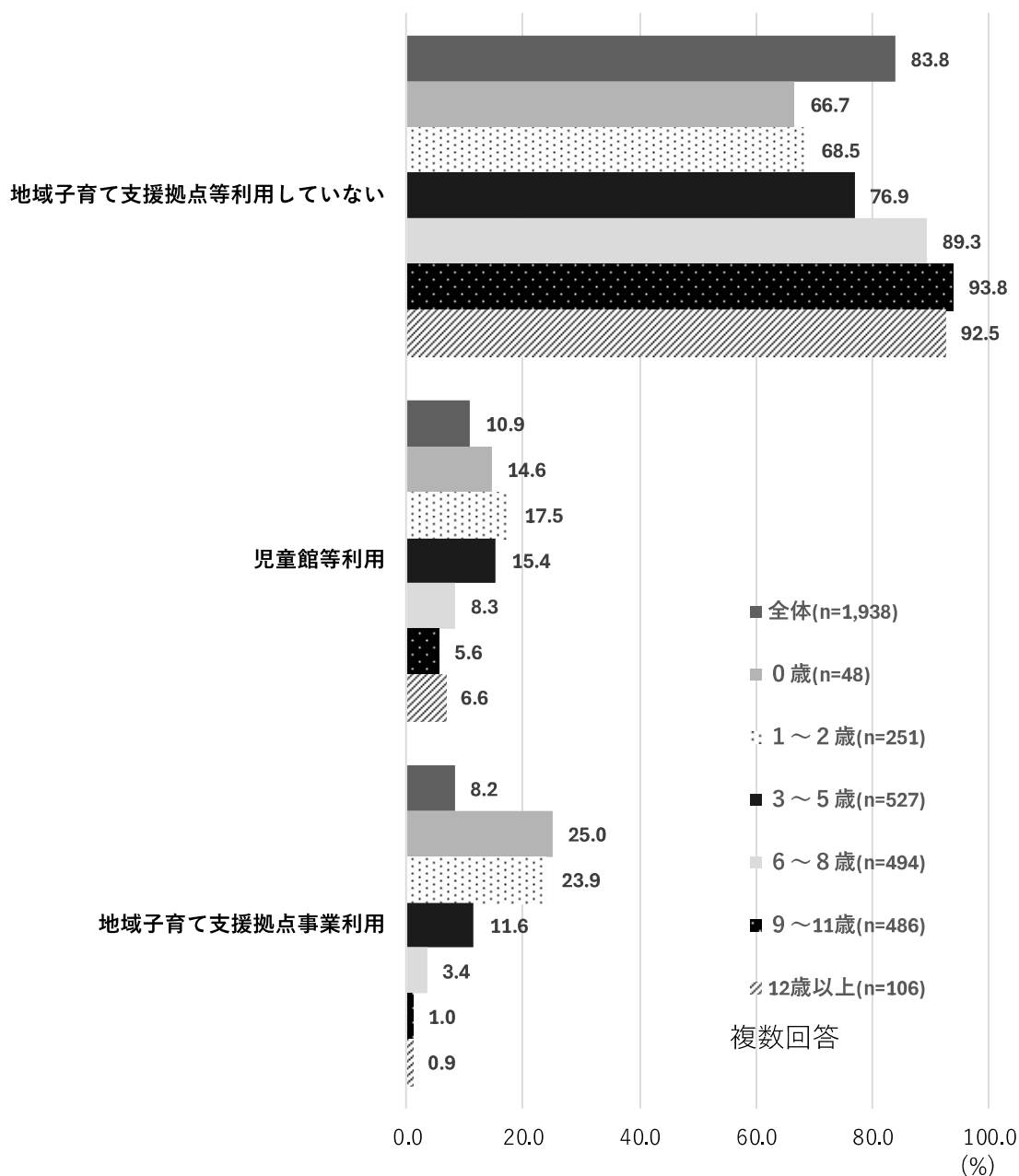
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況

問 22 あて名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業などを利用していますか。【あてはまるもの全てに○】

地域子育て支援拠点事業の利用状況については、「利用していない」（83.8％）を除くと、「その他、児童館、町民館、幼稚園などで実施している活動や事業」と回答した割合が10.9％、「地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）」が8.2％となっている。

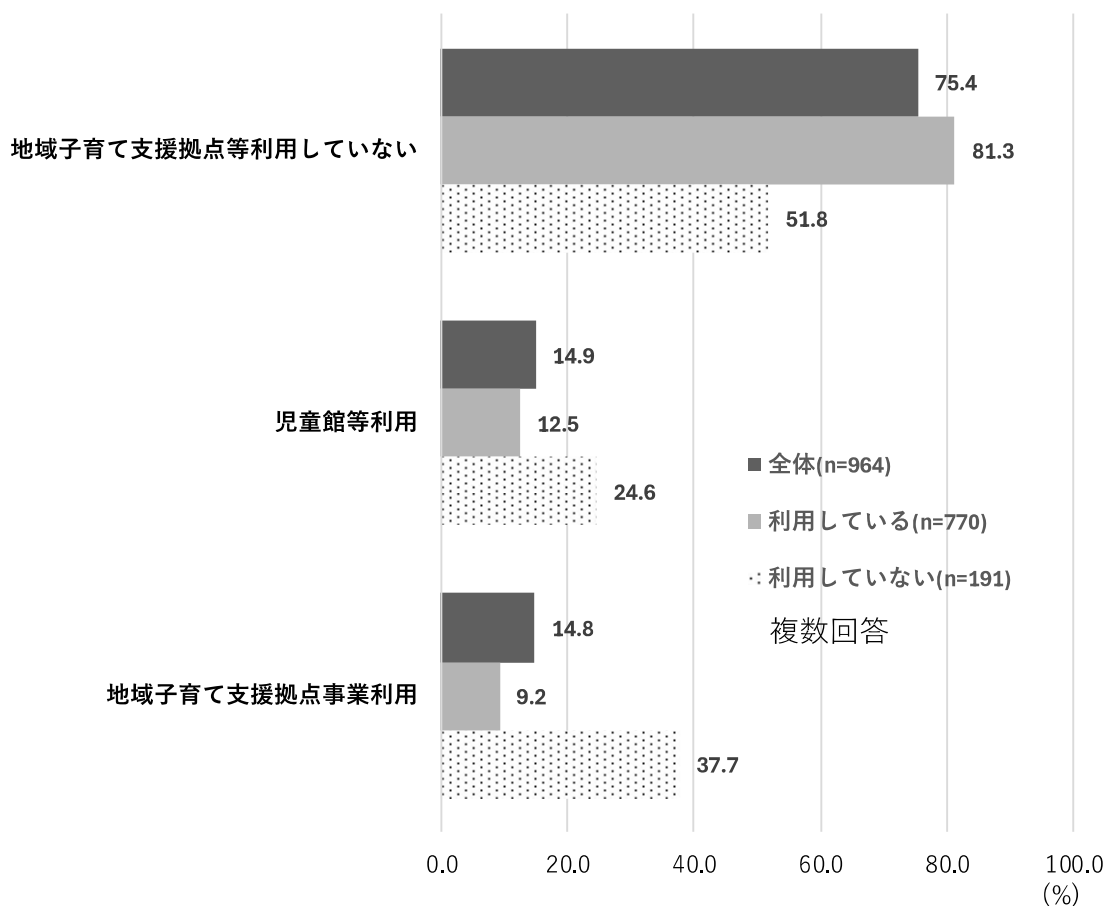
年齢別にみると、「地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）」と回答した割合は年齢が低いほど高くなっている。

地域子育て支援拠点事業等利用（年齢別）



教育・保育事業の利用状況別（就学前児童）にみると、利用していない層では「地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）」と回答した割合が 37.7%、「その他、児童館、町民館、幼稚園などで実施している活動や事業」と回答した割合が 24.6%となっている。

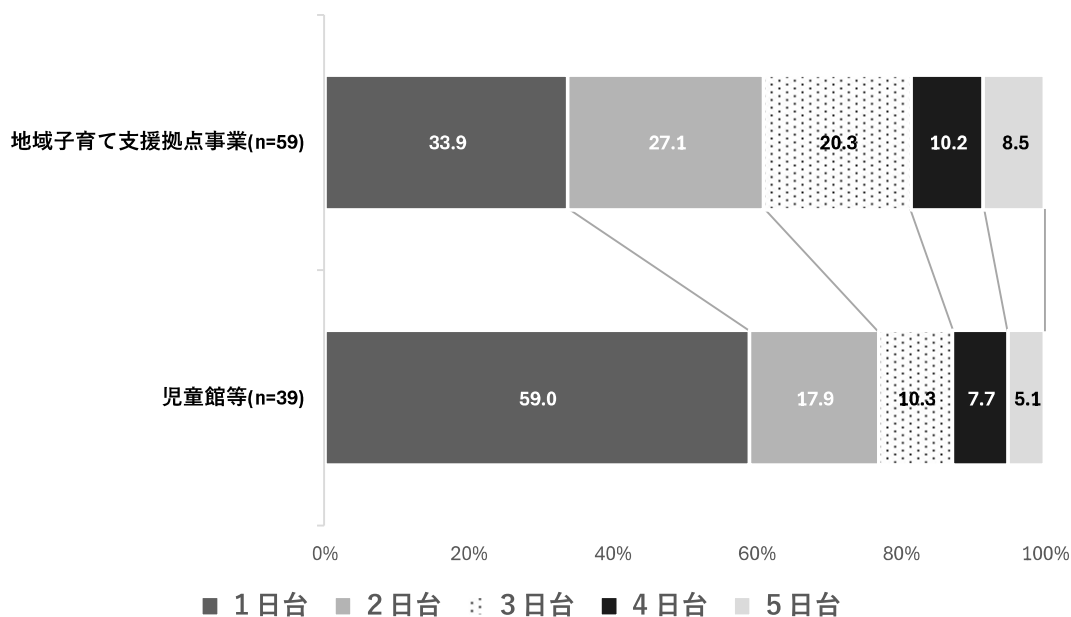
地域子育て支援拠点事業等利用 （教育・保育事業利用の有無別）



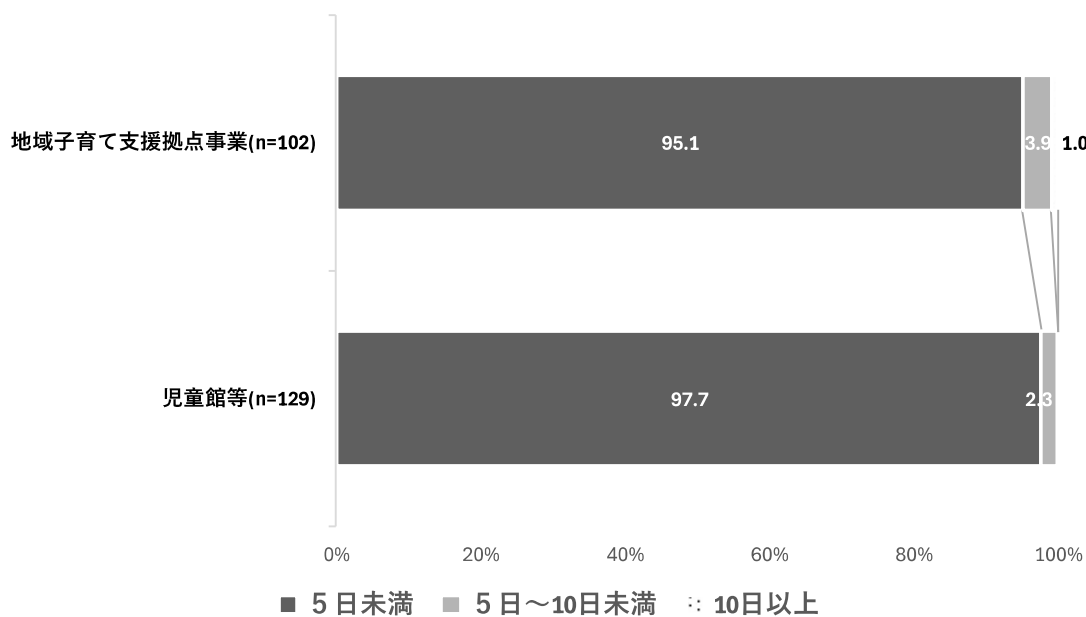
1週間あたり利用日数については、「1日台」と回答した割合が「地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）」では33.9%、「その他、児童館、町民館、幼稚園などで実施している活動や事業」では59.0%と、いずれも最も高くなっている。

1か月あたり利用日数については、「地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）」、「その他、児童館、町民館、幼稚園などで実施している活動や事業」のいずれも、ほぼ全員が「5日未満」と回答している。

地域子育て支援拠点事業等の1週間あたり利用日数



地域子育て支援拠点事業等の1か月あたり利用日数



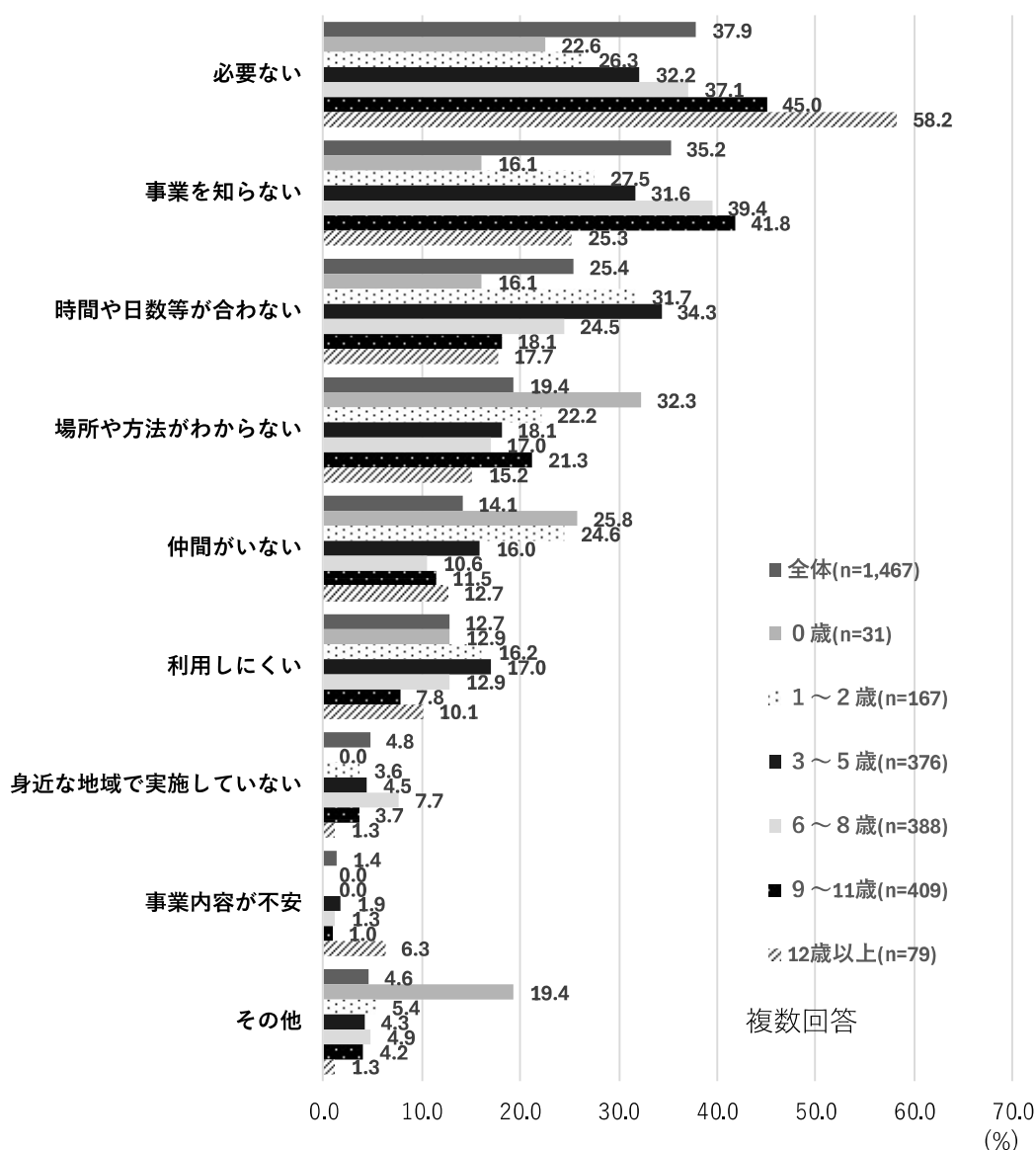
問 22 で「3 利用していない」と回答した人のみ回答

問 22-1 現在、利用していない理由を回答してください。【あてはまるもの全てに○】

地域子育て支援拠点事業を利用していない理由については、「利用する必要がない」と回答した割合が 37.9%と最も高く、次いで「事業を知らない」が 35.2%、「利用可能時間・日数などが合わない」が 25.4%、「場所や方法がわからない」が 19.4%となっている。このうち「事業を知らない」及び「場所や方法がわからない」は広報の見直しにより、「利用可能時間・日数などが合わない」は運営方法の見直しにより、当該事業の利用頻度を高める可能性が認められる。

年齢別にみると、「利用する必要がない」と回答した割合は年齢が上がるにつれて高くなっている。また、「事業を知らない」との回答割合は6～8歳と9～11歳で4割近くに達しているほか、1～2歳と3～5歳では「利用可能時間・日数などが合わない」が3割を超えている。

地域子育て支援拠点事業等利用していない理由
(年齢別)



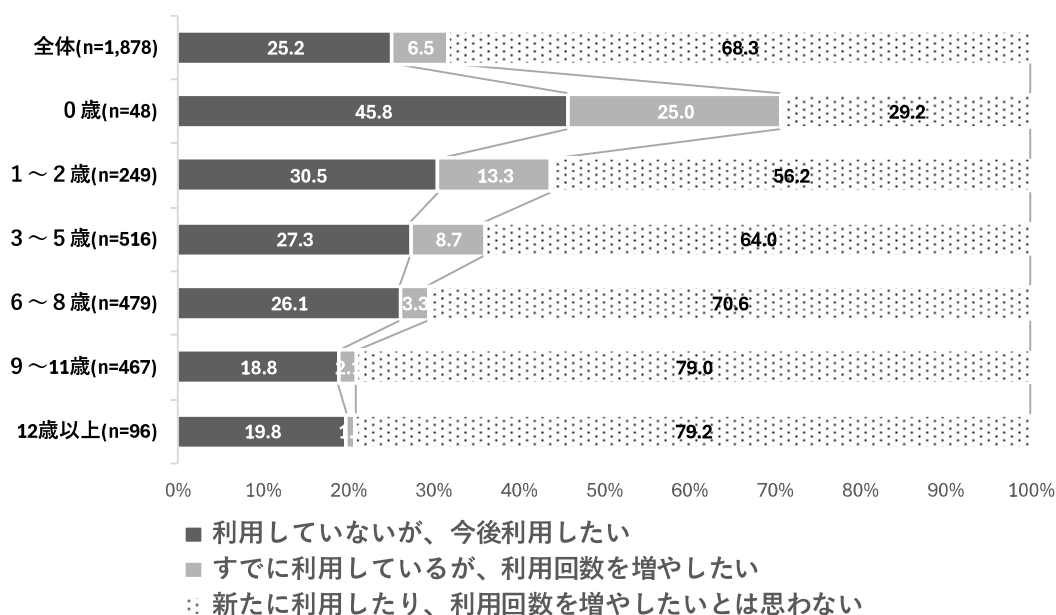
(2) 今後の地域子育て支援拠点事業の利用希望

問 23 問 22 のような地域子育て支援拠点事業を、今後利用したり、利用回数を増やしたいと思いますか。【○は1つ・利用を希望する場合は利用希望回数を記入】

今後の地域子育て支援拠点事業の利用希望については、「利用していないが、今後利用したい」と回答した割合が 25.2%、「すでに利用しているが、利用回数を増やしたい」と回答した割合が 6.5%となっている。「新たに利用したり、利用回数を増やしたいとは思わない」が 68.3%と圧倒的に高いものの、この中には「事業を知らない」と回答した 35.2%、「場所や方法がわからない」と回答した 19.4%が含まれていると推測できるため、広報の見直しによって利用希望者を増やす伸びしろがあると考えられる。

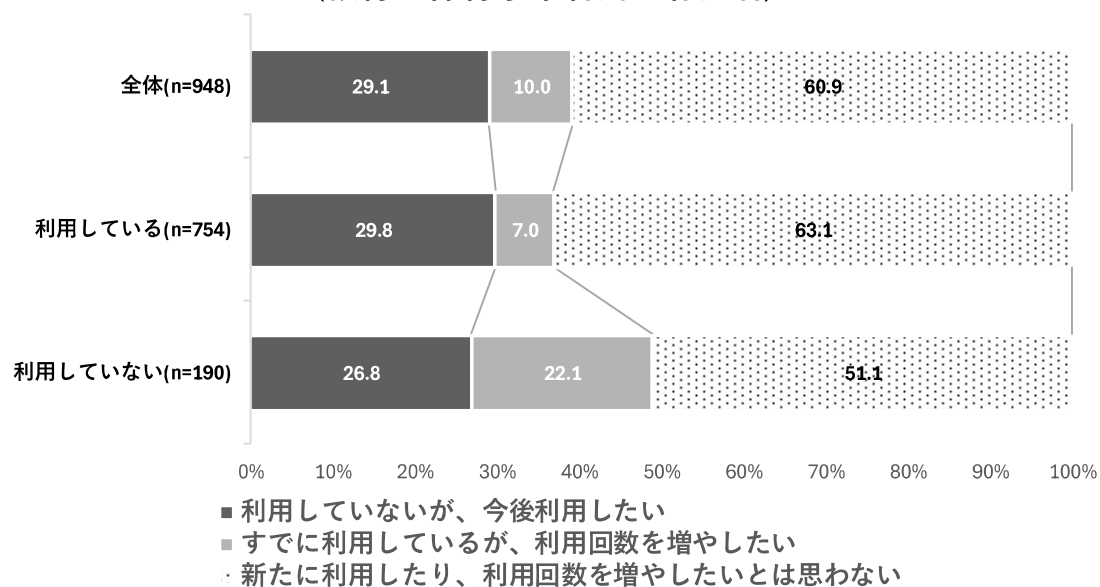
年齢別にみると、「利用していないが、今後利用したい」、「すでに利用しているが、利用回数を増やしたい」と回答した割合は年齢が低いほど高く、0歳では、「利用していないが、今後利用したい」と回答した割合は 45.8%、「すでに利用しているが、利用回数を増やしたい」と回答した割合は 25.0%となっている。

地域子育て支援拠点事業等の今後の利用希望（年齢別）



教育・保育事業の利用状況別にみると、利用していない層では、「すでに利用しているが、利用回数を増やしたい」と回答した割合が 22.1%と、教育・保育事業を利用している層の 3 倍超となっている。

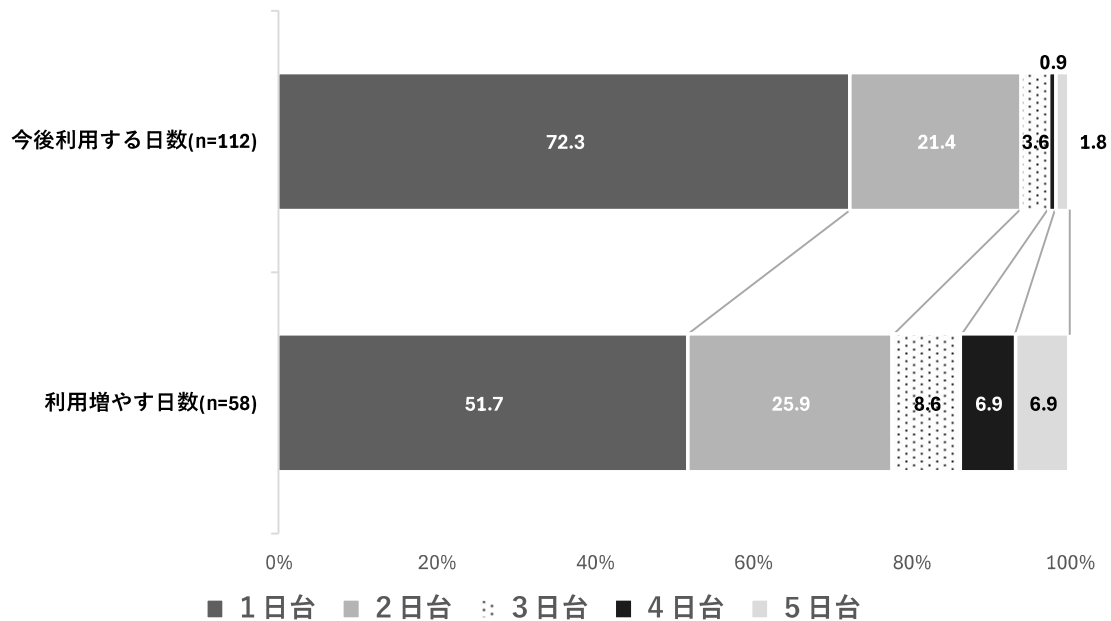
地域子育て支援拠点事業等の今後の利用希望 (教育・保育事業利用の有無別)



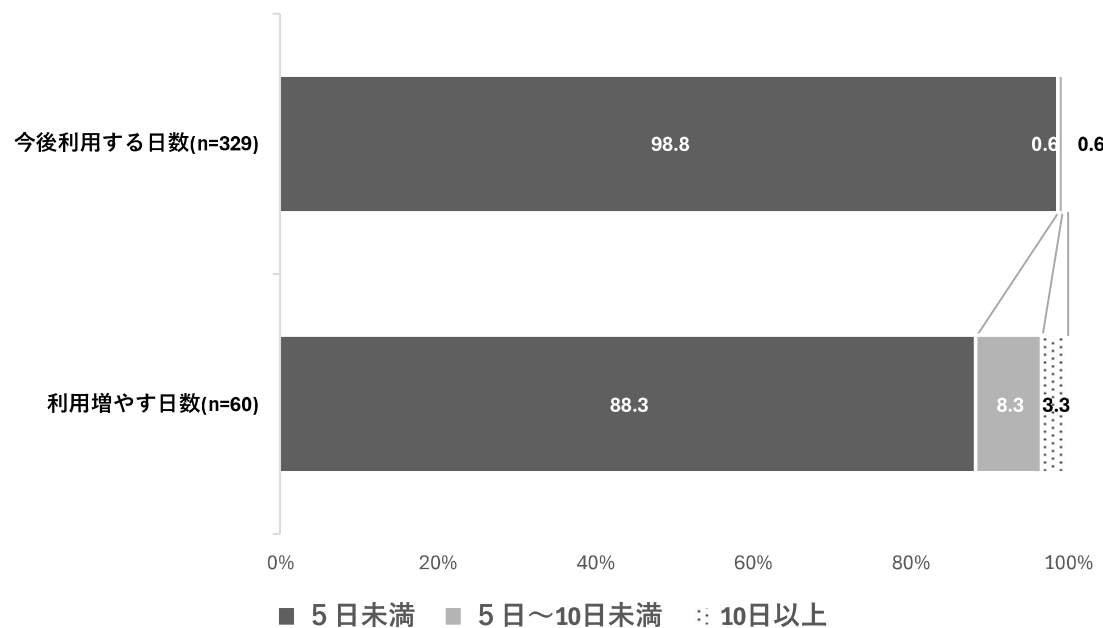
1週間あたり利用希望日数については、現在利用しておらず今後利用したいと回答した人の中では、「1日台」と回答した割合が72.3%となっている。また、すでに利用している人が増やしたい日数に関しても、「1日台」が51.7%と最も高くなっている。

1か月あたり利用希望日数については、現在利用しておらず今後利用したいと回答した人の中では、「5日未満」と回答した割合が98.8%となっている。また、すでに利用している人が増やしたい日数に関しても、「5日未満」が88.3%と最も高くなっている。

地域子育て支援拠点事業等の今後の1週間あたり利用日数



地域子育て支援拠点事業等の今後の1か月あたり利用日数



8 子育て支援

(1) 子育て支援サービスの認知度、利用経験、利用希望

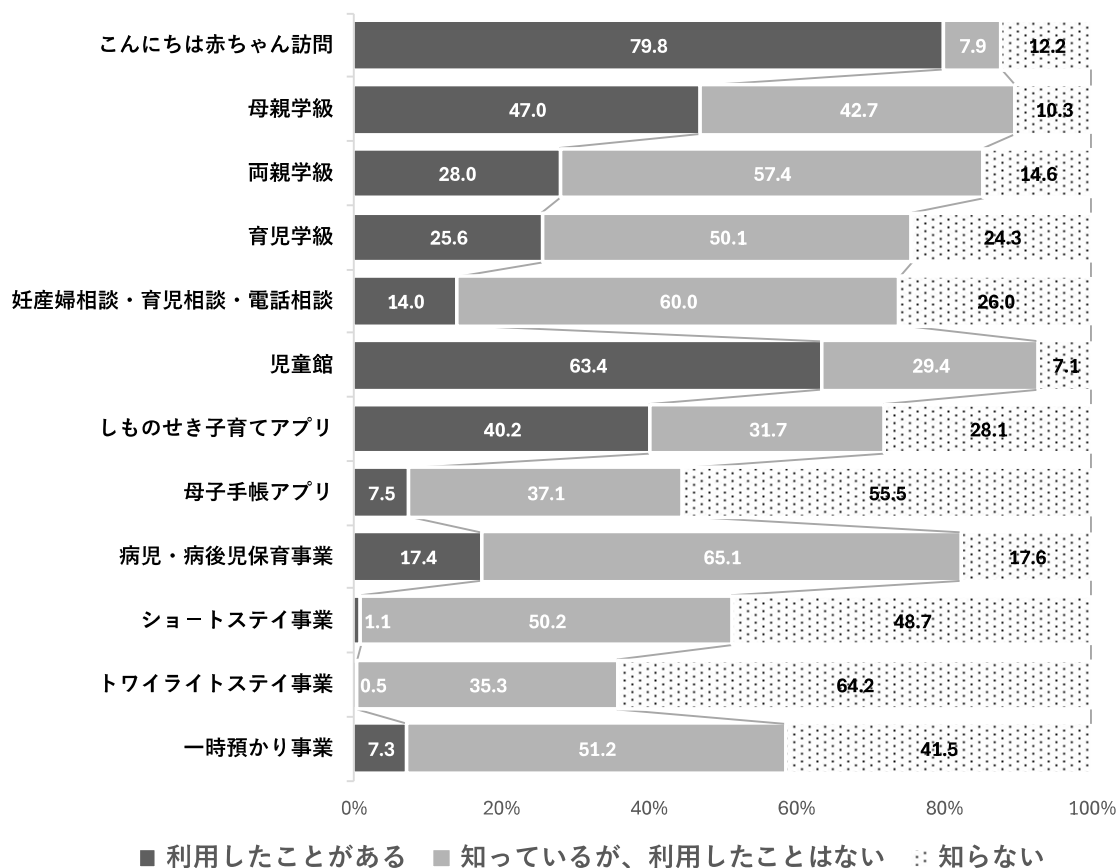
問 24 下記の①から⑫のサービスを知っていたり、これまで利用したことはありますか。【○はサービスごとに1から3の中からそれぞれ1つ】
また、今後利用したいサービスに○をつけてください。

各サービスの認知度、利用経験については、サービスを「利用したことがある」割合は「こんにちは赤ちゃん訪問」、「児童館」、「母親学級」、「しものせき子育てアプリ」が4割以上と高く、特に「こんにちは赤ちゃん訪問」は8割、「児童館」は6割超と過半数が利用している。

「知っているが、利用したことはない」と回答した割合については、「病児・病後児保育事業」、「妊産婦相談・育児相談・電話相談」、「両親学級」「一時預かり事業」「ショートステイ事業」「育児学級」と全12項目中の半分に相当する6項目が5割以上となっている。これらの事業については、保護者等が見守りを行っているため利用の必要がないのか、それとも受け入れのキャパシティが一杯で利用できないのか等、様々な要因が考えられることから、今後さらなる分析が必要と考えられる。

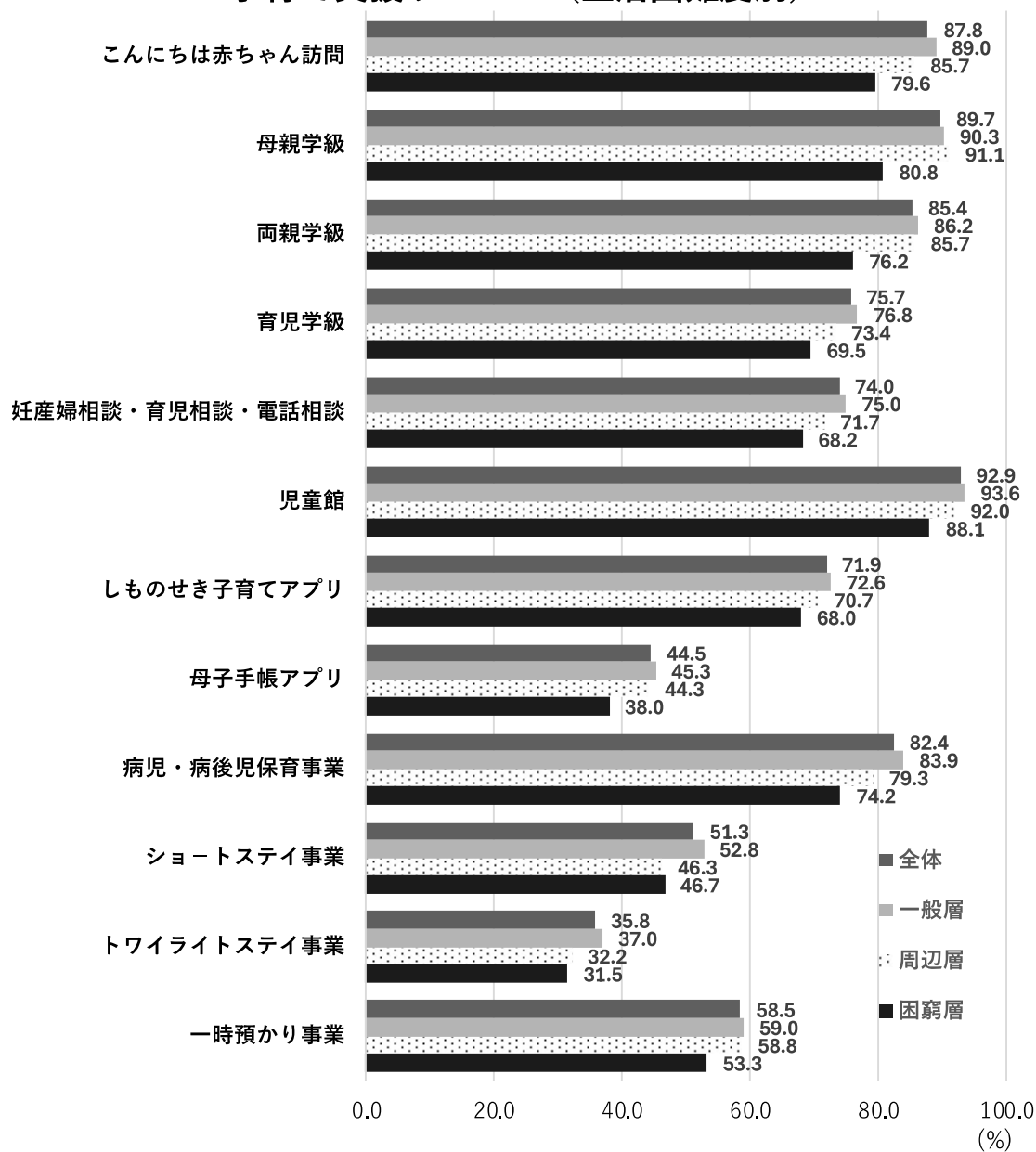
「知らない」と回答した割合が4割超のサービス4種類のうち、「母子手帳アプリ」「一時預かり事業」は「利用したことがある」の回答が7%程度であるのに対し、「ショートステイ事業」「トワイライト事業」は1%程度と乖離が大きいため、「母子手帳アプリ」「一時預かり事業」は周知によって利用者を増やせる可能性がある。

子育て支援サービスの利用経験・認知度



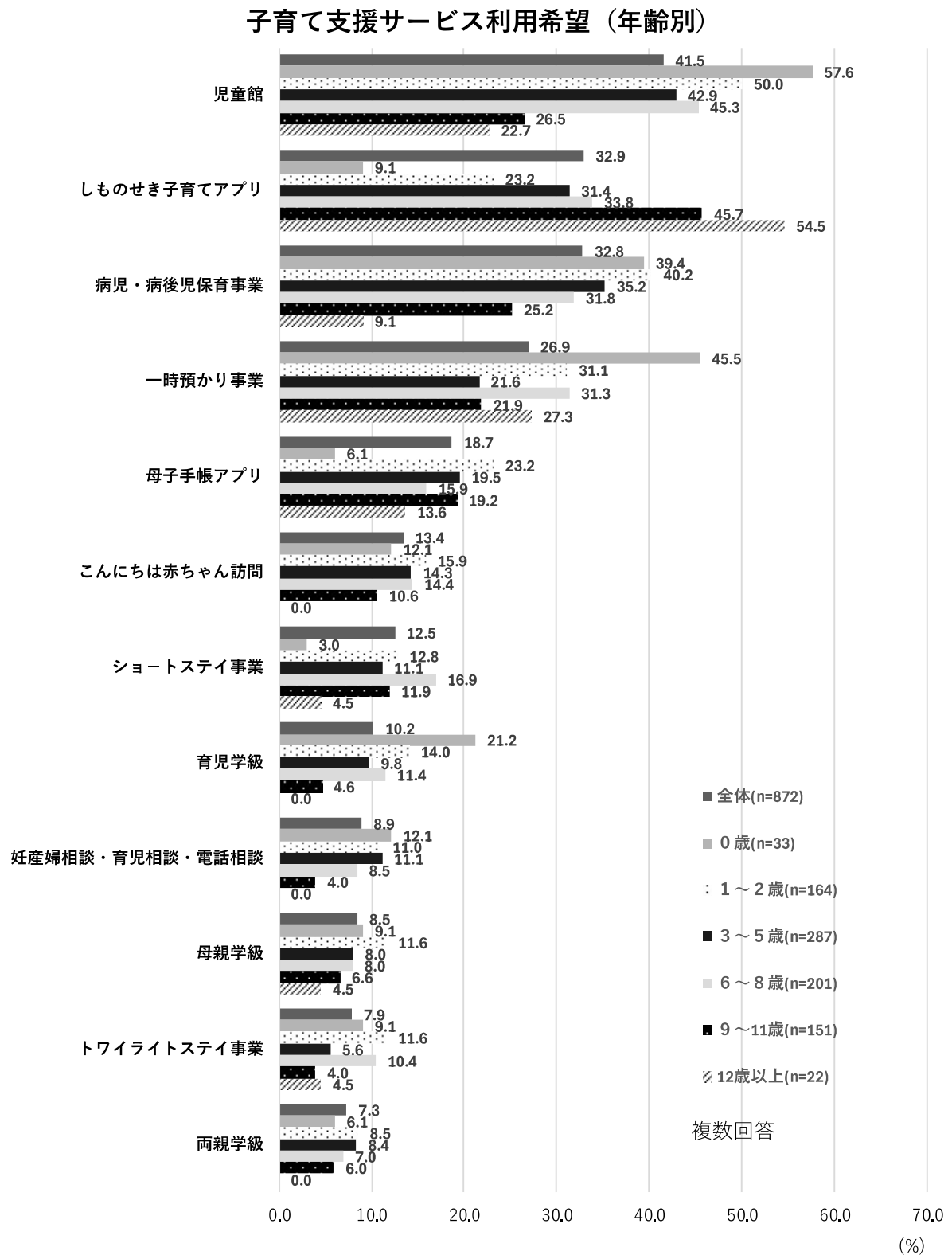
「利用したことがある」もしくは「知っているが、利用したことはない」と回答した子育て支援サービスについて、生活困難層に係る分類でみると、「ショートステイ事業」を除き、困窮層の回答割合が最も低くなっている。

利用経験あり、もしくは知っている 子育て支援サービス（生活困難度別）



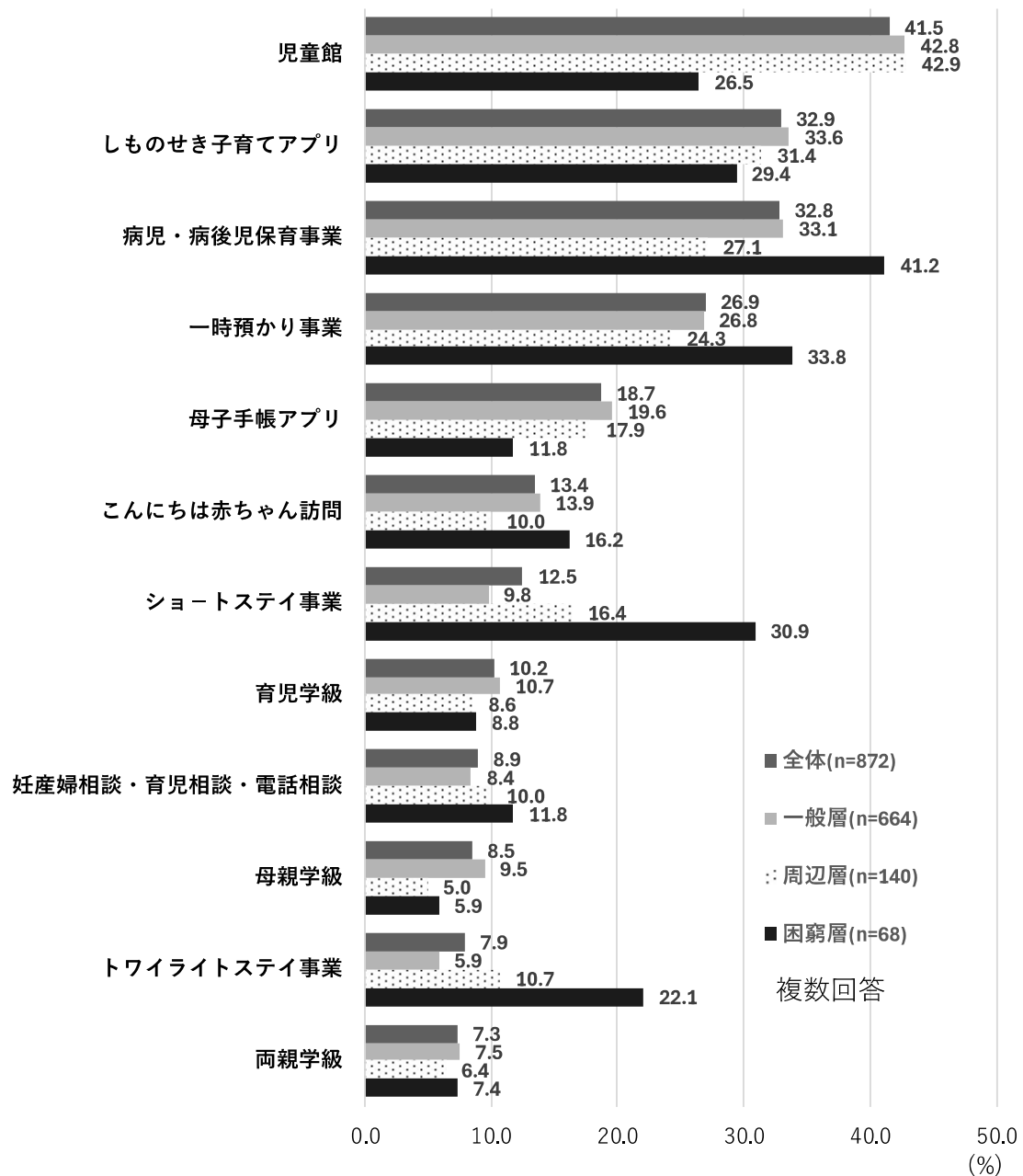
今後利用したいサービスについては、「児童館」と回答した割合が 41.5%と最も高く、次いで「しものせき子育てアプリ」が 32.9%、「病児・病後児保育事業」が 32.8%となっている。

年齢別にみると、「しものせき子育てアプリ」と回答した割合は、年齢が上がるにつれて高くなっている。



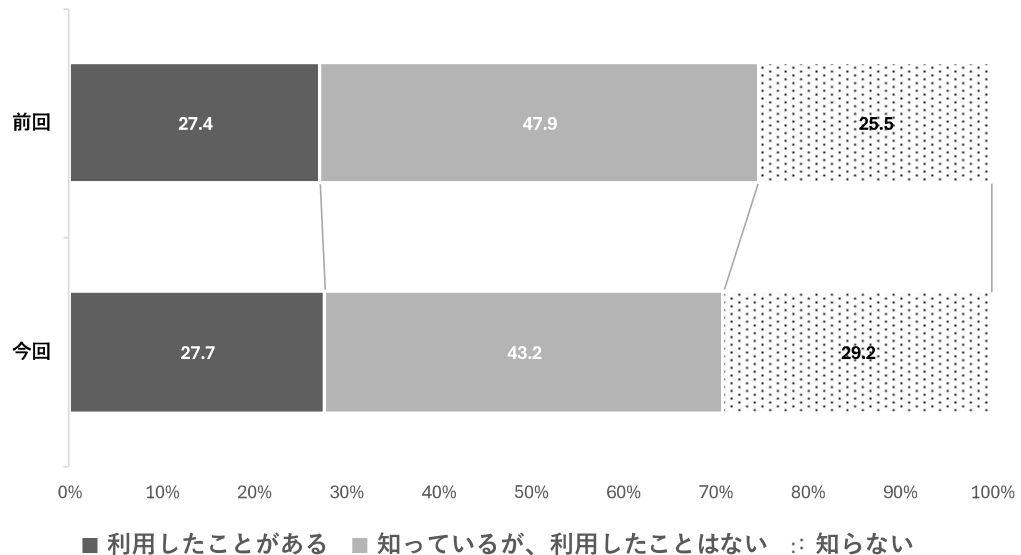
生活困難層に係る分類でみると、困窮層では「病児・病後児保育事業」と回答した割合が41.2%と最も高くなっているほか、「ショートステイ事業」及び「トワイライトステイ事業」に関して、利用希望との割合が他の層を10ポイント超上回っている。

子育て支援サービス利用希望（生活困難度別）



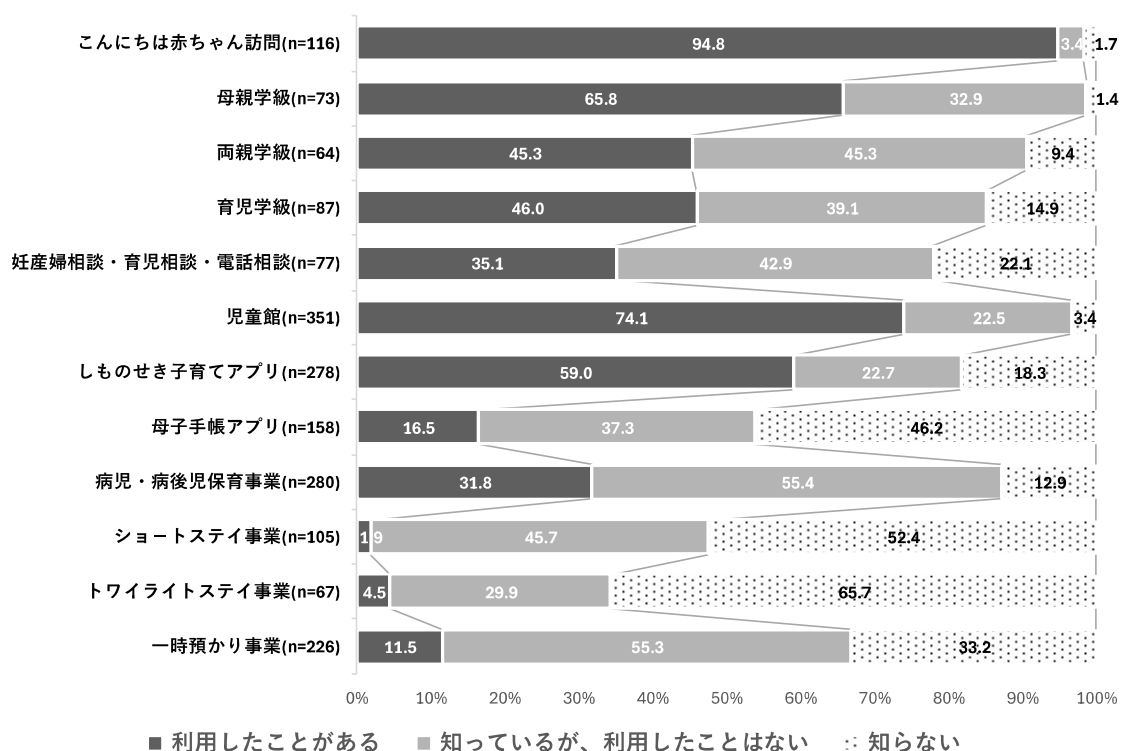
今回の結果を前回調査と比較すると、前回調査における「知らない」の全体平均が 25.5%であったのに対し、今回調査における「知らない」の全体平均が 29.2%であったことから、サービスの認知度向上が課題である。

子育て支援サービスの利用経験・認知度（前回比較）



なお、各サービスの利用希望者における利用経験・認知度をみると、「トワイライトステイ事業」は 60%超、「ショートステイ事業」は 50%超が「知らない」と回答したほか、「母子手帳アプリ」は 40%台、「一時預かり事業」については 30%台が「知らない」と回答している。これらに関しては「利用したいが知らないサービス」として、広報の見直しにより利用者を増やすことが可能と考えられる。

利用希望のある子育て支援サービスの利用経験・認知度



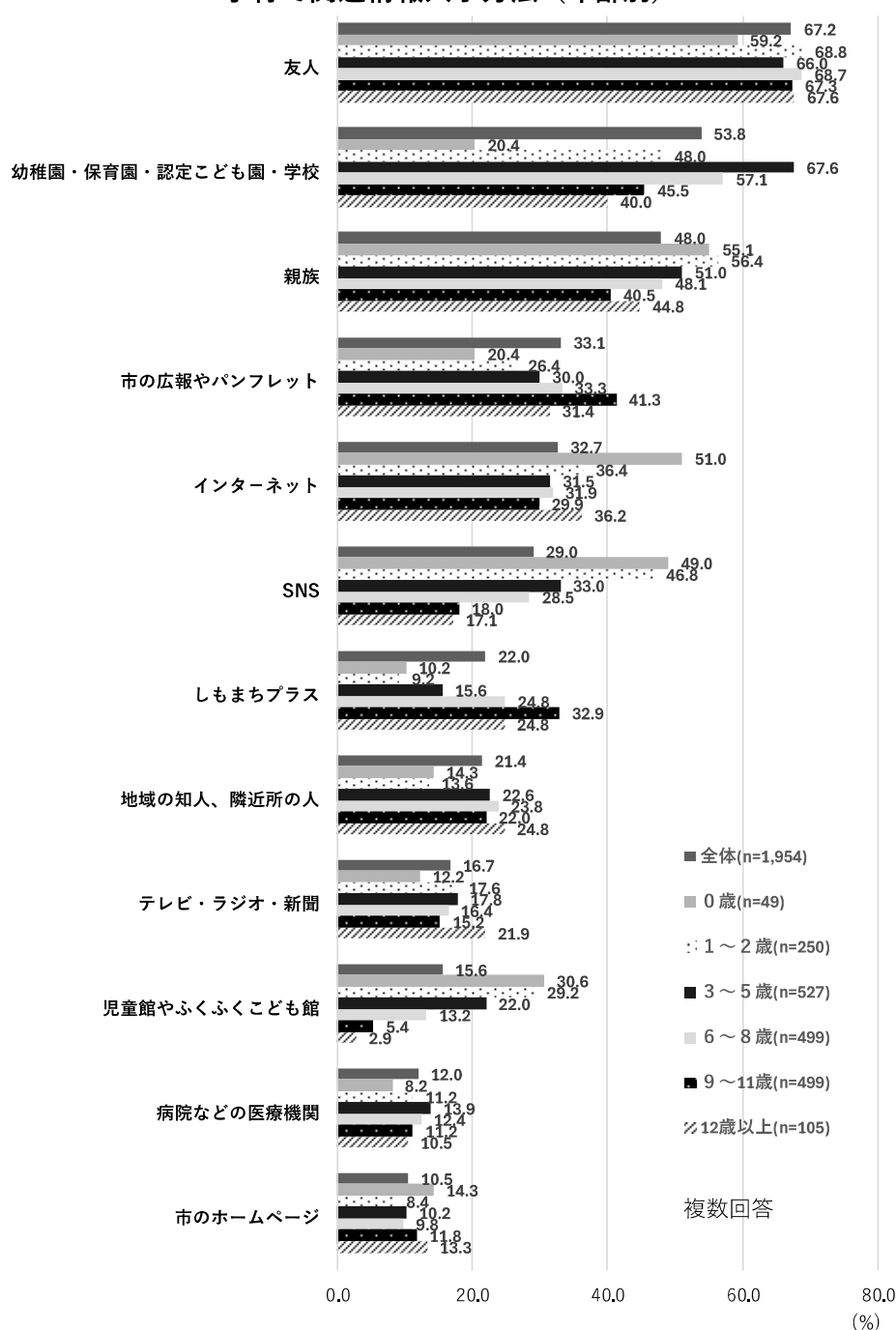
(2) 子育てに関する情報の入手方法

問 25 子育てに関する情報をどのように入手していますか。【あてはまるもの全てに○】

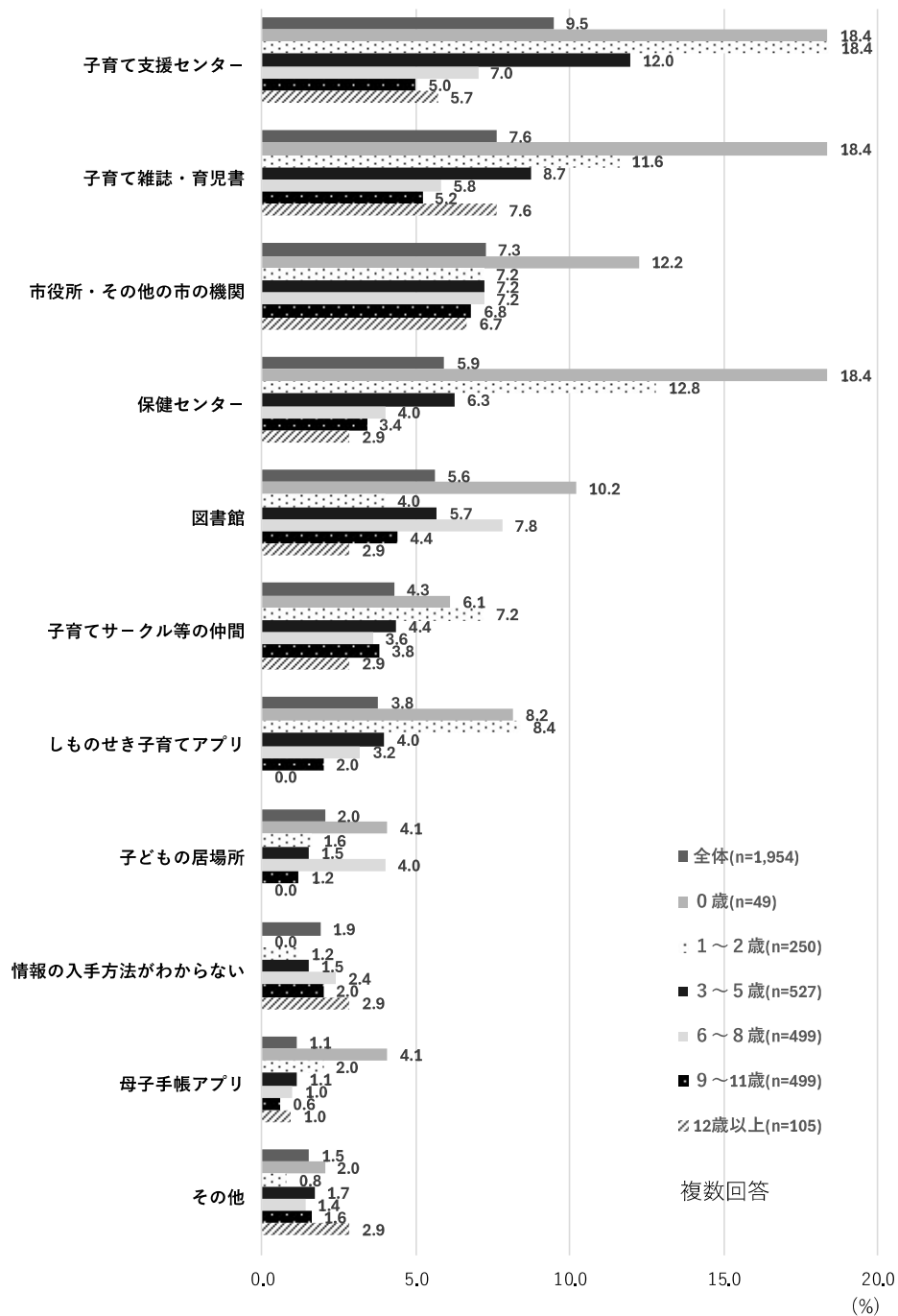
子育てに関する情報の入手先については、「友人」と回答した割合が 67.2%と最も高く、次いで「幼稚園・保育園・こども園・学校」が 53.8%、「親族（親・兄弟姉妹など）」が 48.0%となっている。

年齢別にみると、3～5歳では「幼稚園・保育園・こども園・学校」が 67.6%と最も高くなっているほか、0歳では「インターネット」が 51.0%と他の年齢層を 10 ポイント超上回っており、2歳までの層では「SNS」が 50%近い水準となっている。「しもまちプラス」については、6歳以上の層で回答割合が 20%を超えており、5歳以下よりも高い値となっている。

子育て関連情報入手方法（年齢別）



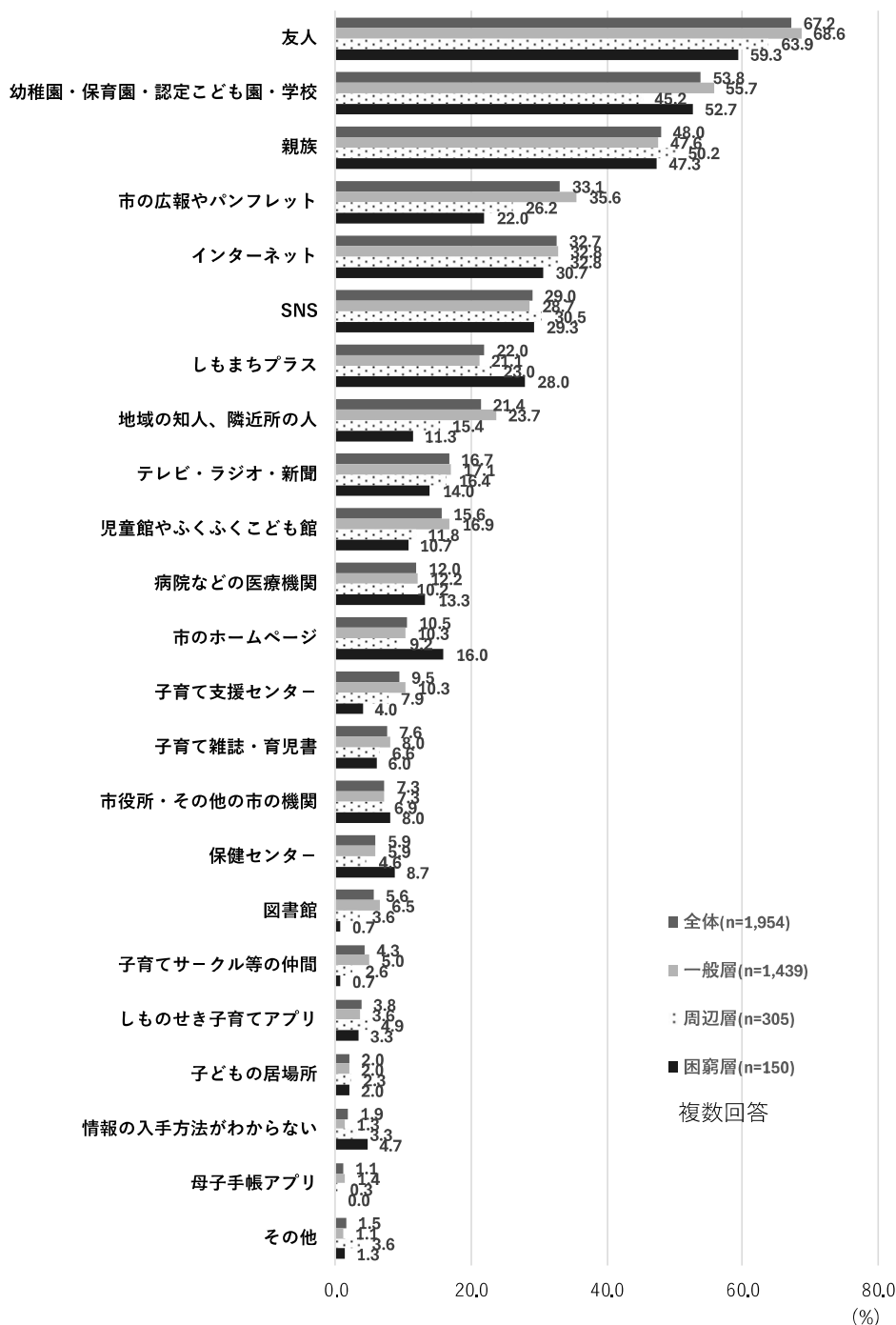
子育て関連情報入手方法（年齢別）



生活困難層に係る分類でみると、さほど大きな差はみられないものの、困窮層では「しもまちプラス」や「市のホームページ」といった下関市からの情報提供を回答した割合が他の層を上回っている一方で、「友人」「地域の知人、隣近所の人」の割合が低く、特に「地域の知人、隣近所の人」は全体平均 21.4%の約半分である 11.3%と低い。また「情報の入手方法がわからない」は 4.7%と全体平均の 1.9%の 2.5 倍程度であることから、地域におけるつながりの弱さが懸念される。

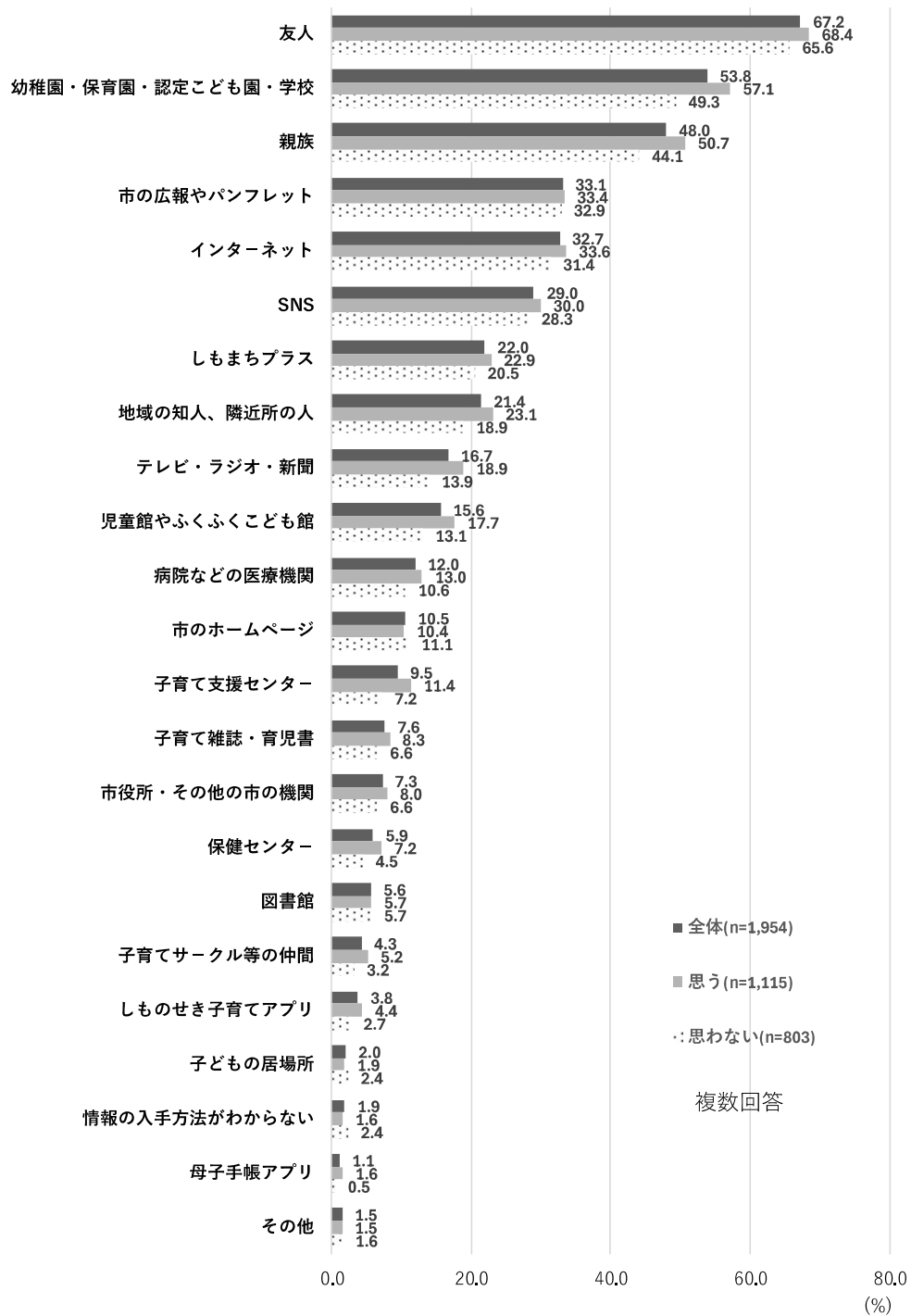
下関市からの情報提供のうち「市の広報やパンフレット」からの情報入手は、困窮層が 22.0%と全体平均 33.1%よりも低くなっている。上記のとおり、困窮層は下関市からの情報提供に積極的であることから、市の広報やパンフレットから情報入手割合が低い要因については、今後の有識者ヒアリング等で分析していく。

子育て関連情報入手方法（生活困難度別）

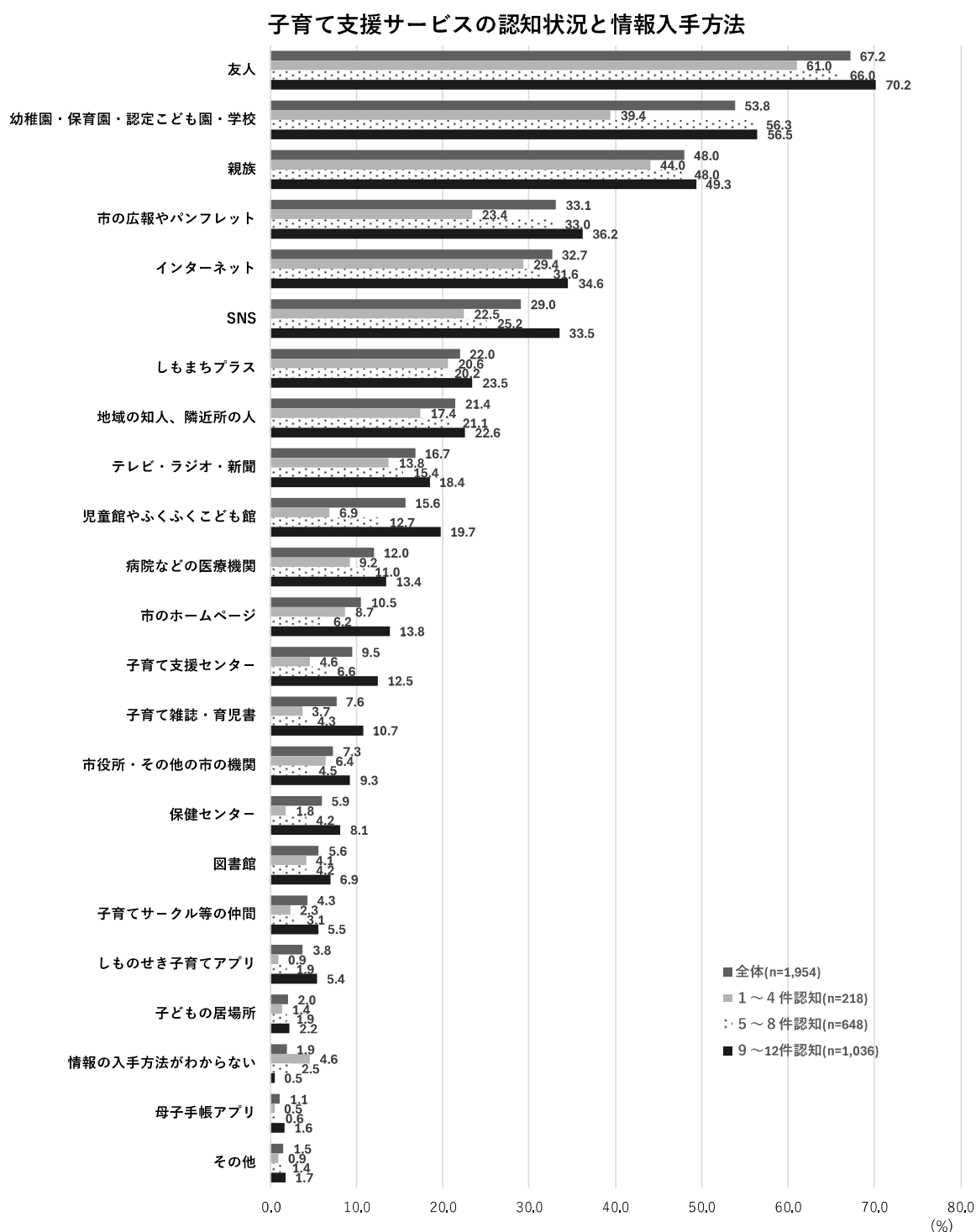


子育てがしやすいまちの評価別（子育てがしやすいまちだと『思う』＜「思う」＋「どちらかというと思う」＞、『思わない』＜「どちらかというと思わない」＋「思わない」＞）にみると、「思わない」という層は「思う」という層と比較して、大半の項目で回答割合が下回っているものの、「市のホームページ」の回答割合は「思う」という層を上回っており、「市の広報やパンフレット」はほぼ同じ水準である。これらの点は、子育てがしやすいと思わない層に対して、行政が子育て層に直接届ける情報伝達手段にとどまらず、様々なツール・ルートで情報を届ける必要性を示すものといえる。

子育て関連情報入手方法（子育てのしやすさ別）

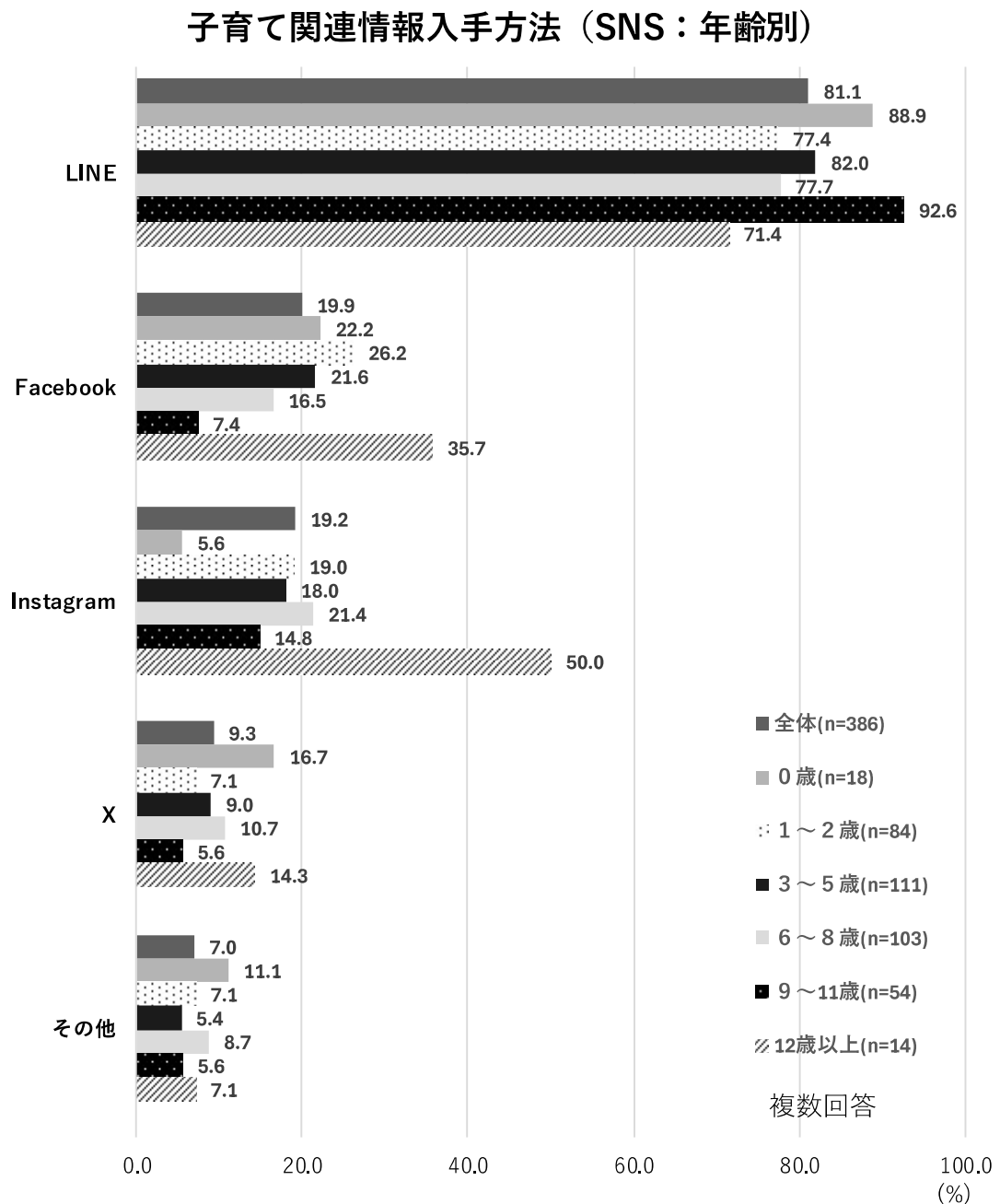


なお、認知している子育て支援サービスの数と情報入手方法を比較してみたところ、「幼稚園・保育園・認定こども園・学校」、「市の広報やパンフレット」、「児童館やふくふくこども館」、「子育て支援センター」、「保健センター」、「しものせき子育てアプリ」に関して、認知件数が少ない保護者の利用割合が、認知件数の多い保護者を大きく下回っているほか、「情報の入手方法がわからない」について、認知件数が少ない保護者の回答割合が大きくなっている。これらを踏まえると、市などの公的主体による、上記のようなツール・ルートを通じたアプローチ強化が、サービスの認知拡大につながるといえる。



「SNS」と回答した人の具体的なツールについては、「LINE」と回答した割合が 81.1%と最も高く、次いで「Facebook」が 19.9%、「Instagram」が 19.2%となっている。

年齢別にみると、9～11歳の92.6%が「LINE」と回答しているほか、12歳以上については回答数（14件）が少ないものの、「Facebook」や「Instagram」の回答割合が他の年齢層を大幅に上回っている。



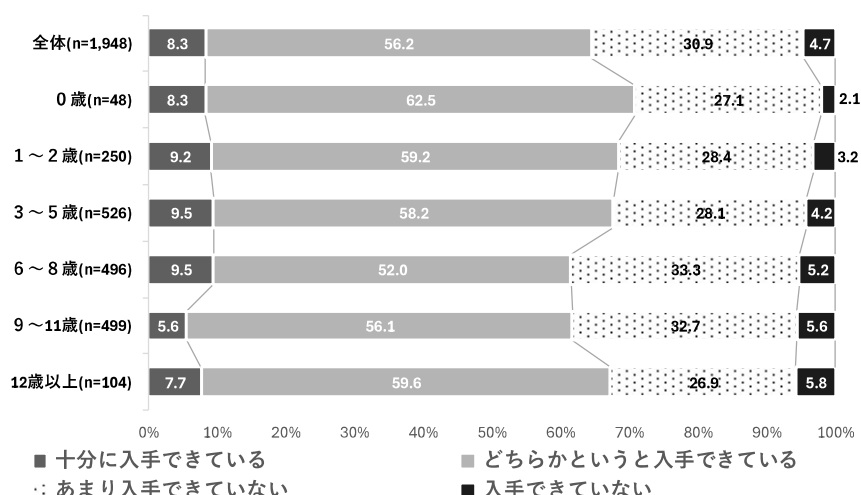
(3) 子育て支援に関する情報の入手状況

問 26 子育て支援に関する情報を十分に得られていると思いますか。【〇は 1 つ】

子育て支援に関する情報の入手状況については、『入手できている』（「十分に入手できている」＋「どちらかという入手できている」）と回答した割合が 64.5%、『入手できていない』（「入手できていない」＋「あまり入手できていない」）と回答した割合が 35.6%となっている。

年齢別にみると、大きな差はみられない。

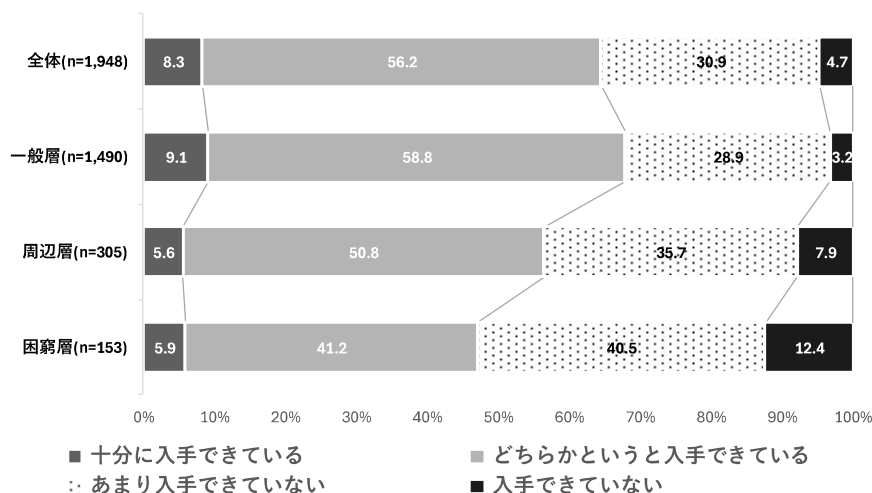
子育て支援に関する情報の入手状況（年齢別）



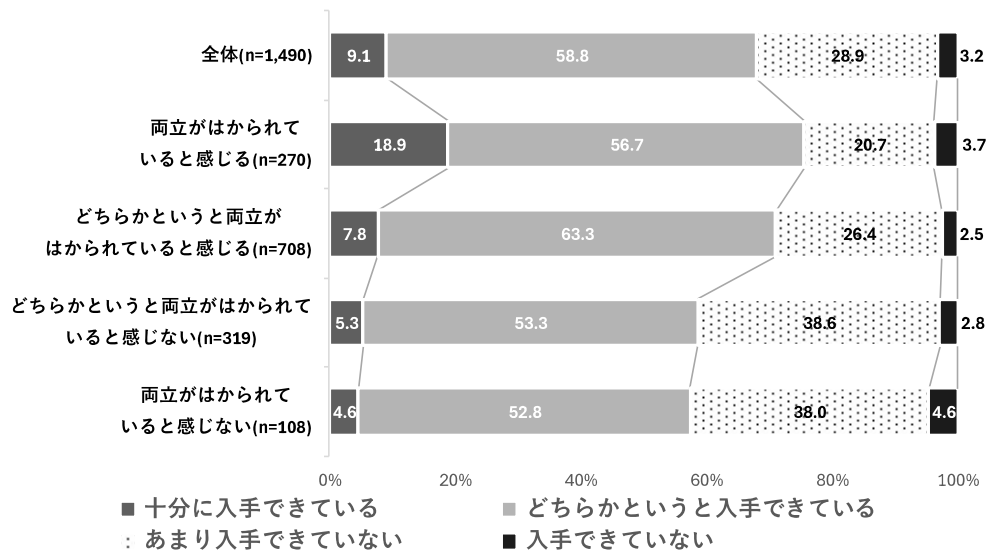
生活困難層に係る分類でみると、困窮層では『入手できていない』と回答した割合が 52.9%に達しているほか、周辺層でもこの割合が 43.6%となっている。

この要因に係る仮説の 1 つとして、仕事の忙しさとの関係を検証するため、仕事と子育ての両立に関する集計結果と組み合わせたところ、困窮層においては、両立がはかられていない保護者における『入手できていない』の割合が他の層よりも大きいほか、両立できていない理由として「仕事の負担が大きい」と回答した保護者をみても、困窮層ほど『入手できていない』の割合が大きくなっている。これらの点は、仕事が忙しい⇒情報が入手できない⇒子育てとの両立ができないという一連の流れを示すものと考えられる。

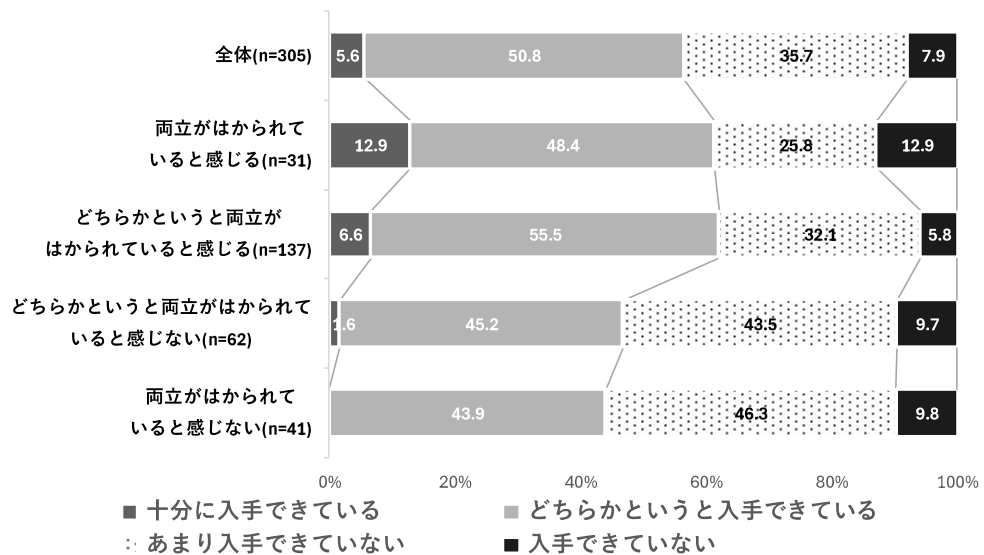
子育て支援に関する情報の入手状況（生活困難度別）



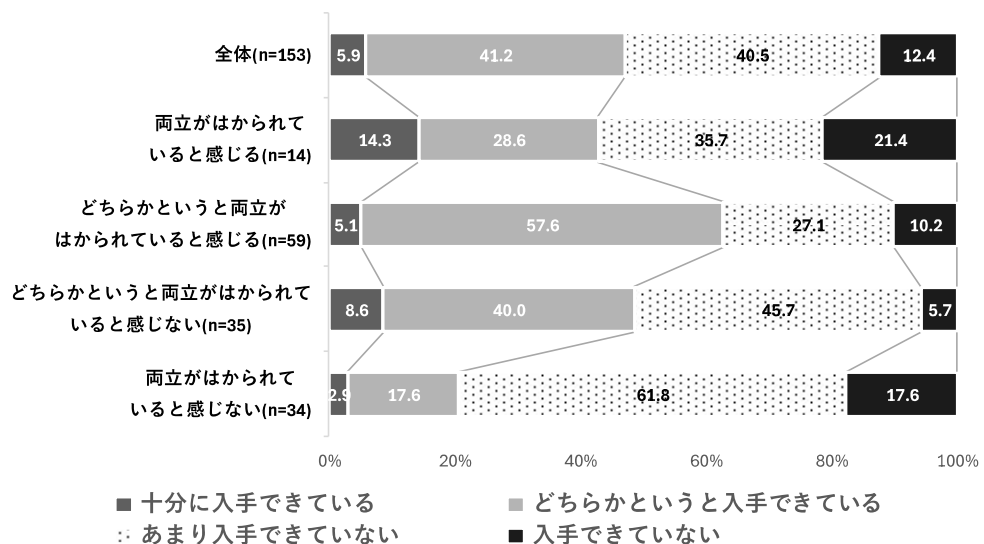
仕事と子育ての両立度合い別情報入手状況（一般層）



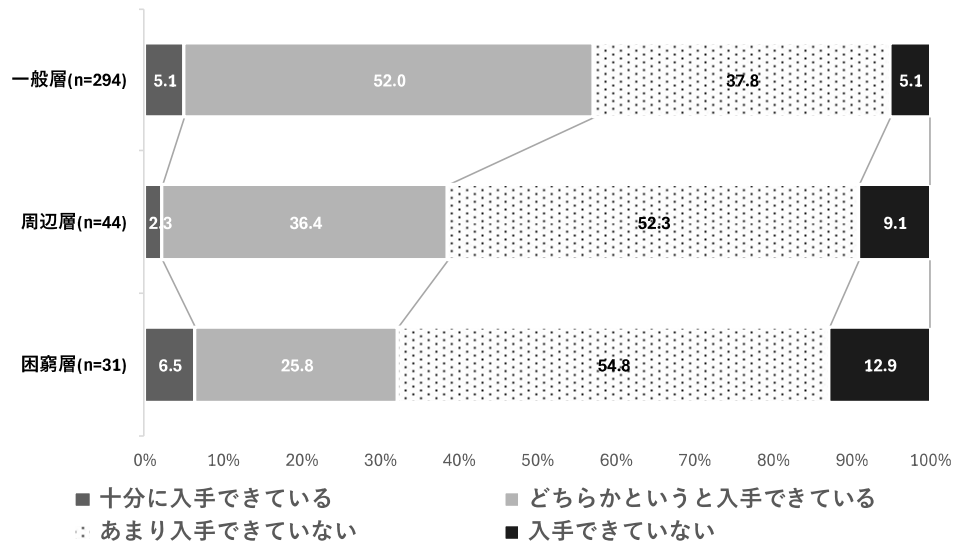
仕事と子育ての両立度合い別情報入手状況（周辺層）



仕事と子育ての両立度合い別情報入手状況（困窮層）

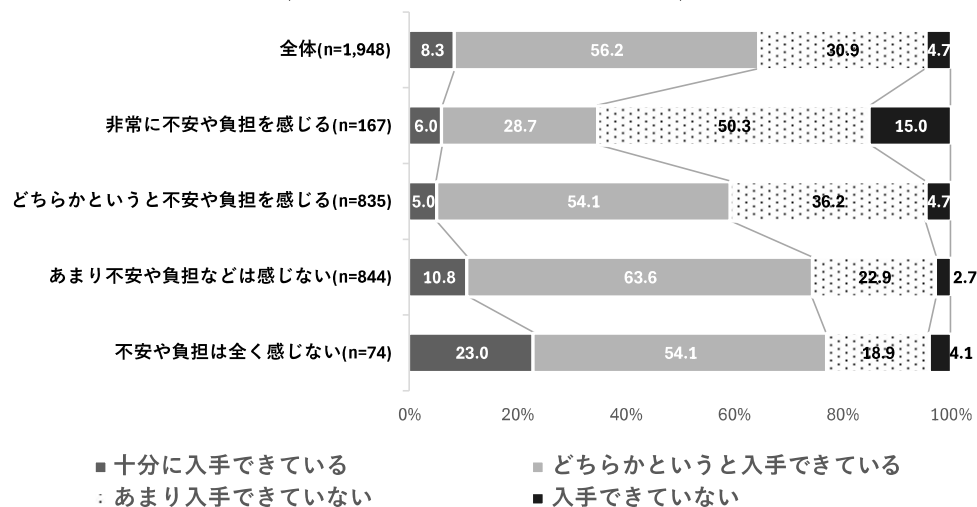


仕事の負担が大きい保護者の情報入手状況（生活困難度別）



一方、子育てに関する不安や負担の程度別にみると、子育てへの不安や負担の程度が大きい層ほど、「子育てに関する情報を入手できていない」の割合が高い。このことから、情報を充実させることが、子育てへの不安や負担を軽減できると判断できる。

子育て支援に関する情報の入手状況 （子育てに関する不安・負担別）



問 26 で「3 あまり入手できていない」または「4 入手できていない」と回答した人のみ回答

問 26-1 どのような情報が不足していると思いますか。【あてはまるもの全てに○】

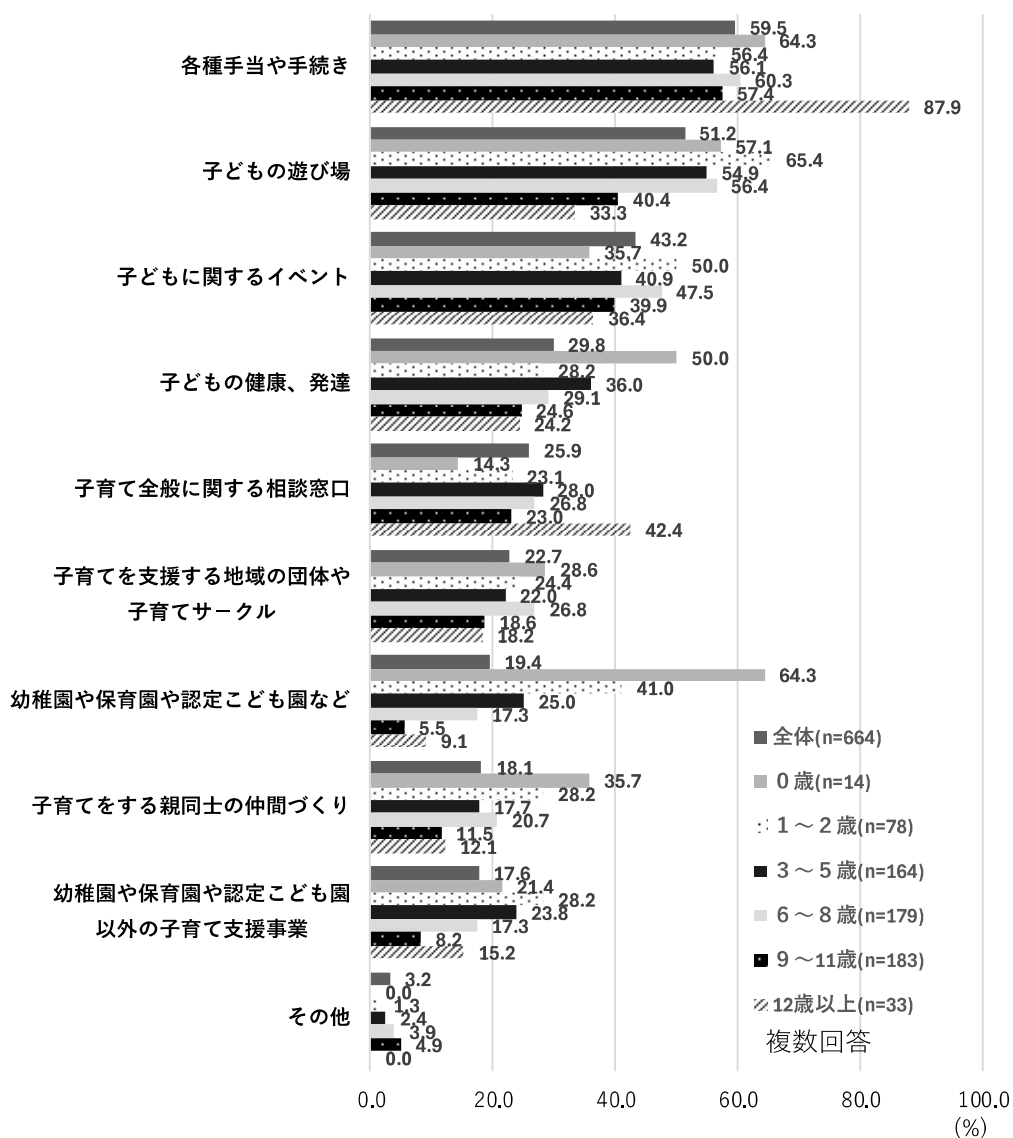
不足していると思う子育て支援に関する情報について、「各種手当や手続きに関する情報」と回答した割合が 59.5%と最も高く、次いで「子どもの遊び場の情報」が 51.2%、「子どもに関するイベントの情報」が 43.2%となっている。

年齢別にみると、年齢間での回答割合のバラツキ度は、支援情報による違いが認められる。その中で、情報不足の回答割合が全体平均と比較して 1.5 倍程度以上高いのは以下の 3 項目である。

- ・「各種手当や手続きに関する情報」12 歳以上 87.9%（全体平均 59.5%）
- ・「幼稚園や保育園や認定こども園などに関する情報」0 歳 64.3%、1～2 歳 41.0%（全体平均 19.4%）
- ・「子育てをする親同士の仲間づくり」0 歳 35.7%（全体平均 18.1%）

年齢別のニーズに応じたきめ細やかな情報伝達手法の使い分けによって、情報不足を抑制できる可能性がある。

不足している子育て支援情報（年齢別）

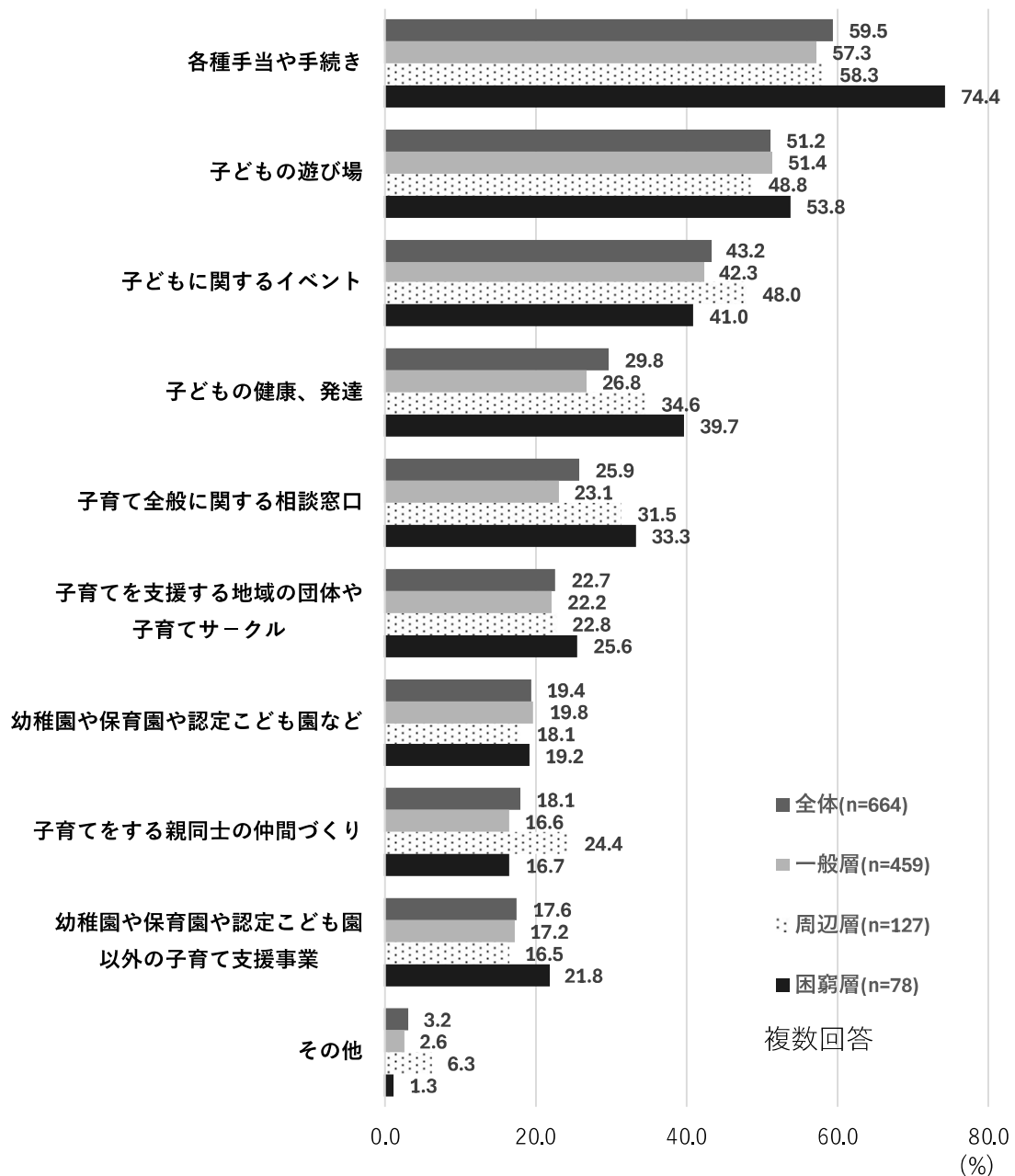


生活困難層と全体の比較における特徴は以下のとおりである。

- ・生活困難層は全体と比較して不足している子育て支援情報の回答割合が高い。特に以下の3項目において顕著である。
 - ◆「各種手当や手続き」困窮層 74.4%全体 59.5%
 - ◆「子どもの健康、発達」困窮層 39.7%全体 29.8%
 - ◆「子育て全般に関する相談窓口」困窮層 33.3%全体 25.9%
- ・不足している支援情報の順番は概ね同一。「幼稚園や保育園の認定こども園以外の子育て支援事業」は全体では9番目の最下位であるのに対して、困窮層では7番目と不足度が高い点のみ異なっている。

こうした点から、困窮層にとっては個別具体的な情報よりも、包括的な情報の不足感が強いと判断できる。

不足している子育て支援情報（生活困難度別）

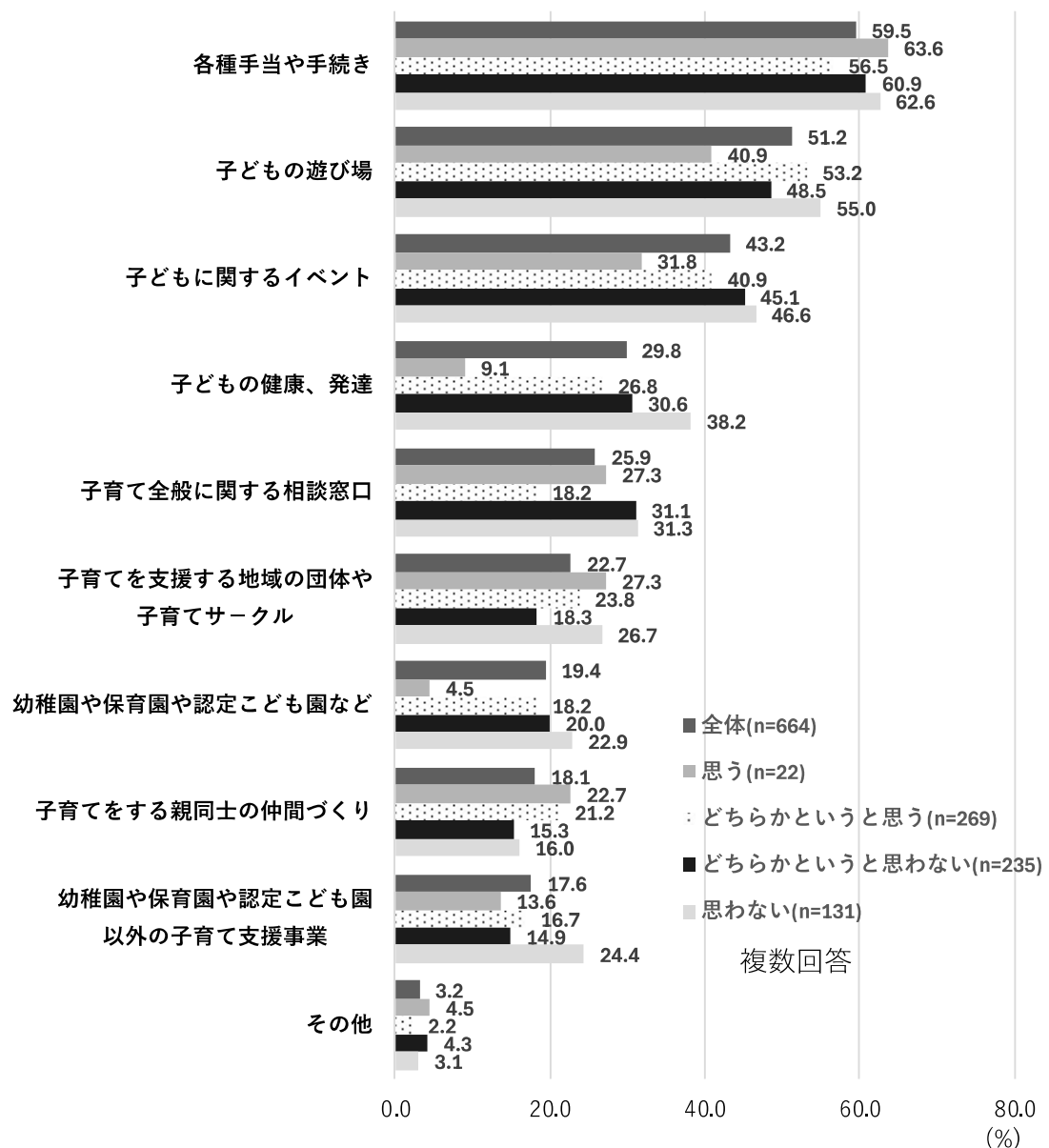


子育てがしやすいまちの評価別にみると、総じて子育てがしやすいまちだと思わない層に近づくほど、情報が不足しているとの回答割合が高い。行政が発信した情報が、子育て対象者に「受け取られているか」を把握し、改善対応を実施することによって、子育てがしやすいまちという理解を深められる可能性がある。

特に子育てがしやすいまちだと思わない層の回答割合が高くなっている「子どもに関するイベント」「子どもの健康、発達」「子育て全般に関する相談窓口」「幼稚園や保育園や認定こども園など」を子育て対象者に届けることが有効と考えられる。

逆に、子育てがしやすいまちだと思わない層の回答割合が低くなっているのは「子育てを支援する地域の団体や子育てサークル」「子育てをする親同士の仲間づくり」という地域における人的ネットワークに関する項目である。この点からは、地域の人を介する情報収集に消極的な姿勢が読み取れることから、SNS等で行政が子育て層に直接的に届ける情報伝達手段の強化によって、子育てがしやすいまちという理解を深められる可能性がある。

不足している子育て支援情報 (下関市の子育てのしやすさ別)



(4) 妊娠中・出産時の支援体制への満足度

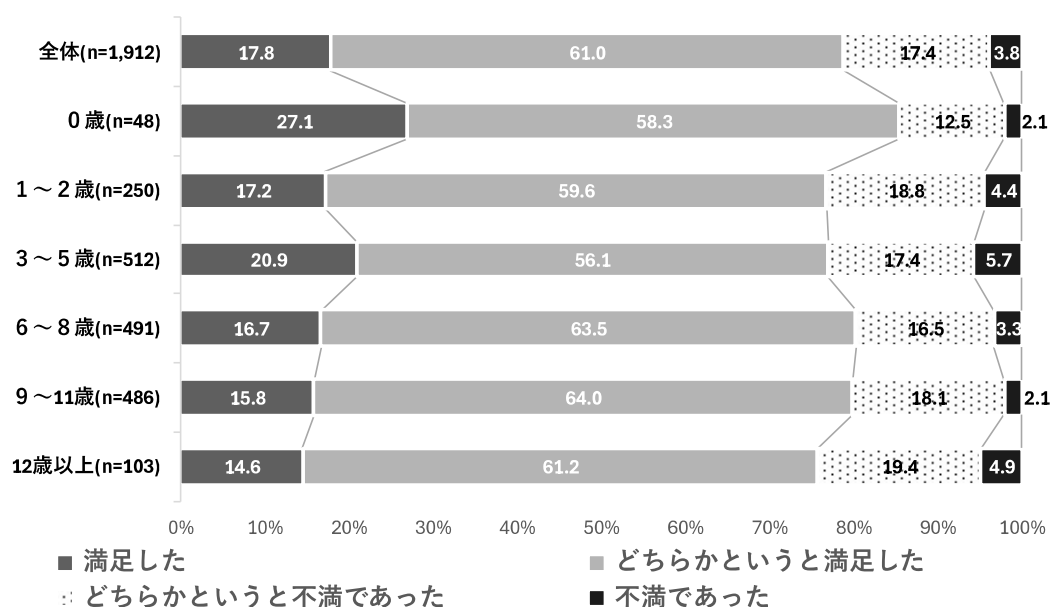
問 27 お母さんは、妊娠中・出産時の支援体制について満足されましたか。【〇は1つ】

妊娠中・出産時の支援体制への満足度については、『満足した』（「満足した」＋「どちらか」というと満足した）と回答した割合が 78.8%、『不満であった』（「不満であった」＋「どちらか」というと不満であった）と回答した割合が 21.2%となっている。

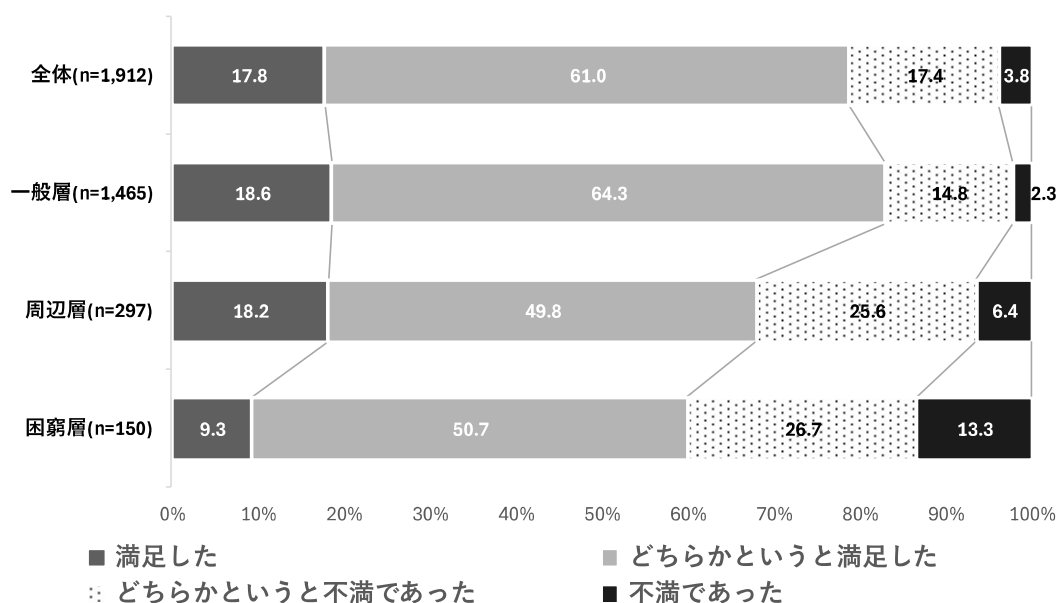
年齢別にみると、大きな差はみられない。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層になるに従って、満足の割合は低く、不満の割合が高くなっている。

妊娠中・出産時の支援体制満足度（年齢別）



妊娠中・出産時の支援体制満足度（生活困難度別）



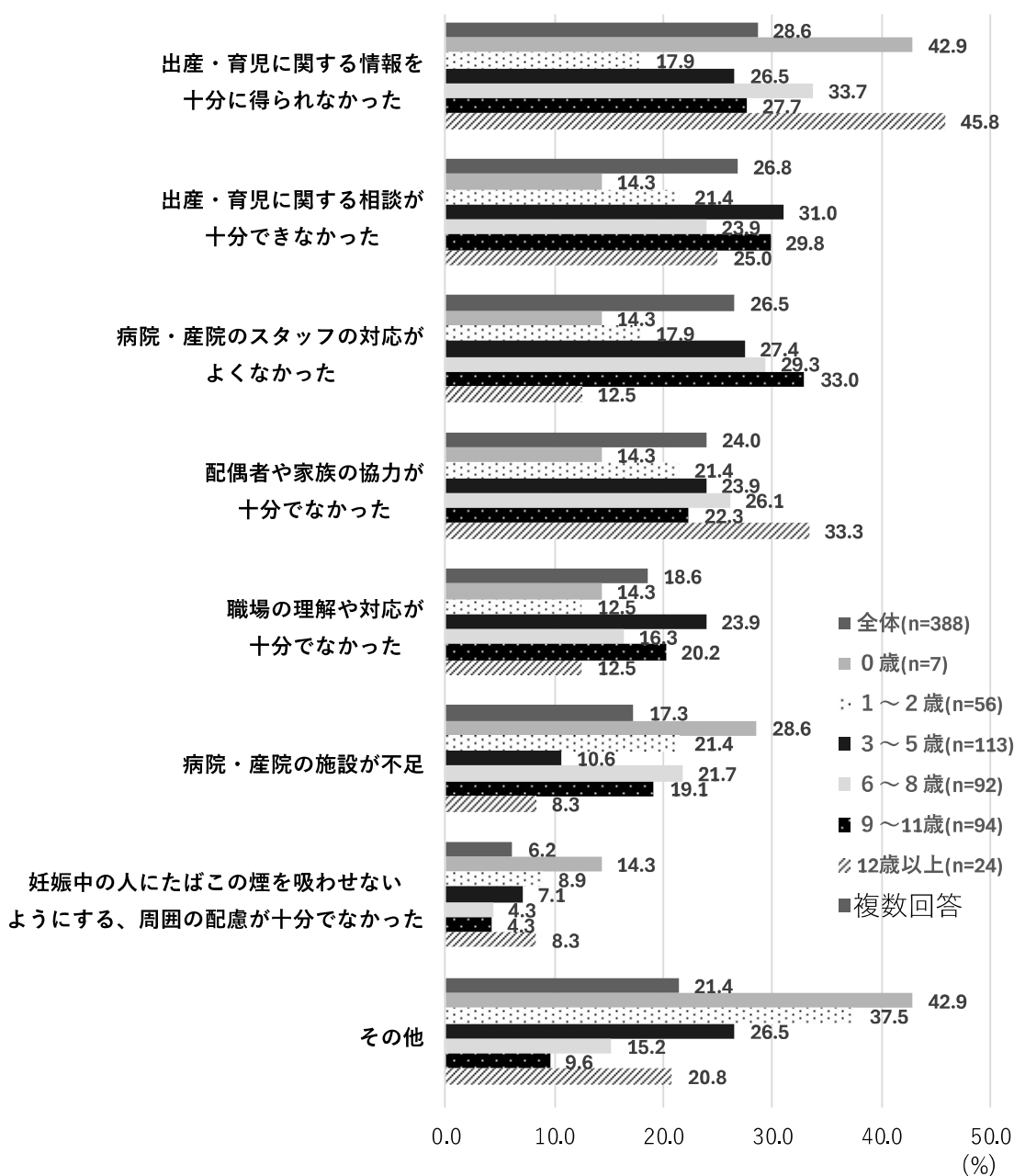
問 27 で「3 どちらかという不満であった」または「4 不満であった」と回答した人のみ回答

問 27-1 どのような点を不満であると感じましたか。【〇は3つまで】

妊娠中・出産時の支援体制に不満を感じる理由については、「出産・育児に関する情報を十分に得られなかった」と回答した割合が 28.6%と最も高く、次いで「出産・育児に関する相談が十分でできなかった」が 26.8%、「病院・産院のスタッフの対応がよくなかった」が 26.5%となっている。

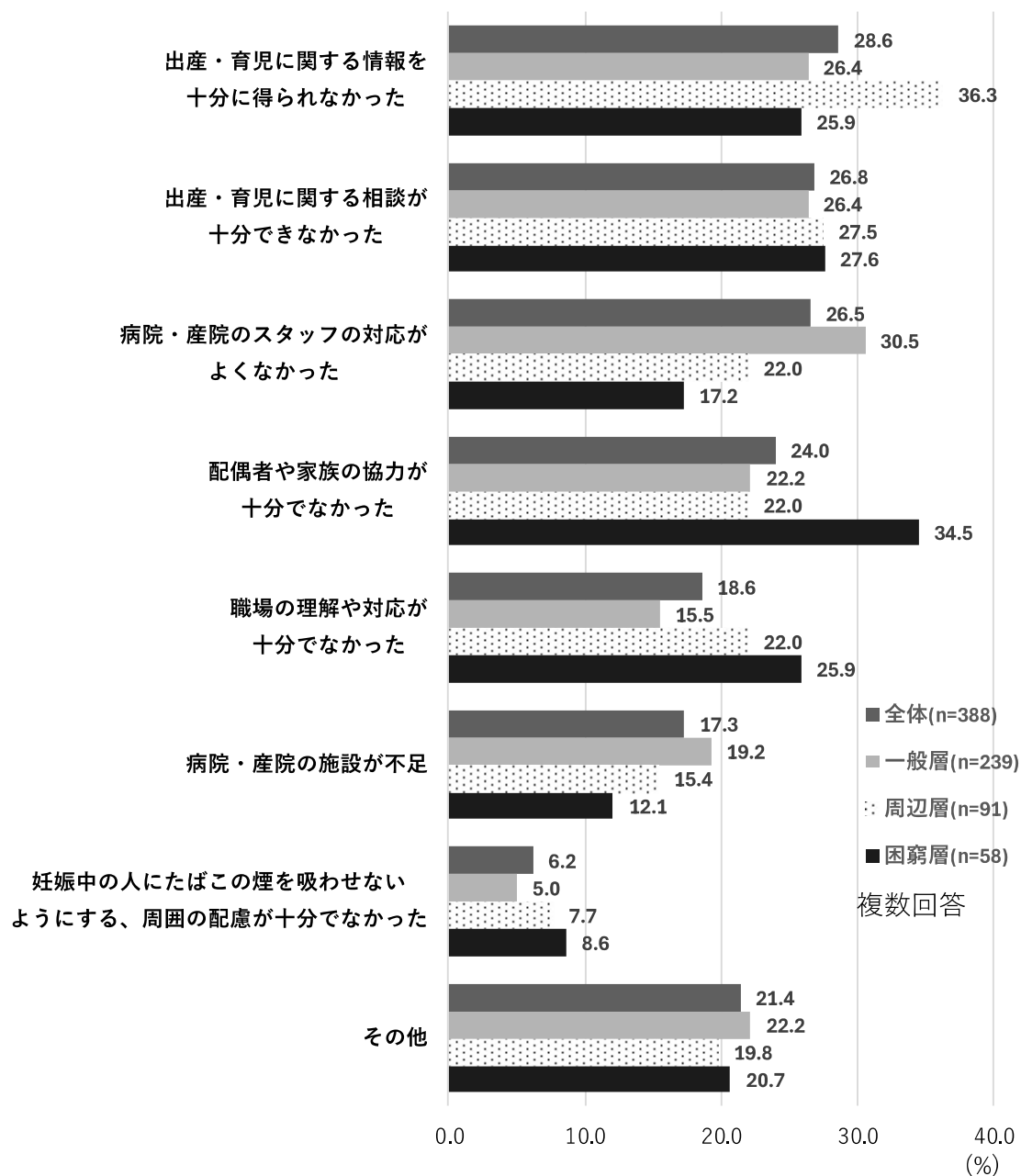
年齢別では「病院・産院のスタッフの対応がよくなかった」のように、年齢が上がるにつれて高くなる項目は限定的である。「出産・育児に関する情報を十分に得られなかった」のように、年齢間で回答率が2倍以上も違う項目も存在している。

妊娠中・出産時の支援体制不満点（年齢別）



生活困難層に係る分類では、困窮層で回答割合が高い項目は「配偶者や家族の協力が十分でなかった」「職場の理解や対応が十分でなかった」であるのに対して、回答割合が低い項目は「病院・産院のスタッフの対応が良くなかった」「病院・産院の情報が不足」であることから、困窮層は病院・産院のように目的が特定され、時間も限定的な関係者よりも、家族・職場のような日常的に接点を有する関係者に対する不満が大きいと判断できる。

妊娠中・出産時の支援体制不満点（生活困難度別）



(5) 小児救急医療体制への満足度

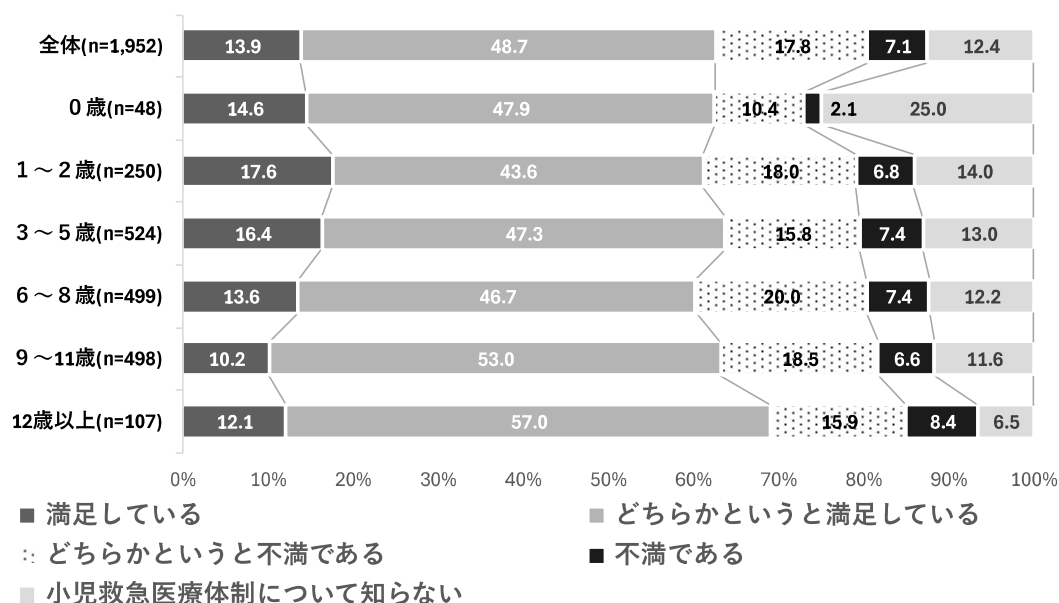
問 28 あなたは、小児救急医療体制に満足していますか。【○は1つ】

小児救急医療体制への満足度については、『満足している』（「満足している」＋「どちらか」と満足している）と回答した割合が 62.6%と、『不満である』（「不満である」＋「どちらか」と不満である）と回答した割合 24.9%の2倍以上を占めている。

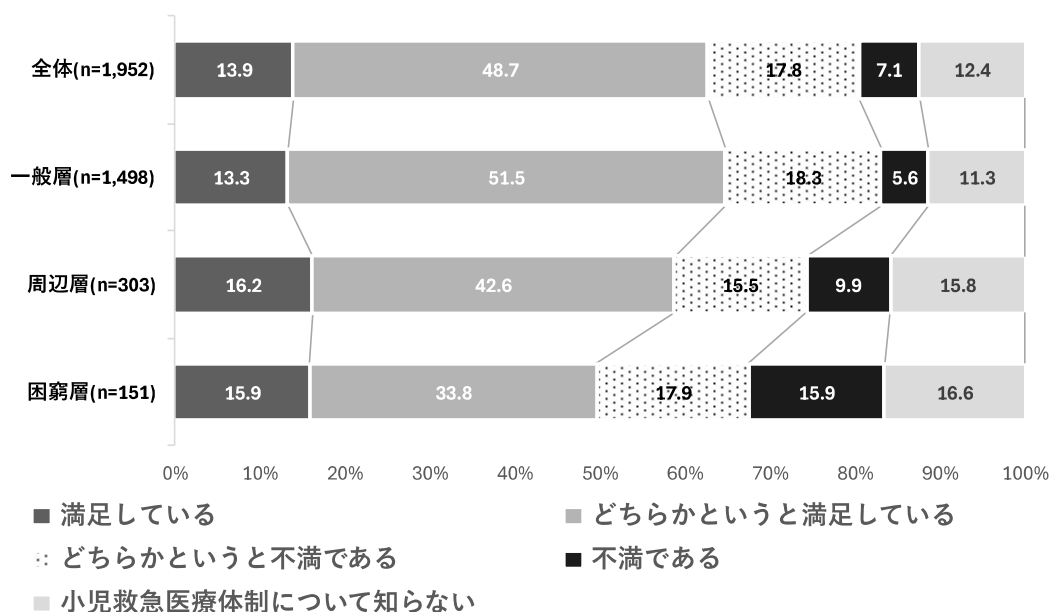
年齢別にみると、0歳で「小児救急医療体制について知らない」の回答割合が 25.0%と全体平均 12.4%の約2倍となっているのは、出産から間もないことから産院との関係性が継続しているためと考えられる。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層では『不満である』と回答した割合が 33.8%と、他の層を10ポイント近く上回っている。

小児救急医療体制満足度（年齢別）



小児救急医療体制満足度（生活困難度別）



(6) 子育てに関する不安・負担感

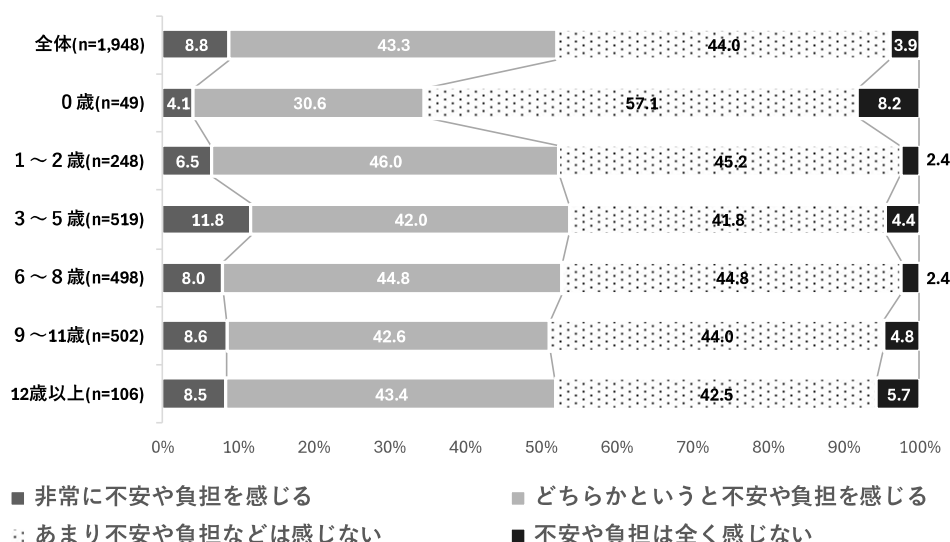
問 29 子育てに関して不安や負担を感じることがありますか。【〇は1つ】

子育てに関する不安・負担感については、『不安や負担を感じる』（「非常に不安や負担を感じる」＋「どちらかという不安や負担を感じる」）と回答した割合が 52.1%、『不安や負担は感じない』（「あまり不安や負担などは感じない」＋「不安や負担は全く感じない」）と回答した割合が 47.9%とほぼ同程度になっている。

子育てのしやすさ（200 ページ）と比較すると、子育てがしやすいまちだと『思わない』割合が 41.9%と、上記の『不安や負担を感じる』を 6 ポイント下回っており、不安・不安はあるものの、子育てはしやすいと考えている保護者の存在が示されている。

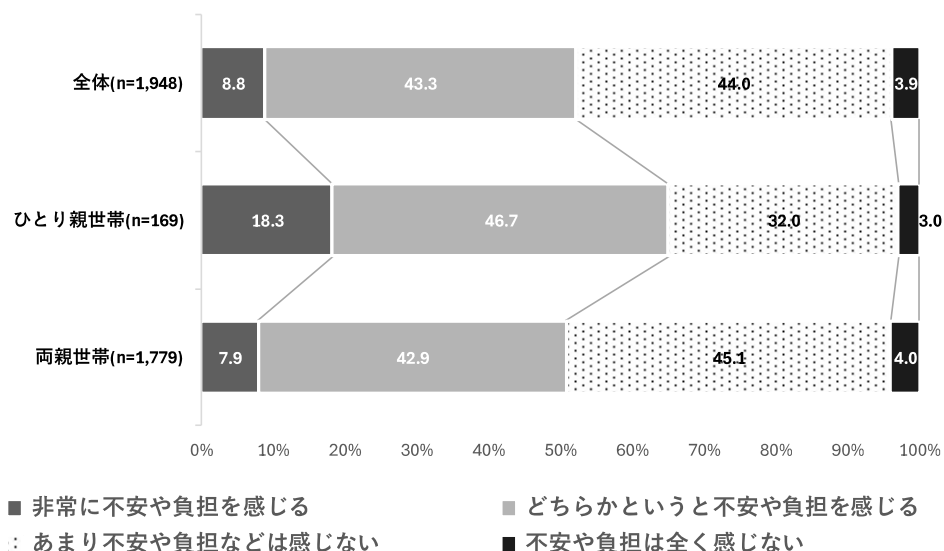
年齢別にみると、『不安や負担を感じる』の割合は0歳のみが4割未満であり、1歳以上の全層が5割程度となっている。

子育てに関する不安・負担（年齢別）

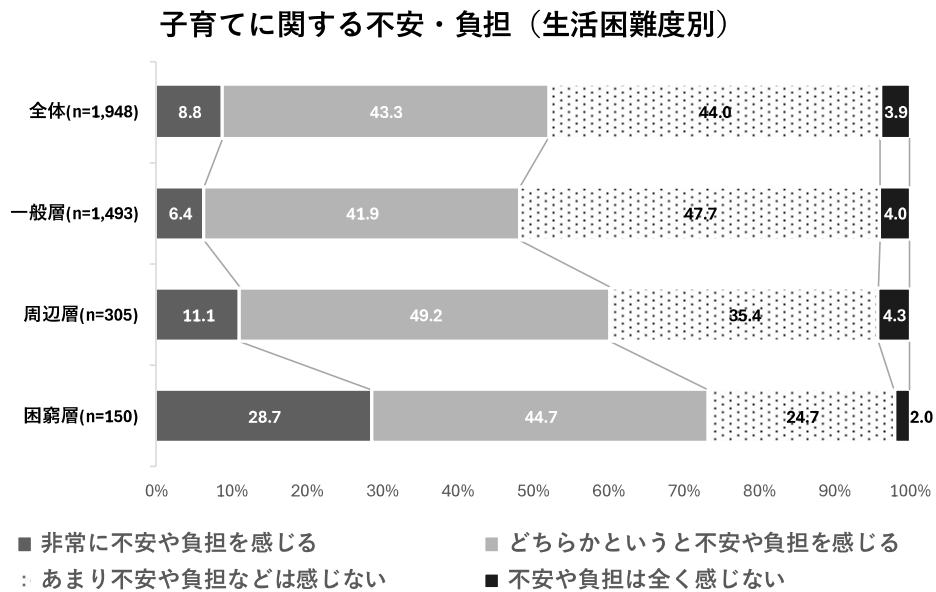


世帯の状況別にみると、ひとり親世帯で『不安や負担を感じる』と回答した割合が 65.0%と、両親世帯の 50.8%より 15 ポイント程度高くなっている。

子育てに関する不安・負担（世帯の状況別）

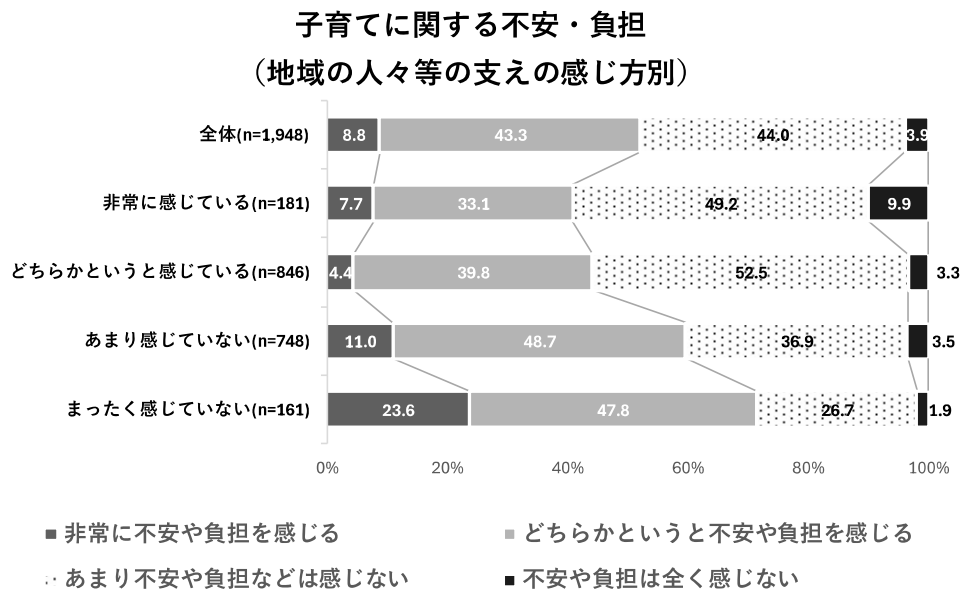


生活困難層に係る分類でみると、生活困難度の高まりに応じて、『不安や負担を感じる』の回答割合が高くなっており、困窮層では73.4%に達している。



地域の人々や社会全体の支えの感じ方別にみると、支えを感じていない度合の高まりに応じて、『不安や負担を感じる』の回答割合が高くなっており、「まったく感じていない」という層では71.4%となっている。

即ち、「生活の困難さ」「地域の人々や社会全体の支えの感じられなさ」「子育てに関する不安・負担の大きさ」の3項目に正比例の関係性が認められることから、当該3項目を有機的に連携させた対応が相乗効果をもたらすと考えられる。



(7) 子育ての悩み

問 30 子育てに関して、日頃、悩んでいること、気になることはどのようなことですか。【あてはまるもの全てに○】

子育ての悩みについては、「子どもの健康や発育・発達に関すること」と回答した割合が 40.8%と最も高く、次いで「子育てに必要な経済的負担が大きいこと」が 40.3%、「子どもの性格や癖のこと」が 39.9%となっている。

こうした悩みに関しては、年齢や世帯の状況、生活状況のほか、子育てへの不安の度合い等によって違いがみられるものと思われることから、今回、年齢別・世帯の状況別・生活困難度別・子育てに関する不安や負担の程度別・子育てがしやすいまちの評価別の 5 項目で分析を行った。

年齢別の結果をみると、「子どもの食事や栄養に関すること」は 0 歳でトップ、1～2 歳で 2 位となっており、乳幼児期の成長に向けて、食事や栄養に関して悩みを抱えている保護者の多さが窺える。

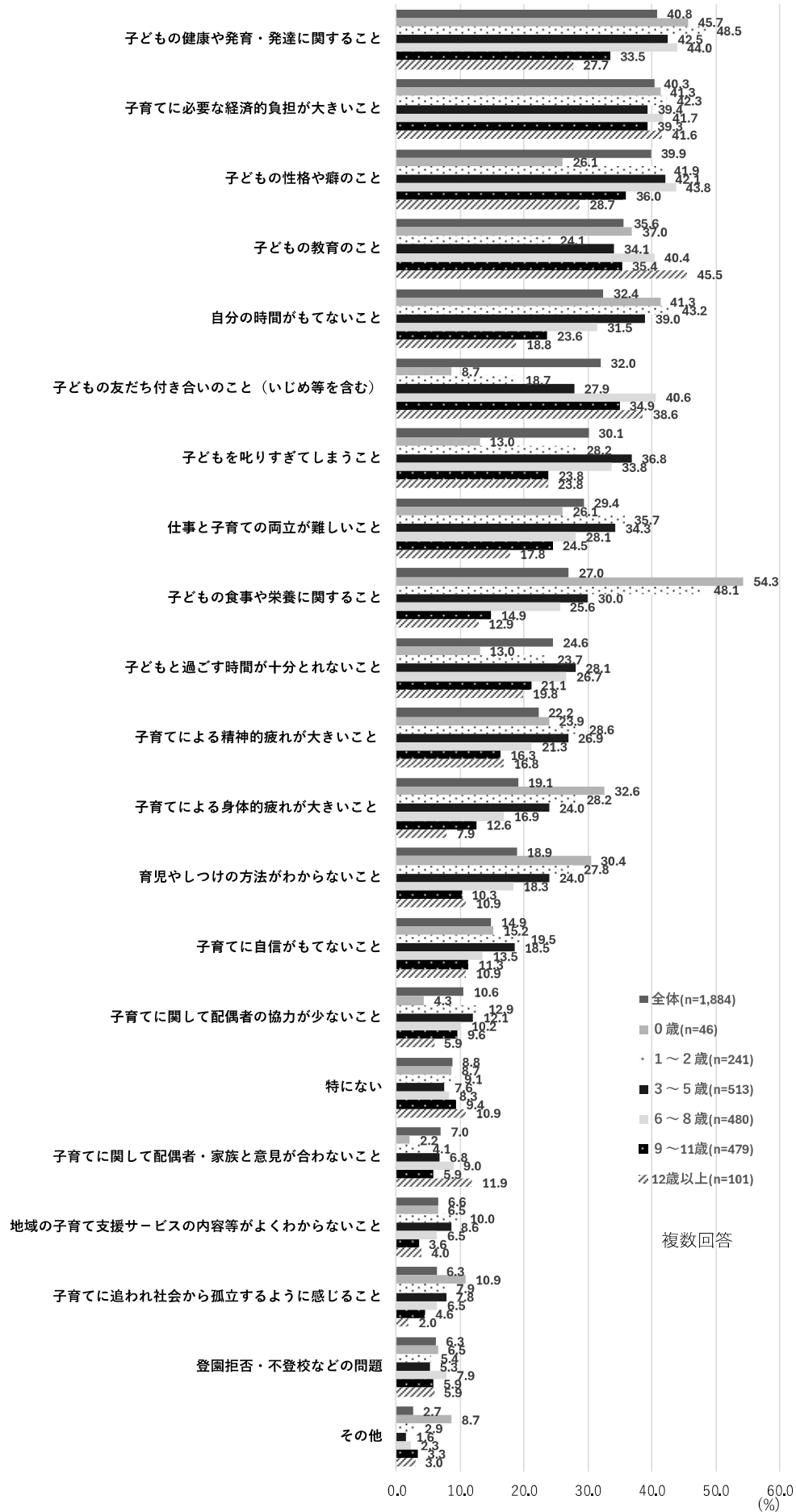
世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では「子どもと過ごす時間が十分にとれない」が 3 位となっており、子どもと接する時間の少なさによる成長や学習等への影響が懸念される。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層では全体として、他の層よりも回答割合が高くなっており、中でも「子育てに必要な経済的負担が大きいこと」と回答した割合は 73.6%に達しているものの、回答順については他の層と大きな違いはみられない。

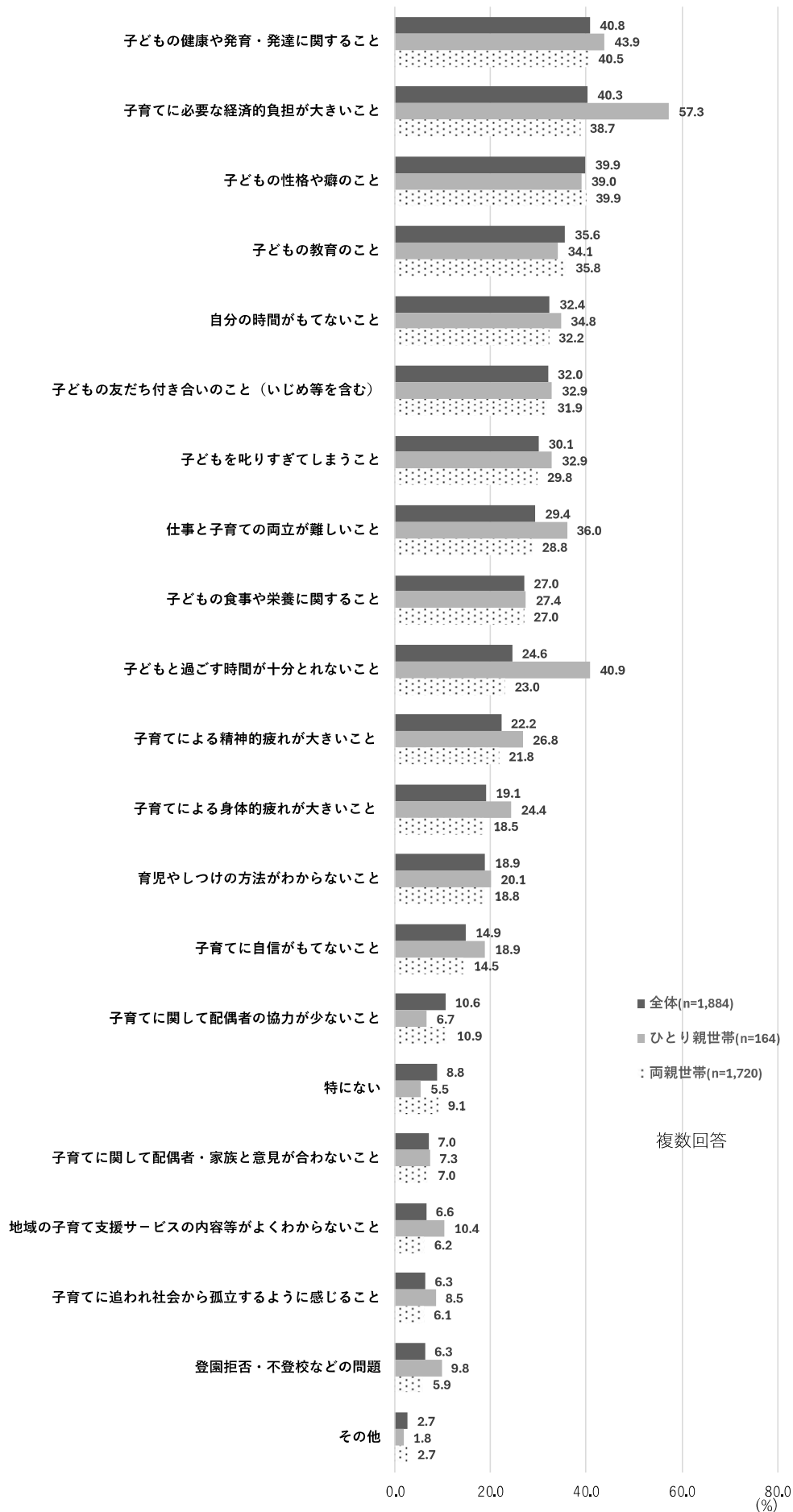
子育てに関する不安や負担の程度別にみると、「非常に不安や負担を感じる」と回答した保護者では「子育てによる精神的疲れが大きいこと」が 3 位となっており、メンタル面が不安・負担の大きな要素となっていることが示されている。

子育てがしやすいまちの評価別にみると、子育てがしやすいまちだと思う層で「子どもの食事や栄養に関すること」が 3 位となっており、下関市の子育て環境を高評価する保護者においても、食事や栄養面が課題となっていることが窺える。

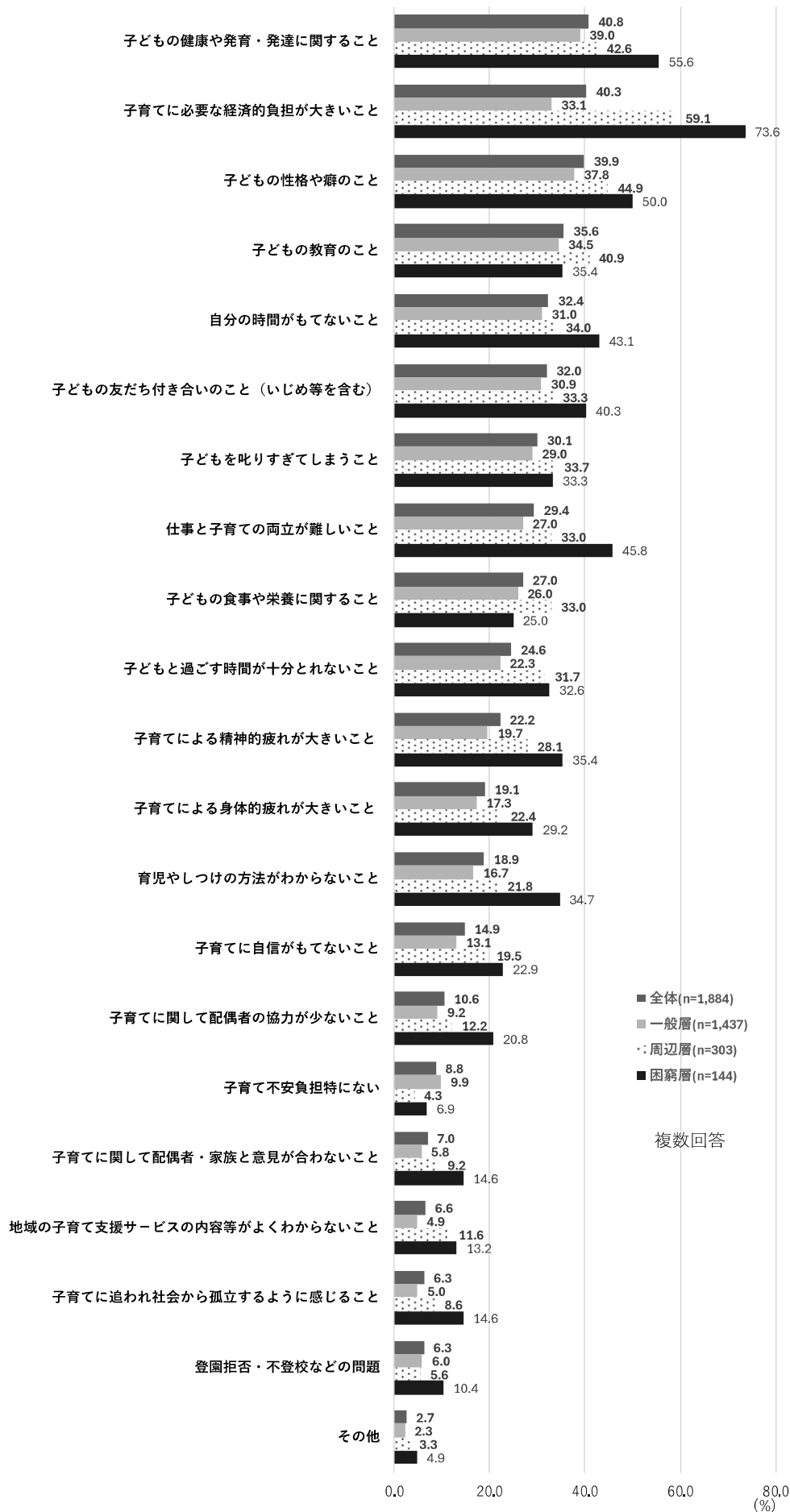
子育ての悩み（年齢別）



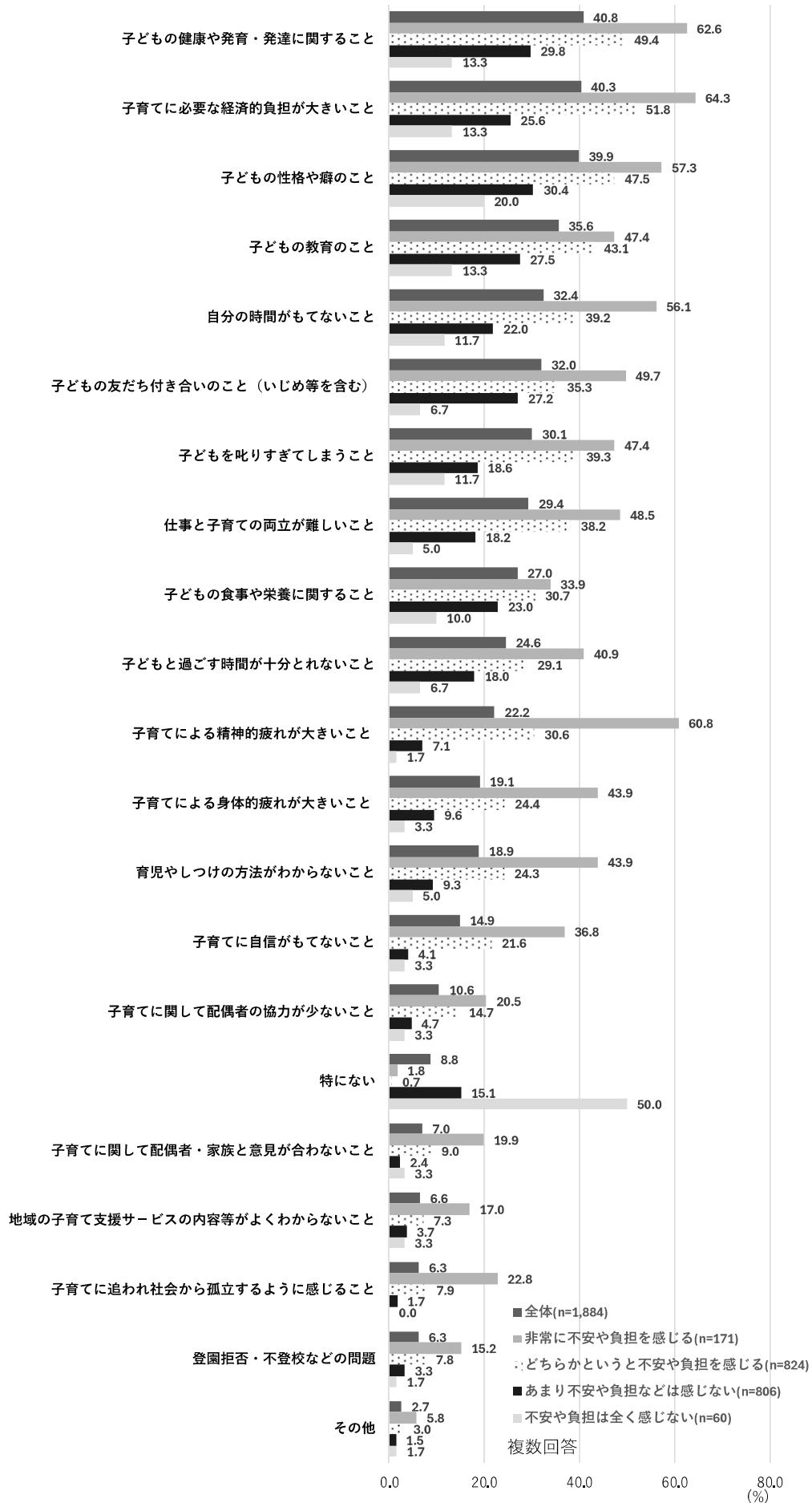
子育ての悩み（世帯の状況別）



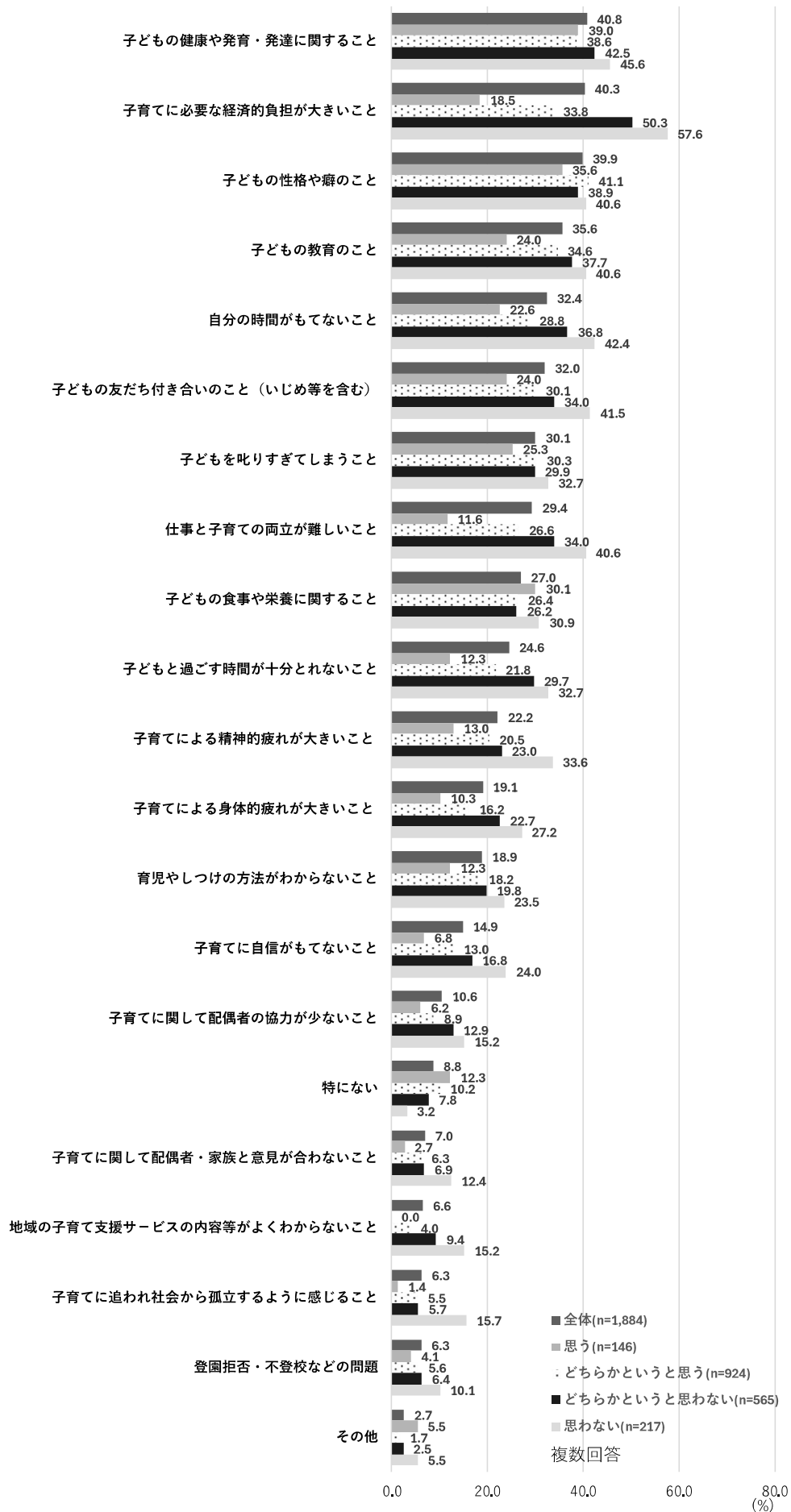
子育ての悩み（生活困難度別）



子育ての悩み（子育てに関する不安・負担別）



子育ての悩み（下関市の子育てのしやすさ別）



子育ての悩み回答順

	全体	年齢別						世帯の状況別		生活困難度別		
		0歳	1～2歳	3～5歳	6～8歳	9～11歳	12歳以上	ひとり親世帯	両親世帯	一般層	周辺層	困窮層
子どもの健康や発育・発達に関すること	1	2	1	1	1	5	5	2	1	1	3	2
子育てに必要な経済的負担が大きいこと	2	3	4	3	3	1	2	1	3	4	1	1
子どもの性格や癖のこと	3	8	5	2	2	2	4	4	2	2	2	3
子どもの教育のこと	4	5	11	7	5	3	1	7	4	3	4	7
自分の時間がもてないこと	5	4	3	4	7	8	8	6	5	5	5	5
子どもの友だち付き合いのこと（いじめ等を含む）	6	15	14	10	4	4	3	8	6	6	7	6
子どもを叱りすぎてしまうこと	7	12	8	5	6	7	6	9	7	7	6	10
仕事と子育ての両立が難しいこと	8	9	6	6	8	6	9	5	8	8	8	4
子どもの食事や栄養に関すること	9	1	2	8	10	11	11	10	9	9	9	13
子どもと過ごす時間が十分とれないこと	10	13	12	9	9	9	7	3	10	10	10	11
子育てによる精神的疲れが大きいこと	11	10	7	11	11	10	10	11	11	11	11	8
子育てによる身体的疲れが大きいこと	12	6	9	12	13	12	16	12	13	12	12	12
育児やしつけの方法がわからないこと	13	7	10	13	12	14	13	13	12	13	13	9
子育てに自信がもてないこと	14	11	13	14	14	13	14	14	14	14	14	14
子育てに関して配偶者の協力が少ないこと	15	20	15	15	15	15	17	19	15	16	15	15
特になし	16	16	17	18	17	16	15	20	16	15	20	20
子育てに関して配偶者・家族と意見が合わないこと	17	21	20	19	16	17	12	18	17	18	17	16
地域の子育て支援サービスの内容等がよくわからないこと	18	18	16	16	19	20	19	15	18	20	16	18
子育てに追われ社会から孤立するように感じる	19	14	18	17	20	19	21	17	19	19	18	17
登園拒否・不登校などの問題	20	19	19	20	18	18	18	16	20	17	19	19
その他	21	17	21	21	21	21	20	21	21	21	21	21

	全体	子育ての不安・負担別				下関市の子育てのしやすさ別			
		非常に不安や負担を感じる	どちらかというと不安や負担を感じる	あまり不安や負担などは感じない	不安や負担は全く感じない	思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
子どもの健康や発育・発達に関すること	1	2	2	2	3	1	2	2	2
子育てに必要な経済的負担が大きいこと	2	1	1	5	4	8	4	1	1
子どもの性格や癖のこと	3	4	3	1	2	2	1	3	5
子どもの教育のこと	4	8	4	3	5	5	3	4	6
自分の時間がもてないこと	5	5	6	7	6	7	7	5	3
子どもの友だち付き合いのこと（いじめ等を含む）	6	6	8	4	9	6	6	6	4
子どもを叱りすぎてしまうこと	7	9	5	8	7	4	5	8	9
仕事と子育ての両立が難しいこと	8	7	7	9	11	13	8	7	7
子どもの食事や栄養に関すること	9	14	9	6	8	3	9	10	11
子どもと過ごす時間が十分とれないこと	10	12	11	10	10	10	10	9	10
子育てによる精神的疲れが大きいこと	11	3	10	14	18	9	11	11	8
子育てによる身体的疲れが大きいこと	12	10	12	12	13	14	13	12	12
育児やしつけの方法がわからないこと	13	11	13	13	12	11	12	13	14
子育てに自信がもてないこと	14	13	14	16	14	15	14	14	13
子育てに関して配偶者の協力が少ないこと	15	16	15	15	15	16	16	15	16
特になし	16	21	21	11	1	12	15	17	21
子育てに関して配偶者・家族と意見が合わないこと	17	17	16	19	16	19	17	18	18
地域の子育て支援サービスの内容等がよくわからないこと	18	18	19	17	17	21	20	16	17
子育てに追われ社会から孤立するように感じる	19	15	17	20	21	20	19	20	15
登園拒否・不登校などの問題	20	19	18	18	19	18	18	19	19
その他	21	20	20	21	20	17	21	21	20

* 白抜きとなっているのは全体の順位が6位以下で当該属性の順位が3位までのもの

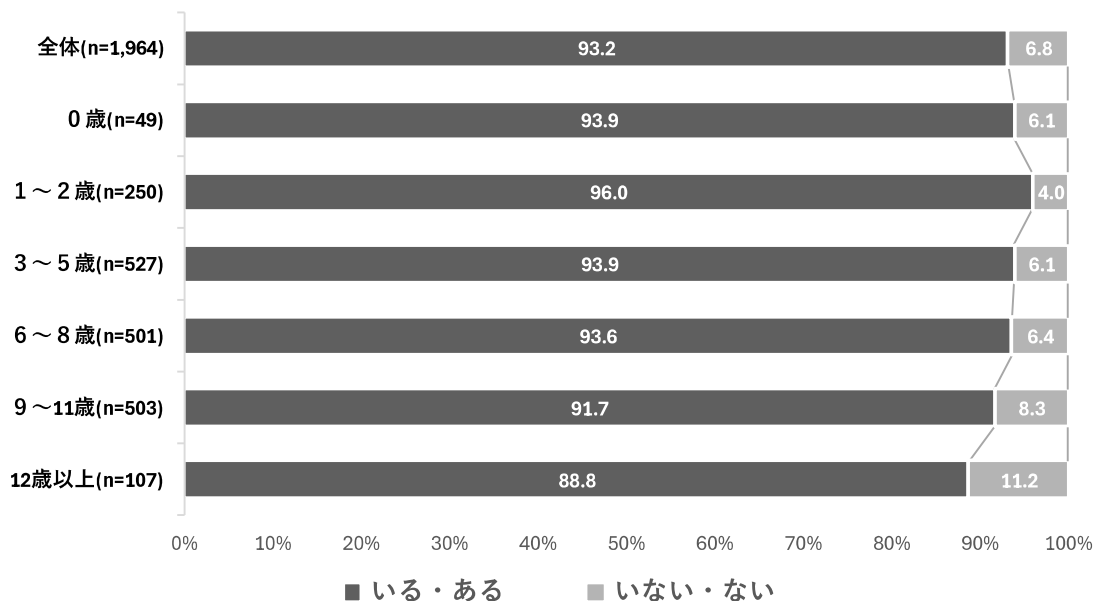
(8) 相談先の有無

問 31 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。【〇は1つ】

子育てについての相談先の有無については、「いる・ある」と回答した割合が 93.2%と大半が相談先を有する結果となった。

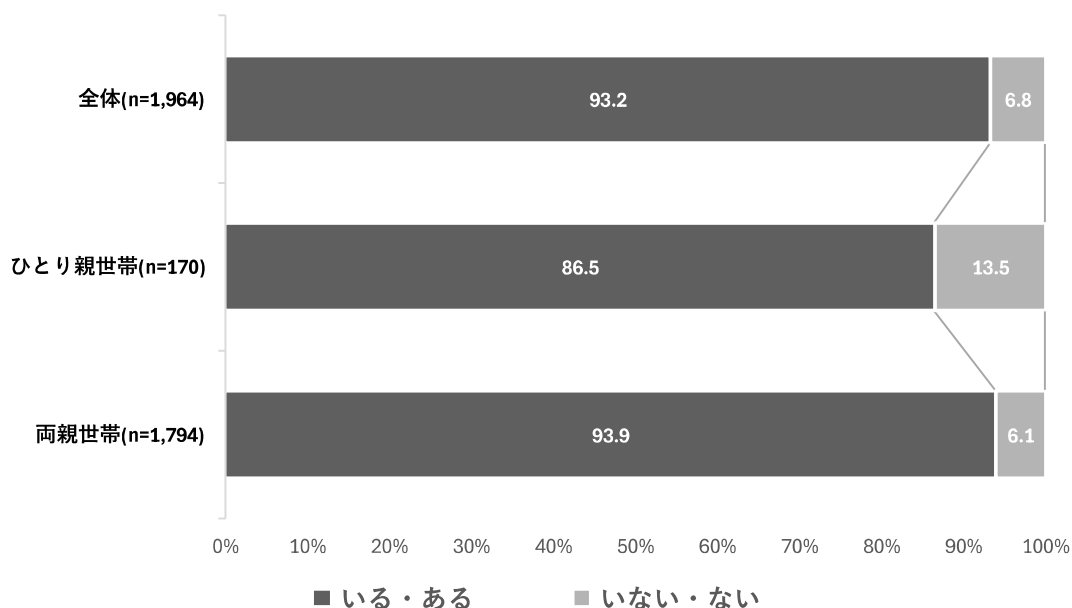
年齢別にみると、年齢が上がるほど「いない・ない」の割合が上昇している。

子育てに関する相談先の有無（年齢別）

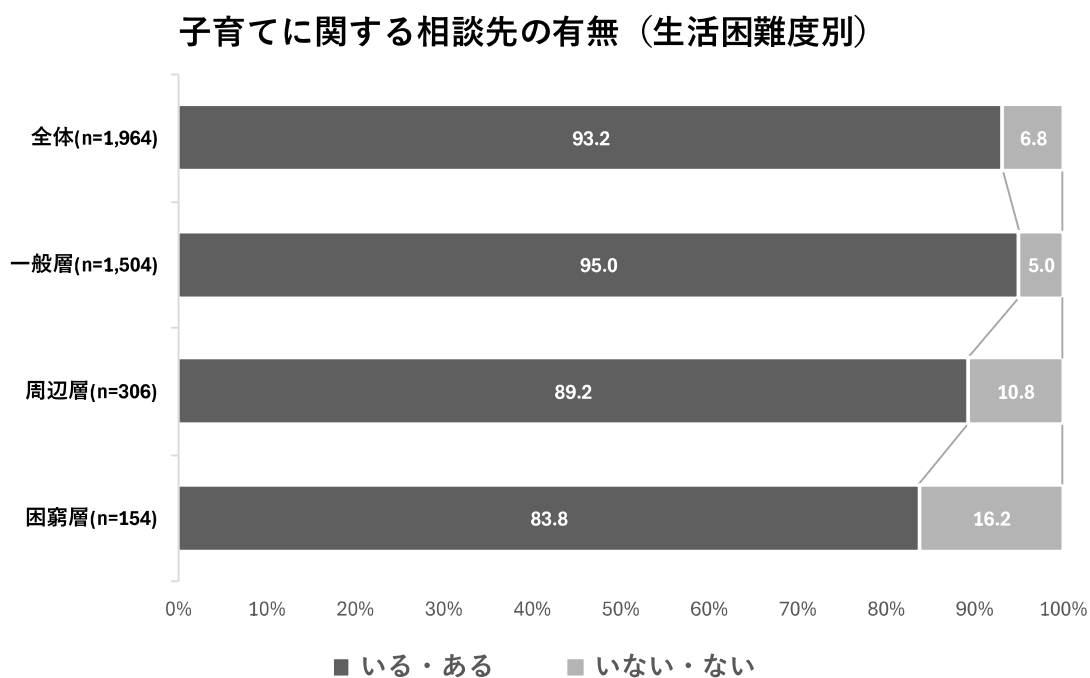


世帯の状況別にみると、相談先が「いない・ない」と回答した割合はひとり親世帯で高くなっている。

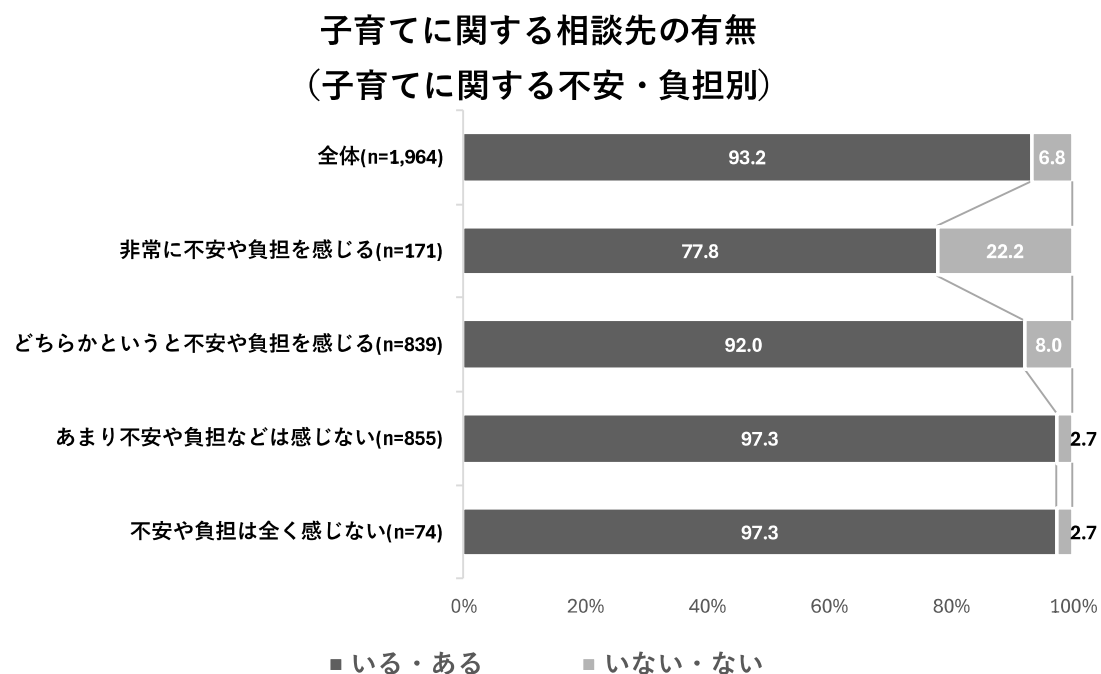
子育てに関する相談先の有無（世帯の状況別）



生活困難層に係る分類でみると、困窮層では相談先が「いない・ない」と回答した割合が16.2%と、他の層を上回っている。



子育てへの不安や負担の程度別にみると、相談先が「いない・ない」と回答した割合は不安や負担を感じる層で高くなっている。



相談先の有無別の特徴について、年齢、世帯状況、生活困難度、子育ての不安・負担、下関市の子育てのしやすさの5項目でみたところ、以下のとおりとなった。相談先が「いない・ない」と回答した保護者は、年齢の高い層、ひとり親世帯、生活困難度の高い層、子育てに不安・負担を感じる層、下関市が子育てしやすいと思わない層の比率が高くなっており、これらの結果は、子育て支援において相談先の確保が特に重要であることを示している。

相談先の有無別特徴

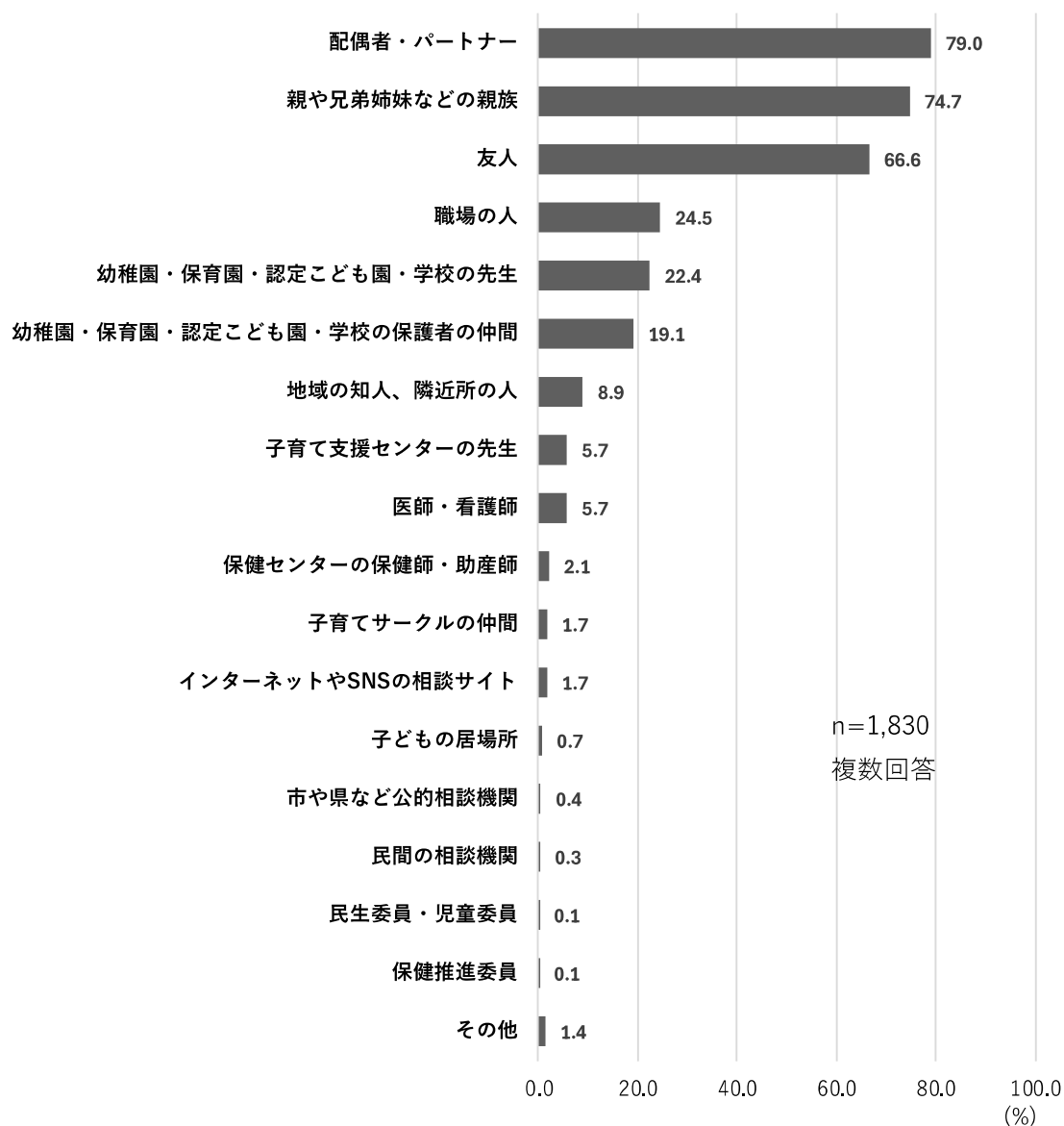
		相談先	
		いる・ある	いない・ない
年齢	0歳	2.5	2.3
	1～2歳	13.3	7.6
	3～5歳	27.4	24.4
	6～8歳	26.0	24.4
	9～11歳	25.5	32.1
	12歳以上	5.3	9.2
世帯状況	ひとり親世帯	8.0	17.3
	両親世帯	92.0	82.7
生活 困難度	一般層	78.0	56.4
	周辺層	14.9	24.8
	困窮層	7.0	18.8
子育ての 不安・ 負担	非常に不安や負担を感じる	7.4	29.2
	どちらかという不安や負担を感じる	42.7	51.5
	あまり不安や負担などは感じない	46.0	17.7
	不安や負担は全く感じない	4.0	1.5
下関市の 子育ての しやすさ	思う	8.3	5.3
	どちらかというと思う	50.6	39.4
	どちらかというと思わない	30.3	27.3
	思わない	10.8	28.0

問 31 で「1 いる・ある」と回答した人のみ回答

問 31-1 お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。【あてはまるもの全てに○】

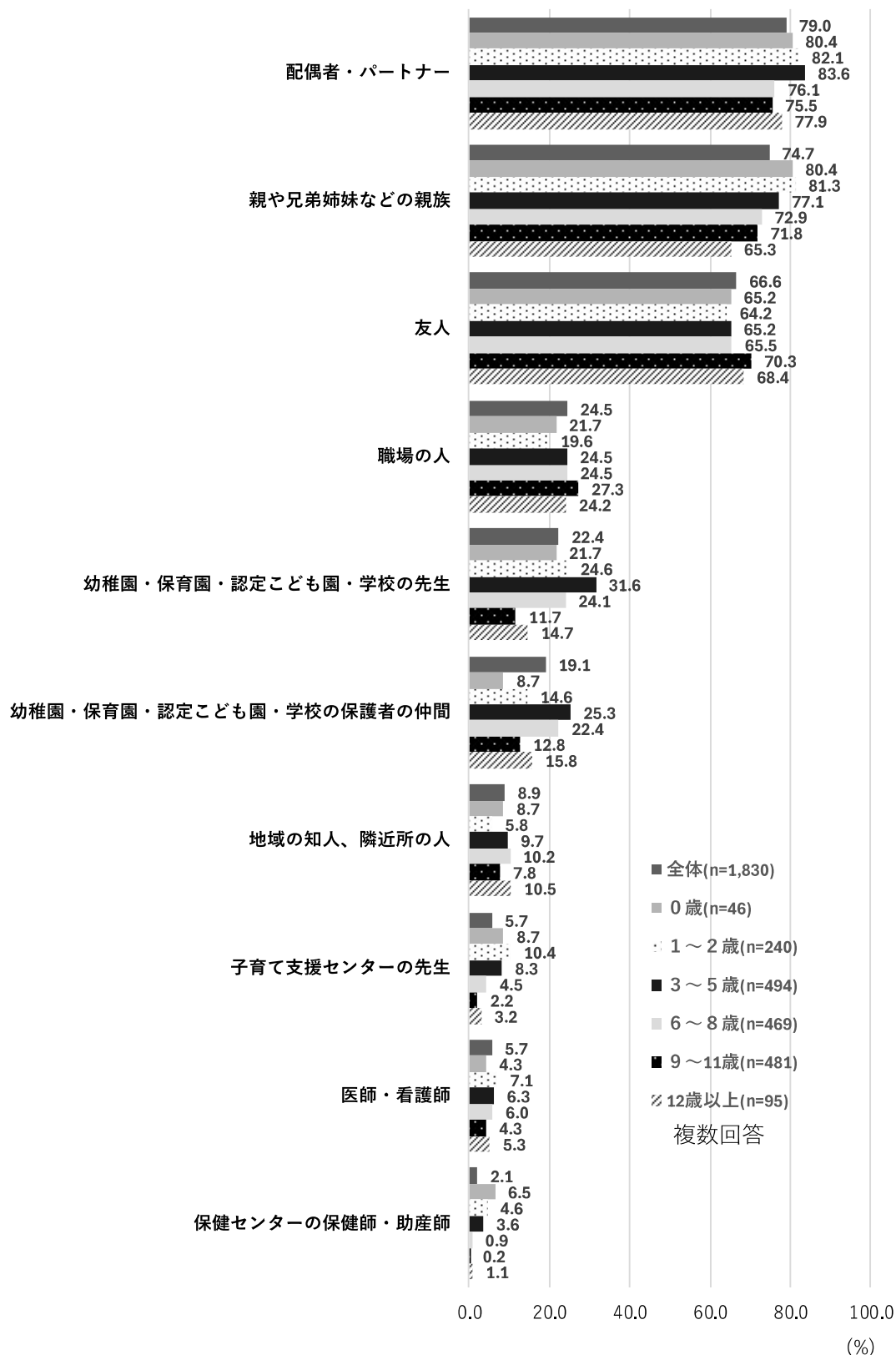
子育てについての相談先については、「配偶者・パートナー」と回答した割合が 79.0%と最も高く、次いで「親や兄弟姉妹などの親族」が 74.7%、「友人」が 66.6%となっている。

子育ての相談先



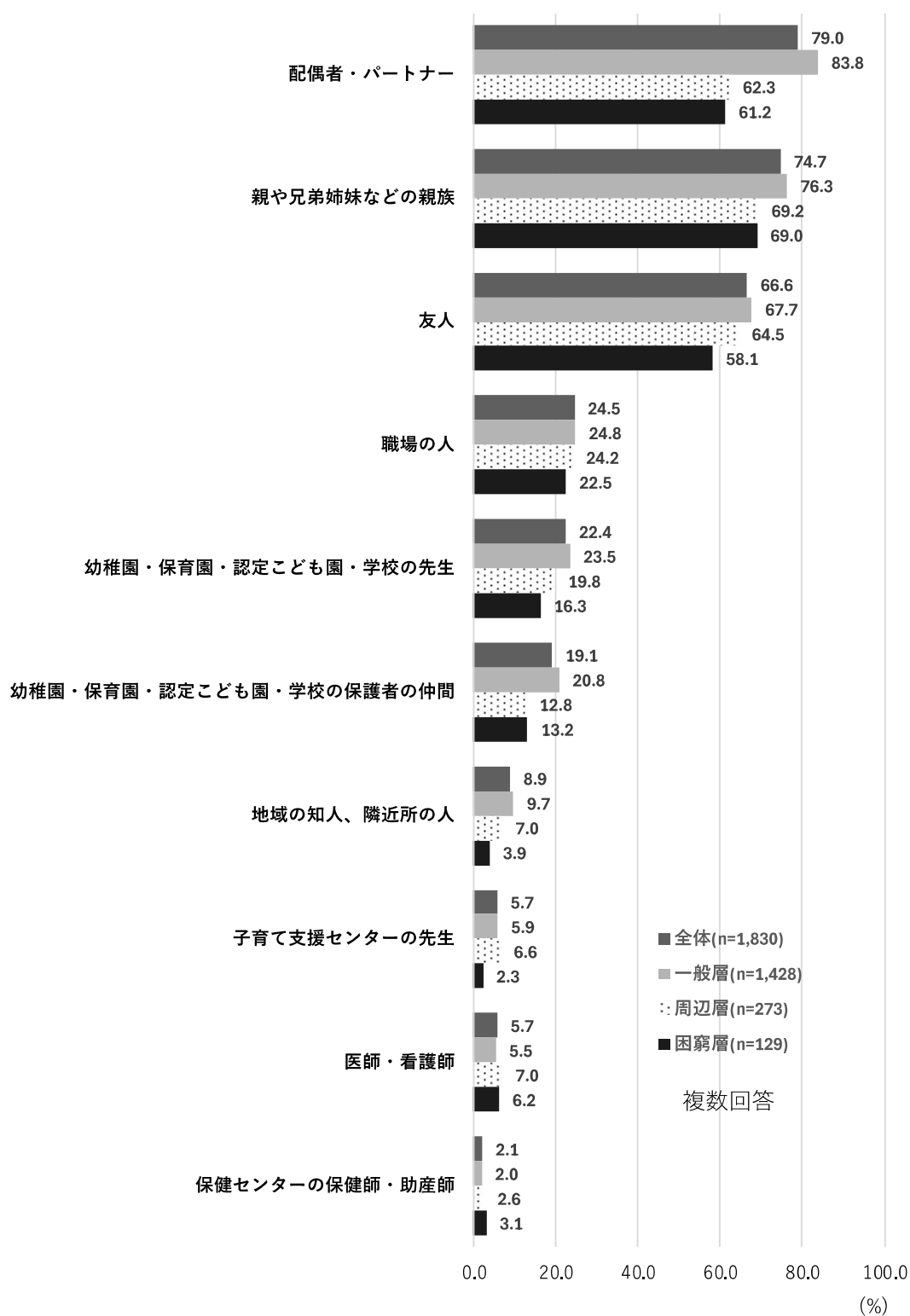
回答の上位 10 件について年齢別にみると、「親や兄弟姉妹などの親族」と回答した割合は年齢が上がるにつれて低下している。また、3歳から8歳までの層は「幼稚園・保育園・認定こども園・学校の保護者の仲間」が20%を超えている。

子育ての相談先（上位10件：年齢別）



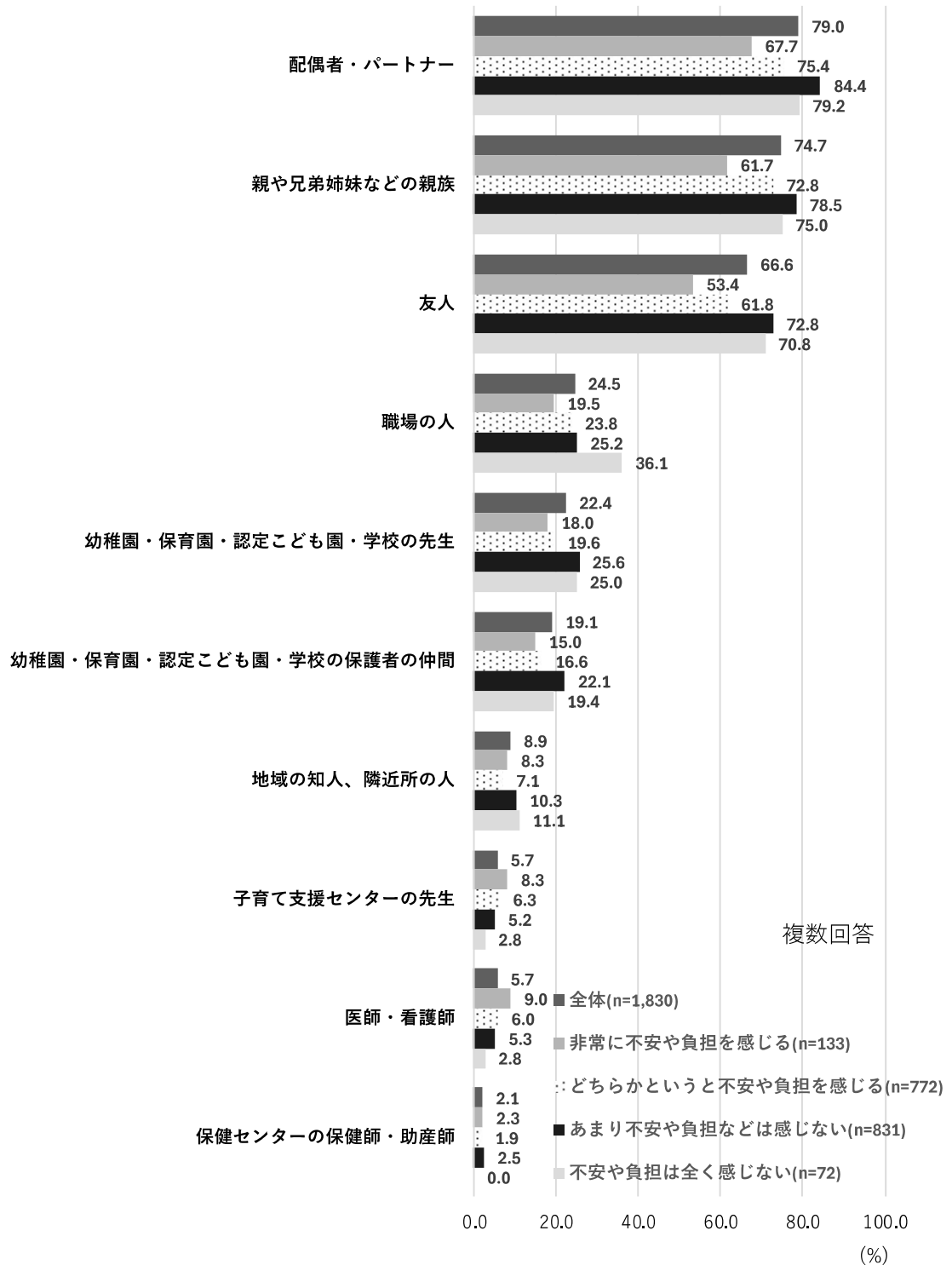
回答の上位 10 件について生活困難層に係る分類でみると、困窮層では多くの項目で回答割合が他の層を下回っている。

子育ての相談先（上位10件：生活困難度別）



子育てへの不安や負担の程度別にみると、不安や負担を感じる層ほど、各項目の回答割合が他の層より低い傾向にある。

子育ての相談先 (上位10件：子育てに関する不安・負担別)



(9) 「保健センター（下関市妊娠・子育てサポートセンター）」の利用状況

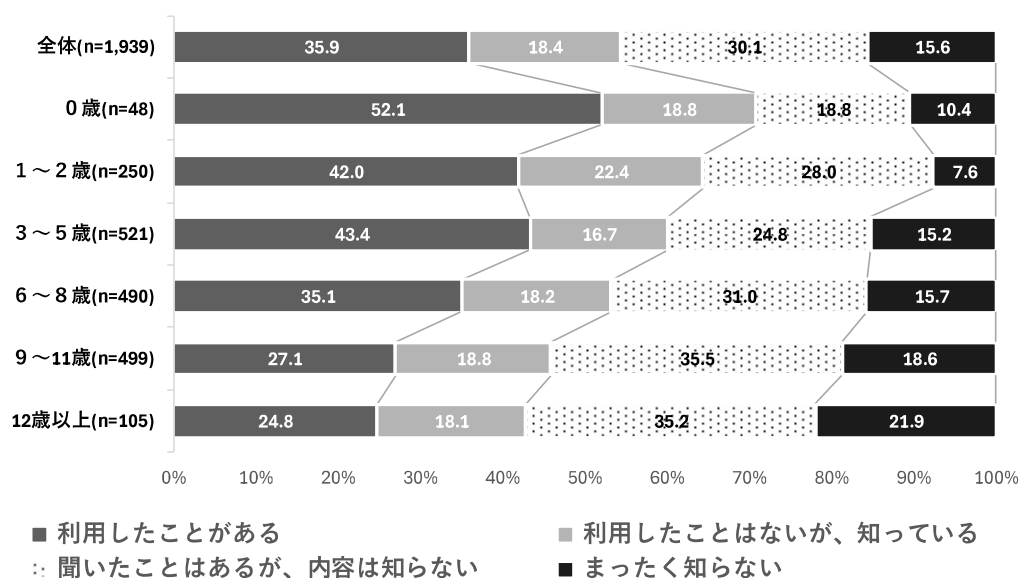
問 32 「保健センター（下関市妊娠・子育てサポートセンター）」を利用したことがありますか。または、知っていますか。【〇は1つ】

「保健センター（下関市妊娠・子育てサポートセンター）」の利用状況については、「利用したことがある」と回答した割合が 35.9%、「利用したことはないが、知っている（事業名も内容も知っている）」と回答した割合が 18.4%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合が 30.1%となっている。

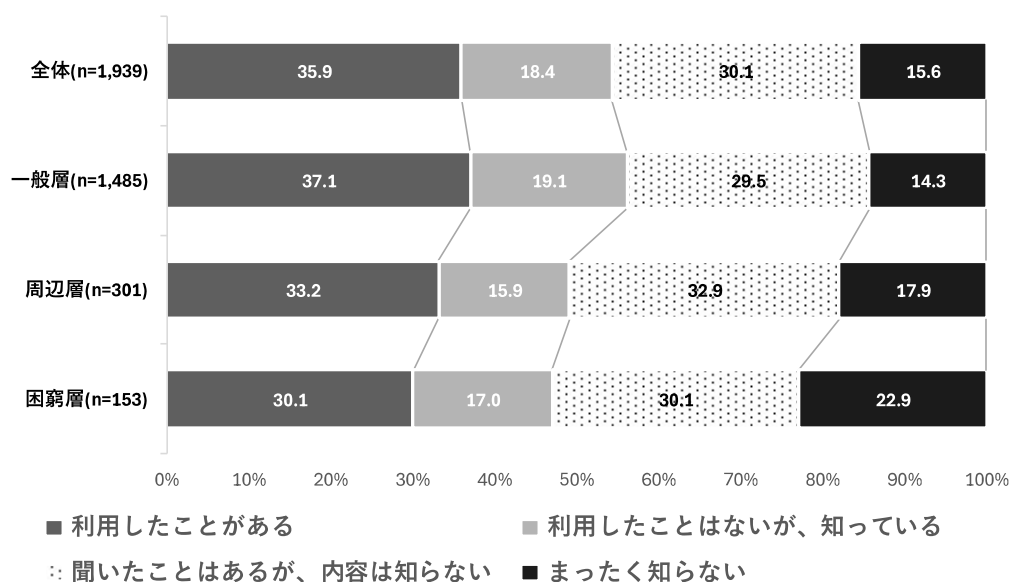
年齢別にみると、「利用したことがある」と回答した割合は年齢が低いほど高くなっている。

生活困難層に係る分類でみると、一般層よりも周辺層、周辺層よりも困窮層の方が、「利用したことがある」と「利用したことはないが、知っている（事業名も内容も知っている）」を合計した割合が低くなっている。

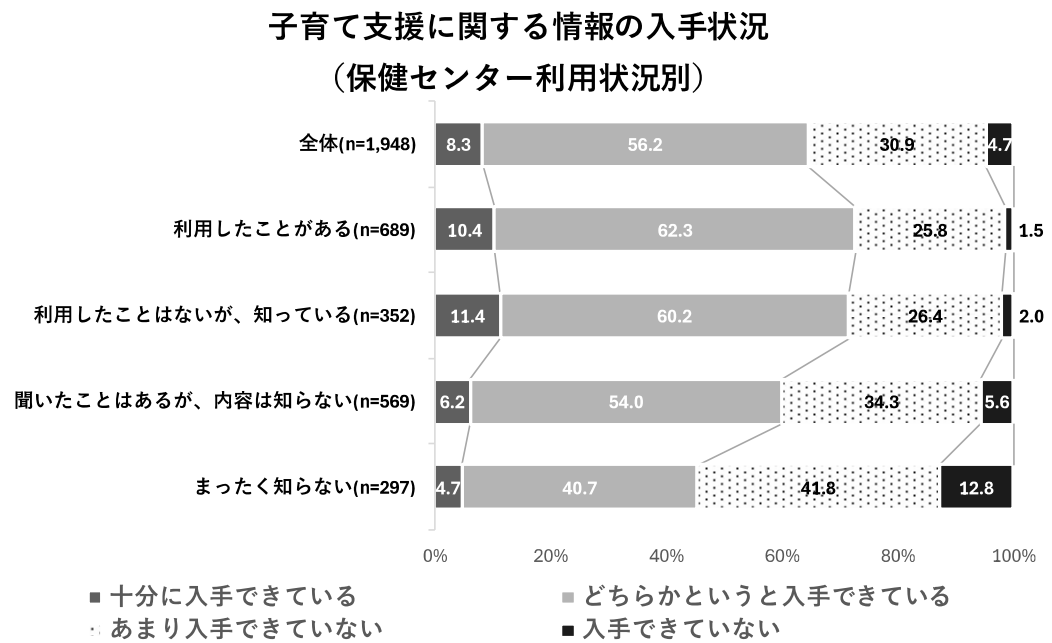
保健センター利用経験・認知度（年齢別）



保健センター利用経験・認知度（生活困難度別）



なお、子育てに関する情報の入手状況について、「保健センター（下関市妊娠・子育てサポートセンター）」の利用状況別にみると、利用したことがある層では、子育てに関する情報を『入手できている』と回答した割合が高く、72.7%となっている。

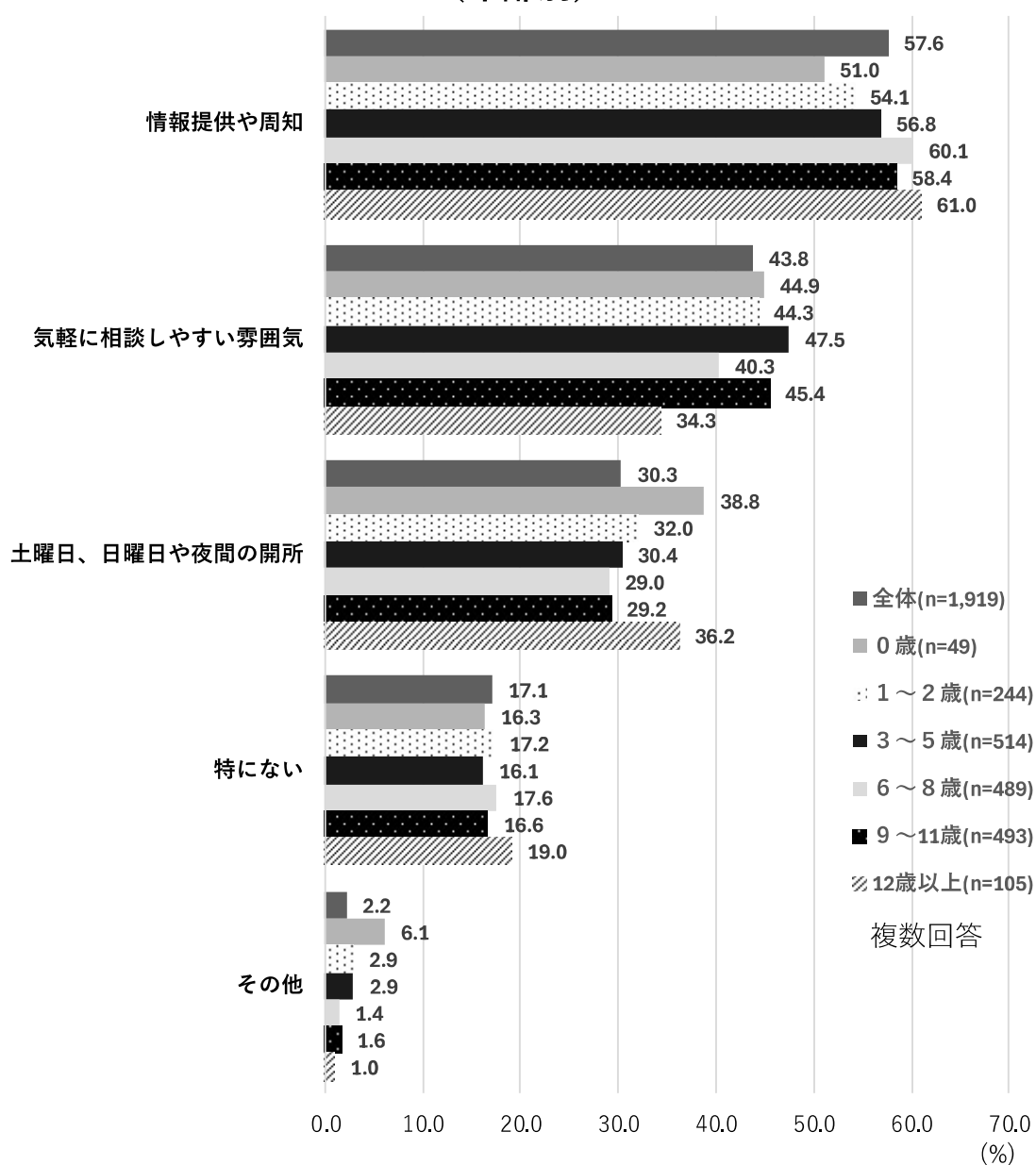


問 33 「保健センター（下関市妊娠・子育てサポートセンター）」について、利用しやすい場となるためにはどのようなことが必要だと思いますか。【あてはまるもの全てに○】

「下関市妊娠・子育てサポートセンター」が利用しやすい場となるために必要なことについては、「情報提供や周知（場所や利用日、利用時間、どのような支援を受けることができるか）」と回答した割合が 57.6%と最も高く、次いで「気軽に相談しやすい雰囲気」が 43.8%、「土曜日、日曜日や夜間の開所」が 30.3%となっている。

年齢別にみると、「情報提供や周知（場所や利用日、利用時間、どのような支援を受けることができるか）」と回答した割合は年齢が上がるにつれて高くなっている。

保健センターが利用しやすくなるために必要なこと （年齢別）



(10) 公的相談窓口の利用状況

問 34 「市や県の相談機関などの公的相談窓口、電話相談などの相談先」を利用したことがありますか。または知っていますか。【○は1つ】

公的相談窓口等の利用状況について、「利用したことがある」と回答した割合は僅か 5.8%であった。「利用したことはないが、知っている」との回答割合 31.2%を加えた公的相談窓口等に一定の知識を有する層も 37.0%に過ぎない。

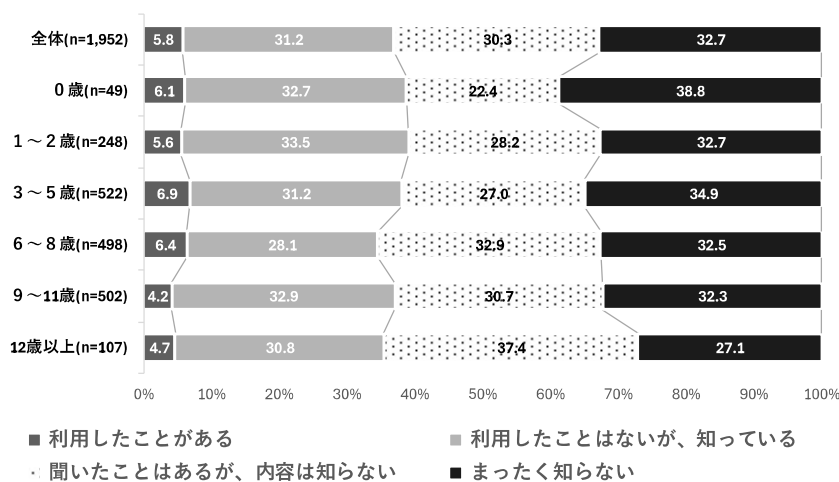
「聞いたことはあるが、内容は知らない」の回答割合が 30.3%、「まったく知らない」の回答割合が最多の 32.7%と、公的相談窓口等の周知が不十分な現状がうかがえる結果となった。

年齢別にみると、「利用したことがある」と回答した割合はいずれの年齢においても1割に満たない。

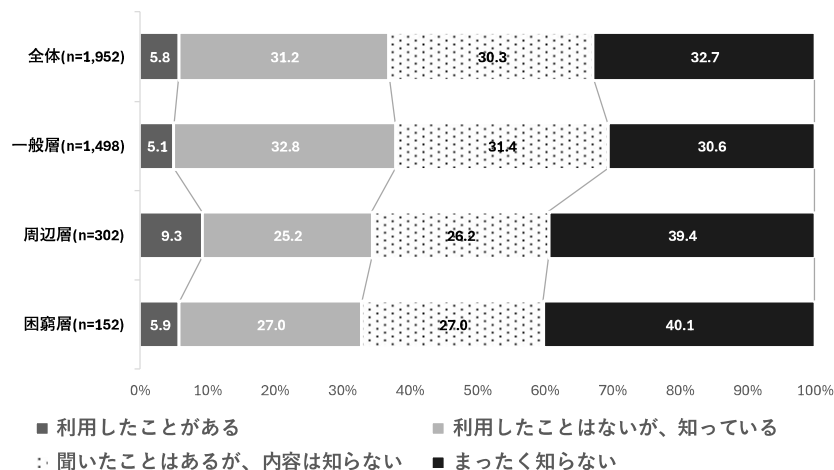
生活困難層に係る分類でみると、「利用したことがある」と「利用したことはないが、知っている（事業名も内容も知っている）」を合計した割合は、一般層が周辺層よりも高く、周辺層と困窮層は同程度となった。

困窮層は「子育て関連情報入手先」として「しもまちプラス」や「市のホームページ」と下関市からの情報提供を回答した割合が他の層を上回っている（78 ページ）にも関わらず、公的相談窓口等については認知度が低い結果となった。

公的相談窓口等の利用経験・認知度（年齢別）



公的相談窓口等の利用経験・認知度（生活困難度別）



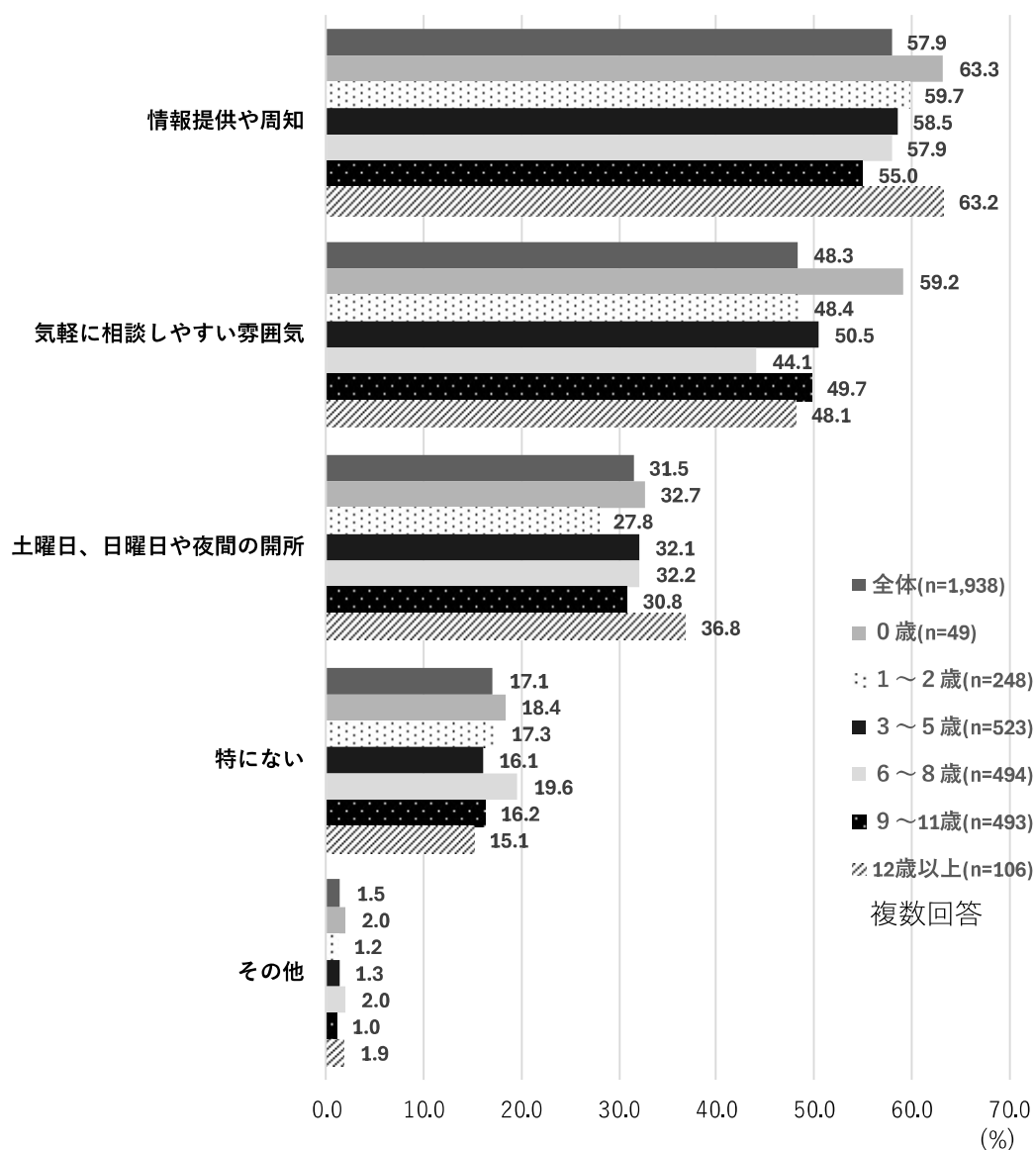
問 35 「市や県の相談機関などの公的相談窓口、電話相談などの相談先」について、利用しやすい場となるためにはどのようなことが必要だと思いますか。【あてはまるもの全てに○】

公的相談窓口が利用しやすい場となるために必要なことについては、「情報提供や周知（場所や利用日、利用時間、どのような相談ができるのか）」と回答した割合が 57.9%と最も高く、次いで「気軽に相談しやすい雰囲気」が 48.3%、「土曜日、日曜日や夜間の開所」が 31.5%となっている。

何れの回答割合も「特にない」の回答割合 17.1%と比較すると高く、「その他」の回答割合は 1.5%に過ぎないことから、今回の質問に挙げた選択肢（利用促進のための仮説）が適切であり、具体化によって公的相談窓口等の利用促進が期待できる。

年齢別にみると、0歳における「気軽に相談しやすい雰囲気」の回答割合が 59.2%と、全体平均および他の全ての年齢層よりも 10 ポイント以上多い点が目立つ。

公的相談窓口等が利用しやすくなるために必要なこと
(年齢別)



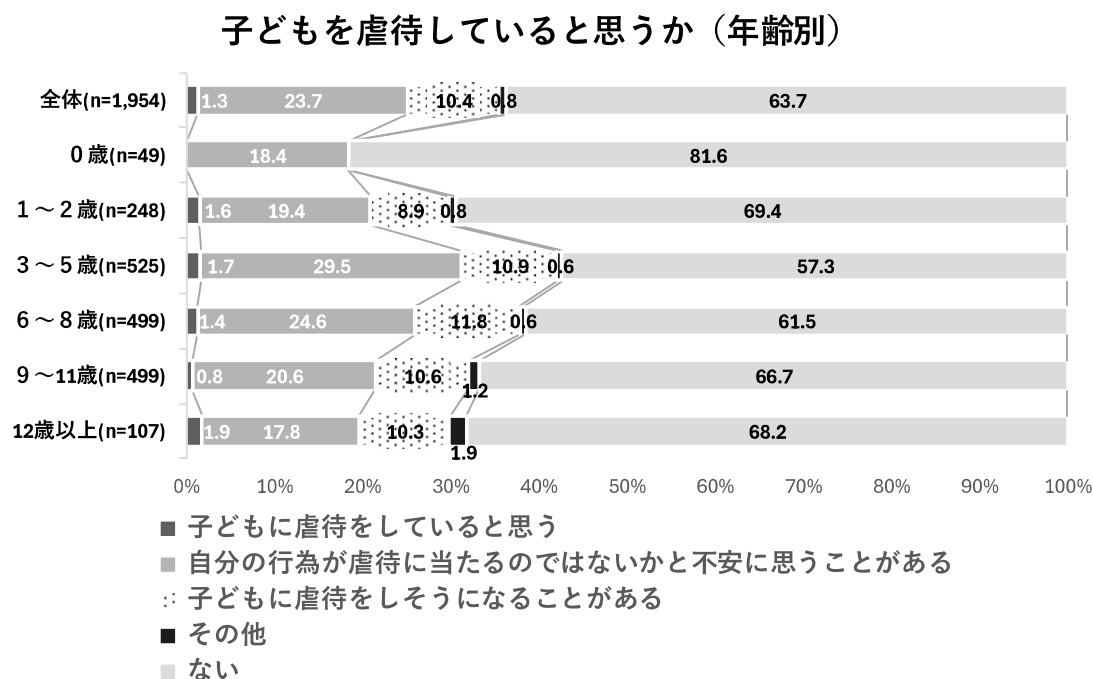
(11) 虐待経験

問 36 あなたは、自分自身が子どもを虐待しているのではないかと不安に思うことがありますか。
【○は1つ】

虐待経験については、「子どもに虐待をしていると思う」と回答した割合が 1.3%、「自分の行為が虐待に当たるのではないかと不安に思うことがある」と回答した割合が 23.7%で何れも前回 2019 年調査からの変化は 0.5%以内である。一方、「子どもに虐待をしそうになることがある」と回答した割合は 10.4%で前回よりも 0.5 ポイント上昇している。

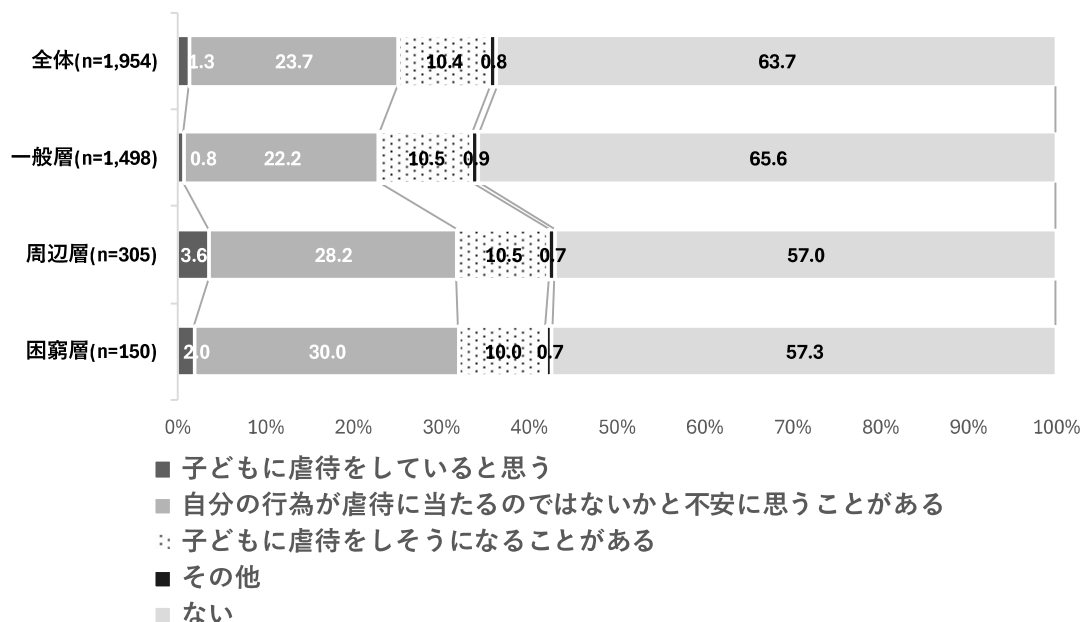
年齢別にみると、「自分の行為が虐待に当たるのではないかと不安に思うことがある」と回答した割合は 0 歳の 18.4%から年齢上昇に応じて高まり、3～5 歳で 29.5%と最も高くなり、0 歳と比較して 10 ポイント程度高くなる。その後は年齢上昇に伴って低下し、12 歳以上では 17.8%と 10 ポイント程度低くなる。

「子どもに虐待をしそうになることがある」については、年齢別の差はそれほど大きくない。



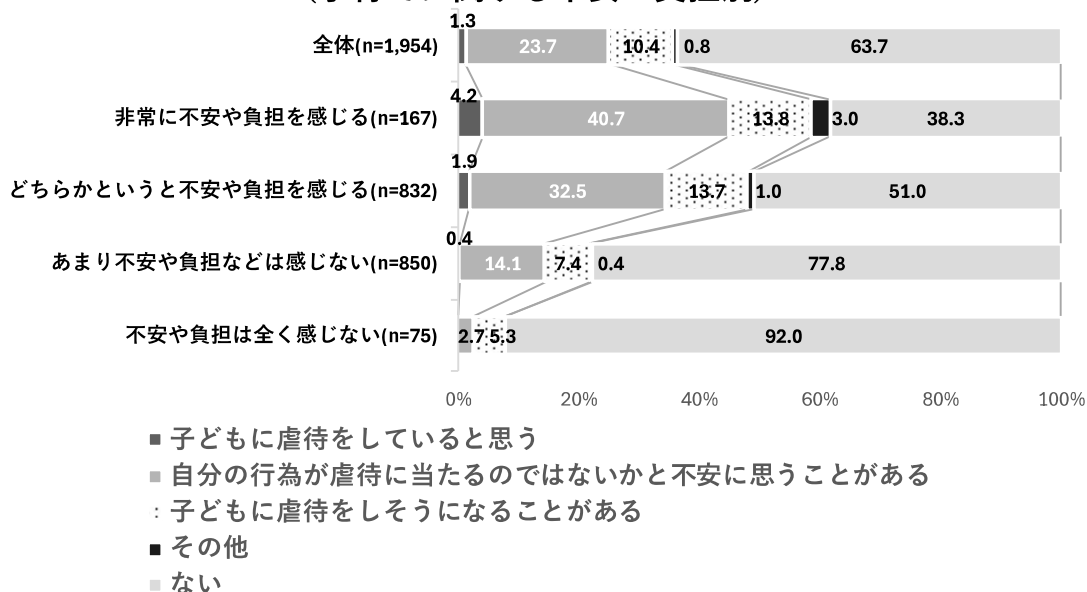
生活困難層に係る分類でみると、周辺層と困窮層では、「子どもに虐待をしていると思う」、「自分の行為が虐待に当たるのではないかと不安に思うことがある」、及び「子どもに虐待をしそうになることがある」の3つを合計した割合が40%を超えている。これは一般層よりも10%程度高い水準である。

子どもを虐待していると思うか（生活困難度別）



子育てへの不安や負担の程度別にみると、「子どもに虐待をしていると思う」「自分の行為が虐待に当たるのではないかと不安に思うことがある」「子どもに虐待をしそうになることがある」の3項目については、不安・負担度が大きくなるにつれて回答割合が高くなり、「子どもの虐待はない」の回答割合は逆に低くなっていることから、子育てに関する不安・負担を軽減することが、子どもの虐待を減少させることにつながると考えられる。

子どもを虐待していると思うか （子育てに関する不安・負担別）



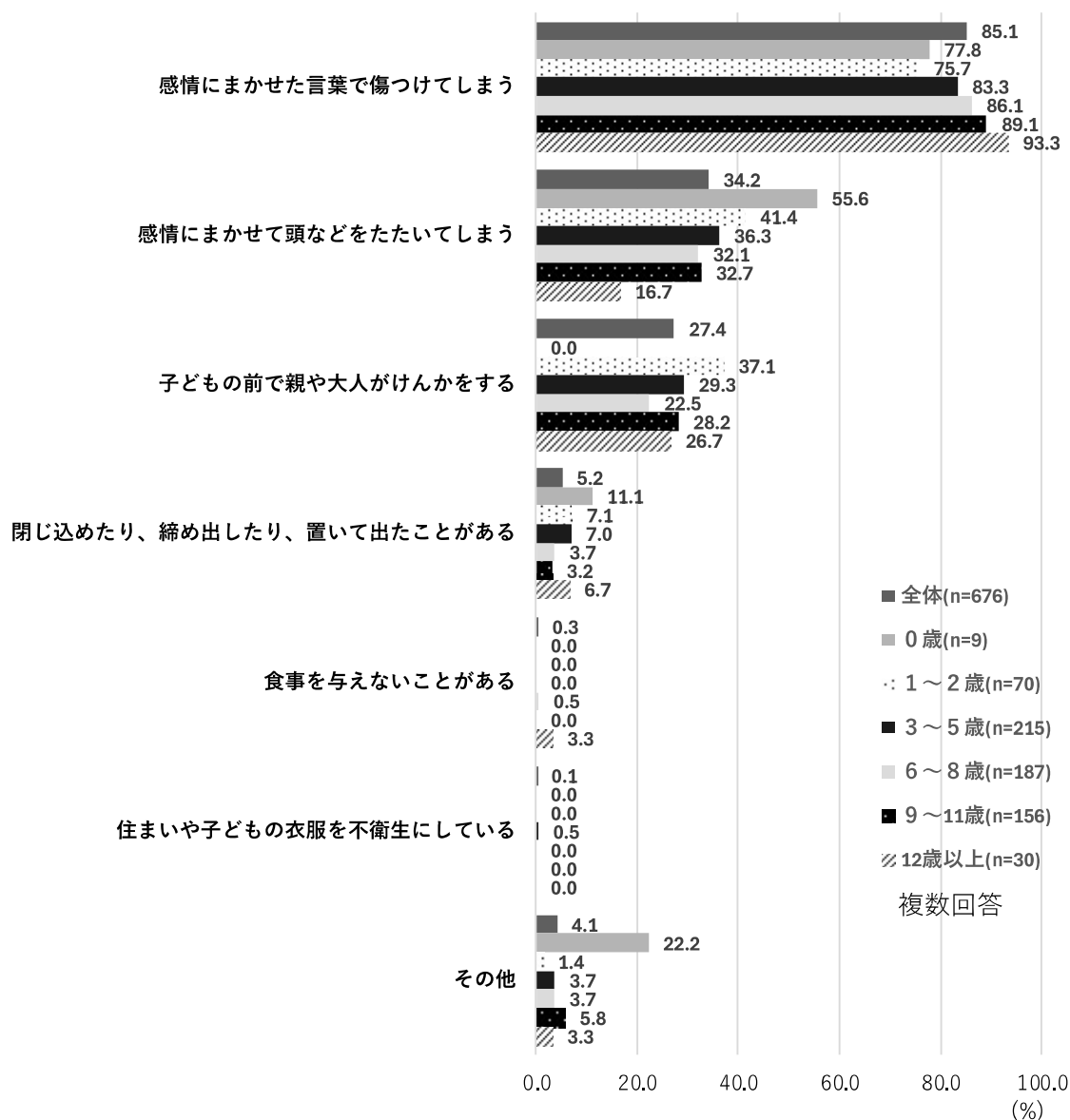
問 36 で「1」から「3」と回答した人のみ回答

問 36-1 それはどのようなことですか。【あてはまるもの全てに○】

虐待の内容については、「感情にまかせた言葉で傷つけてしまう」と回答した割合が 85.1%と突出して高く、次いで「感情にまかせて頭などをたたいてしまう」が 34.2%、「子どもの前で親や大人がけんかをする」が 27.4%で、その他の選択肢への回答割合は 5 % 台以下と少ない。

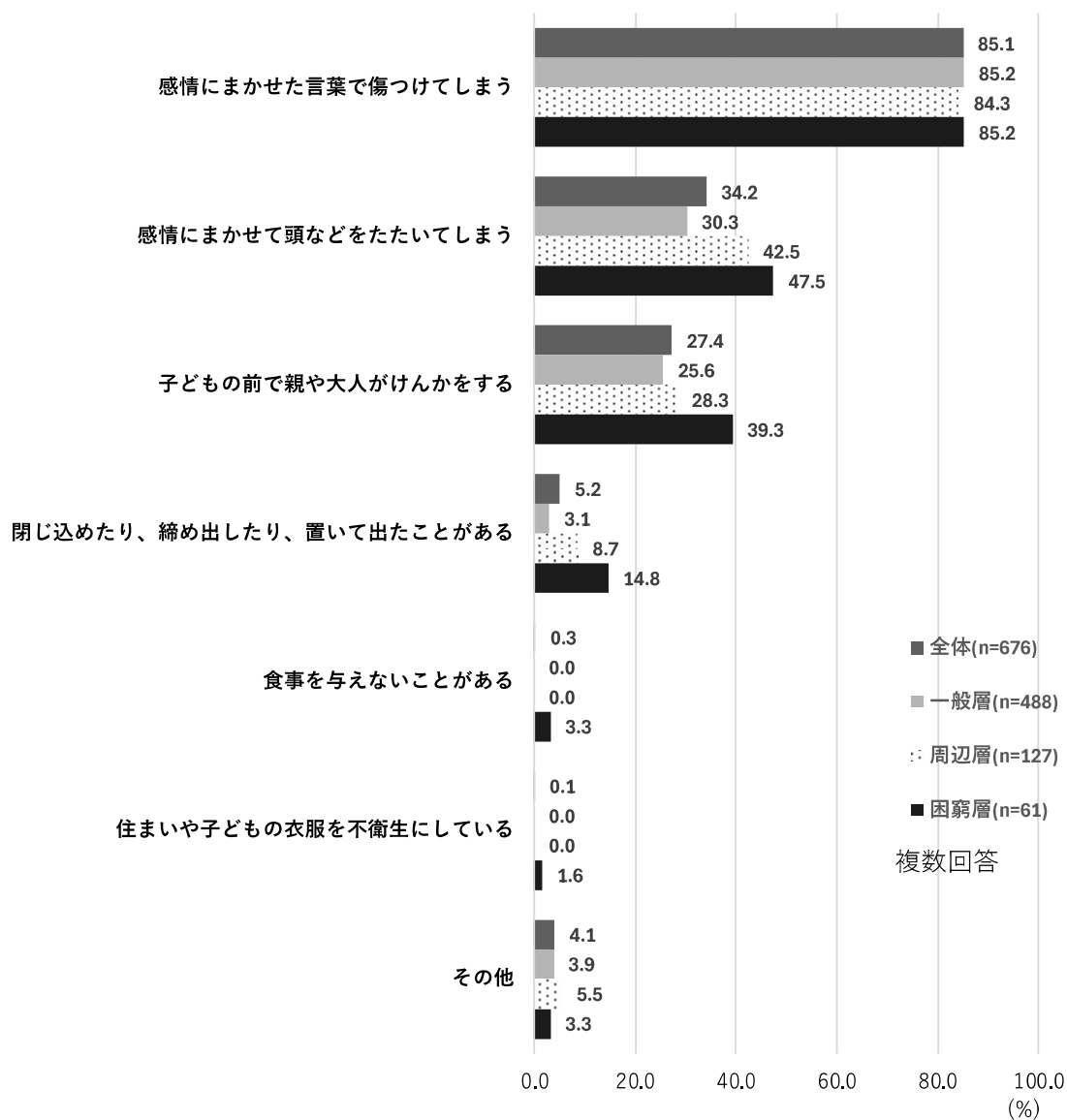
年齢別にみると、「感情にまかせた言葉で傷つけてしまう」と回答した割合は年齢が上がるにつれて高くなり、逆に「感情に任せて頭などをたたいてしまう」の回答割合は年齢が上がるにつれて低くなる。子どもの年齢が上がるにつれて、物理的な虐待よりも、言葉での虐待が増える傾向が読み取れる。

虐待していると思ったこと（年齢別）



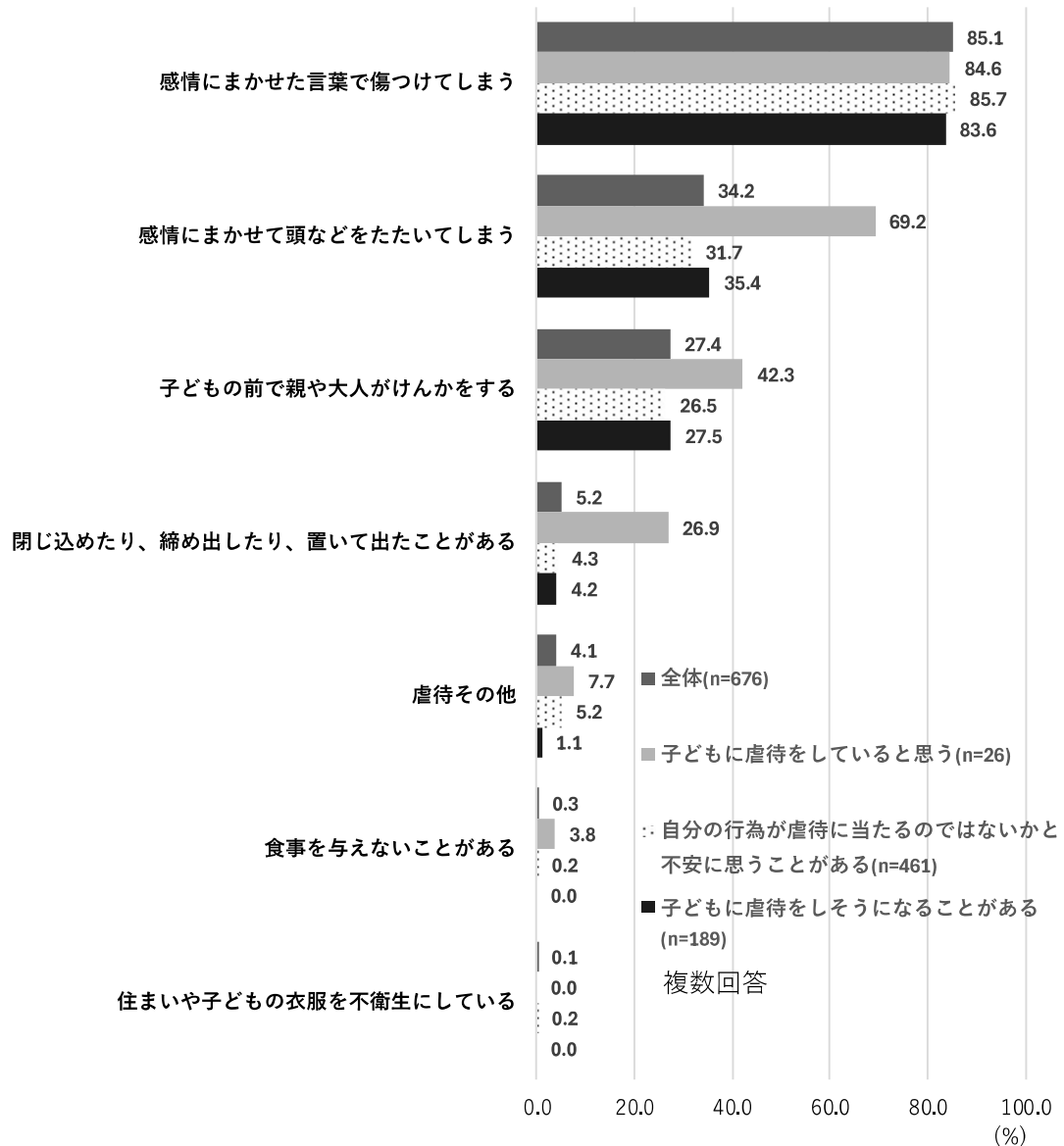
生活困難層に係る分類でみると、困窮層では最も回答割合が高い「感情にまかせた言葉で傷つけてしまう」の回答割合は他の層と同程度だが、「感情にまかせて頭などをたたいてしまう」47.5%、「子どもの前で親や大人がけんかをする」39.3%、「閉じ込めたり、締め出したり、置いて出たことがある」14.8%は、いずれも一般層の回答割合よりも 10 ポイント程度以上、周辺層の回答割合よりも 5 ポイント程度以上高くなっている。

虐待していると思ったこと（生活困難度別）



虐待経験別では、子どもに虐待をしていると思う層が特徴的である。具体的には「感情にまかせた言葉で傷つけてしまう」の回答割合は他層と同程度だが、「感情にまかせて頭などをたたいてしまう」、「子どもの前で親や大人がけんかをする」は他層よりも2倍程度、「閉じ込めたり、締め出したり、置いて出たことがある」は5倍程度高い。

虐待していると思ったこと（虐待経験別）



9 地域の子育て環境

(1) 地域の人々や社会全体の支えの感じ方

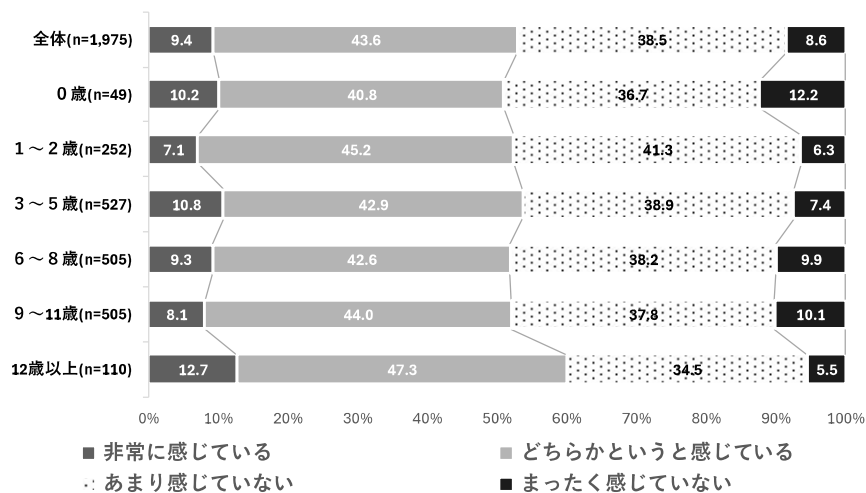
問 37 自分自身の子育てが地域の人々や社会全体に支えられていると感じますか。【〇は1つ】

地域の人々や社会全体の支えの感じ方については、『感じている』（「非常に感じている」＋「どちらかというと感じている」）と回答した割合が 53.0%と、前回 2019 年度より 4.0 ポイント上昇している。『感じていない』（「まったく感じていない」＋「あまり感じていない」）と回答した割合が 47.1%で前回より 3.9 ポイント低下していることから、子ども子育て政策が評価されていることの現れと考えられる。

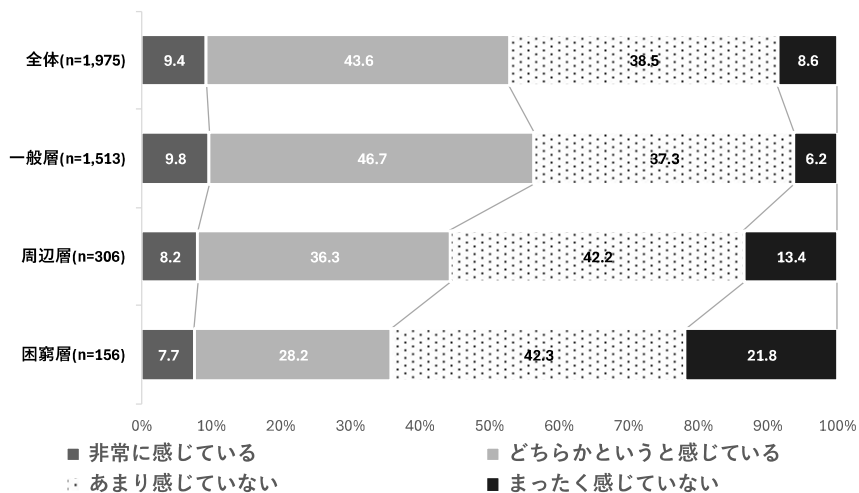
年齢別にみると、『感じている』と回答した割合は 12 歳以上が 60.0%と他層よりも 10 ポイント弱高い。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層では『感じている』と回答した割合が 35.9%と、周辺層を約 10 ポイント、一般層を 20 ポイント超下回っている。これは、前述の子育てに関する情報入手（78 ページ）において、困窮層の地域におけるつながりの弱さを懸念した点と整合する。

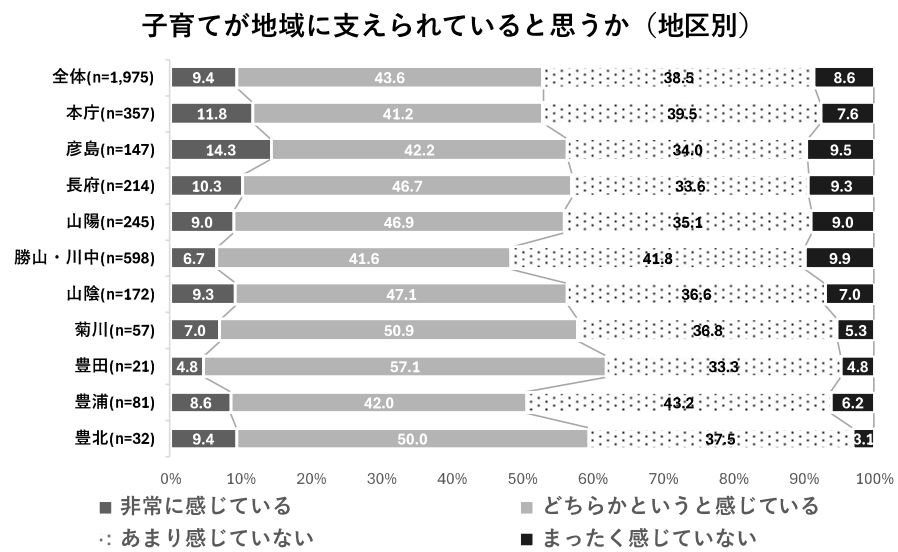
子育てが地域に支えられていると思うか（年齢別）



子育てが地域に支えられていると思うか（生活困難度別）



地区別にみると、『感じている』と回答した割合は「豊田」と「豊北」で 60%前後と全体平均 53.0%より高い。全体平均よりも低さが見られるのは「勝山・川中」「豊浦」だが、何れも 50%前後であることから、明確な違いではない。

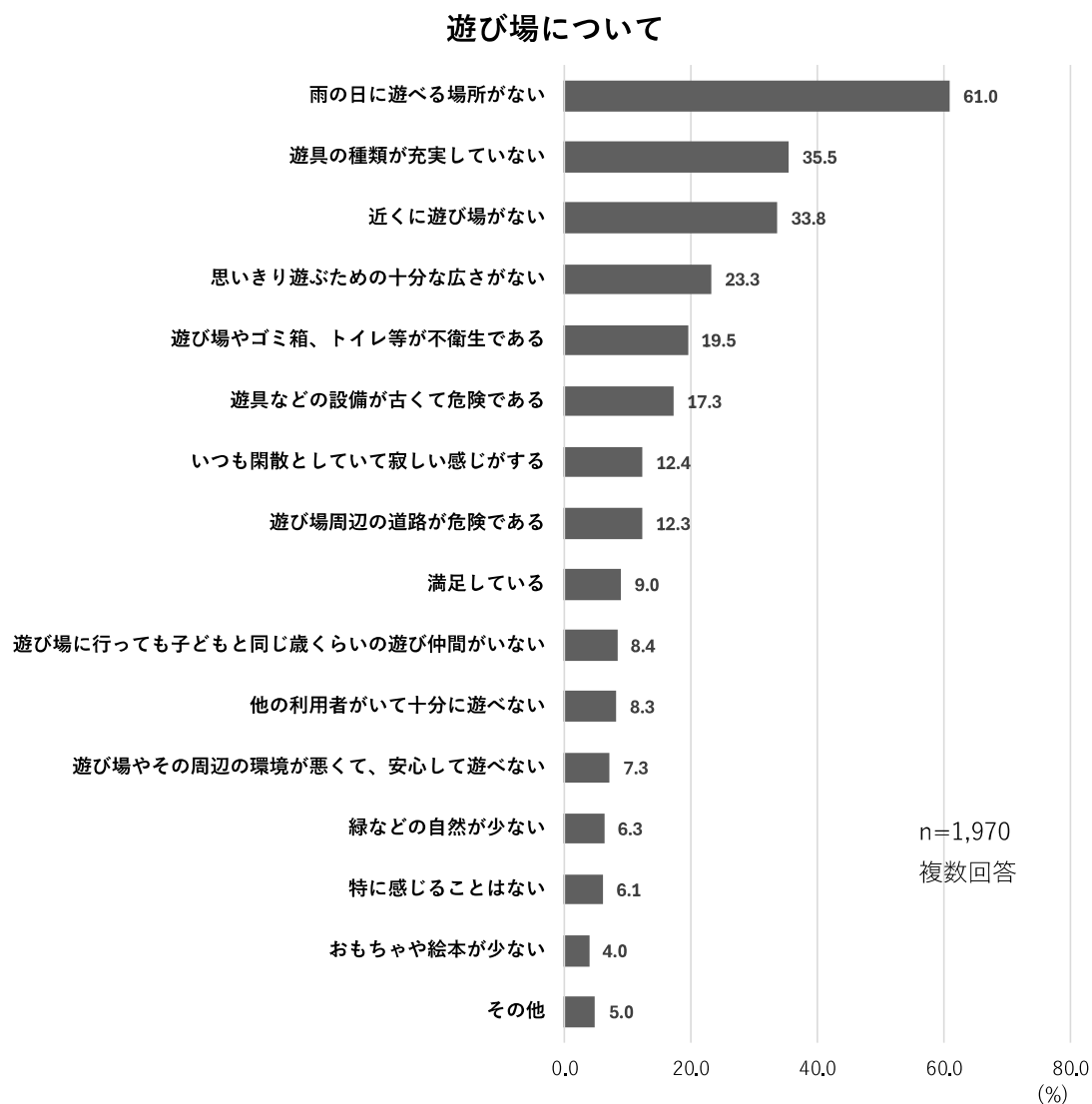


(2) 子どもの遊び場について

問 38 家の近くの子どもの遊び場について、日頃、感じていることがありますか。【あてはまるもの全てに○】

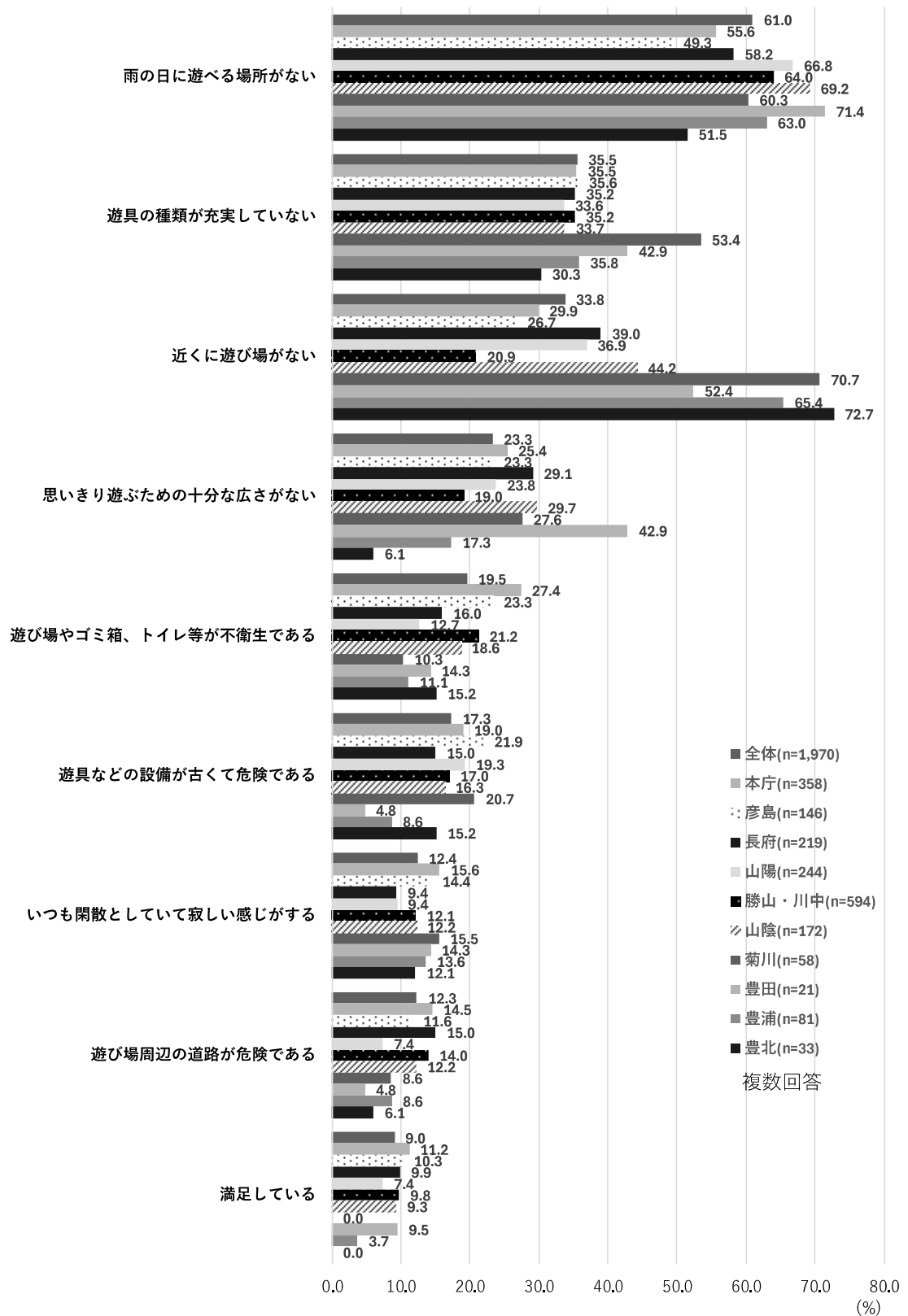
近所の遊び場について感じることで、「満足している」の回答割合は 9.0%と、15 ある選択肢のうち 9 番目と低位にある。

回答割合が高いのは「雨の日に遊べる場所がない」61.0%、「遊具の種類が充実していない」35.5%、「近くに遊び場がない」33.8%と、場所・施設に関する希求度が上位に連なっている。

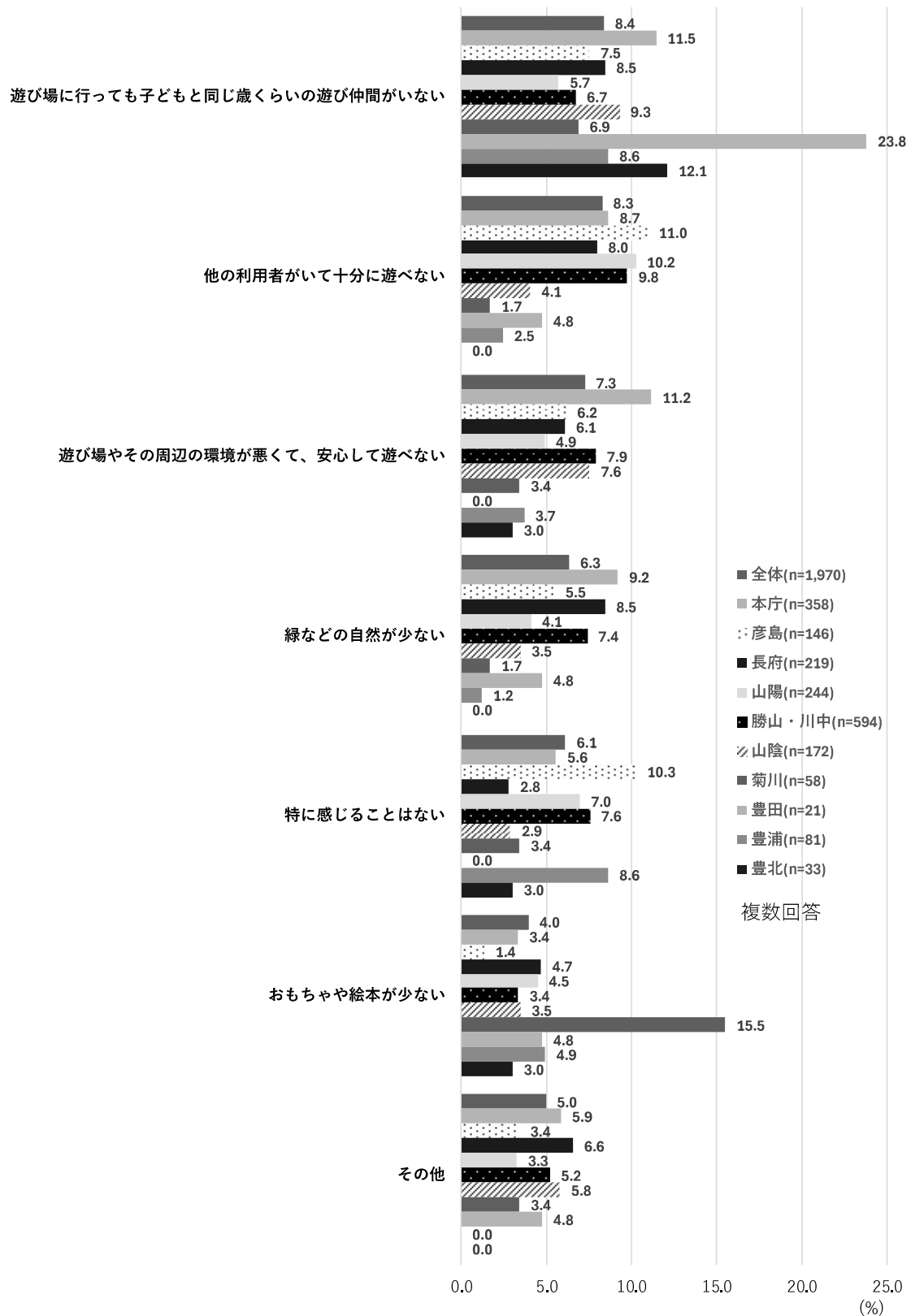


地区別にみると、「遊具の種類が充実していない」や「おもちゃや絵本が少ない」は菊川で、「思い切り遊ぶための十分な広さがない」や「遊び場に行っても子どもと同じ歳くらいの遊び仲間がいない」は豊田で、「近くに遊び場がない」は菊川・豊田・豊浦・豊北で特に高くなっている。

遊び場について（地区別その1）

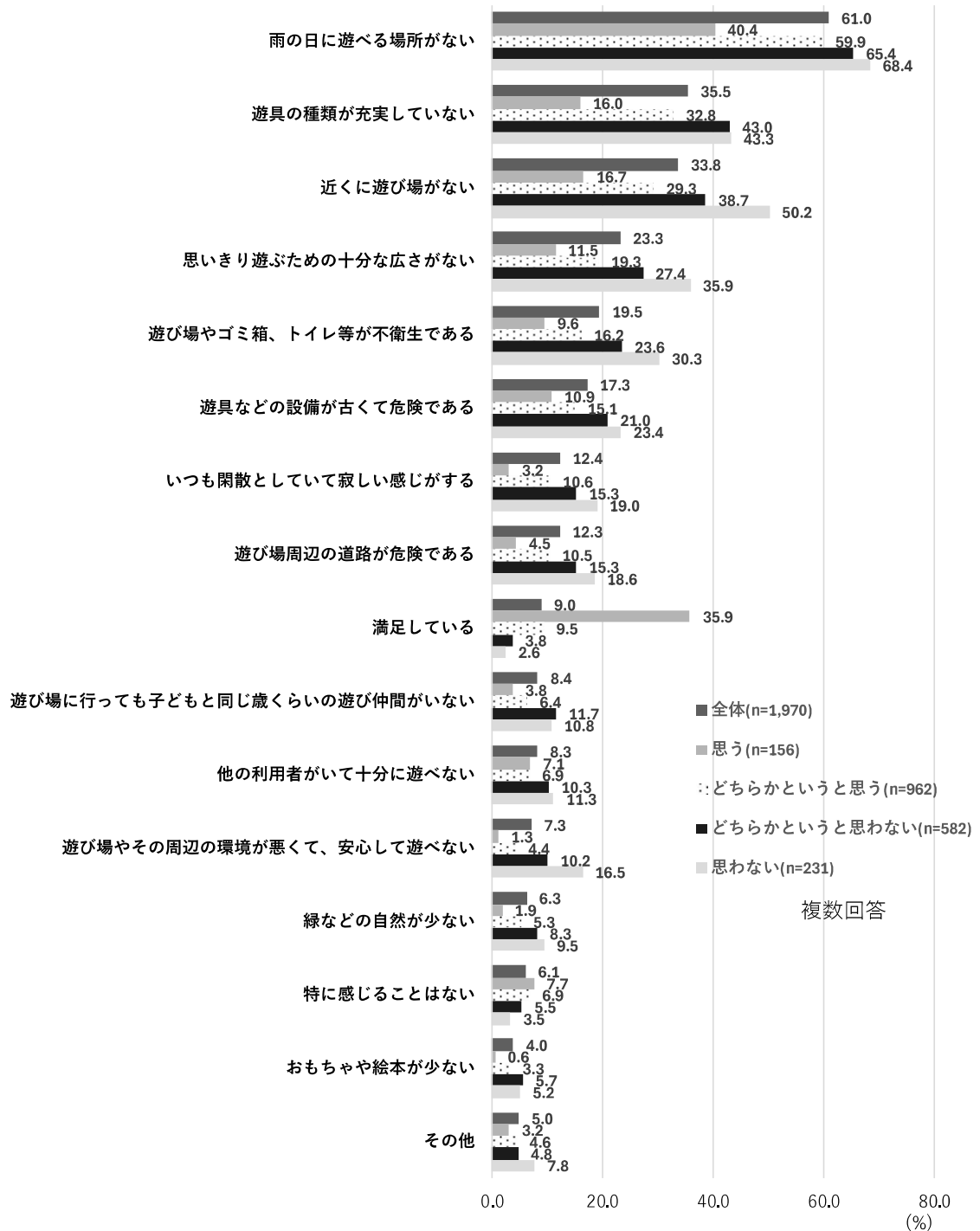


遊び場について（地区別その2）



子育てがしやすいまちの評価別にみると、遊び場に対する満足・不満足と、子育てのしやすいまちの評価に対する満足・不満足の傾向が一致している。このため、遊び場を充実させることが、子育てのしやすいまちとしての評価を高めると予想される。

遊び場について（下関市の子育てのしやすさ別）



(3) 子どもを取り巻く環境で気になること

問 39 お住まいの地域の子どもの取り巻く環境において、日頃、気になっていることはありますか。【あてはまるもの全てに○】

子どもを取り巻く環境で気になることについては、「暗い道路、人通りの少ない道路や見通しのきかないところが多いこと」と回答した割合が 38.3%と最も高く、次いで「車・バイク・自転車の運転マナーが悪く、子どもが事故にあわないか心配なこと」が 36.3%、「不審者が出るなどの事件があり、子どもが犯罪の被害にあわないか心配なこと」が 33.2%となっている。

年齢別にみると、「暗い道路、人通りの少ない道路や見通しのきかないところが多いこと」、「不審者が出るなどの事件があり、子どもが犯罪の被害にあわないか心配なこと」と回答した割合は年齢が高いほど高く、特に後者は顕著な違いが認められる。

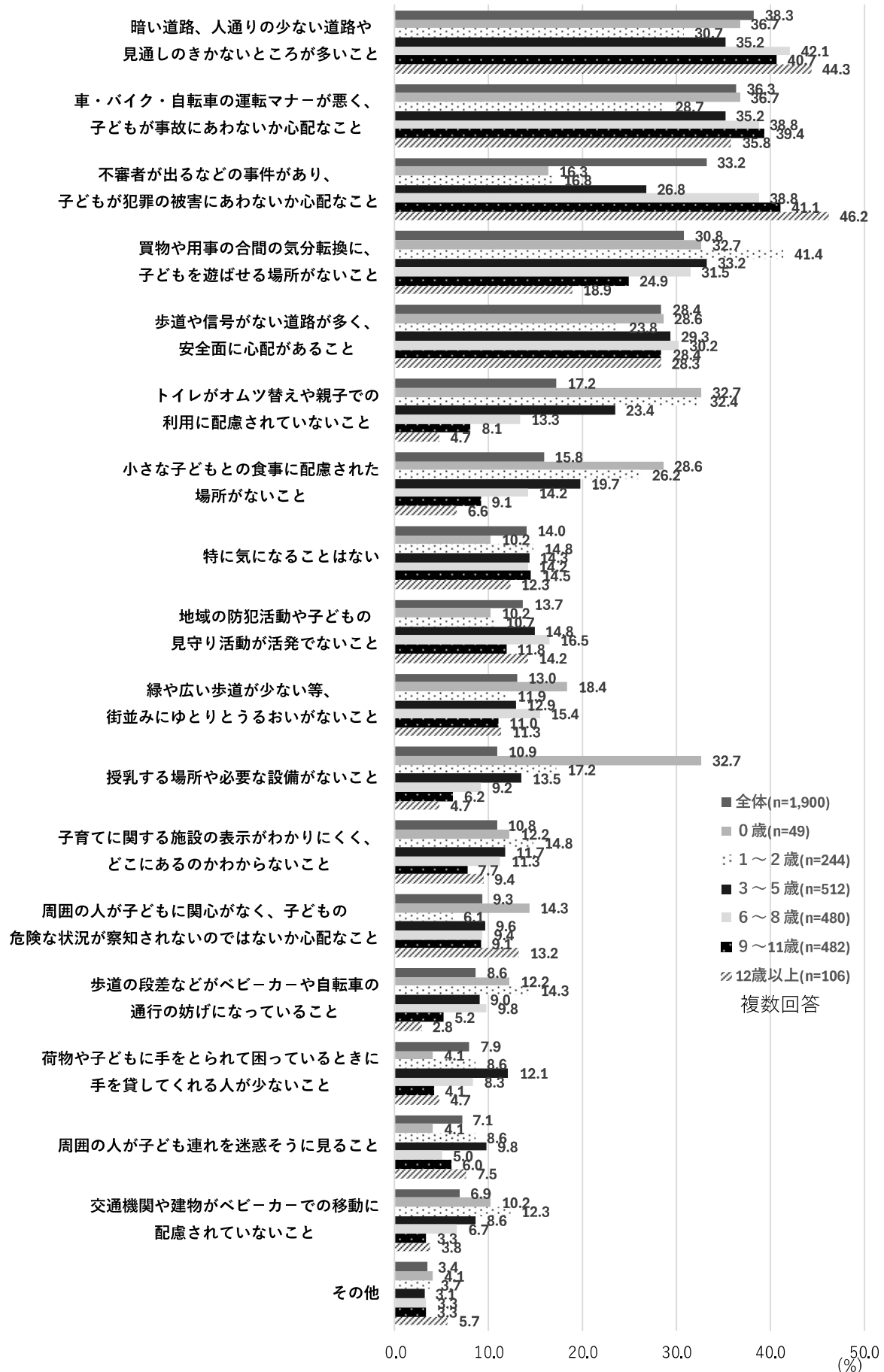
「トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていないこと」、「小さな子どもとの食事に配慮された場所がないこと」、「授乳する場所や必要な設備がないこと」は対象となる子どもの年齢層で 30%近い回答割合を占める。これは、他年齢層よりも高いだけでなく、該当年齢における回答割合では上位に位置する。

上記から、子どもの年齢に応じた、更なる環境整備が求められていると判断できる。

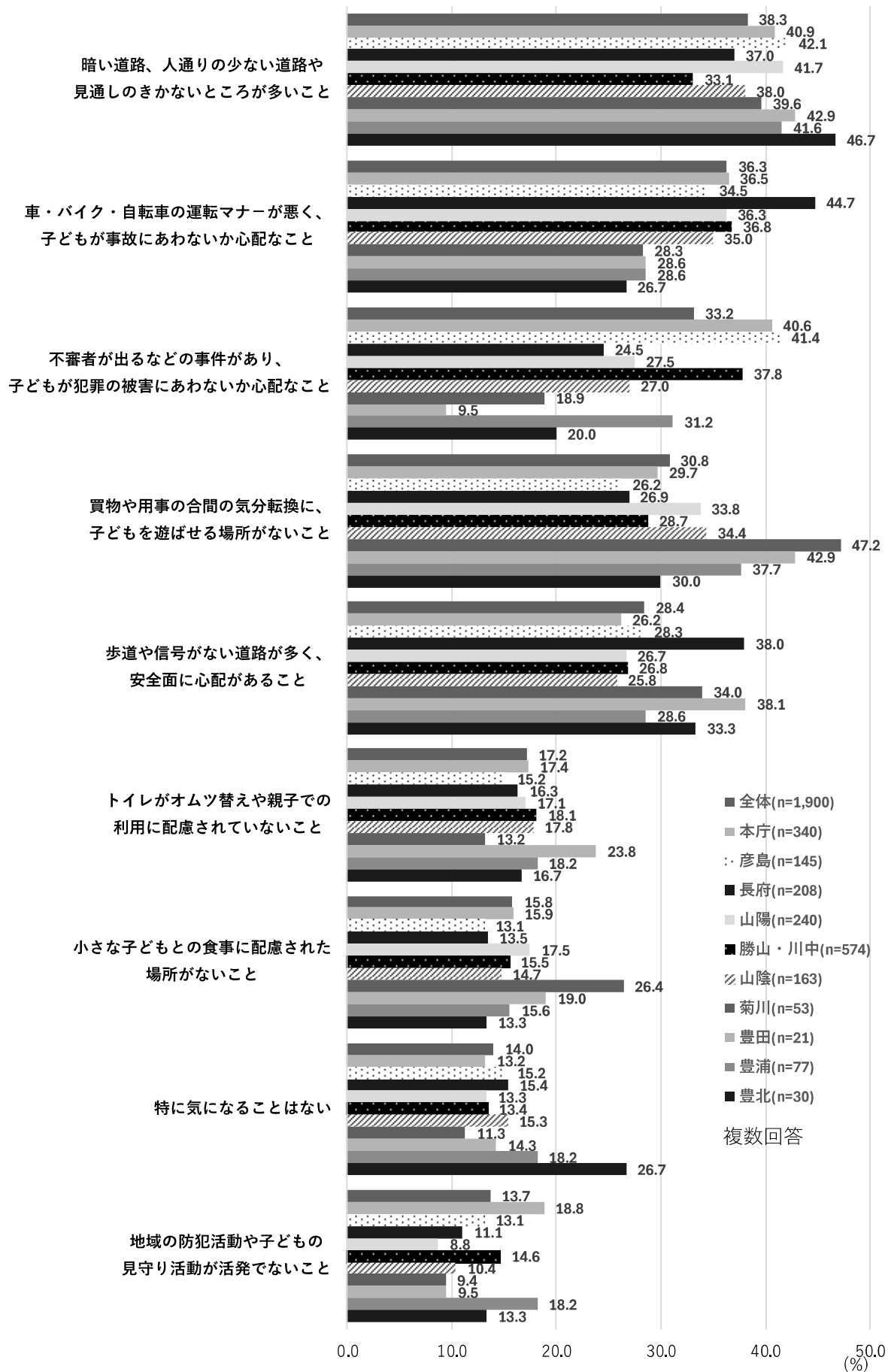
地区別にみると、「買物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がないこと」と回答した割合は菊川や豊田で、「小さな子どもとの食事に配慮された場所がないこと」は菊川で、「授乳する場所や必要な設備がないこと」や「歩道の段差などがベビーカーや自転車の通行の妨げになっていること」は豊田で特に高くなっている。

子育てがしやすいまちの評価別にみると、「特に気になることはない」を除く全ての項目で、子育てがしやすいまちだと思わない層の割合が高くなっている。また、子どもを取り巻く環境に対する満足・不満足と、子育てのしやすいまちの評価に対する満足・不満足の傾向が一致している。このため、子どもを取り巻く環境を充実させることが、子育てのしやすいまちとしての評価を高めると予想される。

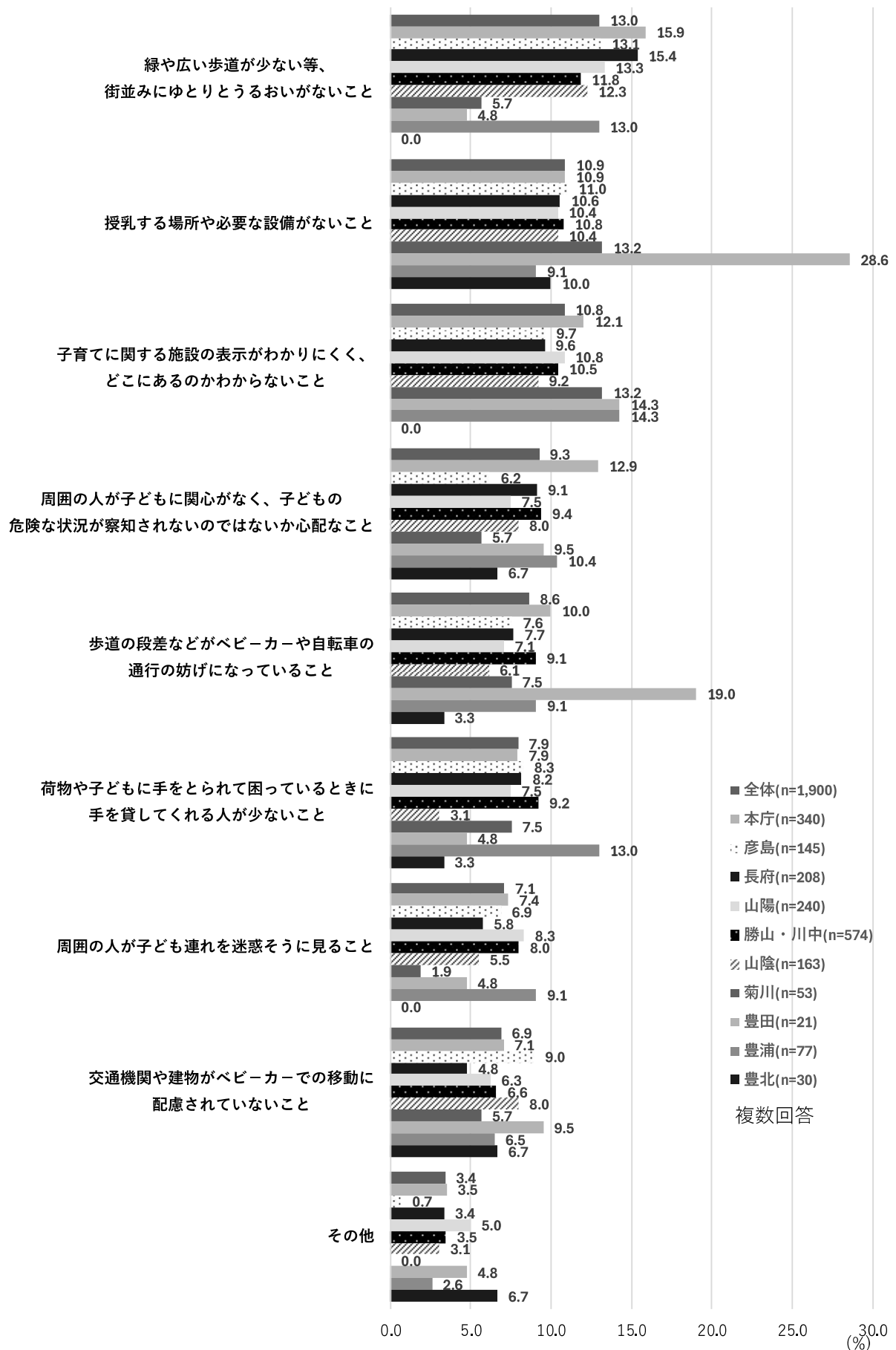
子どもを取り巻く環境について（年齢別）



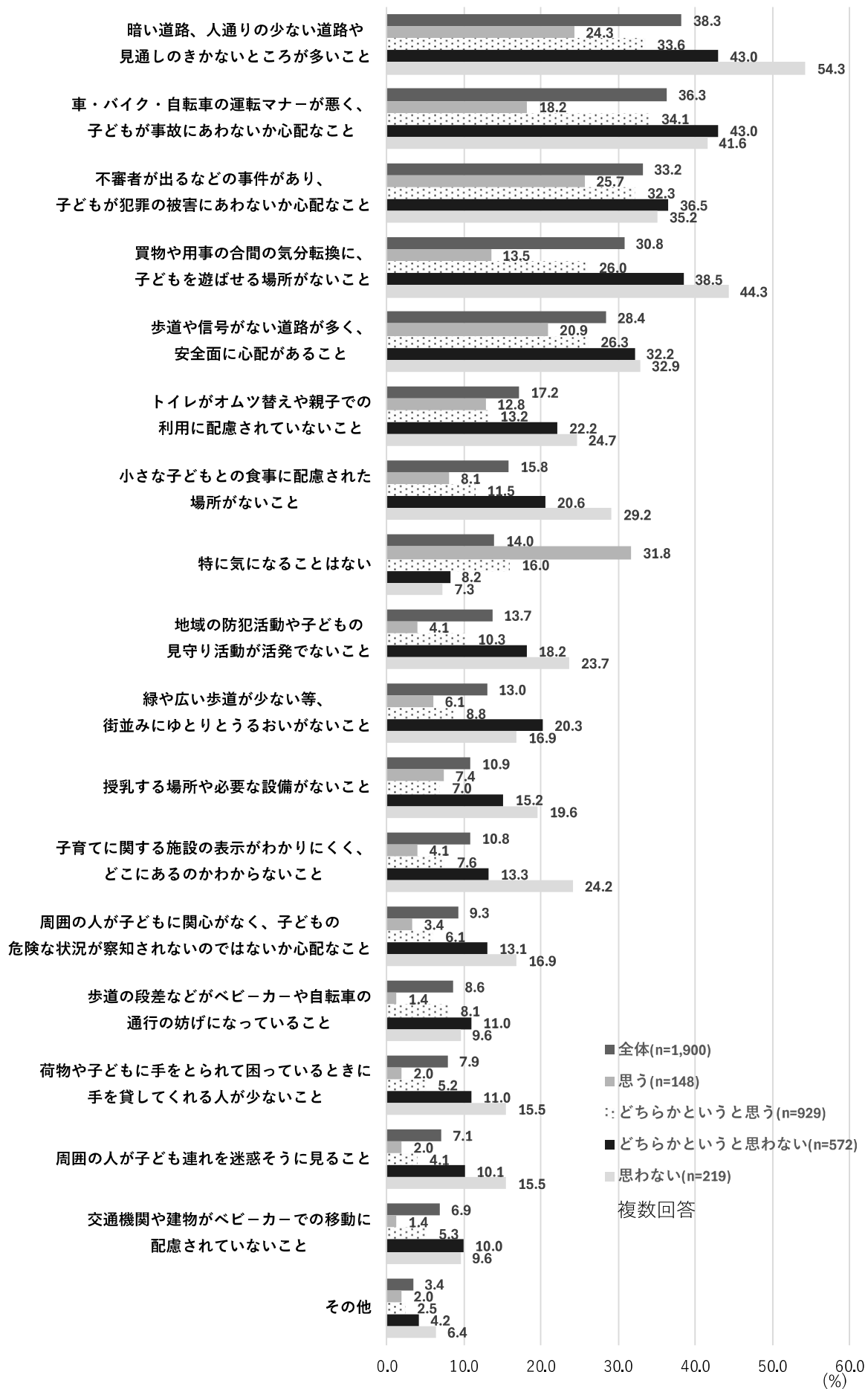
子どもを取り巻く環境について（地区別１）



子どもを取り巻く環境について（地区別２）



子どもを取り巻く環境について（下関市の子育てのしやすさ別）



10 放課後の過ごし方

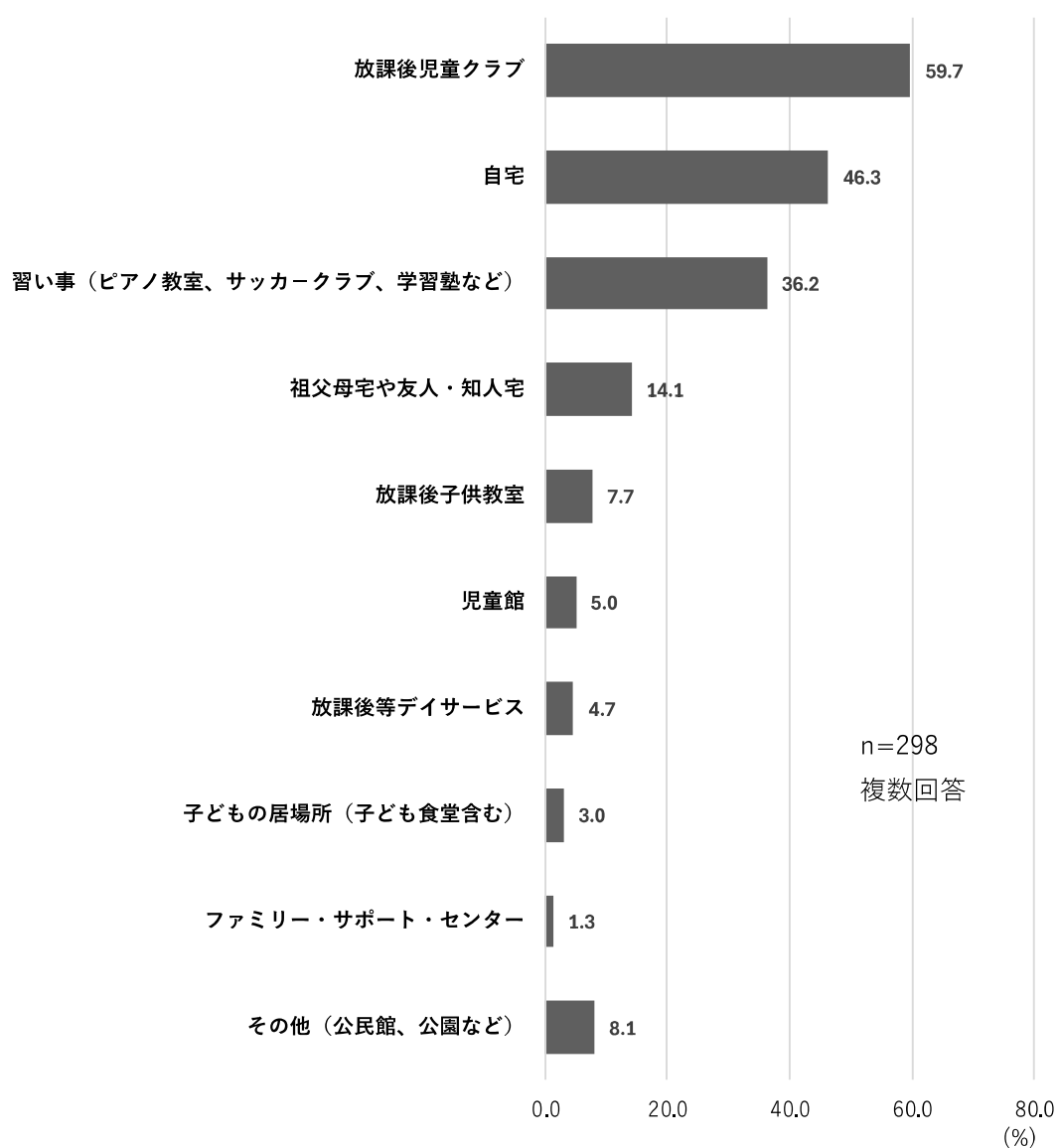
(1) 放課後の過ごし方

あて名の子どもが5歳以上の人のみ回答

問 40 あて名のお子さんについて、小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】

放課後の過ごし方の希望については、「放課後児童クラブ（学童保育）」と回答した割合 59.7%、「自宅」46.3%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」36.2%の上位3項目が4項目目以下を大きく引き離している。

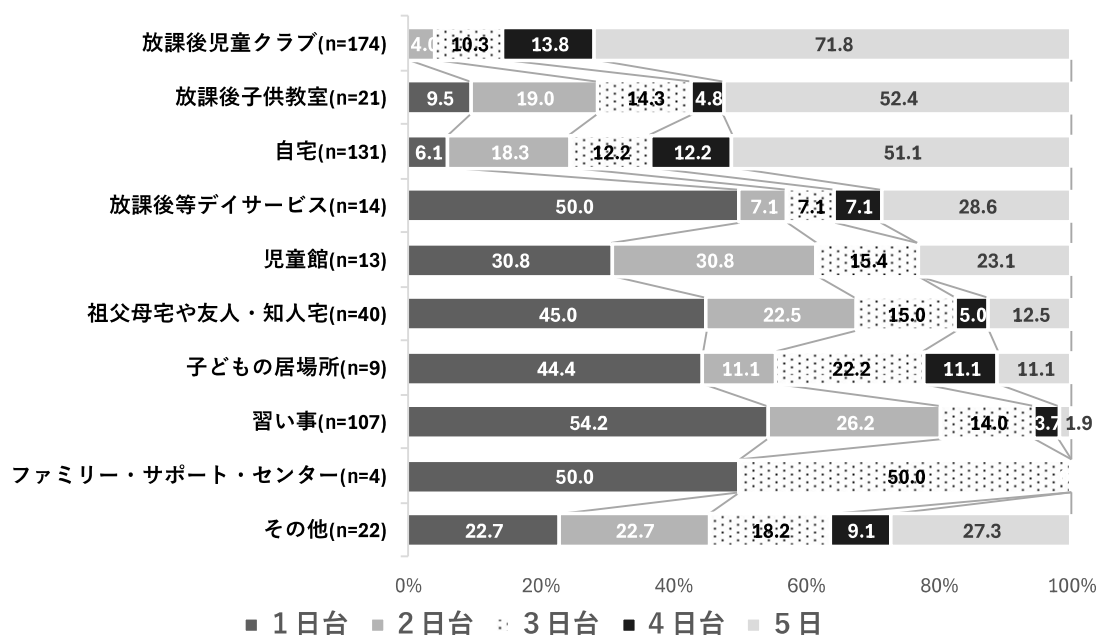
放課後の過ごし方希望



保護者が放課後に過ごさせたい場所の中で、1週間あたり日数が「5日」の回答割合が多いのは「放課後児童クラブ（学童保育）」が71.8%、「放課後子供教室」が52.4%で、両者ともに「自宅」の51.1%を上回っている。

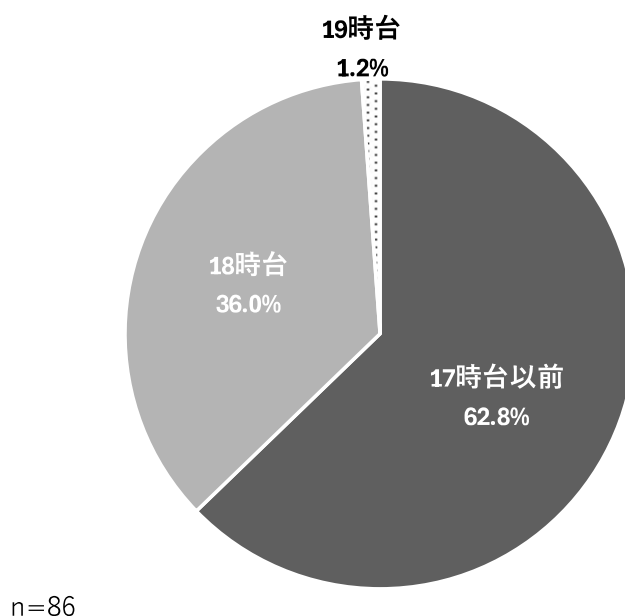
1週間あたり日数が「1日台」の回答割合が多いものとして「習い事（54.2%）」、「放課後等デイサービス（50.0%）」「ファミリー・サポート・センター（50.0%）」が、「1日台」の回答割合が50%を超えている。

放課後に過ごさせたい場所の1週間あたり日数



なお、放課後児童クラブの利用を希望している保護者における利用終了時間については、「17時台以前」と回答した割合が62.8%となっている。

放課後児童クラブ利用希望終了時間



11 仕事と子育ての両立

(1) 育児休業取得状況

問 41 あて名のお子さんが生まれたとき、お母さん、お父さんは育児休業を取得しましたか。
【〇は1つ】

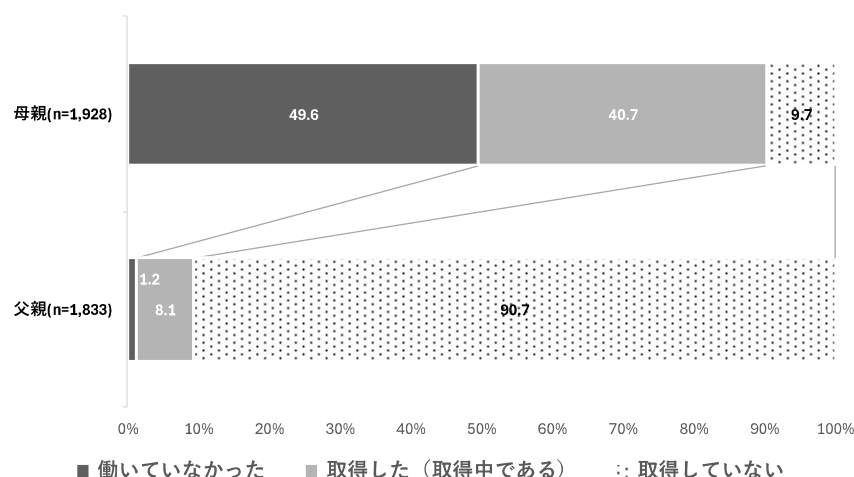
育児休業取得状況（働いていなかった人を含む）については、母親の「取得した（取得中である）」と回答した割合が 40.7%、父親の「取得した（取得中である）」と回答した割合が 8.1%となっている。母親については、「取得した（取得中である）」と回答した割合が、働いていた人でみると 80.7%を占めている。

母親の育児休業取得状況（「働いていなかった」を除く）を年齢別にみると、「取得した（取得中である）」と回答した割合は0歳で高くなっており、年齢が上がるにつれて低くなっている。

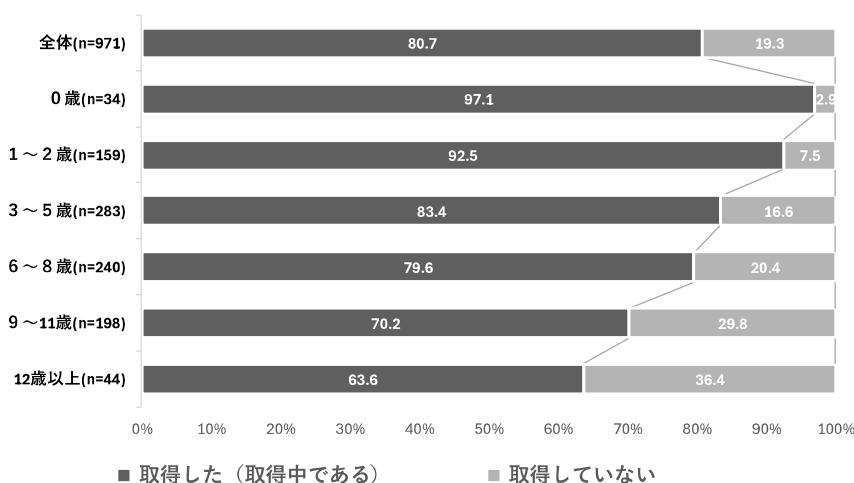
ひとり親世帯か両親世帯かで比較を行ったところ、ひとり親世帯では「取得した（取得中である）」と回答した割合が両親世帯を 10 ポイント程度下回っている。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層では「取得した（取得中である）」と回答した割合が他の層を 20 ポイント超下回っている。

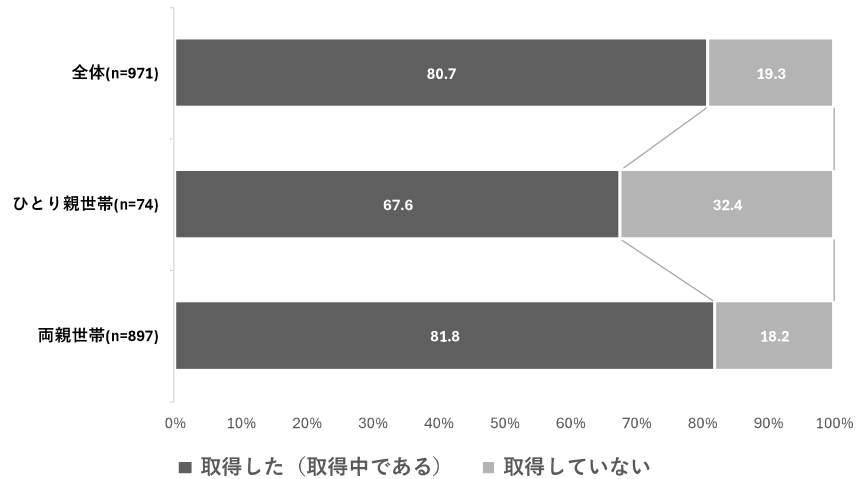
育児休業取得状況



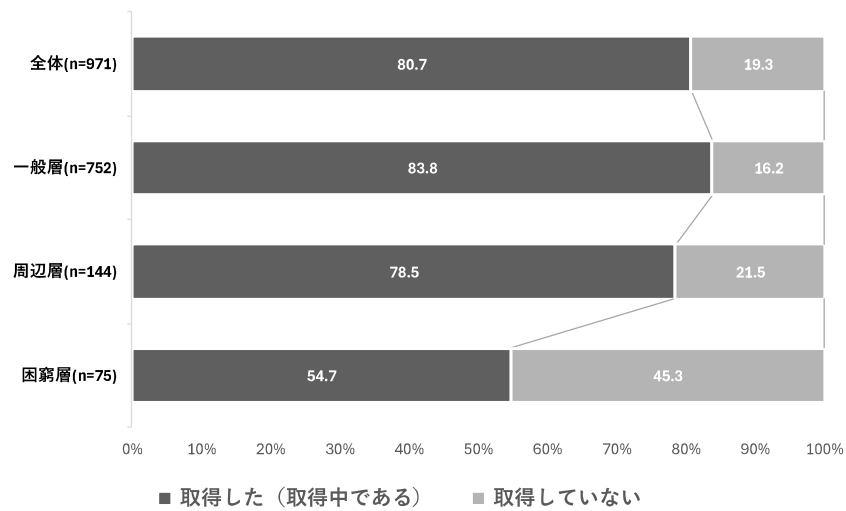
母親の育児休業（就業者のみ：年齢別）



母親の育児休業（就業者のみ：世帯の状況別）

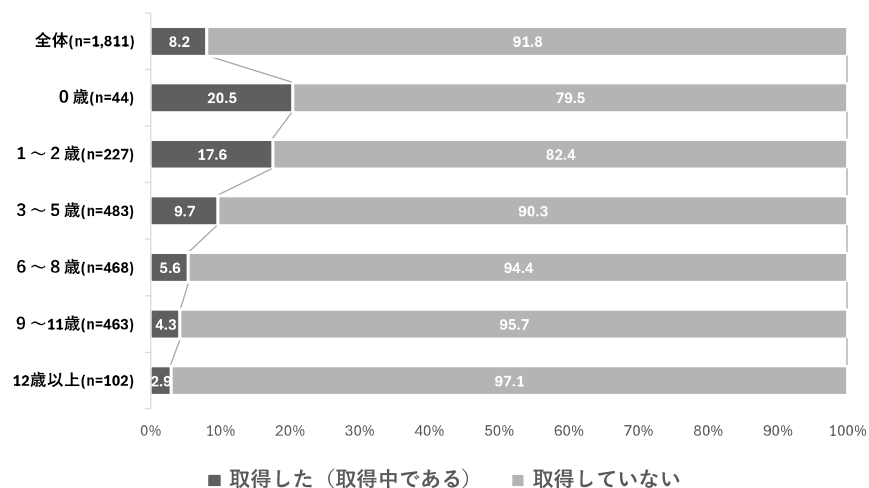


母親の育児休業（就業者のみ：生活困難度別）



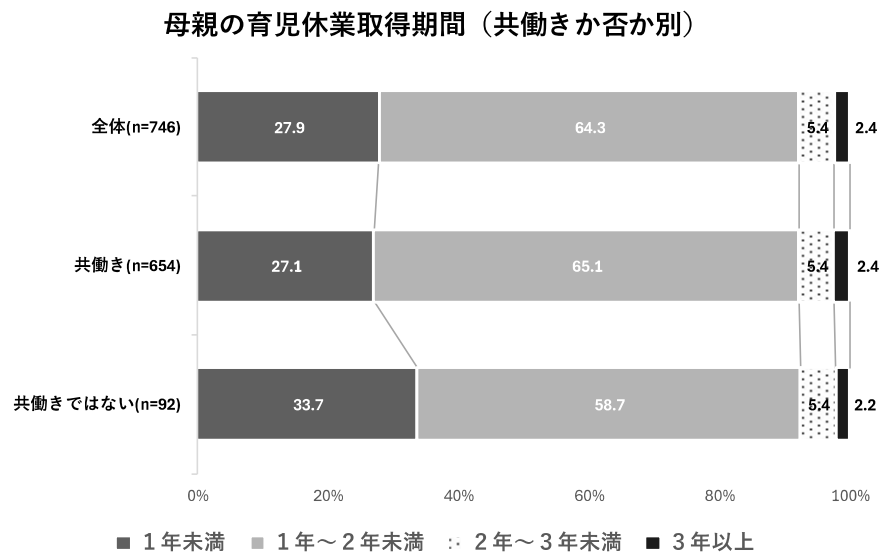
父親の育児休業取得状況（「働いていなかった」を除く）を年齢別にみると、「取得した（取得中である）」と回答した割合は0歳で高くなっており、年齢が上がるにつれて低くなっている。

父親の育児休業（就業者のみ：年齢別）

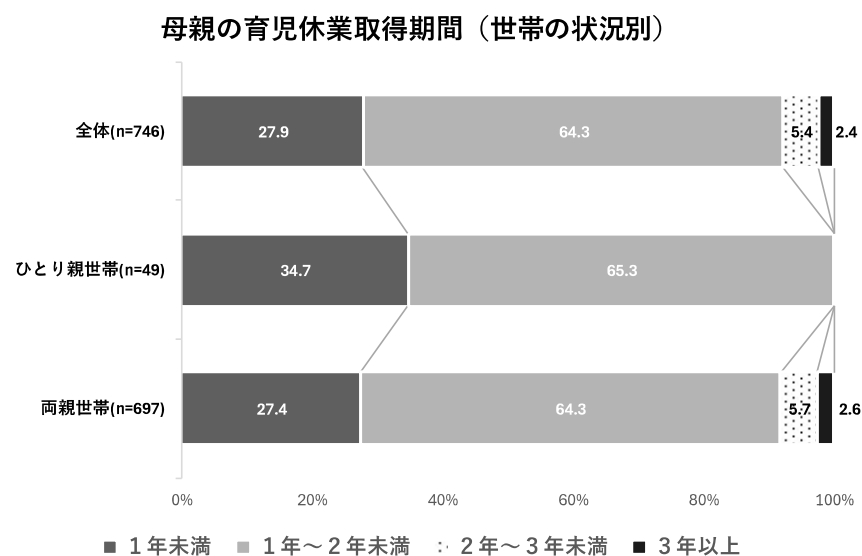


母親の育児休業取得期間については、「1年～2年未満」と回答した割合が64.3%と最も高く、次いで「1年未満」が27.9%となっている。

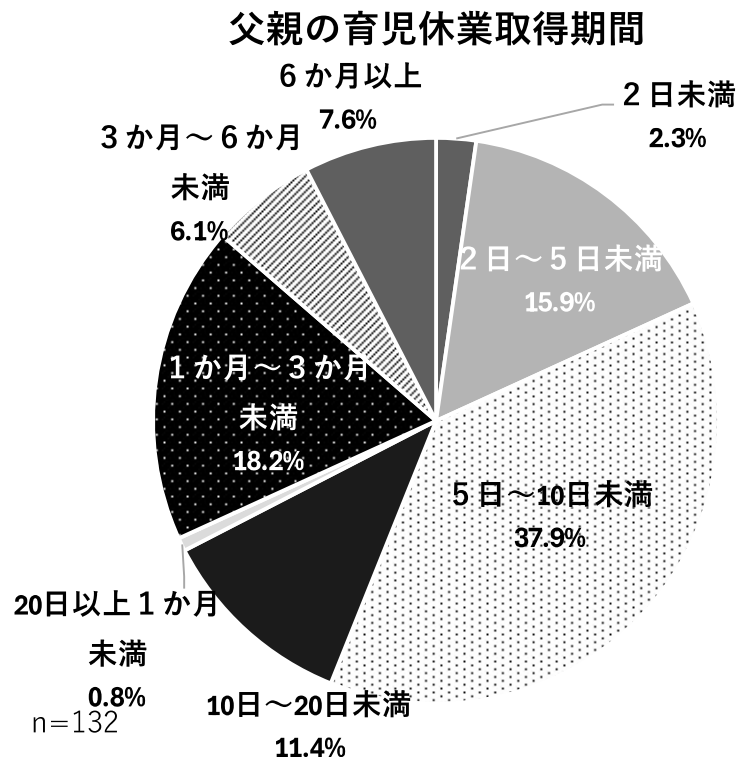
取得期間について、共働き世帯か否かで比較を行ったところ、1年以上と回答した割合は、共働き世帯において72.9%と、そうでない世帯よりも高くなっている。



一方、ひとり親世帯か両親世帯かで比較を行ったところ、1年以上と回答した割合は、両親世帯において72.6%と、ひとり親世帯よりも高くなっている。



父親の育児休業取得期間については、「5日～10日未満」と回答した割合が37.9%と最も高く、次いで「1か月～3か月未満」が18.2%、「2日～5日未満」が15.9%となっている。

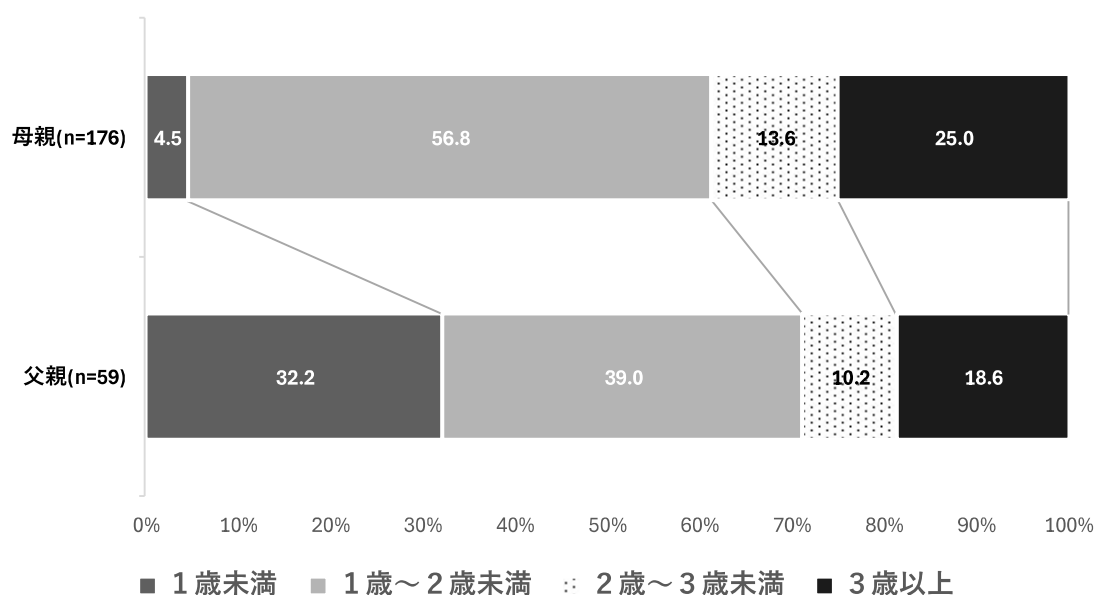


問 41 で育児休業の取得期間が1年未満の人のみ回答

問 41-1 仕事へ復帰する際に、あて名のお子さんが保育園等に必ず入ることができるならば、お子さんが何歳になるまで取得したかった（したい）ですか。

子どもが保育園等に入れる場合の、育児休業の希望取得期間については、母親は「1～2歳未満」と回答した割合が56.8%と最も高く、次いで「3歳以上」が25.0%となっている。また、父親に関しては「1～2歳未満」と回答した割合が39.0%と最も高く、次いで「1歳未満」が32.2%となっている。

保育園等に入れる場合の
育児休業を取得する子どもの年齢上限



(2) 父親の家事や育児への参加状況

子どもの父親について母親が回答、母親がいない場合は父親が回答

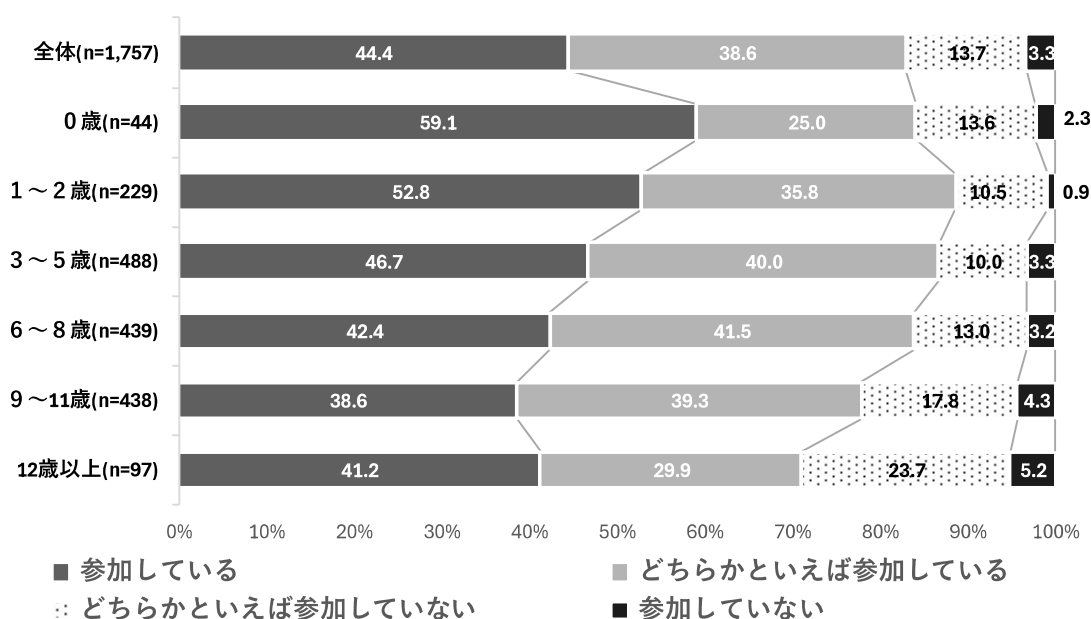
問 42 お父さんは家事や育児に参加していますか。【○は1つ】

父親の家事や育児への参加状況については、『参加している』（「参加している」＋「どちらかといえば参加している」）と回答した割合が 83.0%となっている。

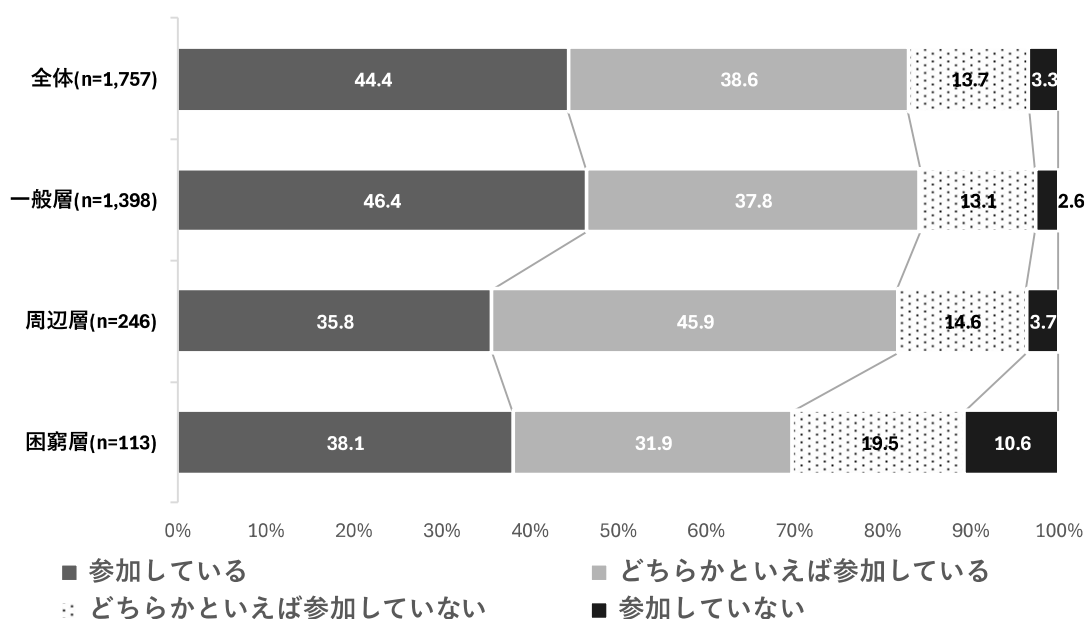
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて『参加している』との回答割合が低くなっている。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層では『参加している』と回答した割合が 70.0%と他の層を下回っている。

父親の家事・育児参加（年齢別）



父親の家事・育児参加（生活困難度別）



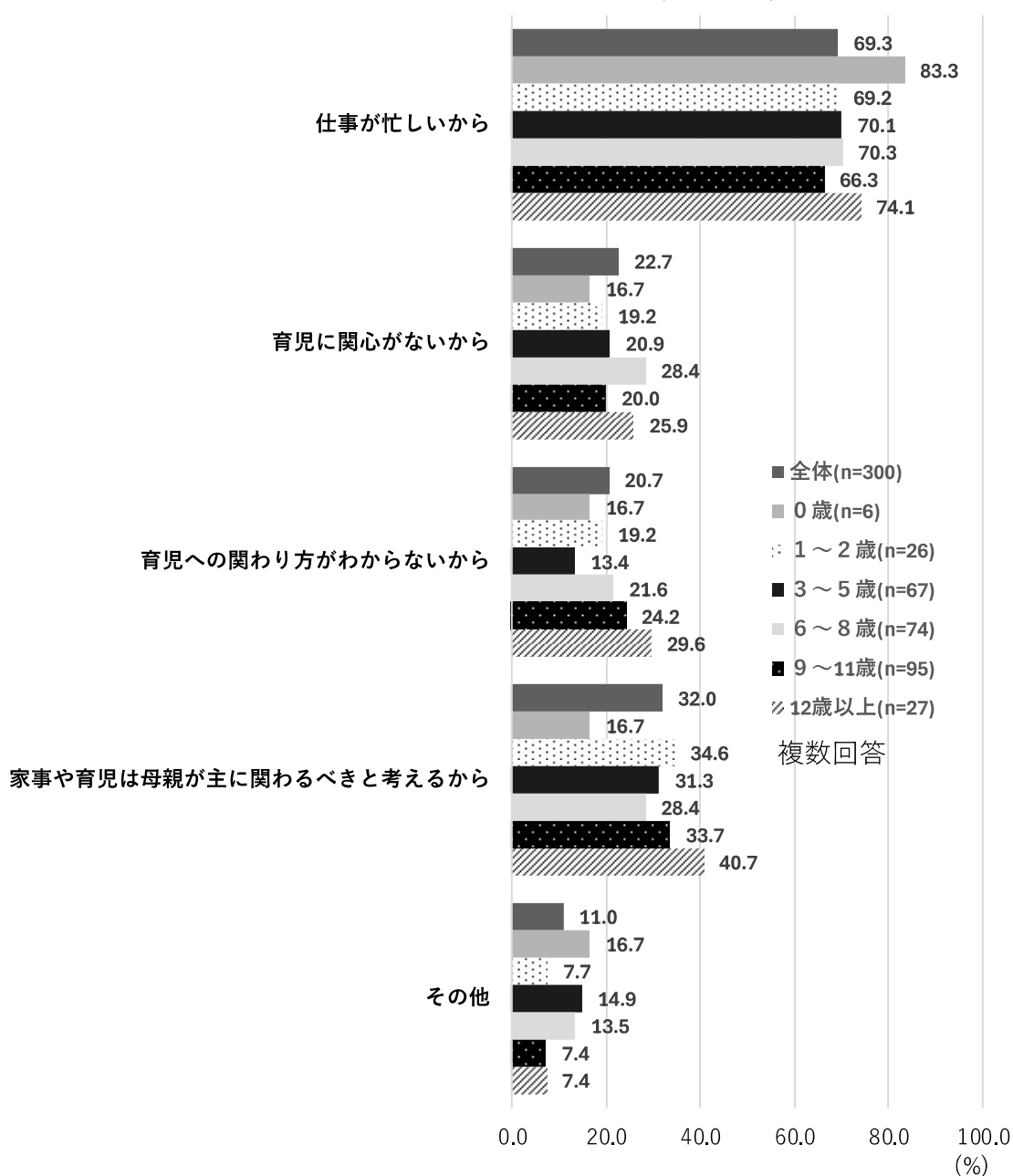
問 42 で「3」または「4」と回答した人のみ回答

問 42-1 参加していないのはなぜですか。【あてはまるもの全てに○】

家事や育児に参加していない理由については、「仕事が忙しいから」と回答した割合が 69.3%と最も高く、次いで「育児に関心がないから」が 22.7%、「育児への関わり方がわからないから」が 20.7%となっている。

年齢別にみると、「仕事が忙しいから」と回答した割合はいずれの年齢においても最も高くなっている。

父親家事・育児不参加理由（年齢別）

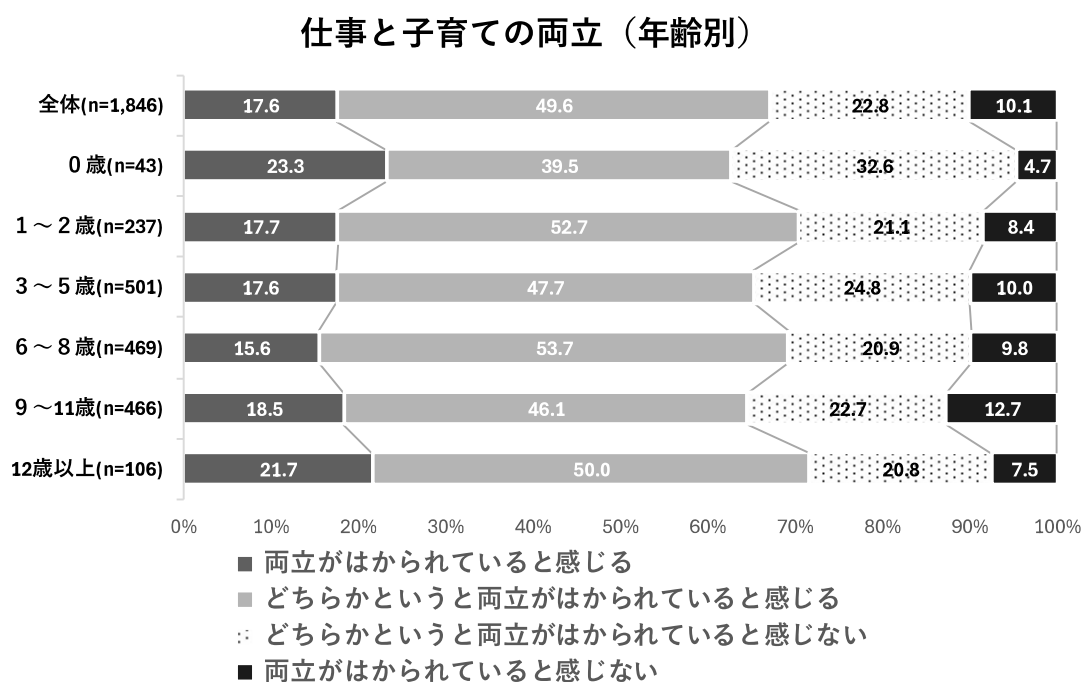


(3) 仕事と子育ての両立の状況

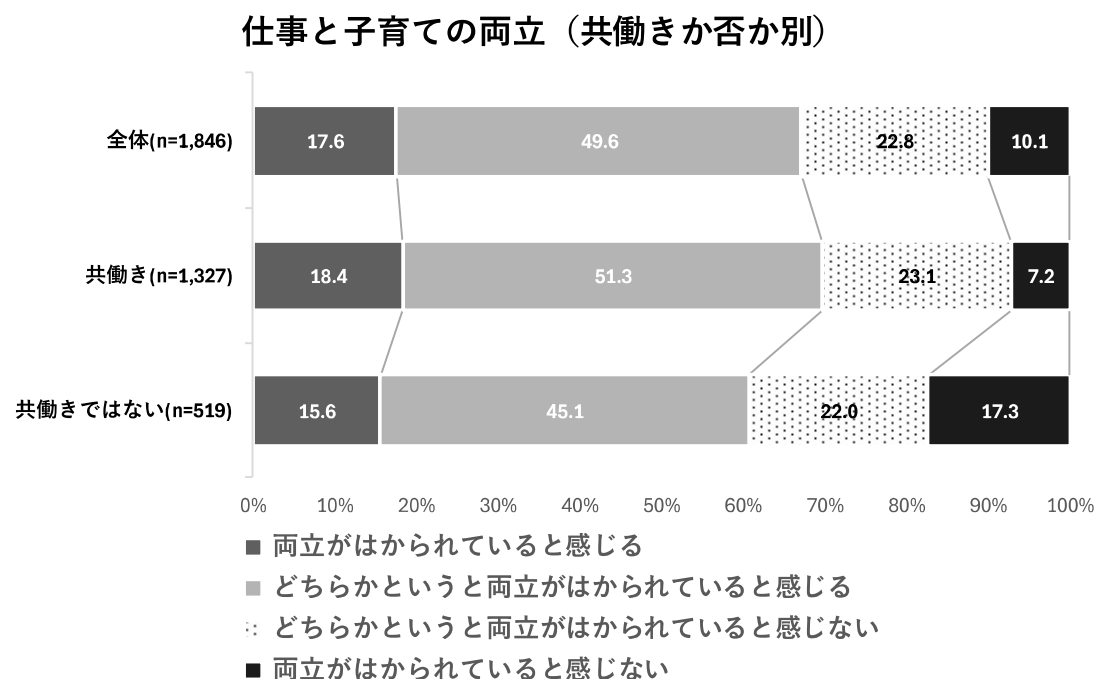
問 43 仕事と子育ての両立がはかられていると感じますか。【〇は1つ】

仕事と子育ての両立の状況については、『両立がはかられていると感じる』（「両立がはかられていると感じる」＋「どちらかという両立がはかられていると感じる」）と回答した割合が 67.2%となっている。

年齢別にみると、大きな差はみられない。

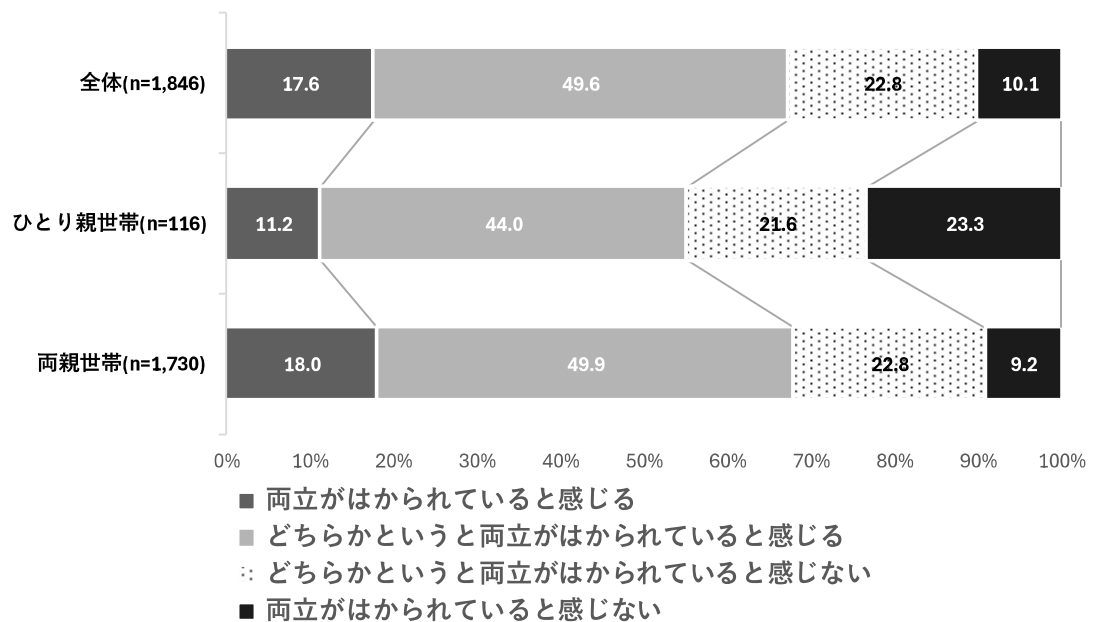


両親の共働きの状況別にみると、『両立がはかられていると感じる』と回答した割合は共働きの家庭で高くなっている。



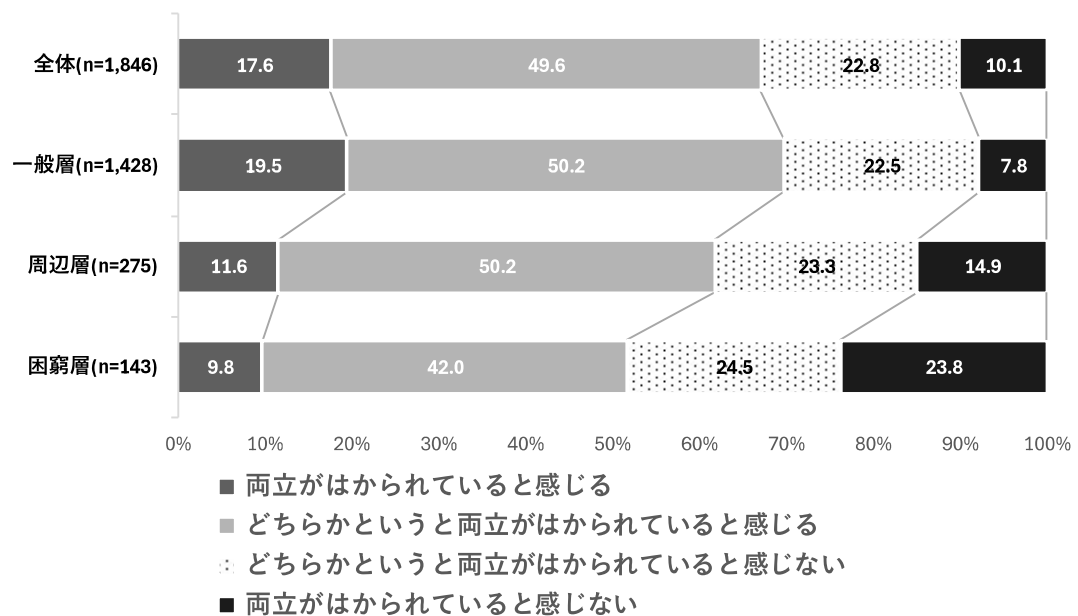
一方、ひとり親世帯か両親世帯かで比較を行ったところ、ひとり親世帯では『両立がはかられていると感じる』と回答した割合が 55.2%と、両親世帯を 10 ポイント超下回っている。

仕事と子育ての両立（世帯の状況別）



生活困難層に係る分類でみると、困窮層では『両立がはかられていると感じる』と回答した割合が 51.8%と他の層を下回っている。

仕事と子育ての両立（生活困難度別）



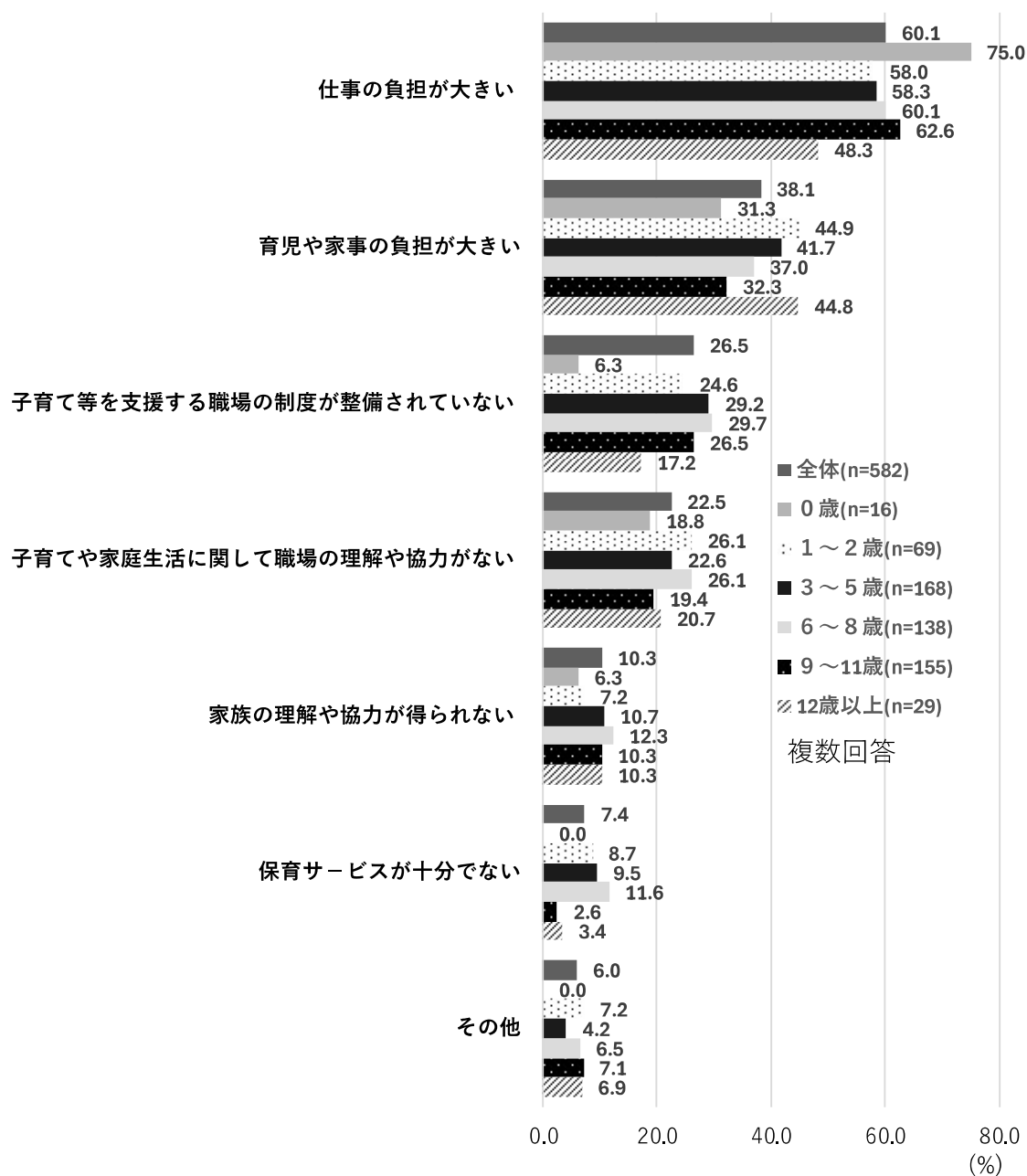
問 43 で「3」または「4」と回答した人のみ回答

問 43-1 両立がはかられていないと感じるのはどのような理由ですか。【〇は3つまで】

仕事と子育ての両立がはかられていないと感じる理由については、「仕事の負担が大きい」と回答した割合が 60.1%と最も高く、次いで「育児や家事の負担が大きい」が 38.1%、「子育て等を支援する職場の制度が整備されていない」が 26.5%となっている。

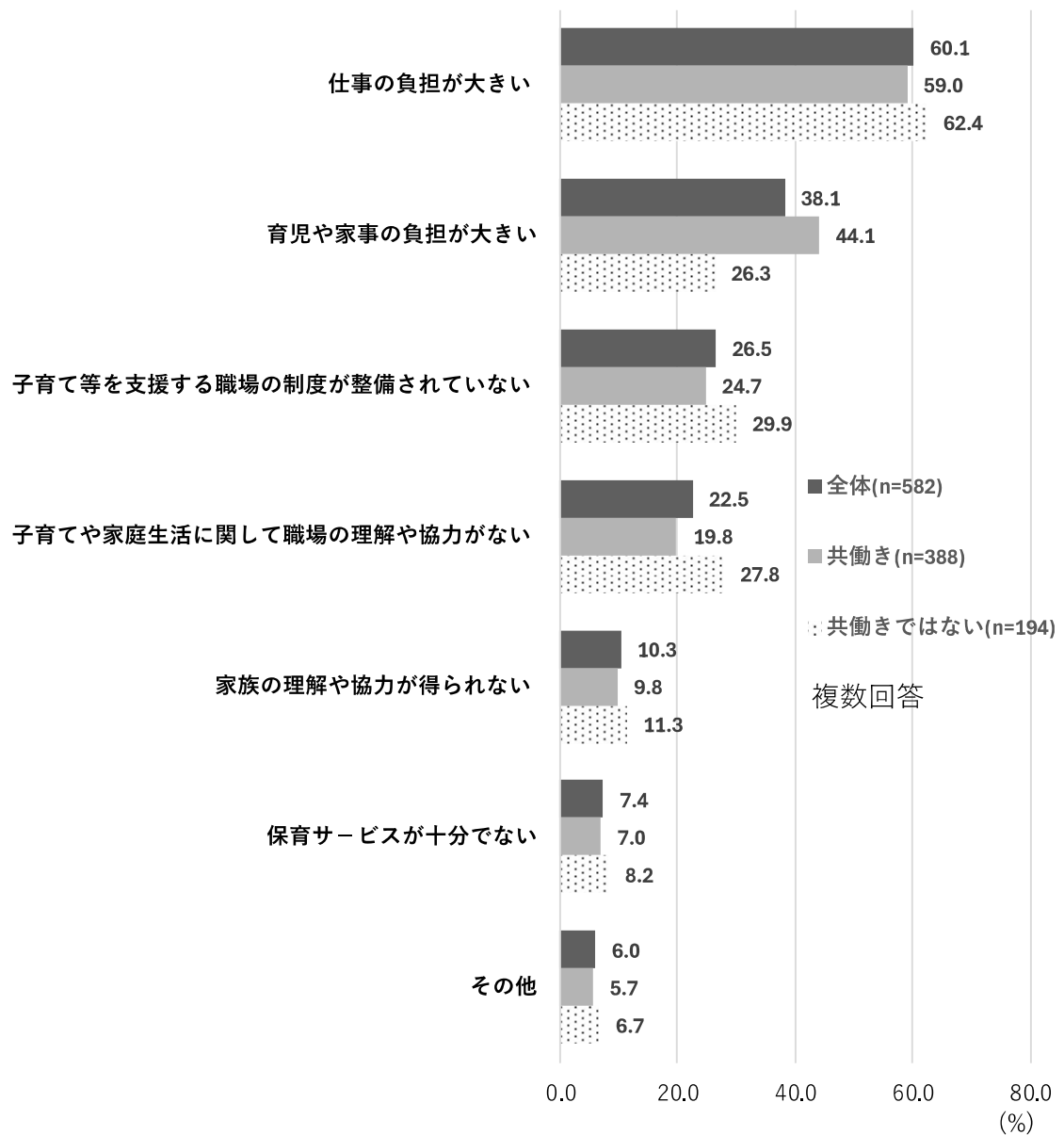
年齢別にみると、「仕事の負担が大きい」と回答した割合は、12 歳以上を除くと 50%を超えている。

仕事と子育ての両立がはかられていない理由（年齢別）



両親の共働きの状況別にみると、共働き世帯では「育児や家事の負担が大きい」と回答した割合が共働きではない世帯を 15 ポイント超上回っている一方、共働きではない世帯では「子育てや家庭生活に関して職場の理解や協力ががない」が 27.8%と、共働き世帯を 10 ポイント近く上回っている。

仕事と子育ての両立がはかられていない理由 (共働きか否か別)



12 子どもの生活や学びなど

(1) 子どもの健康状態

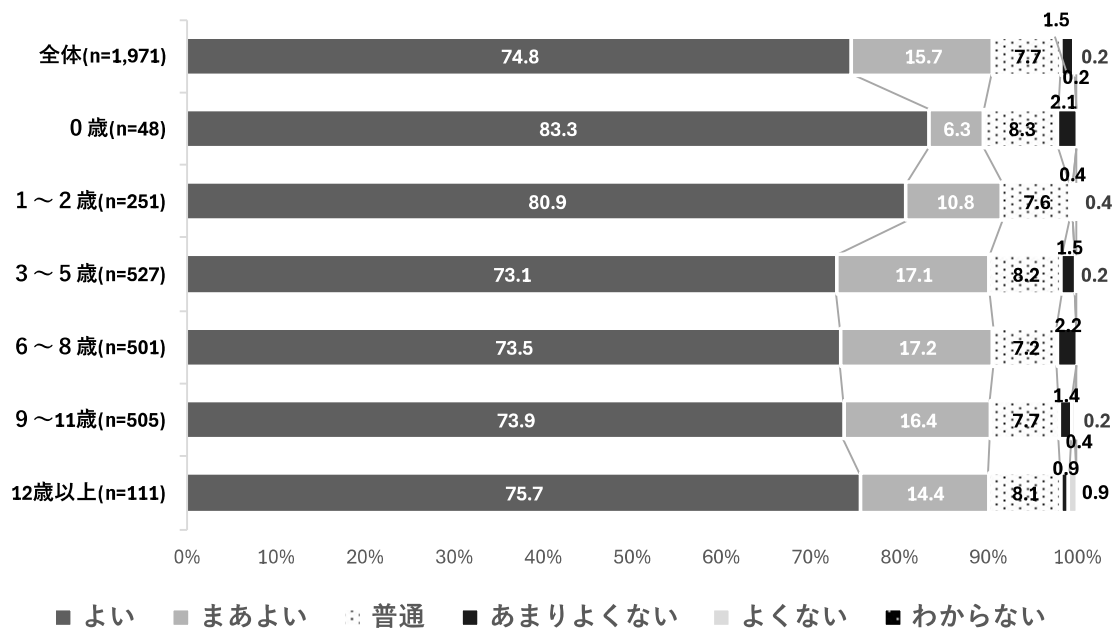
問 44 あて名のお子さんの現在の健康状態はいかがですか。【〇は1つ】

子どもの健康状態については、『よい』（「よい」＋「まあよい」）と回答した割合が 90.5% となっている。

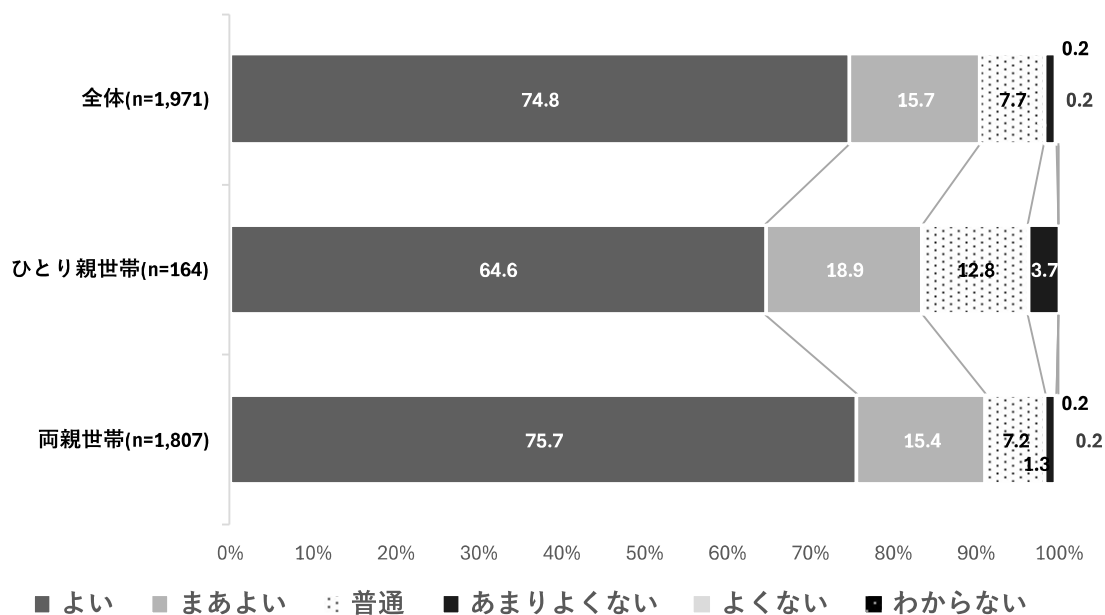
年齢別にみると、大きな差はみられない。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯における『よい』との回答割合が 83.5%と、両親世帯よりも8ポイント程度低くなっている。

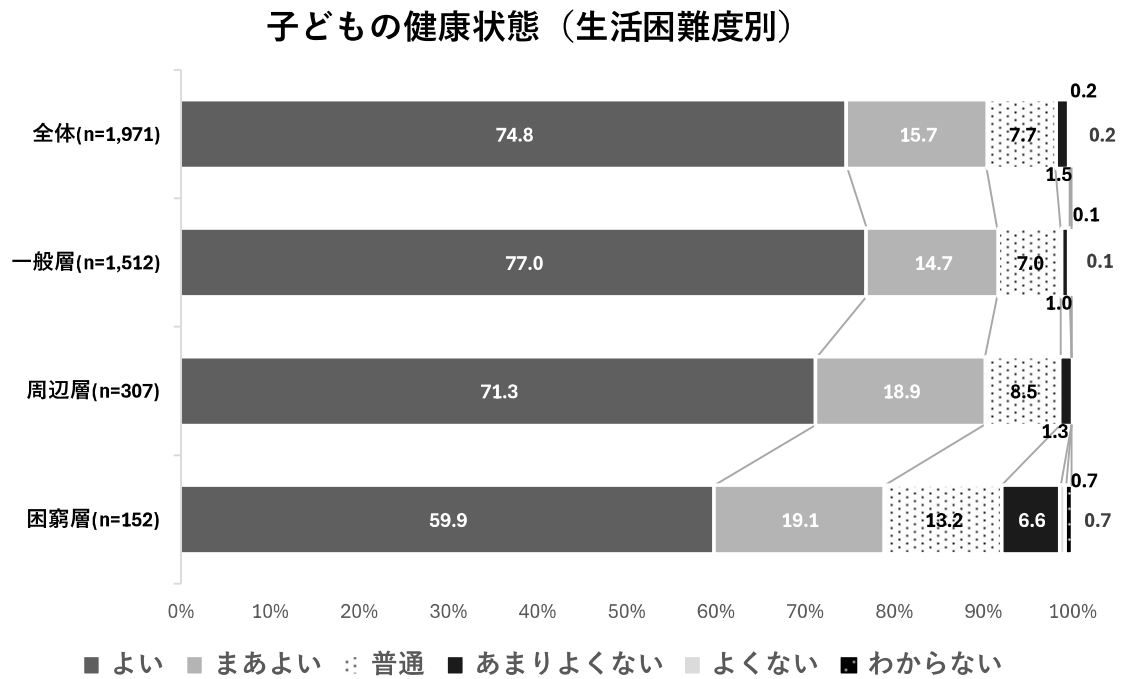
子どもの健康状態（年齢別）



子どもの健康状態（世帯の状況別）



生活困難層に係る分類でみると、困窮層では『よい』との回答割合が 79.0%と、他の層を 10 ポイント程度下回っている。



(2) 子どもの起床・就寝時間

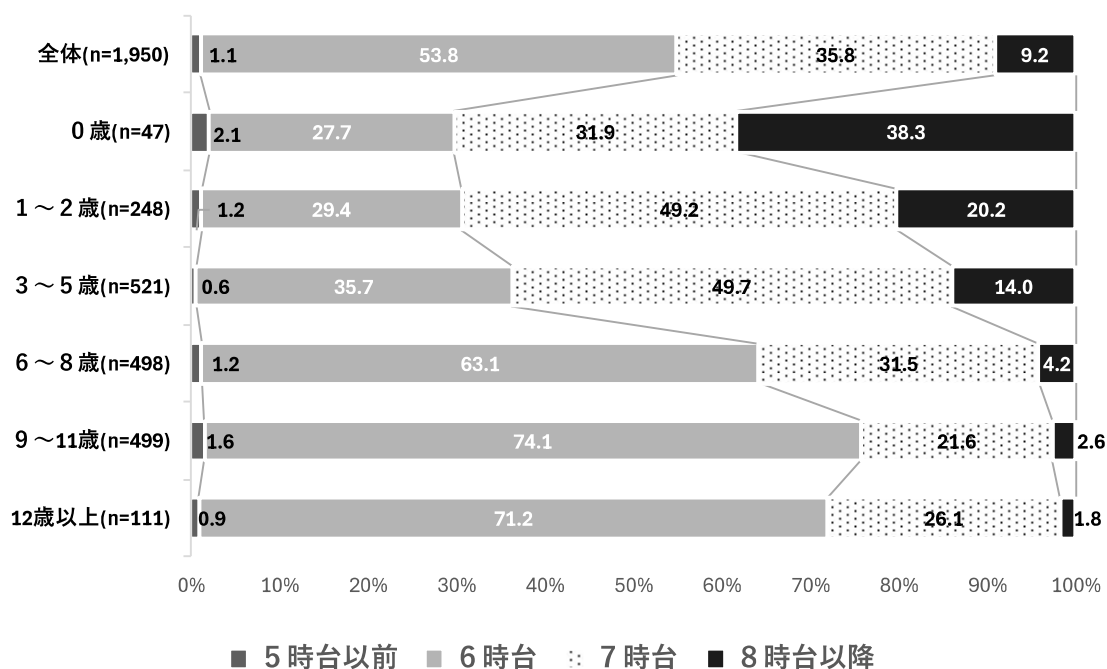
問 45 あて名のお子さんの、ふだん（月曜日～金曜日）の起床時間・就寝時間をお答えください。

子どもの起床時間については、「6 時台」と回答した割合が 53.8%、「7 時台」が 35.8%となっている。

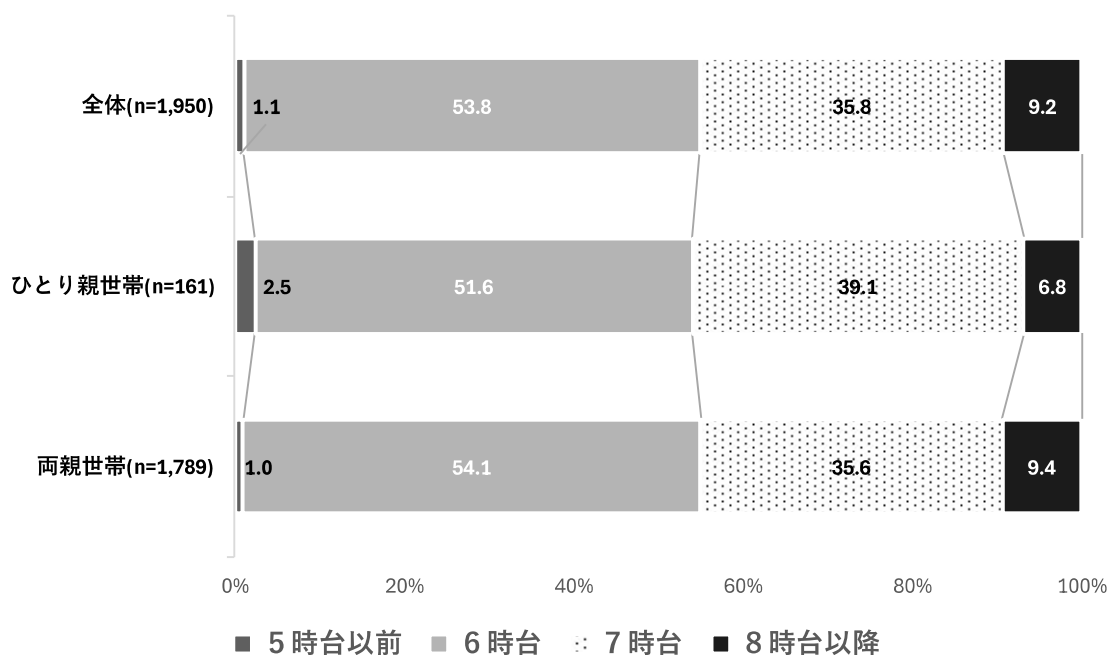
年齢別にみると、年齢が低いほど起床時間が遅くなっている。

世帯の状況別にみると、大きな差はみられない。

子どもの起床時間（年齢別）

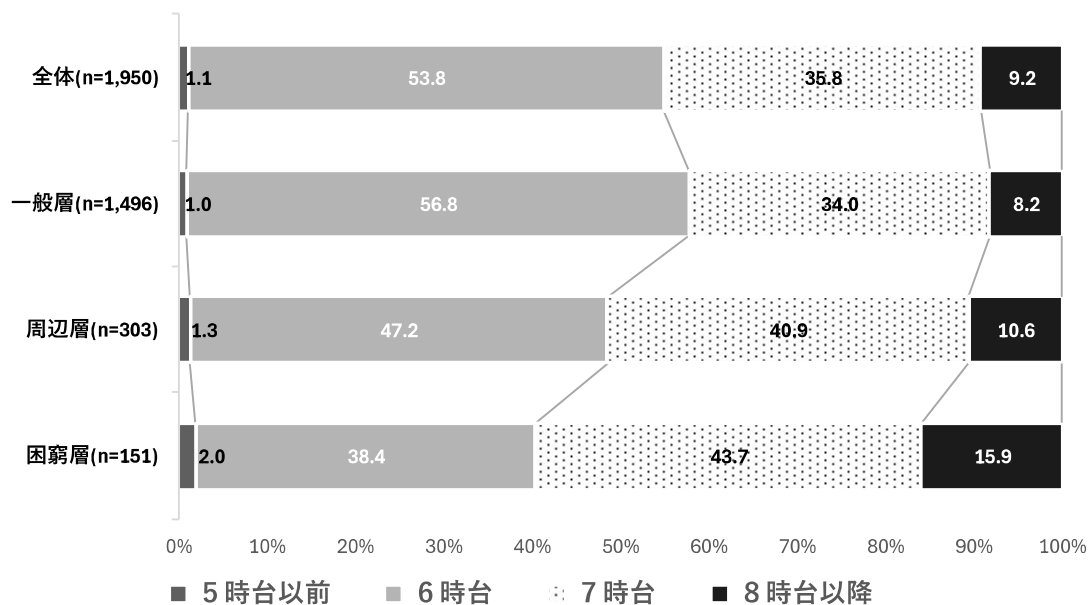


子どもの起床時間（世帯の状況別）



生活困難層に係る分類でみると、一般層よりも周辺層、周辺層よりも困窮層の方が、起床時間が遅い傾向にある。

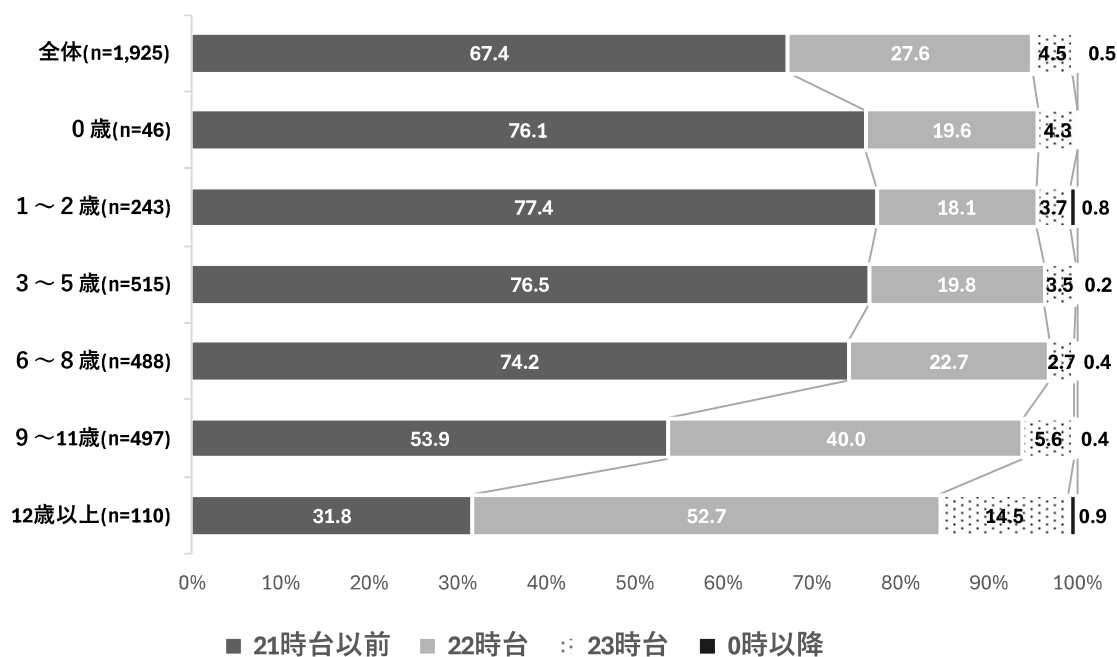
子どもの起床時間（生活困難度別）



子どもの就寝時間については、「21 時台以前」と回答した割合が 67.4%、「22 時台」が 27.6%となっている。

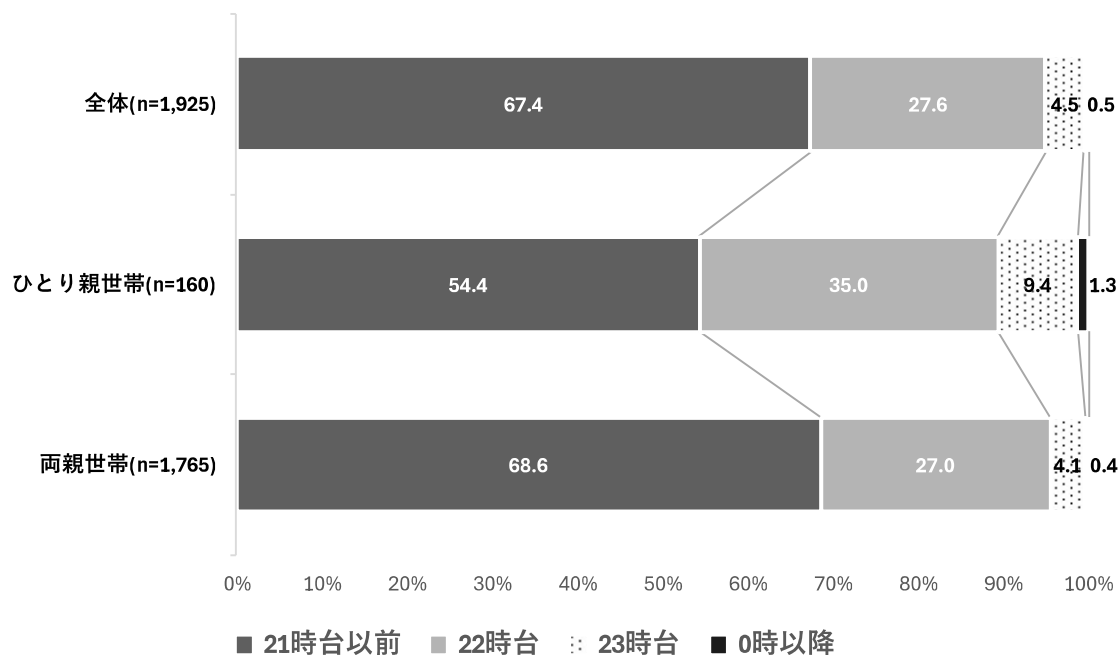
年齢別にみると、年齢が高いほど就寝時間が遅くなっている。

子どもの就寝時間（年齢別）



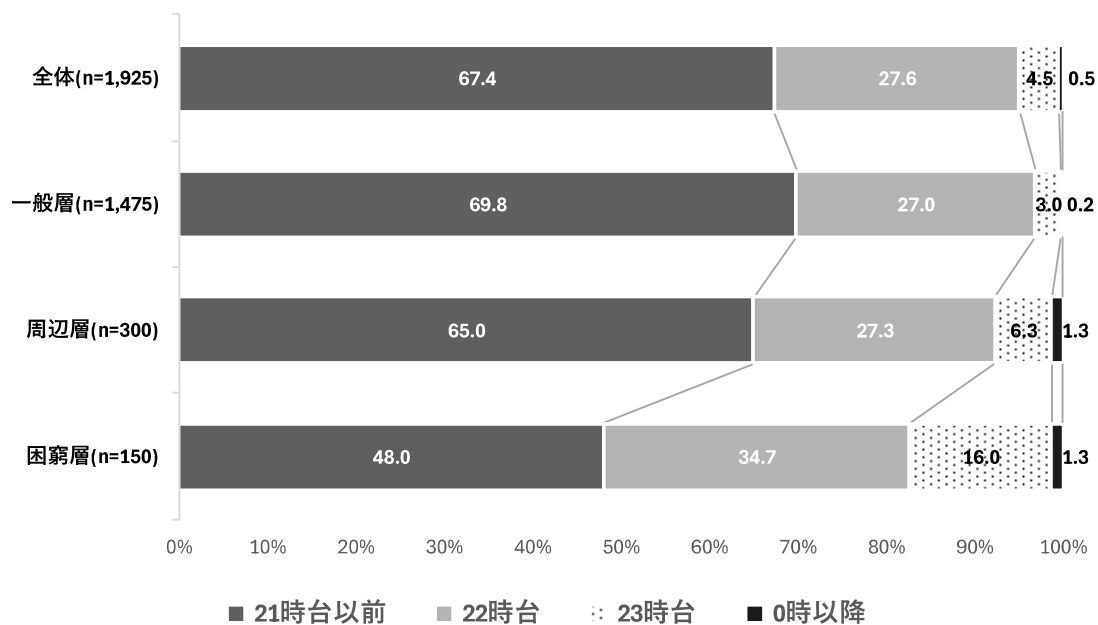
世帯の状況別にみると、ひとり親世帯の方が両親世帯よりも就寝時間が遅くなっている。

子どもの就寝時間（世帯の状況別）



生活困難層に係る分類でみると、一般層よりも周辺層、周辺層よりも困窮層の方が、就寝時間が遅い傾向にある。

子どもの就寝時間（生活困難度別）



(3) 子どもの生活習慣

問 46 次の項目について、あて名のお子さんの生活習慣をお答えください。【○はそれぞれ1つ】

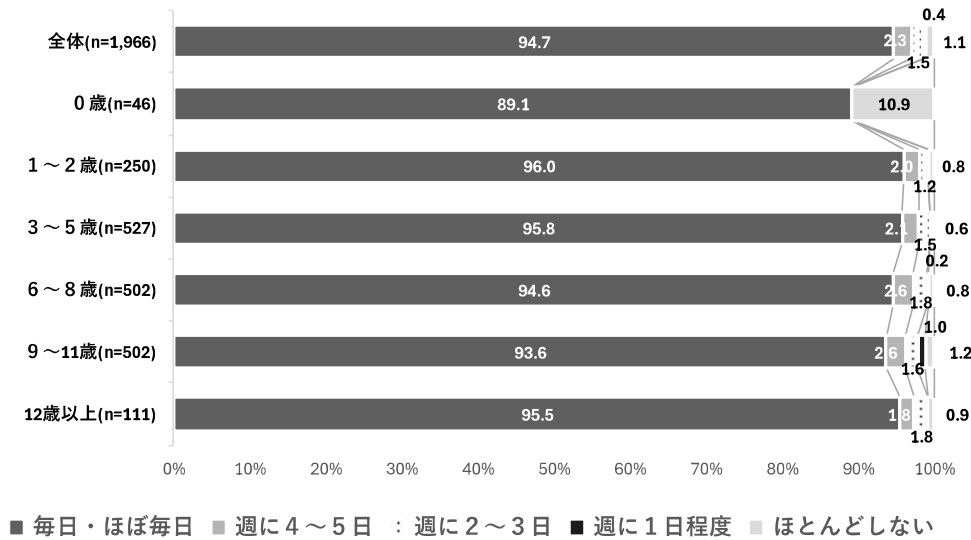
子どもの生活習慣について、“朝ごはんを食べる”、“晩ごはんを食べる”、“お風呂に入る”、“歯磨きをする”の4項目の状況を尋ねたところ、「毎日・ほぼ毎日」と回答した割合がいずれも90%を超えている。

年齢別にみると、大きな差はみられない。

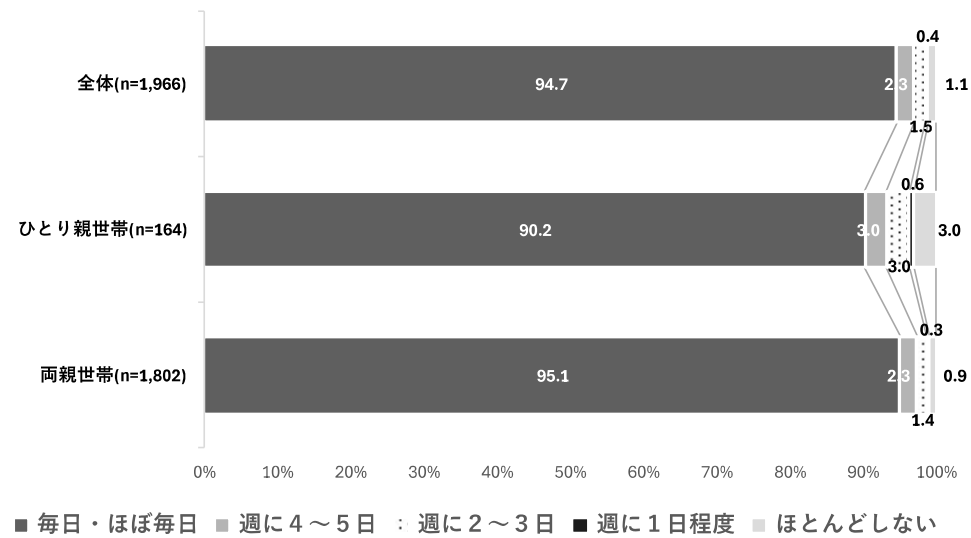
世帯の状況別にみると、ひとり親世帯における「毎日・ほぼ毎日」との回答割合が、“晩ごはんを食べる”以外で両親世帯を下回っている。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層において、いずれの項目も「毎日・ほぼ毎日」以外の回答割合が他の層よりも高くなっている。特に“朝ごはんを食べる”と“歯磨きをする”で違いが顕著である。

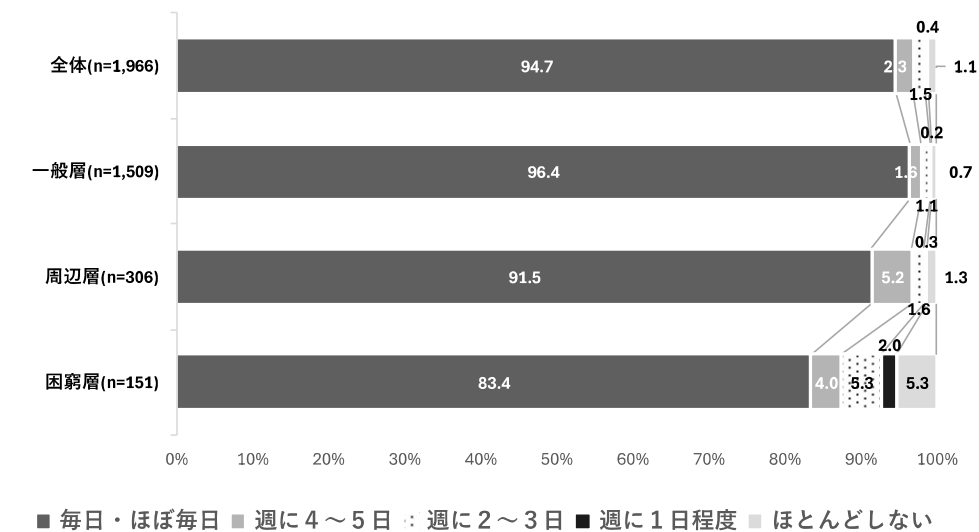
朝ごはんを食べる（年齢別）



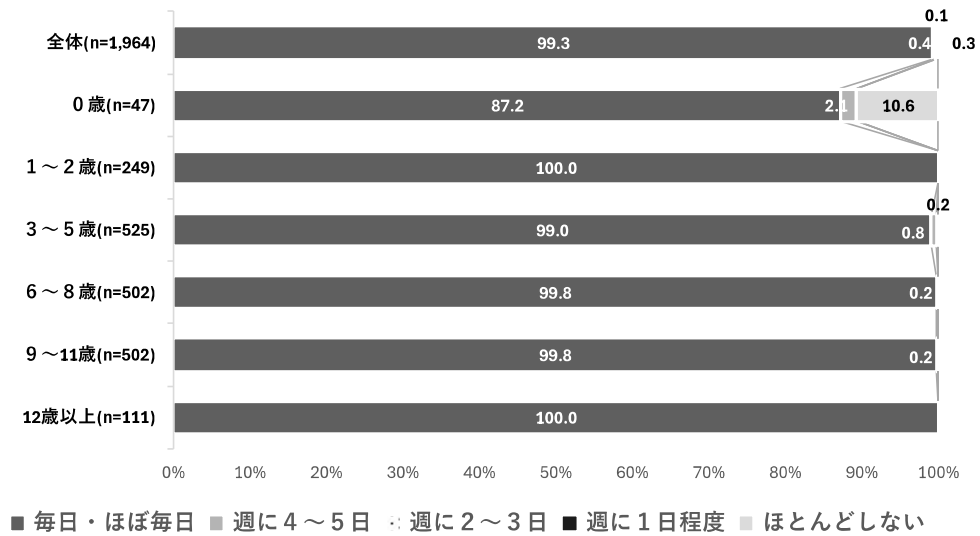
朝ごはんを食べる（世帯の状況別）



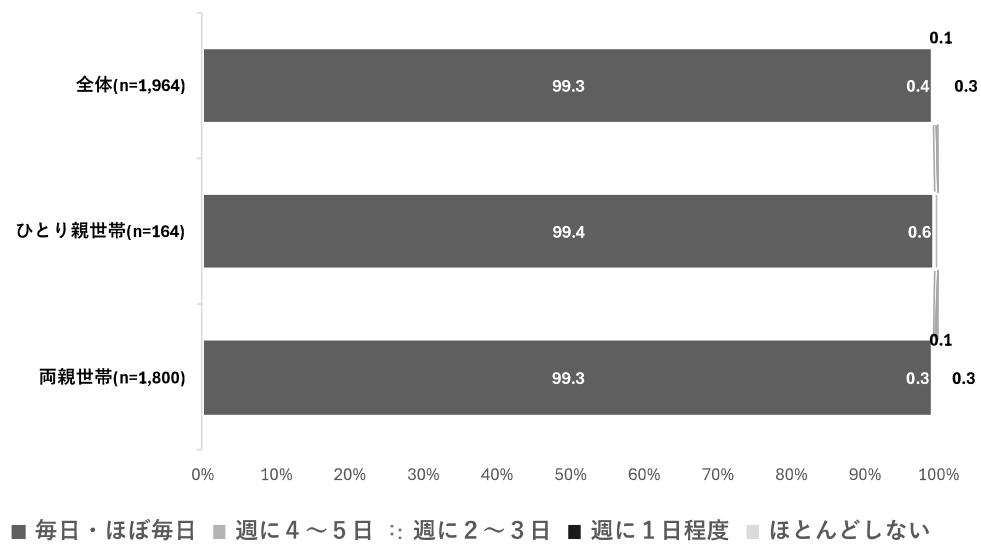
朝ごはんを食べる（生活困難度別）



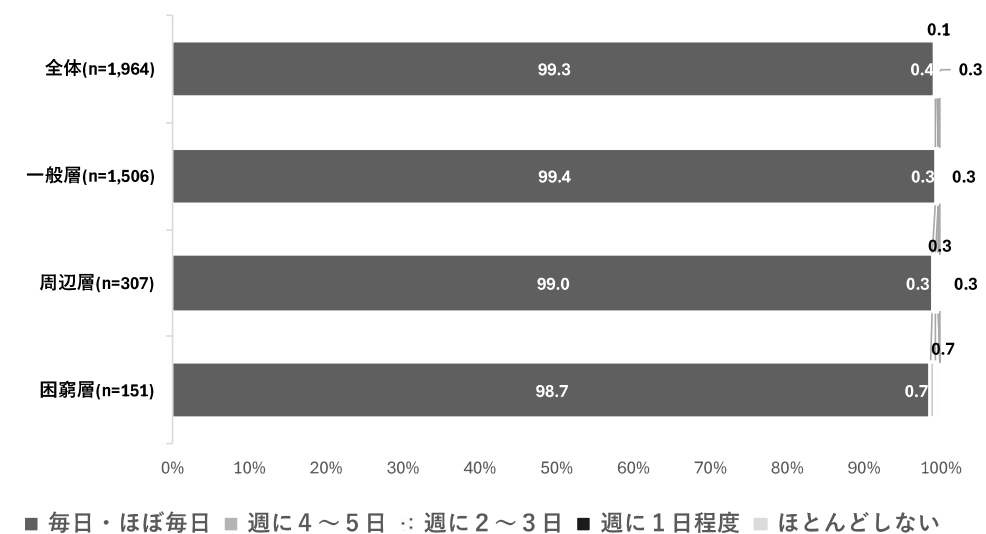
晩ごはんを食べる（年齢別）



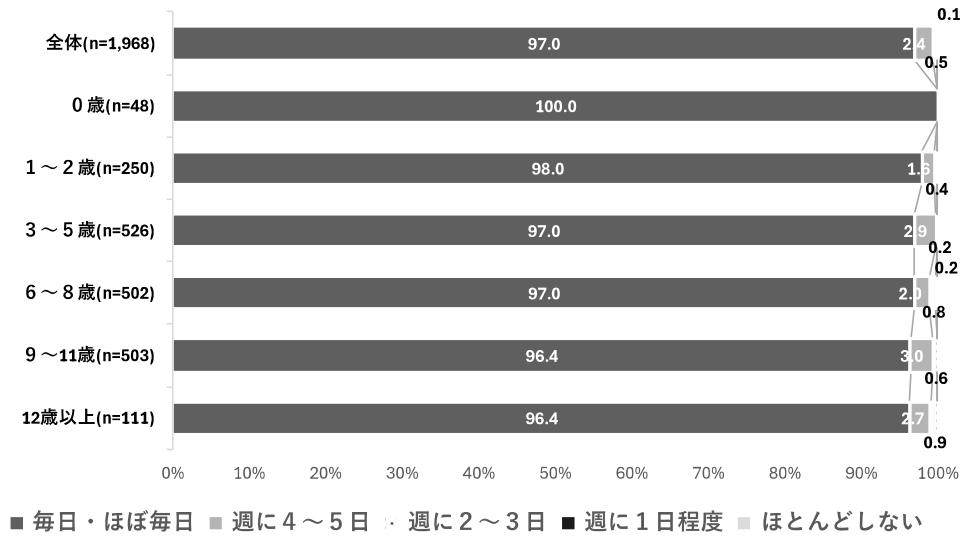
晩ごはんを食べる（世帯の状況別）



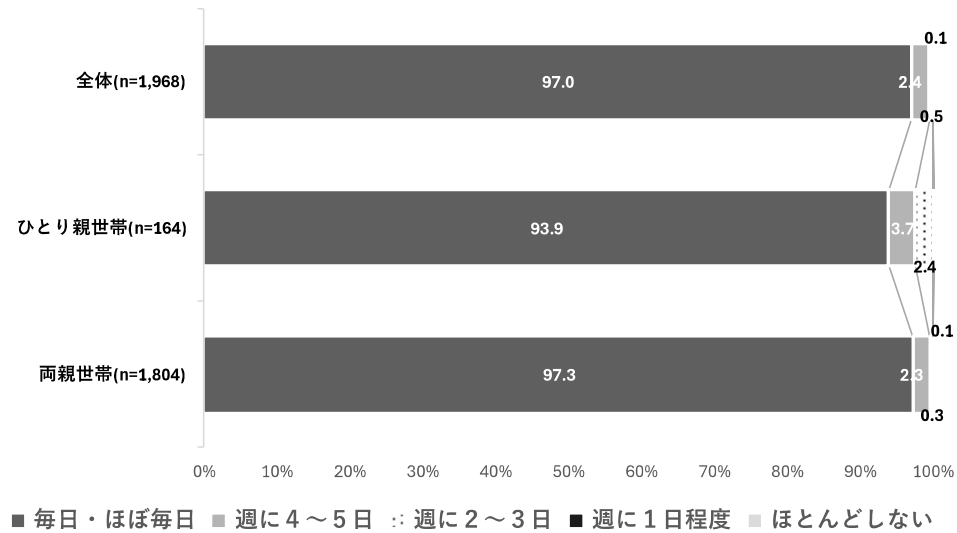
晩ごはんを食べる（生活困難度別）



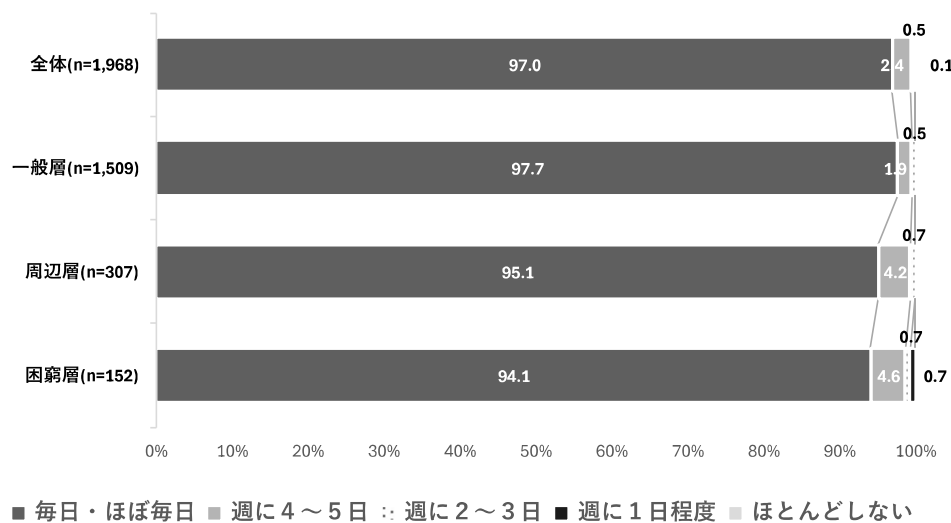
お風呂に入る（年齢別）



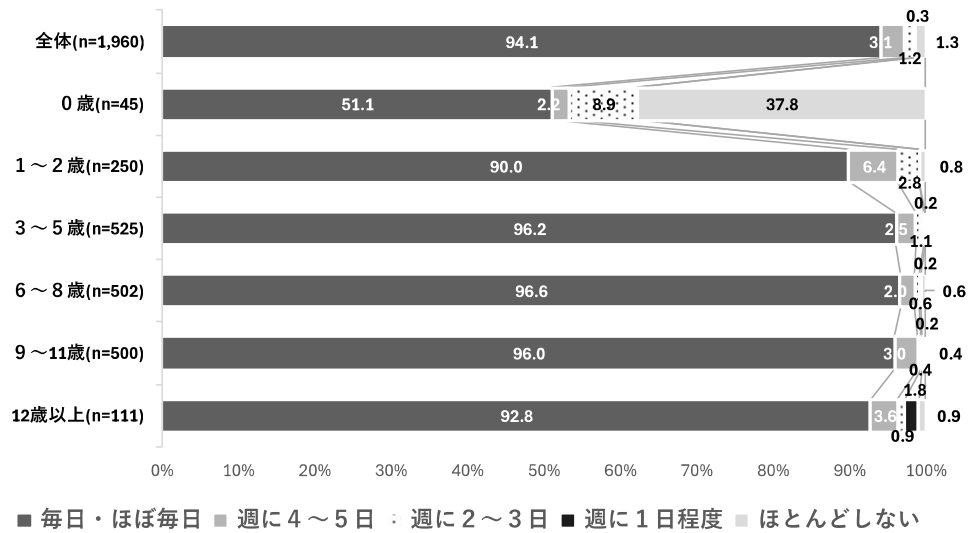
お風呂に入る（世帯の状況別）



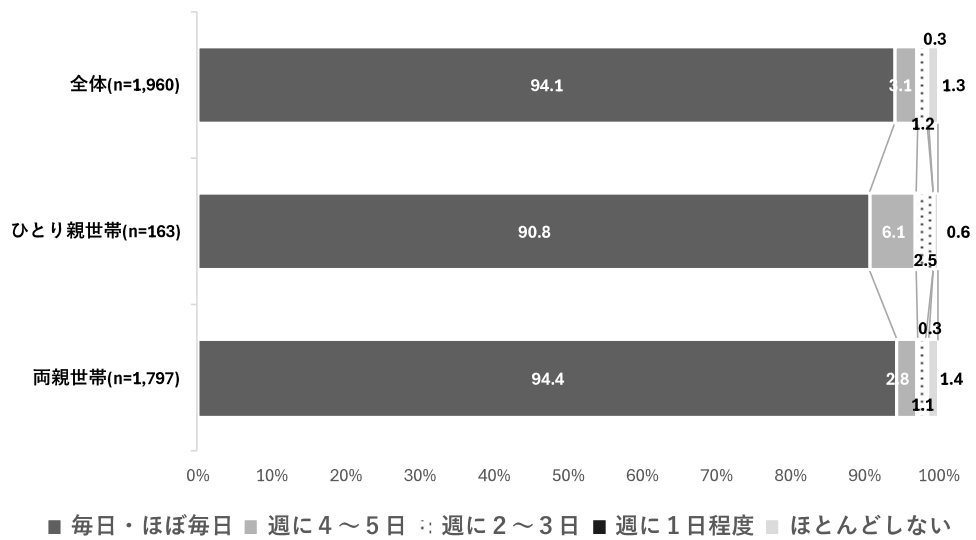
お風呂に入る（生活困難度別）



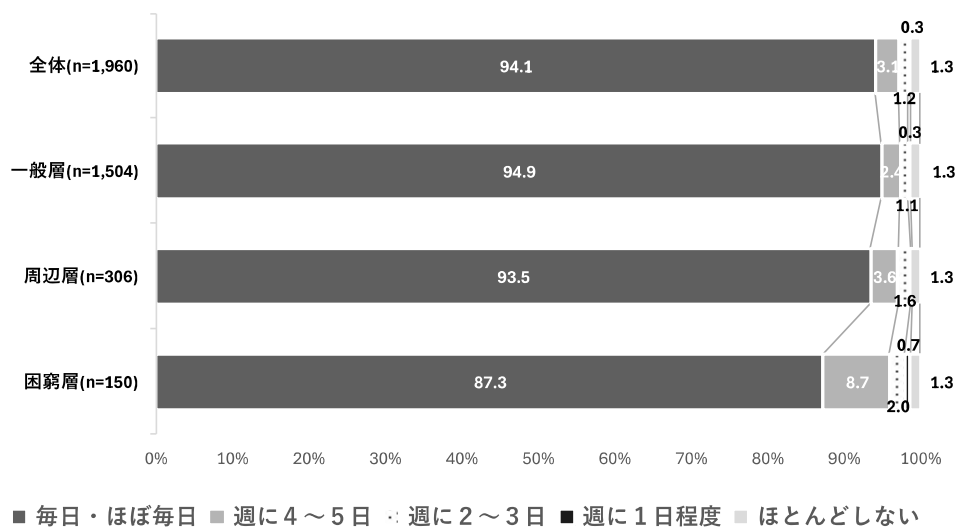
歯磨きをする（年齢別）



歯磨きをする（世帯の状況別）



歯磨きをする（生活困難度別）



(4) 子どもの孤食

問 47 お子さんは朝食や夕食を子どもたちだけで食べたり、あるいは、一人で食べたりすることがどのくらいありますか。【○はそれぞれ1つ】

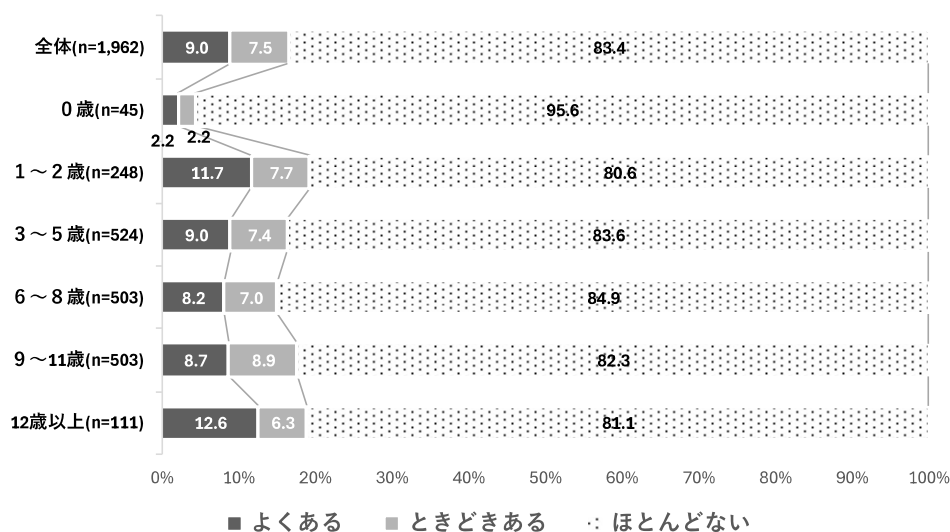
朝食や夕食における子どもの「孤食」（子どもたちだけで食べたり、一人で食べたりする）の状況について尋ねたところ、「ほとんどない」と回答した割合が朝食では 83.4%、夕食では 92.8%となっている。

年齢別にみると、「よくある」と「ときどきある」の合計が、朝食については0歳を除いて15%を超えている一方、夕食についてはいずれの年齢も10%に満たない。

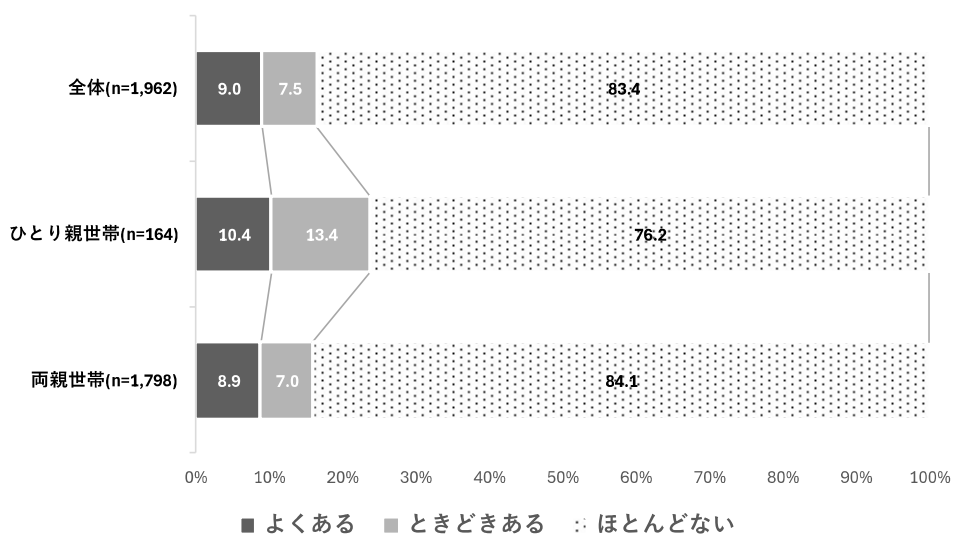
世帯の状況別にみると、ひとり親世帯における「よくある」と「ときどきある」の合計が、朝食・夕食共に両親世帯を上回っている。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層における「よくある」と「ときどきある」の合計が、朝食・夕食共に他の層を上回っており、朝食については36.2%に達している。

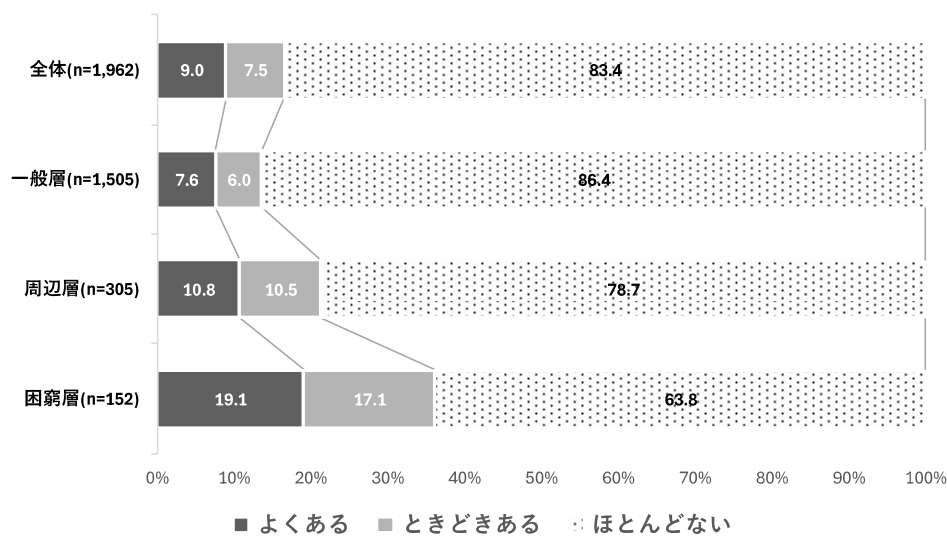
子どもたちだけや一人で朝食（年齢別）



子どもたちだけや一人で朝食（世帯の状況別）



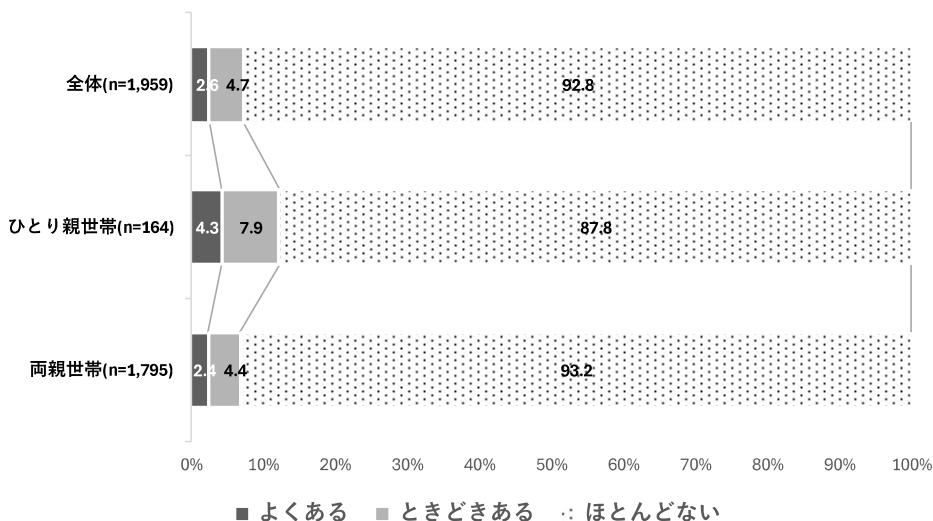
子どもたちだけや一人で朝食（生活困難度別）



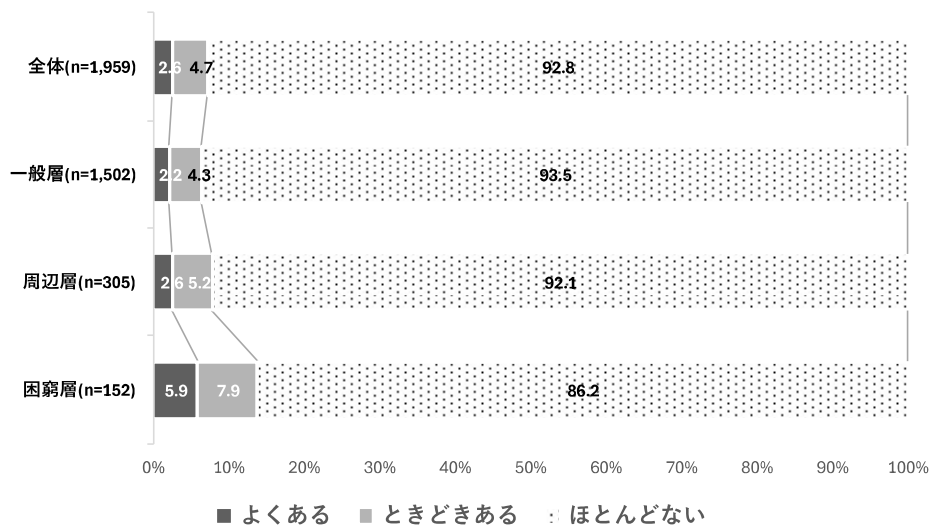
子どもたちだけや一人で夕食（年齢別）



子どもたちだけや一人で夕食（世帯の状況別）



子どもたちだけや一人で夕食（生活困難度別）



問 47 で「よくある」「ときどきある」に○をつけた人のみ回答

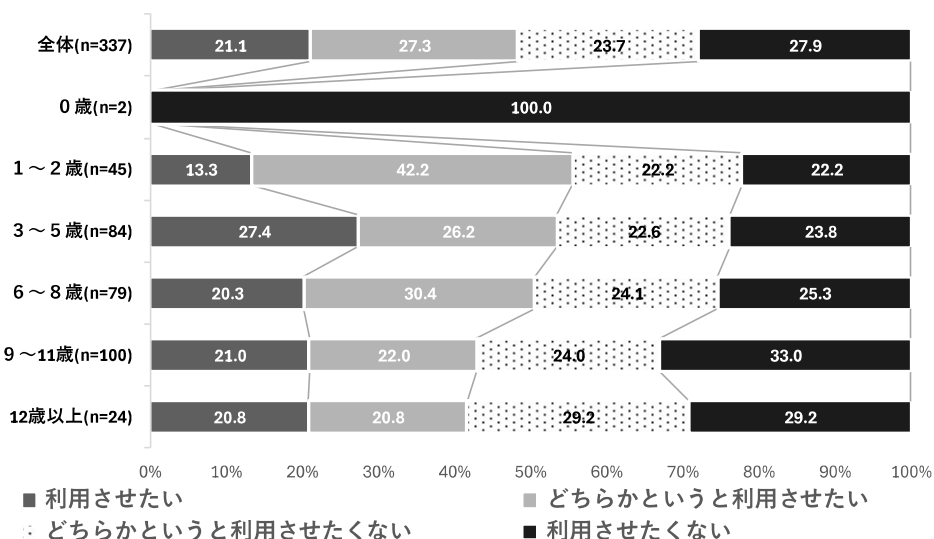
問 47-1 子どもたちだけ、あるいは、一人で食事をするのがないように、子どもたちが気軽に立ち寄れ食事を提供してくれる居場所があれば、利用させたいと思いますか。
【○は1つ】

子どもの孤食が「よくある」もしくは「ときどきある」と回答した人に、子どもたちが気軽に立ち寄れ食事を提供してくれる居場所の利用希望について尋ねたところ、『利用させたい』（「利用させたい」＋「どちらかという利用させたい」）と回答した割合が 48.4%となっている。

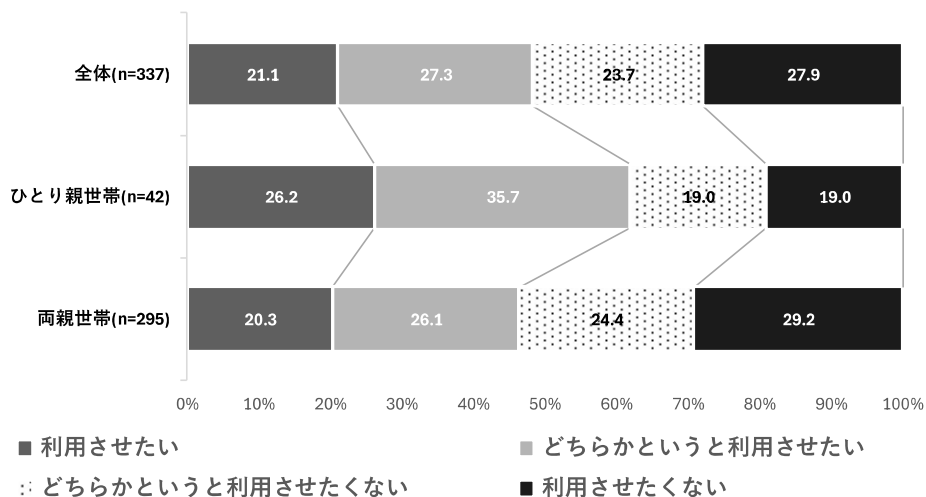
年齢別にみると、0歳を除き、年齢が低いほど『利用させたい』と回答した割合が高くなっている。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯における『利用させたい』との回答割合が 61.9%と、両親世帯を 15 ポイント程度上回っている。

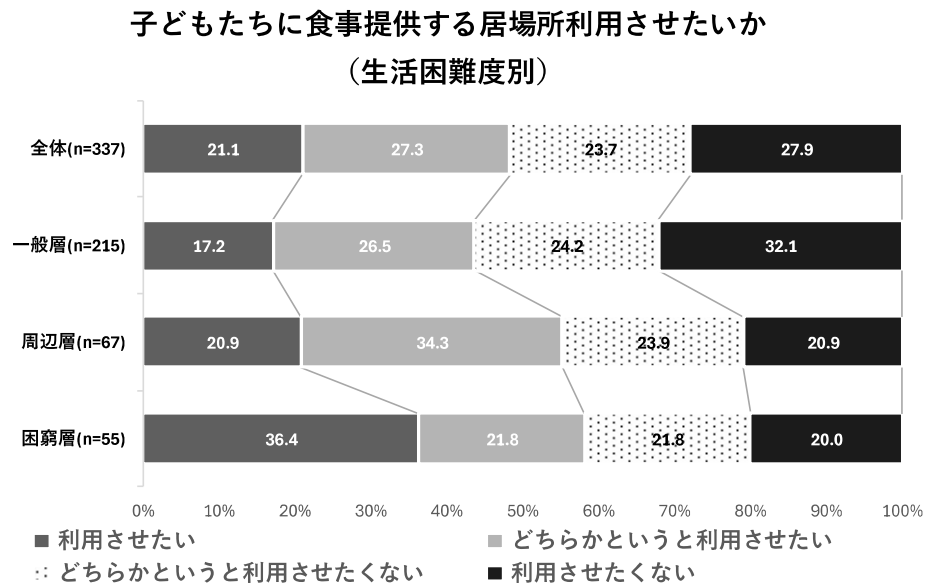
子どもたちに食事提供する居場所利用させたいか（年齢別）



子どもたちに食事提供する居場所利用させたいか
（世帯の状況別）



生活困難層に係る分類でみると、困窮層において『利用させたい』と回答した割合が58.2%と、他の層を上回っている。



(5) 子どもの不登校

子どもが小学生以上の保護者が回答

問 48 お子さんは不登校になったことはありますか。【〇は1つ】

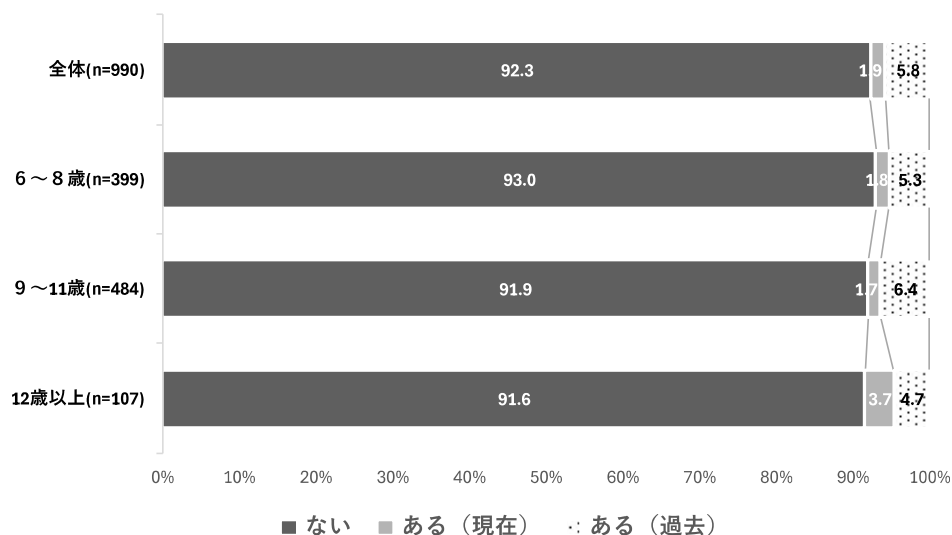
子どもの不登校の経験については、『ある』（「ある（現在）」＋「ある（過去）」）と回答した割合が 7.7%となっている。

年齢別にみると、大きな差はみられない。

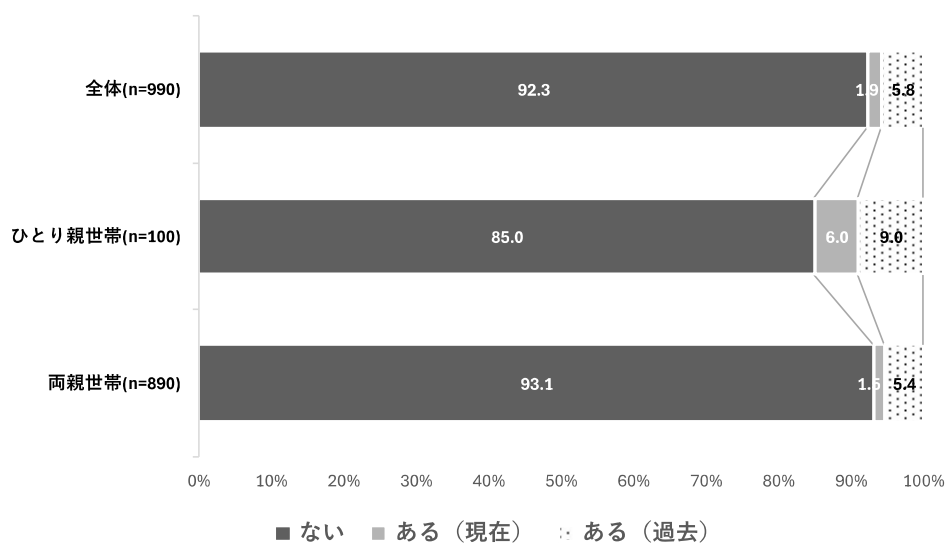
世帯の状況別にみると、ひとり親世帯における『ある』と回答した割合が 15.0%と、両親世帯を 10 ポイント近く上回っている。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層において『ある』と回答した割合が 15.6%と、一般層を 10 ポイント程度上回っている。

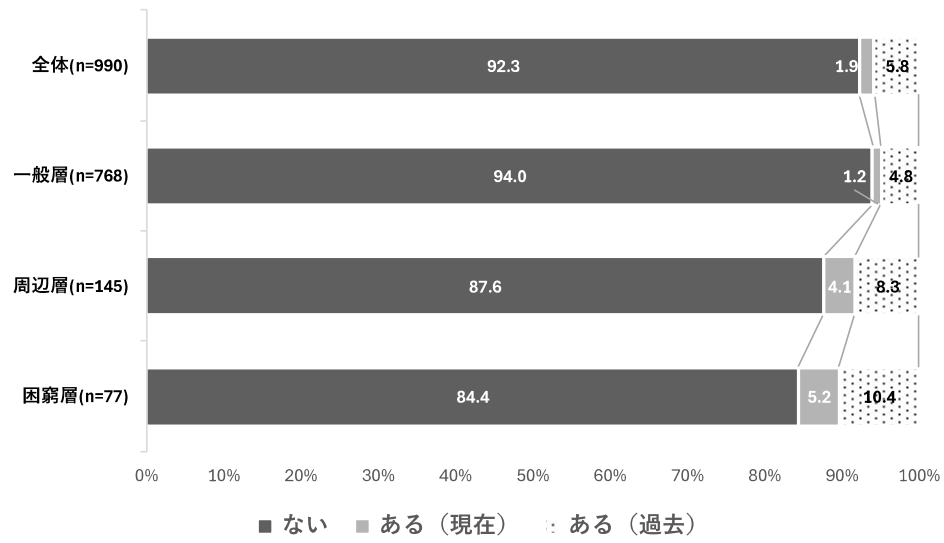
不登校経験（年齢別）



不登校経験（世帯の状況別）



不登校経験（生活困難度別）



(6) 子どもとの体験

問 49 あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。【それぞれ、あてはまる番号 1 つに○】

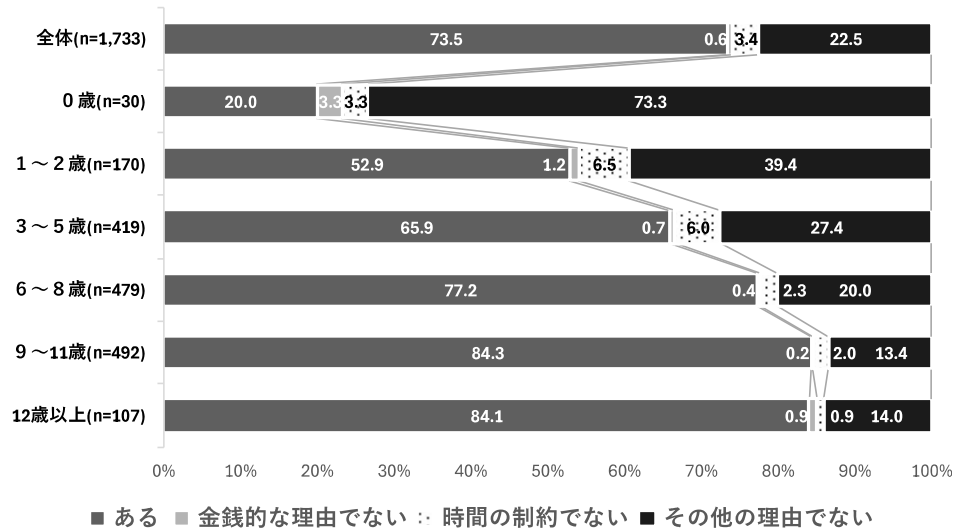
子どもとの体験について、5つの項目を挙げて尋ねたところ、「ある」と回答した割合は、「水族館・博物館・美術館などに行く」及び「遊園地やテーマパークに行く」において 90%を超えている。

年齢別にみると、「海水浴に行く」、「キャンプや釣りなどの自然体験をする」、「スポーツ観戦や劇場に行く」の3つは、年齢が上がるにつれて「ある」と回答した割合が高くなっている。

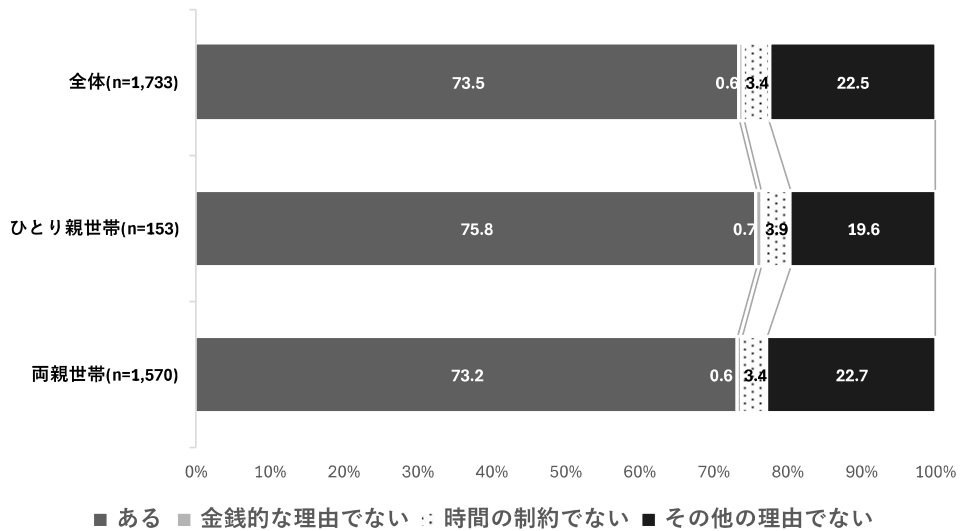
世帯の状況別にみると、「スポーツ観戦や劇場に行く」と「遊園地やテーマパークに行く」については、ひとり親世帯において、「金銭的な理由でない」と回答した割合が 10%を超えている。

生活困難層に係る分類でみると、いずれの項目も困窮層において、「金銭的な理由でない」と回答した割合が他の層を上回っており、「スポーツ観戦や劇場に行く」では 36.0%、「遊園地やテーマパークに行く」では 28.5%に達している。

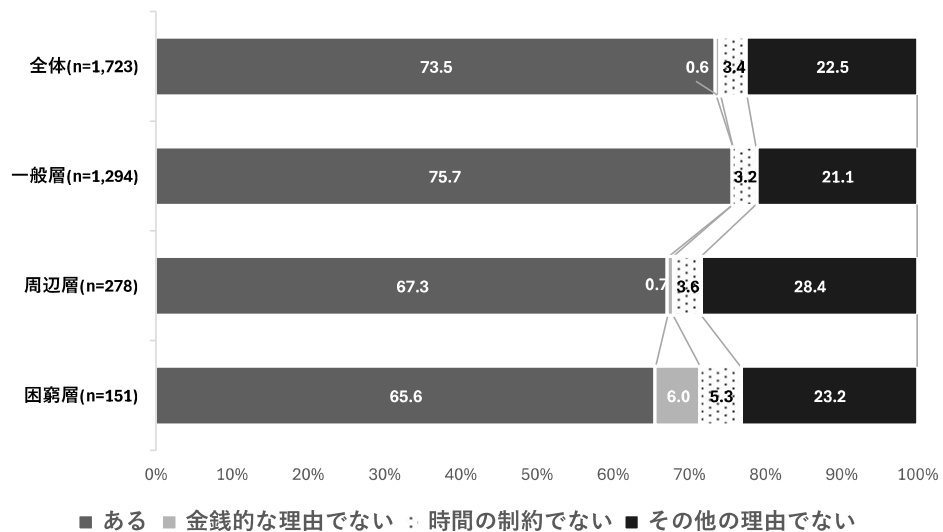
海水浴に行く（年齢別）



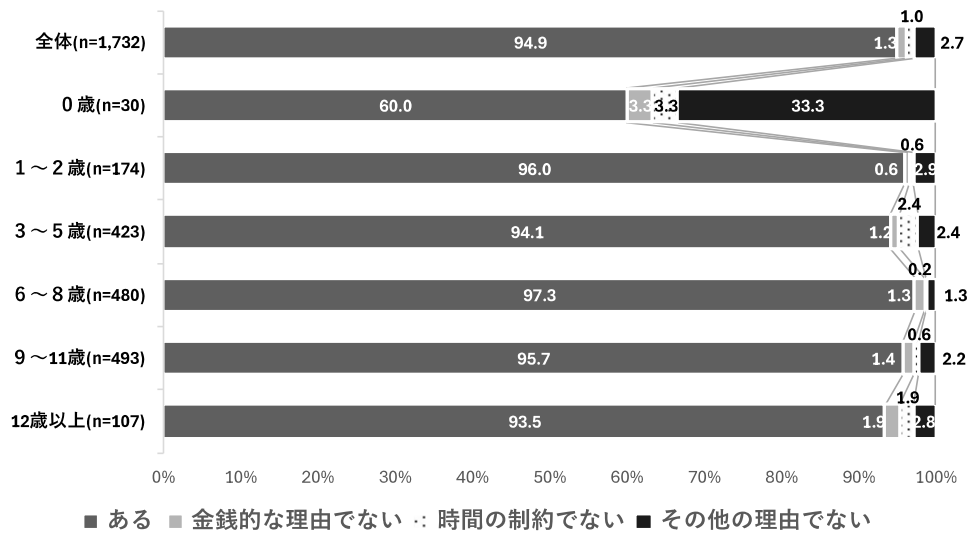
海水浴に行く（世帯の状況別）



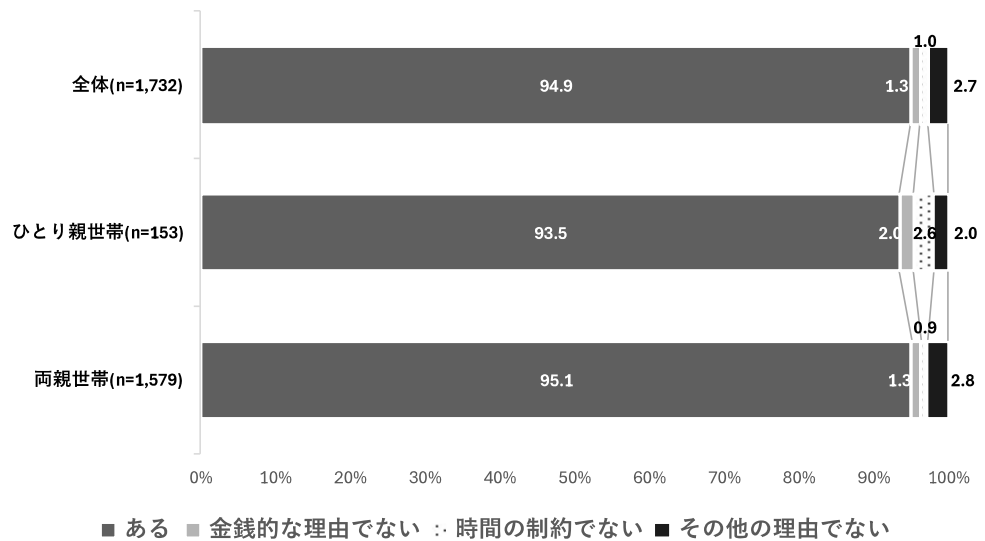
海水浴に行く（生活困難度別）



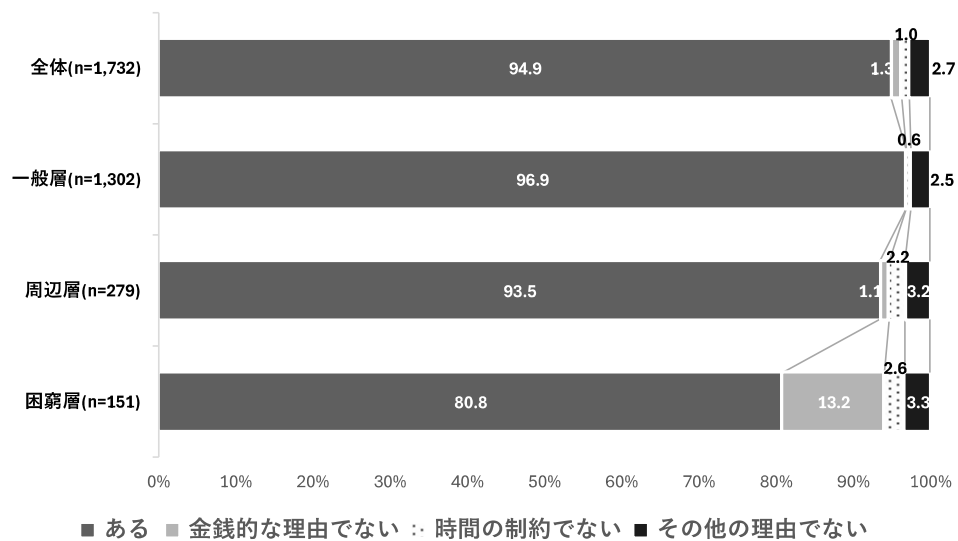
水族館・博物館・美術館などに行く（年齢別）



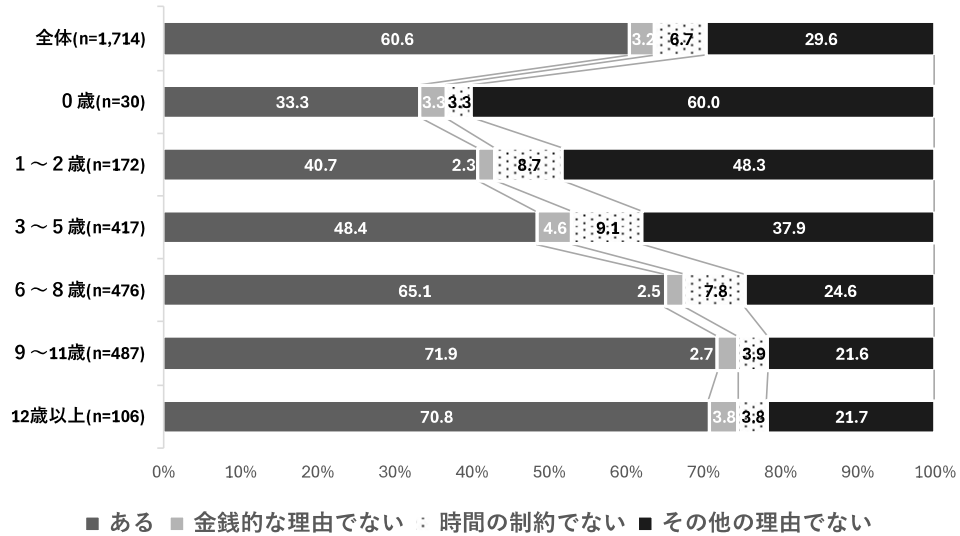
水族館・博物館・美術館などに行く（世帯の状況別）



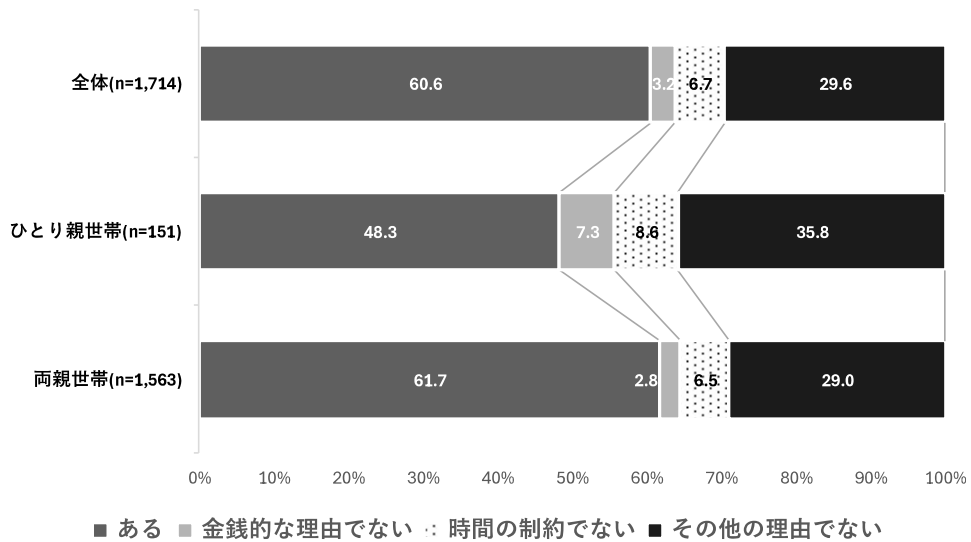
水族館・博物館・美術館などに行く（生活困難度別）



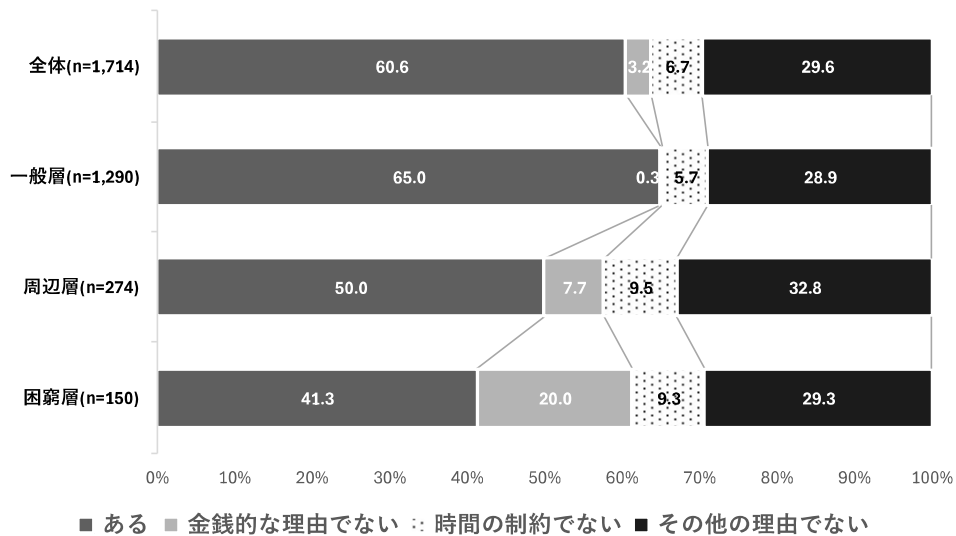
キャンプや釣りなどの自然体験をする（年齢別）



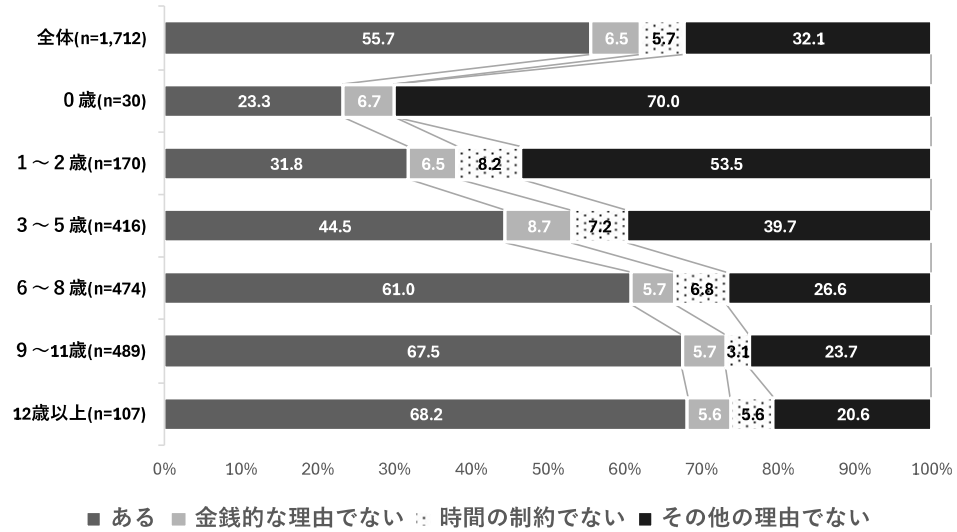
キャンプや釣りなどの自然体験をする（世帯の状況別）



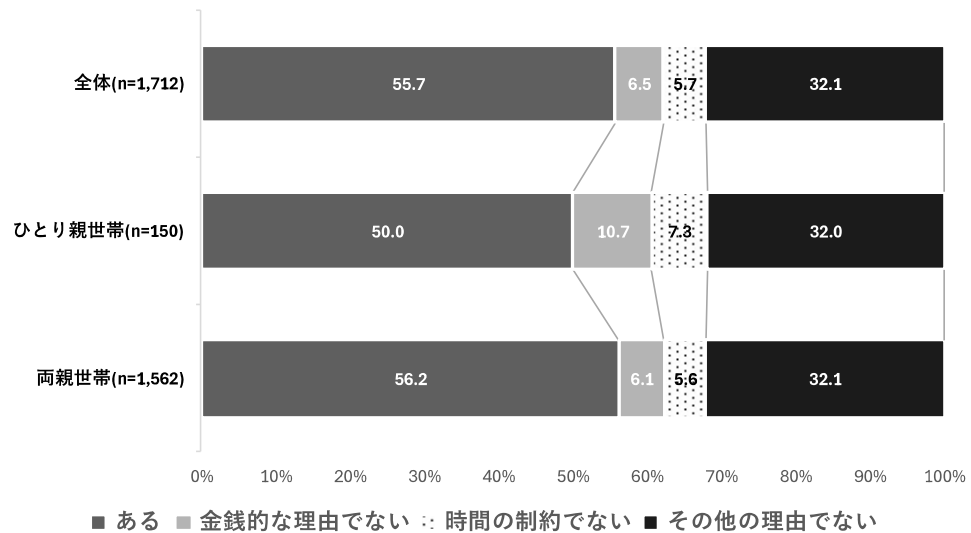
キャンプや釣りなどの自然体験をする（生活困難度別）



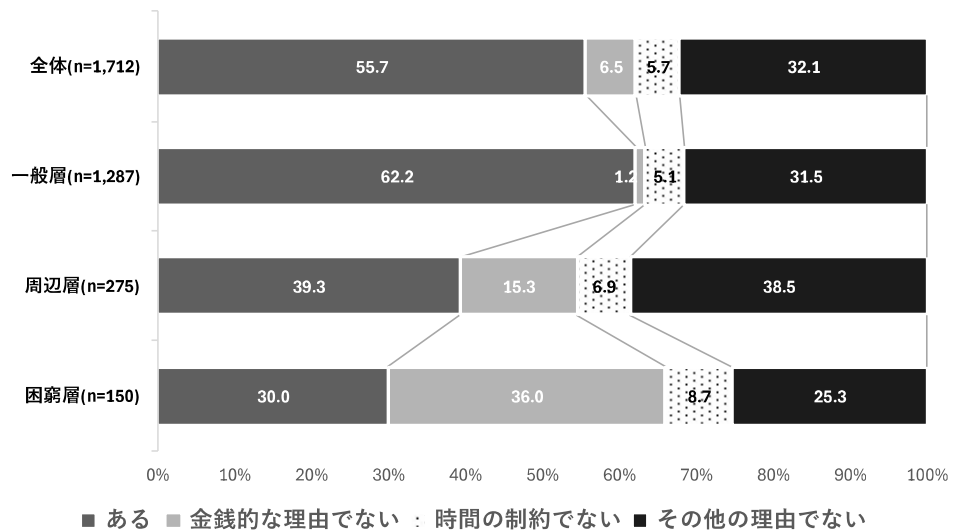
スポーツ観戦や劇場に行く（年齢別）



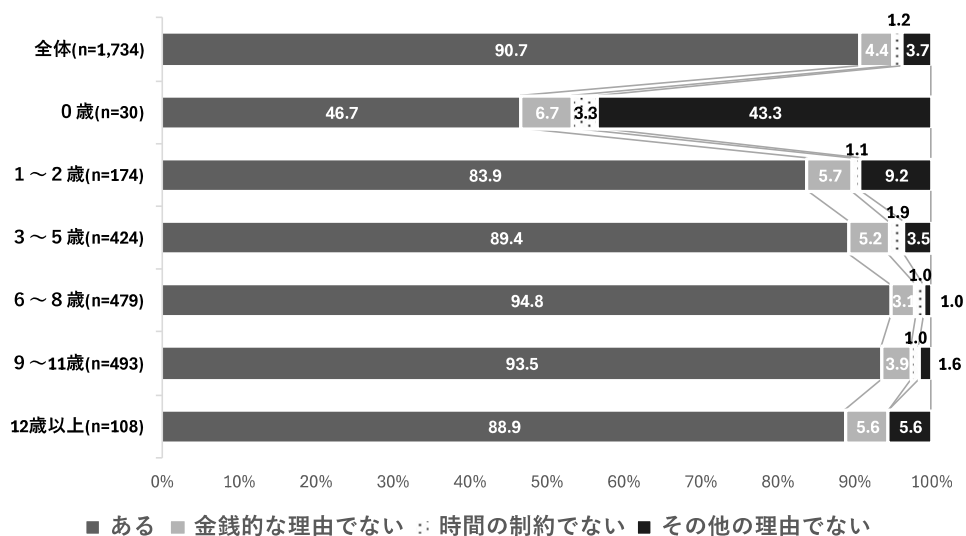
スポーツ観戦や劇場に行く（世帯の状況別）



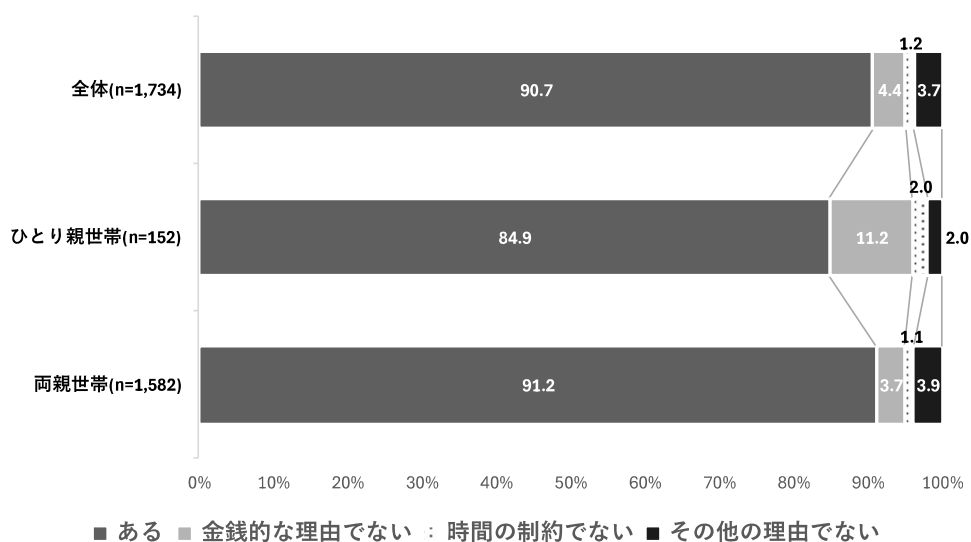
スポーツ観戦や劇場に行く（生活困難度別）



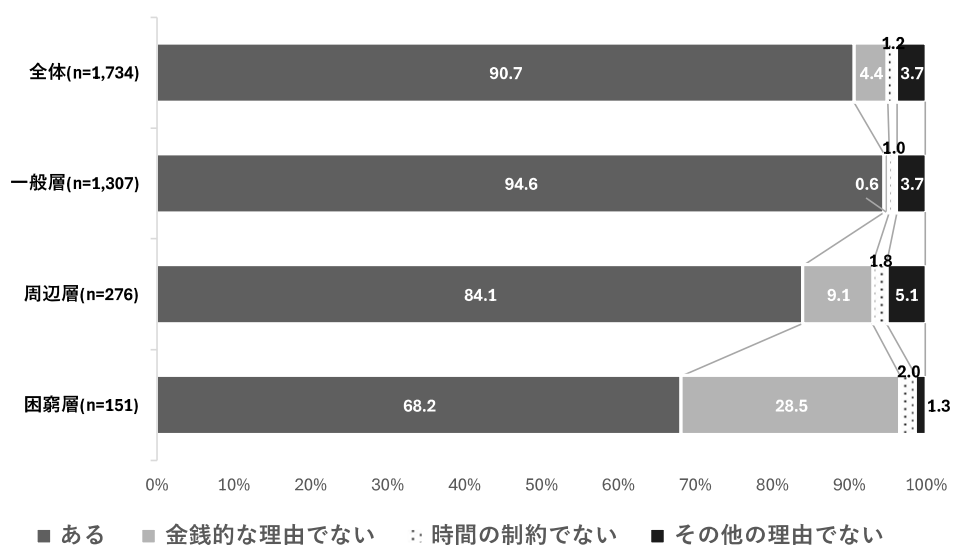
遊園地やテーマパークに行く（年齢別）



遊園地やテーマパークに行く（世帯の状況別）



遊園地やテーマパークに行く（生活困難度別）



(7) 子どもにしていること

問 50 あなたのご家庭では、お子さんに次の①から⑪のことをしていますか。それぞれ、「1 している」「2 していない、したくない（方針でしない）」「3 していない、経済的にできない」のうち、あてはまるものに○をつけてください。【それぞれ、あてはまる番号 1 つに○】

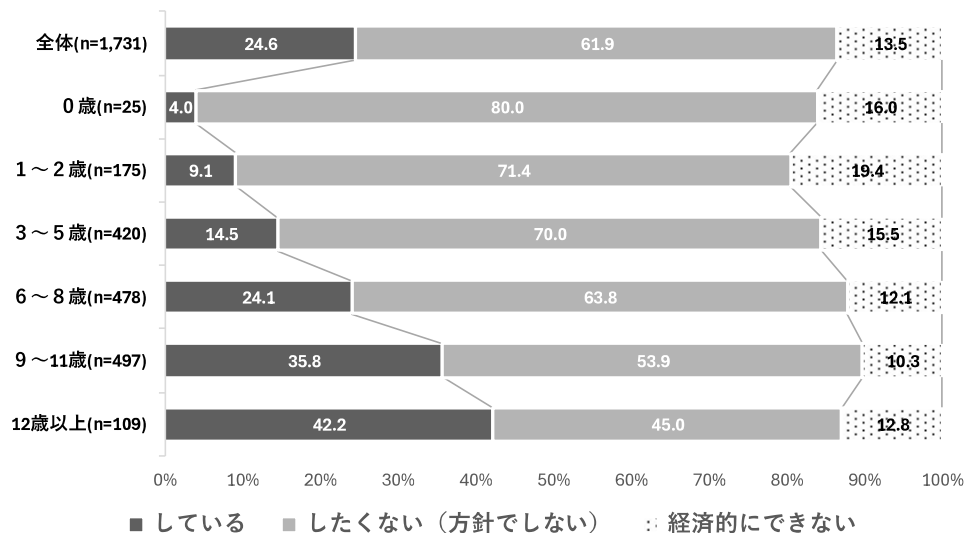
子どもにしていることについて、11 の項目を挙げて尋ねたところ、「毎年新しい洋服・靴を買う」、「お誕生日のお祝いをする」、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」、「子どもの学校行事などへ親が参加する」、「子ども用のスポーツ用品・おもちゃを購入する」の 5 項目に関しては、「している」と回答した割合が 90%を超えている。

年齢別にみると、「毎月お小遣いを渡す」、「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」、「子どもが自宅で宿題（勉強）をすることができる場所を用意する」の 4 項目に関しては、年齢が上がるにつれて「している」と回答した割合が高くなっている。

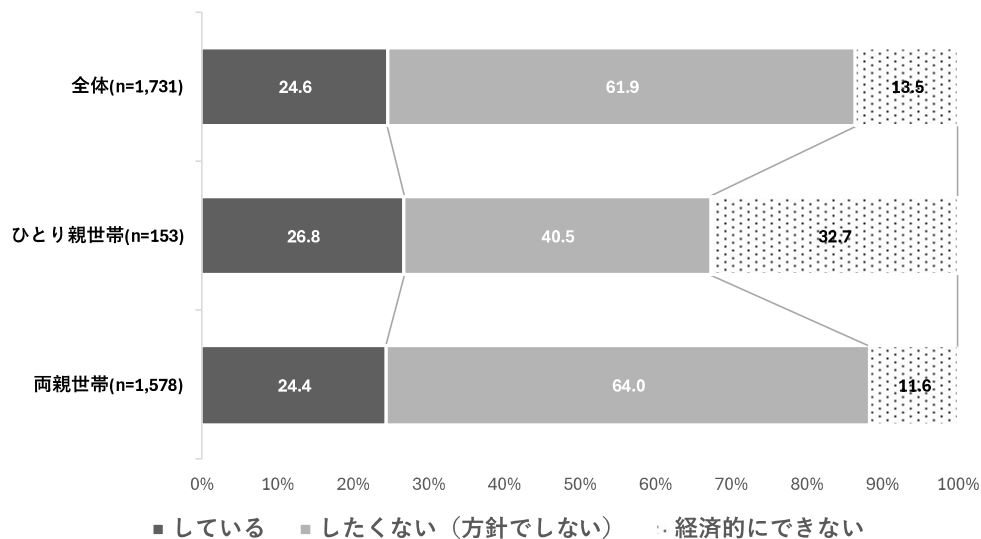
世帯の状況別にみると、「お誕生日のお祝いをする」以外の 10 項目において、ひとり親世帯における「経済的にできない」と回答した割合が両親世帯を上回っている。中でも「毎月お小遣いを渡す」、「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」、「1 年に 1 回くらい家族旅行に行く」の 4 項目に関しては、両親世帯を 15 ポイント超上回っている。

生活困難層に係る分類でみると、いずれの項目も困窮層において、「経済的にできない」と回答した割合が他の層を上回っており、「1 年に 1 回くらい家族旅行に行く」と「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」では 80%超、「毎月お小遣いを渡す」と「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」では 50%超に達している。

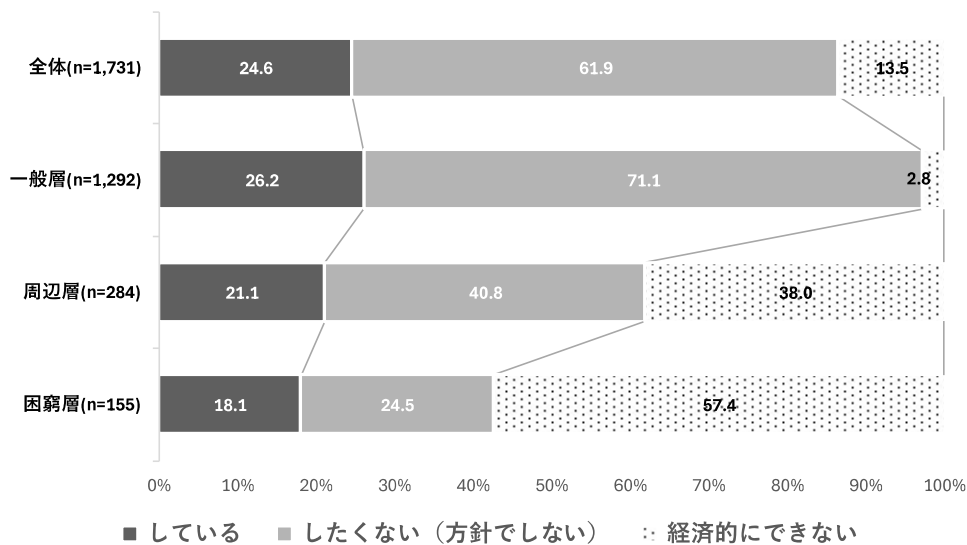
毎月お小遣いを渡す（年齢別）



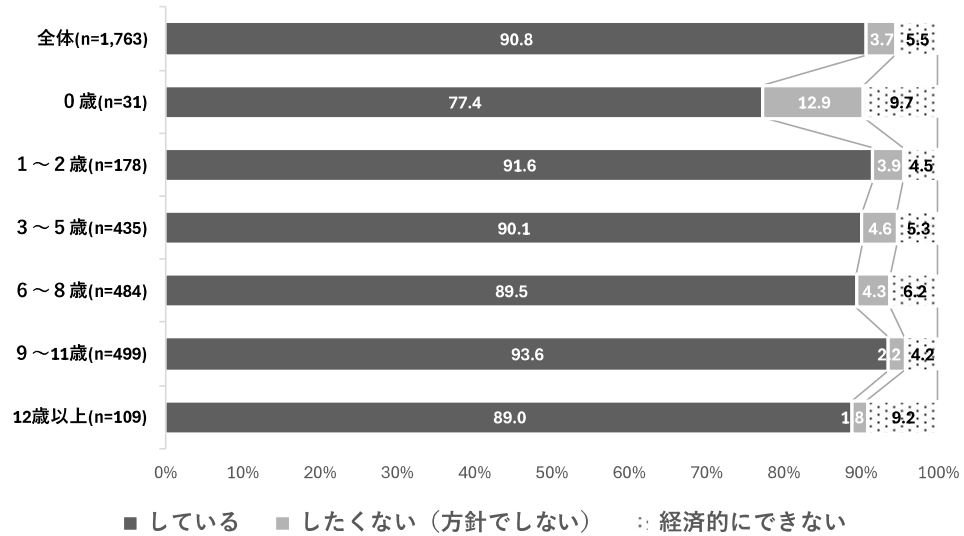
毎月お小遣いを渡す（世帯の状況別）



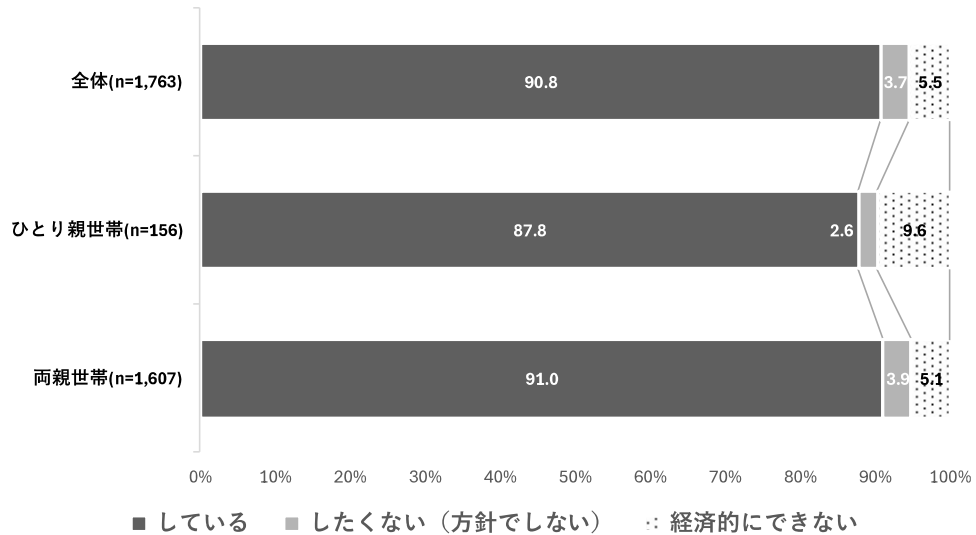
毎月お小遣いを渡す（生活困難度別）



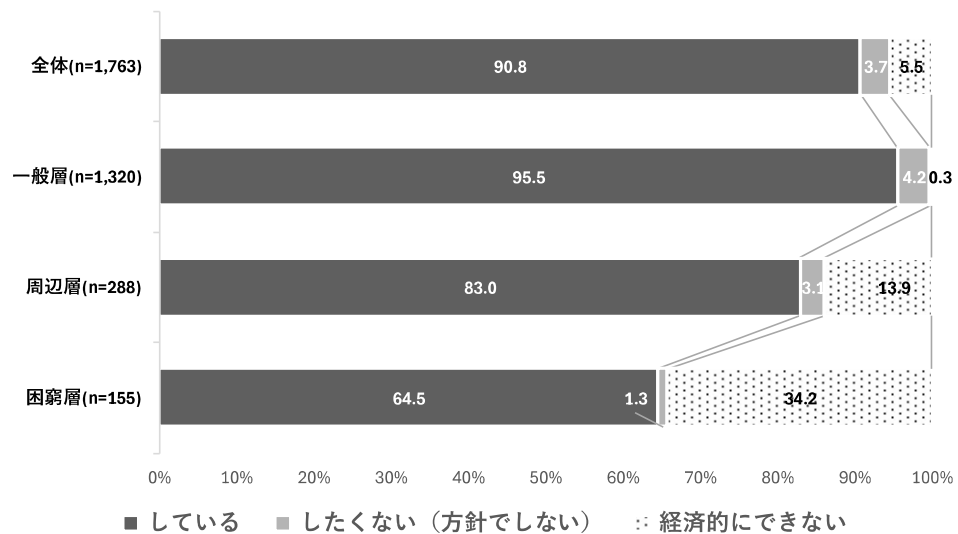
毎年新しい洋服・靴を買う（年齢別）



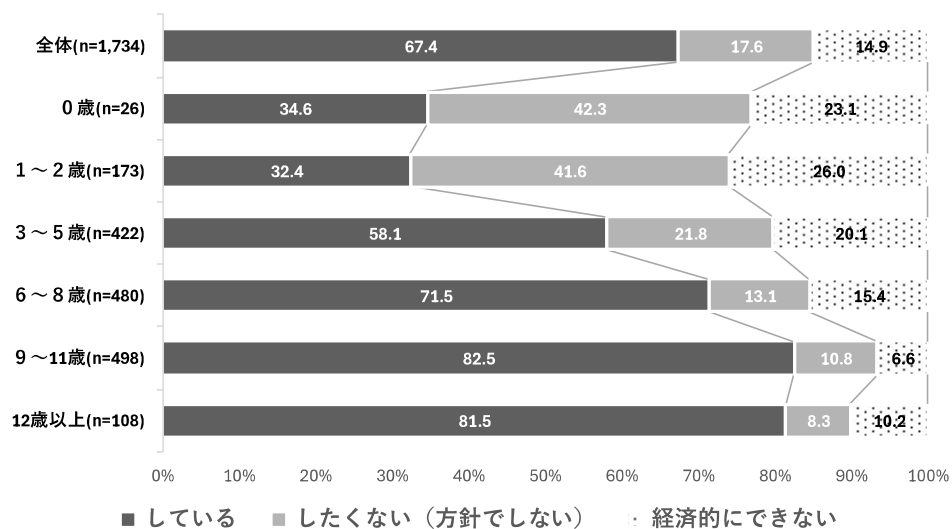
毎年新しい洋服・靴を買う（世帯の状況別）



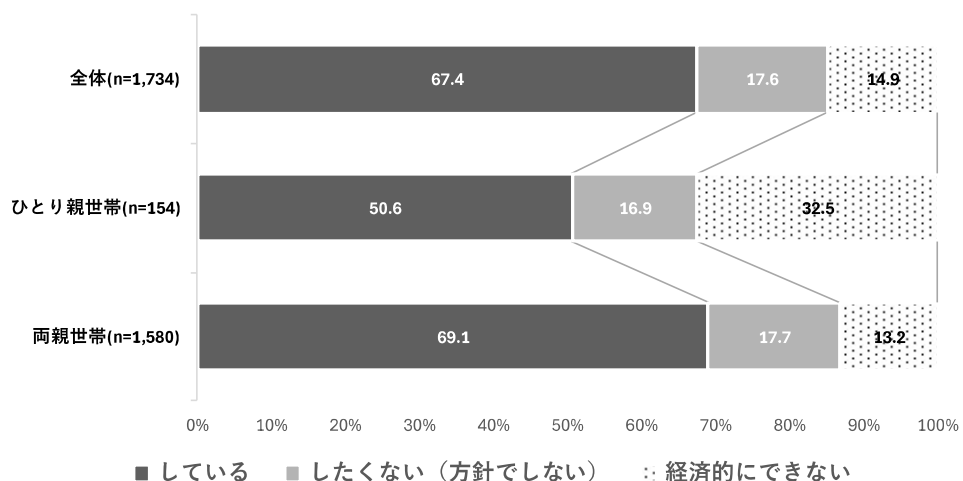
毎年新しい洋服・靴を買う（生活困難度別）



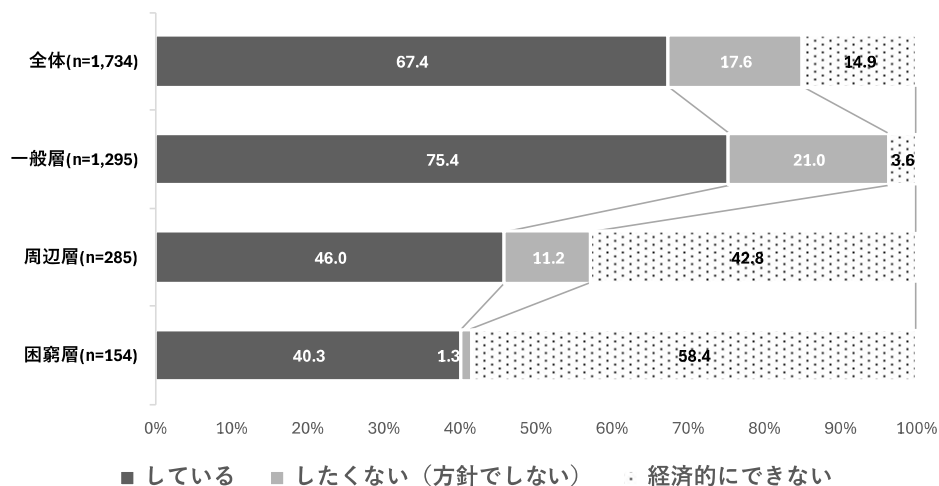
習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる（年齢別）



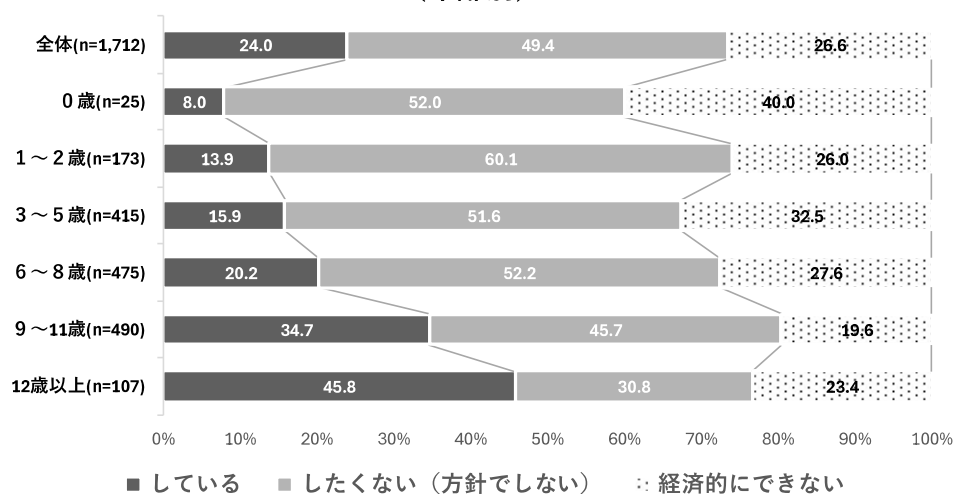
習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる（世帯の状況別）



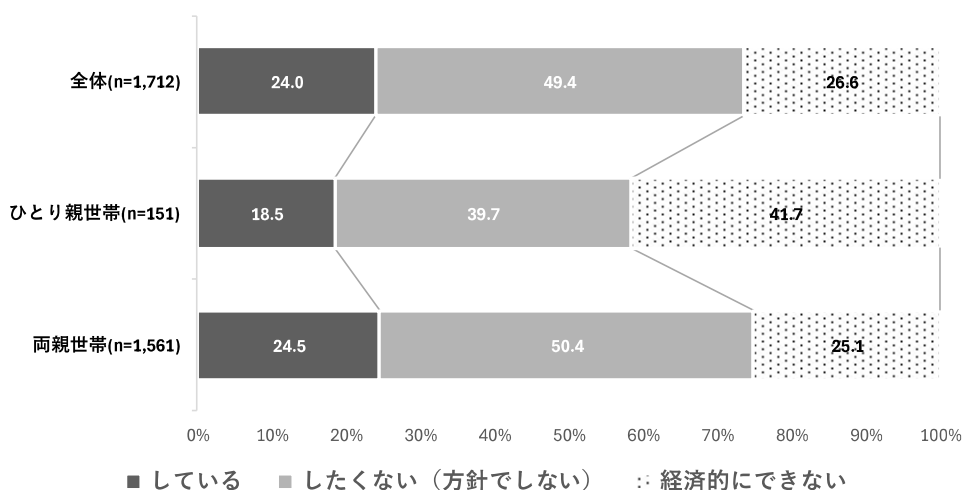
習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる（生活困難度別）



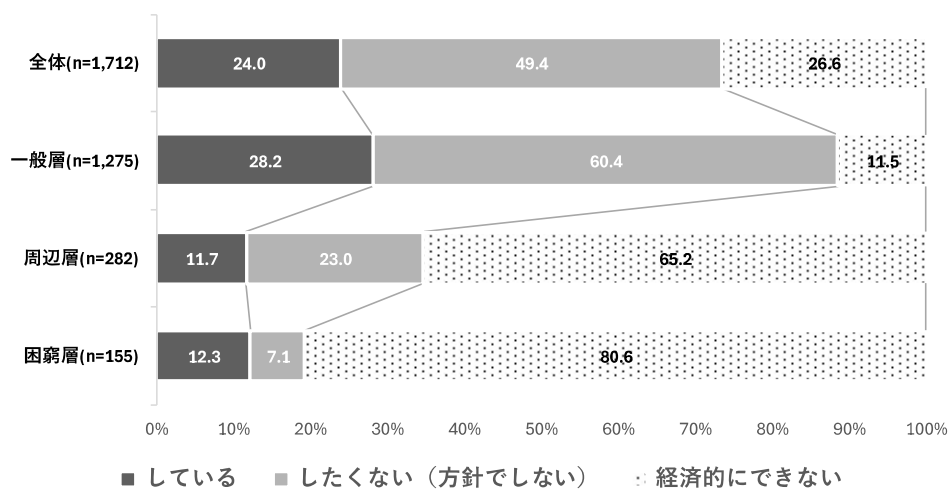
学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）
（年齢別）



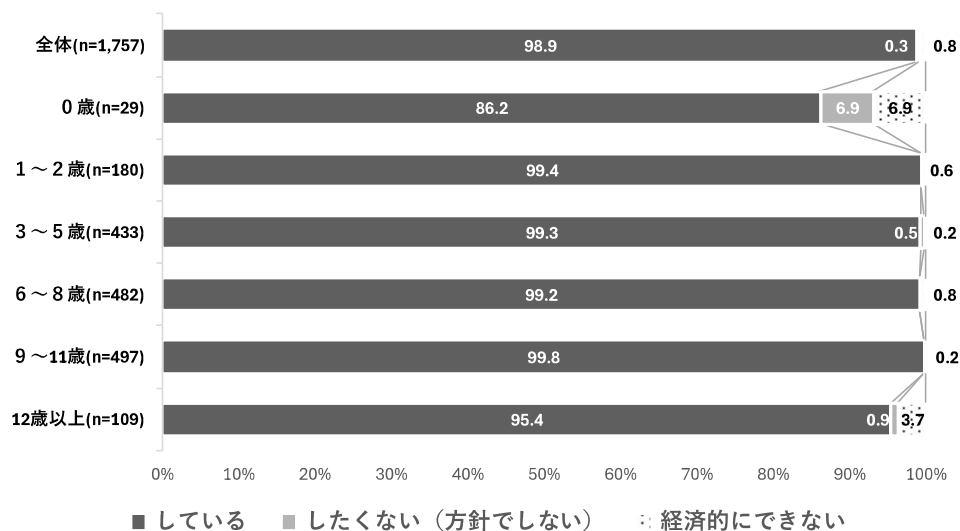
学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）
（世帯の状況別）



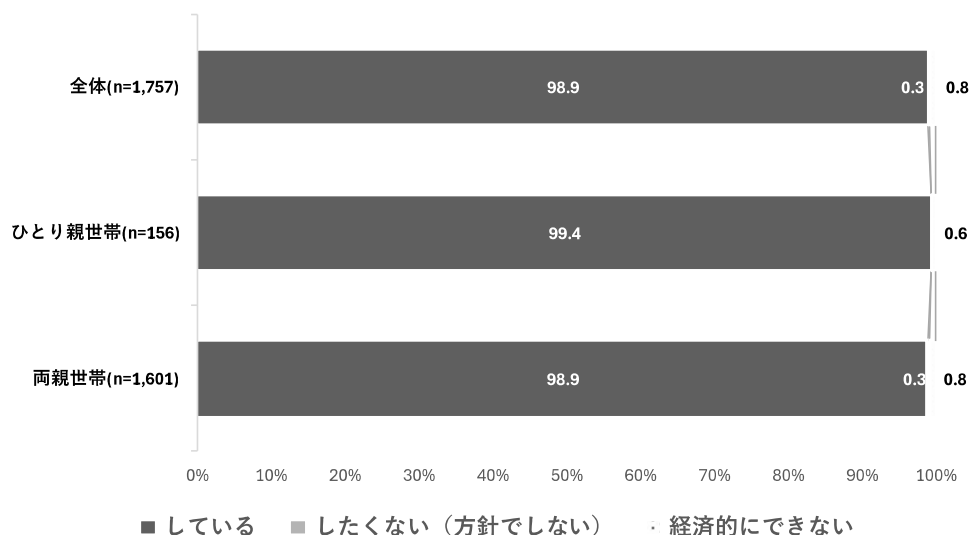
学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）
（生活困難度別）



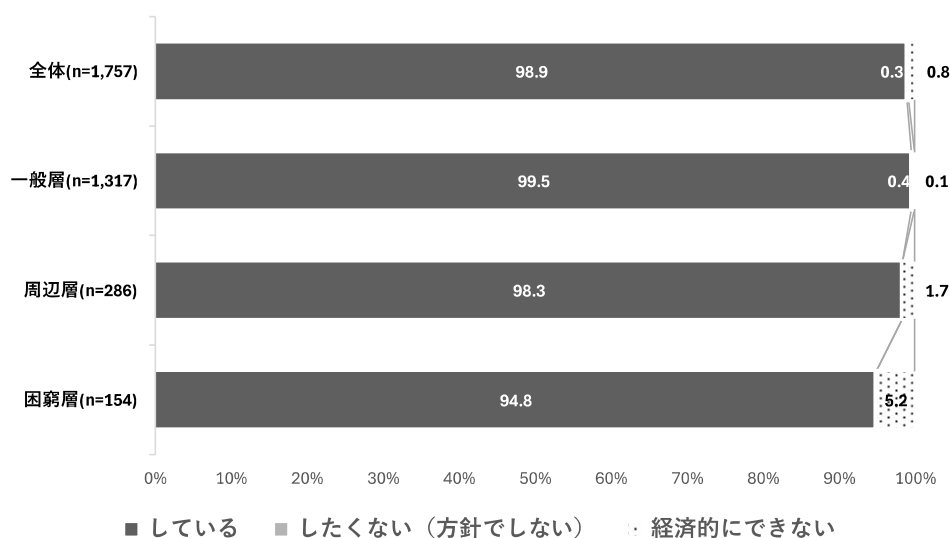
お誕生日のお祝いをする（年齢別）



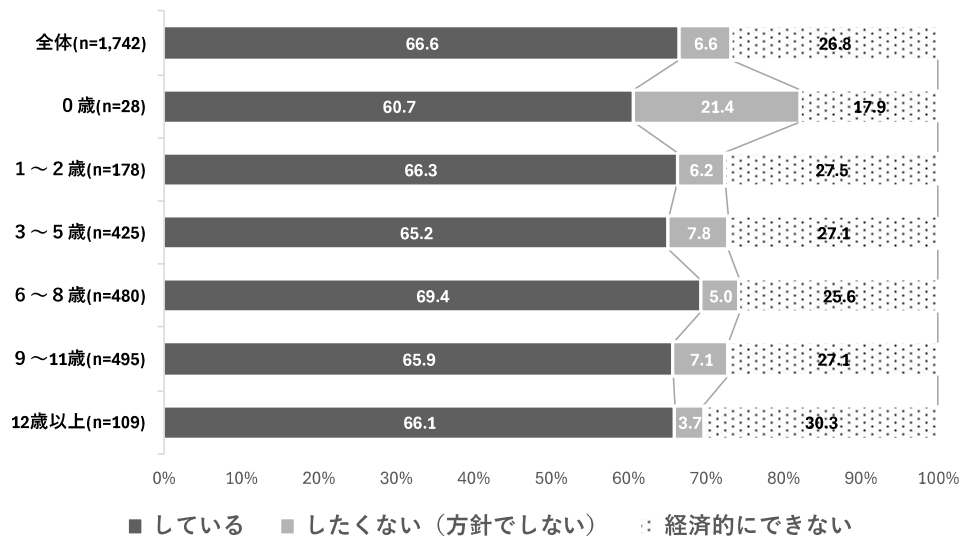
お誕生日のお祝いをする（世帯の状況別）



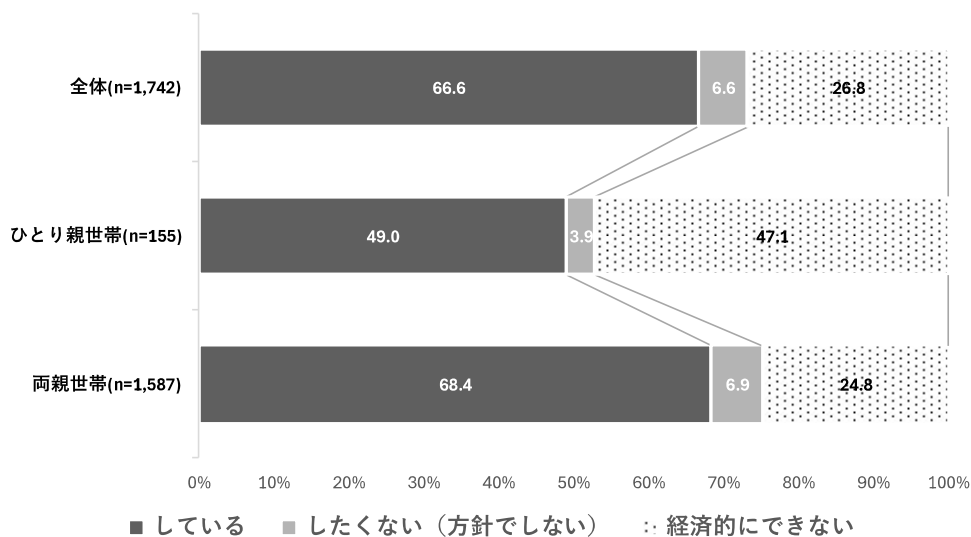
お誕生日のお祝いをする（生活困難度別）



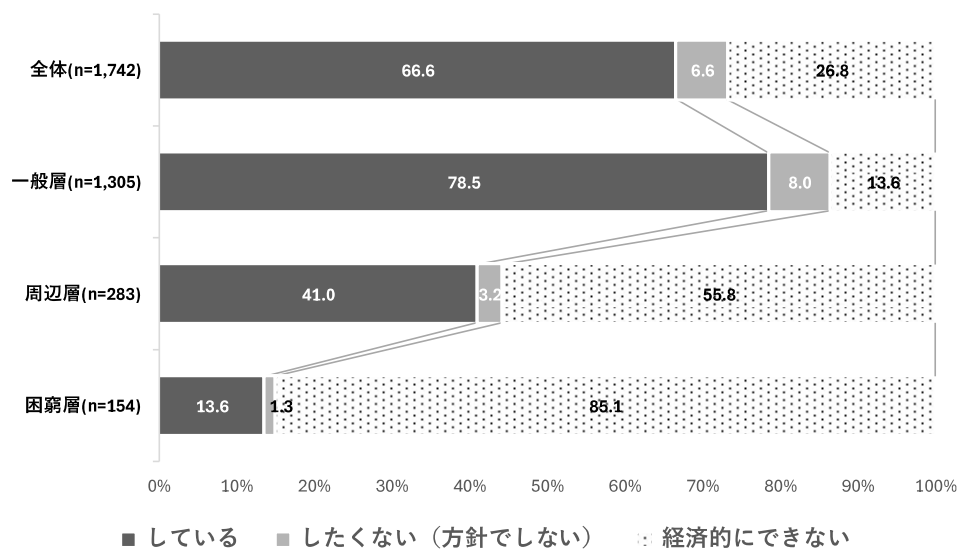
1年に1回くらい家族旅行に行く（年齢別）



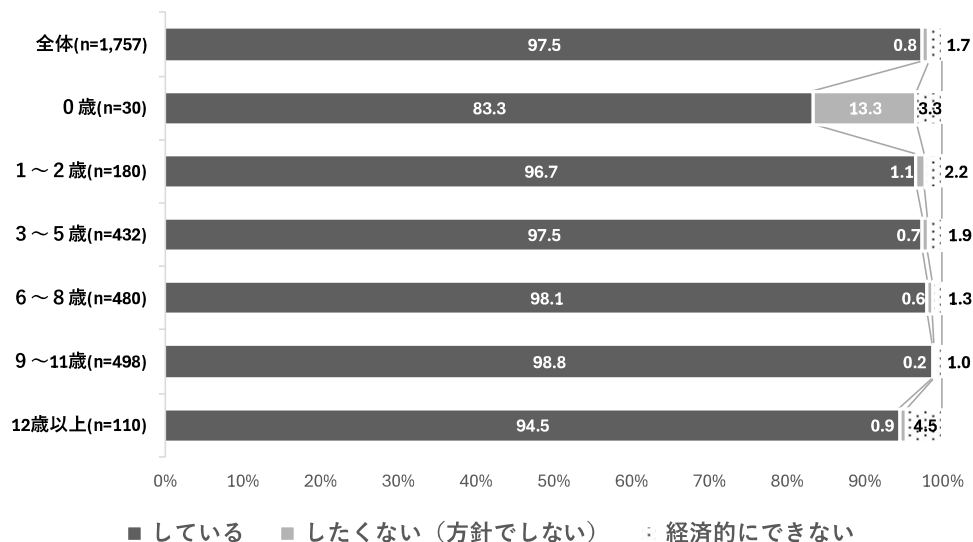
1年に1回くらい家族旅行に行く（世帯の状況別）



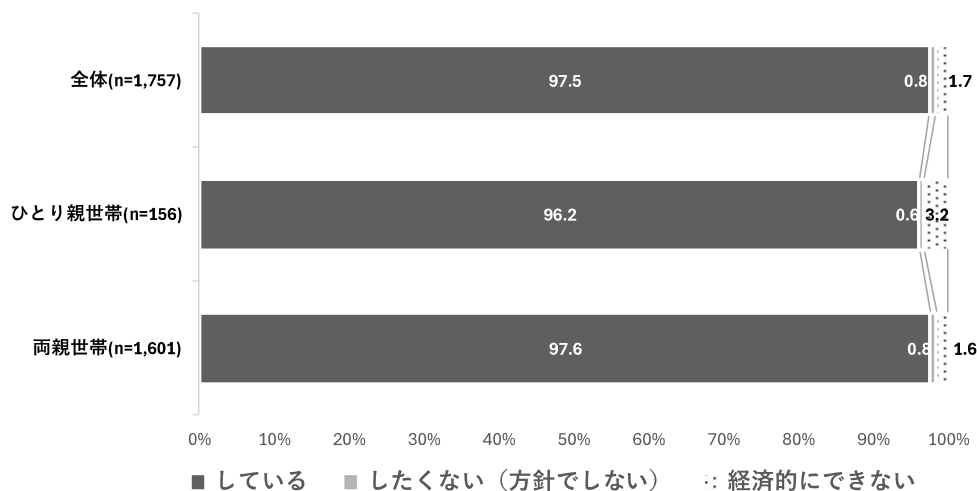
1年に1回くらい家族旅行に行く（生活困難度別）



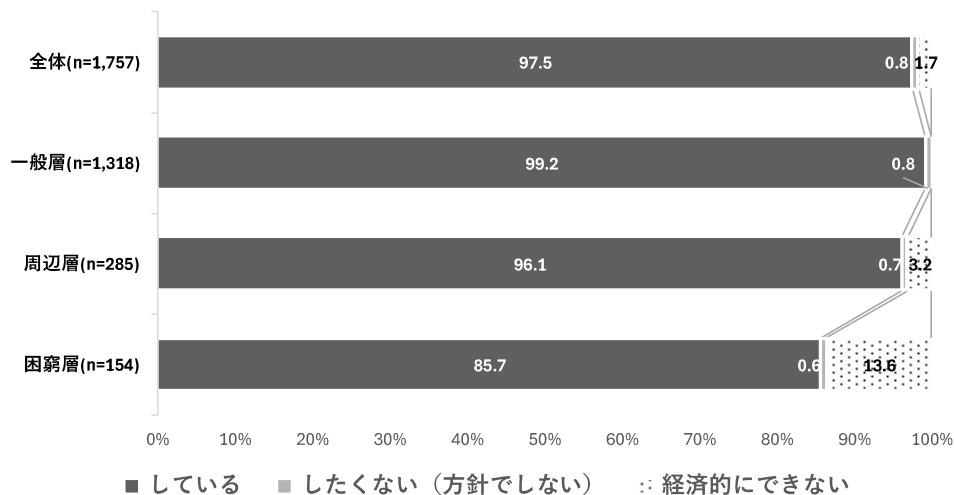
クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる（年齢別）



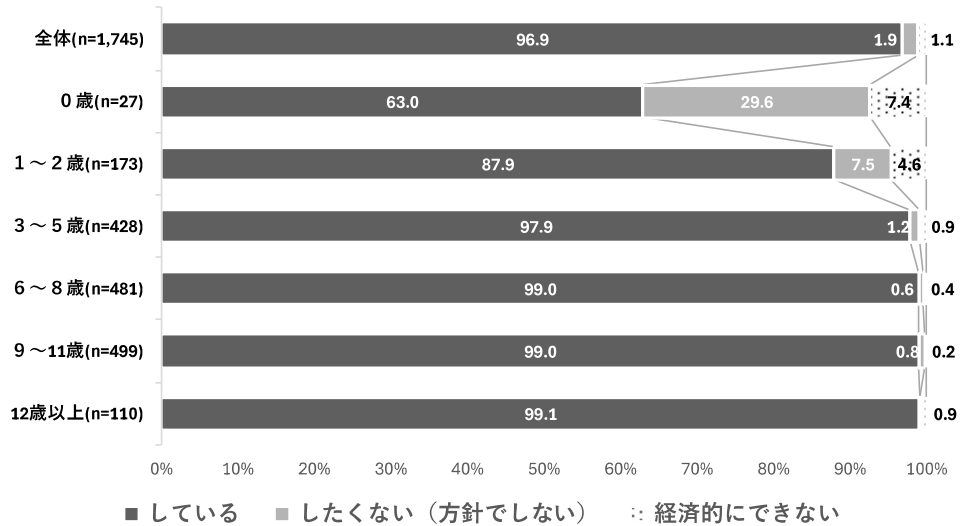
クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる（世帯の状況別）



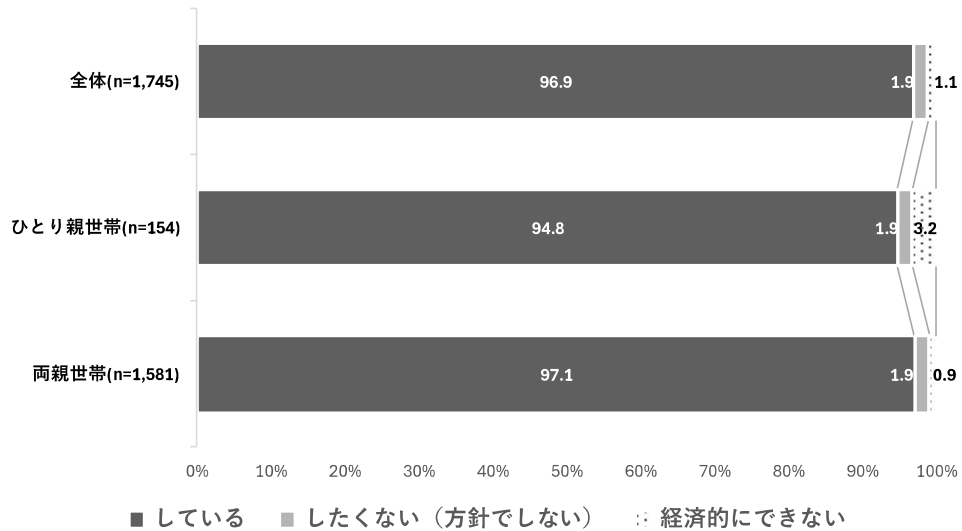
クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる（生活困難度別）



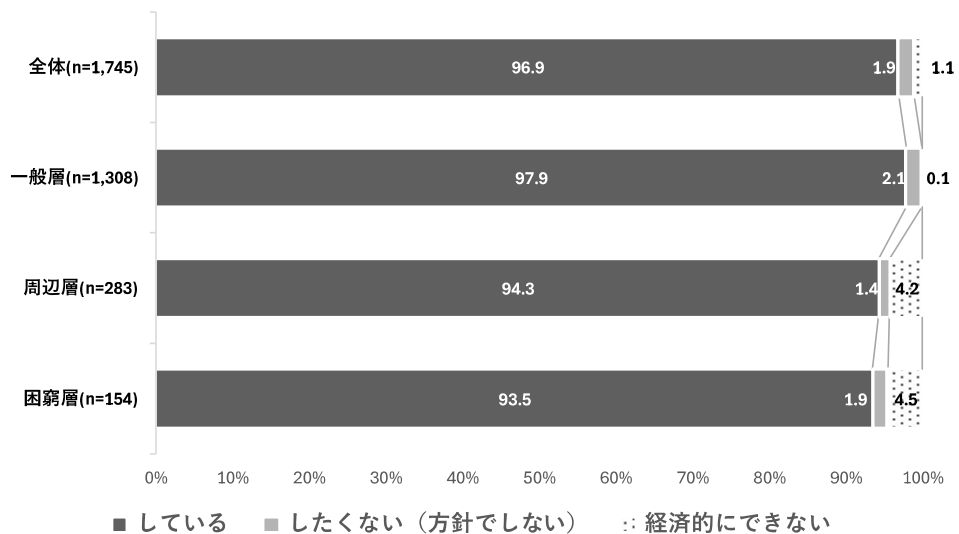
子どもの学校行事などへ親が参加する（年齢別）



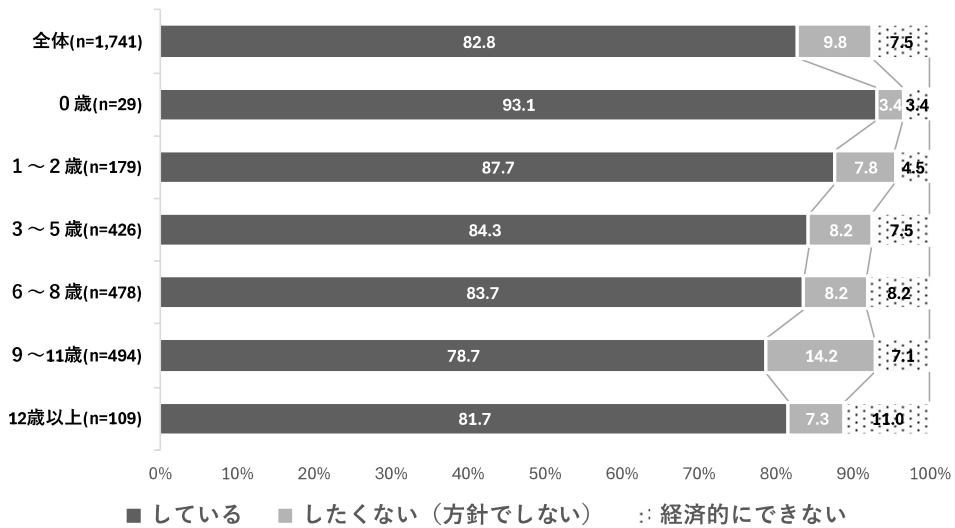
子どもの学校行事などへ親が参加する（世帯の状況別）



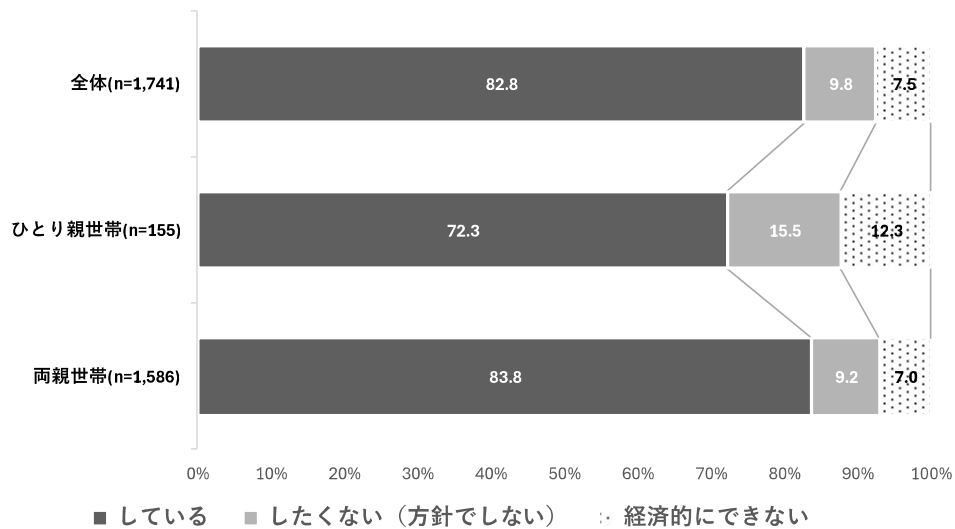
子どもの学校行事などへ親が参加する（生活困難度別）



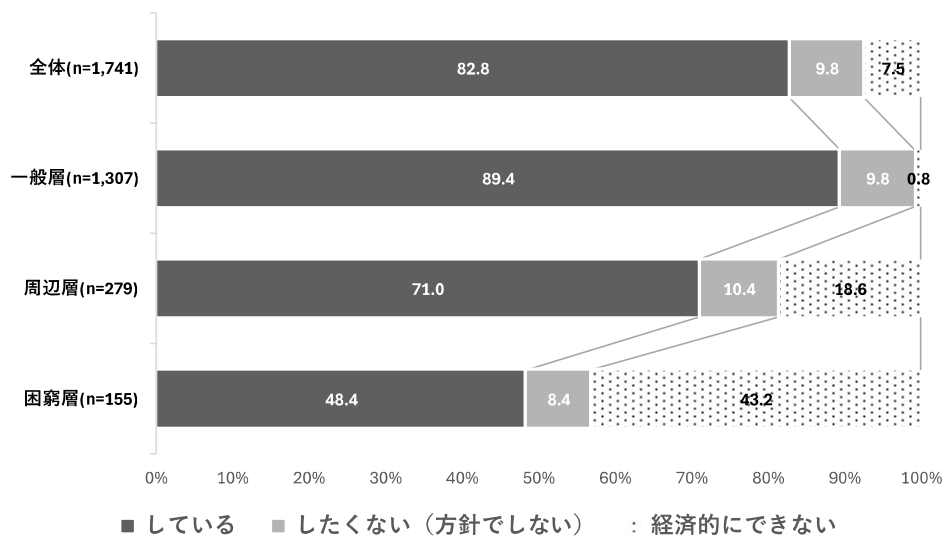
子どもの年齢に合った本を購入する（年齢別）



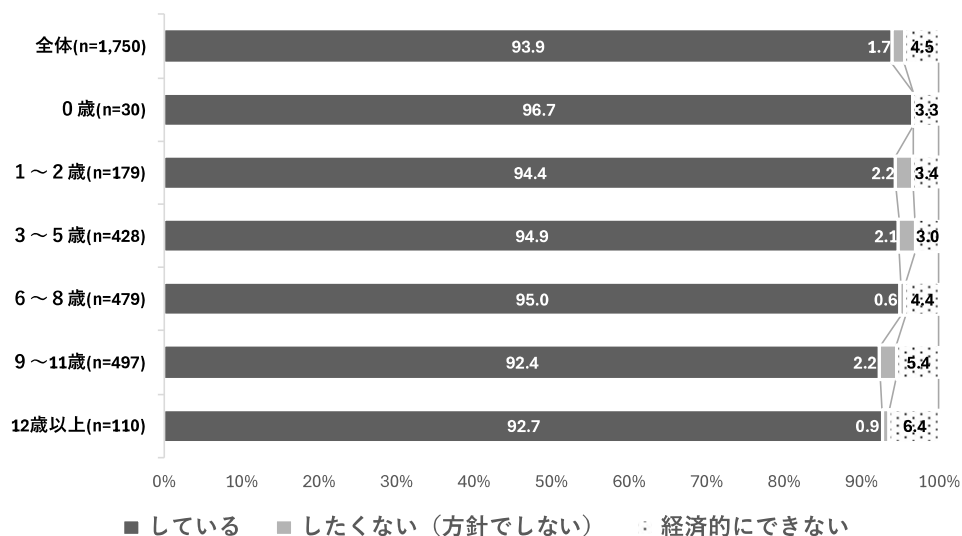
子どもの年齢に合った本を購入する（世帯の状況別）



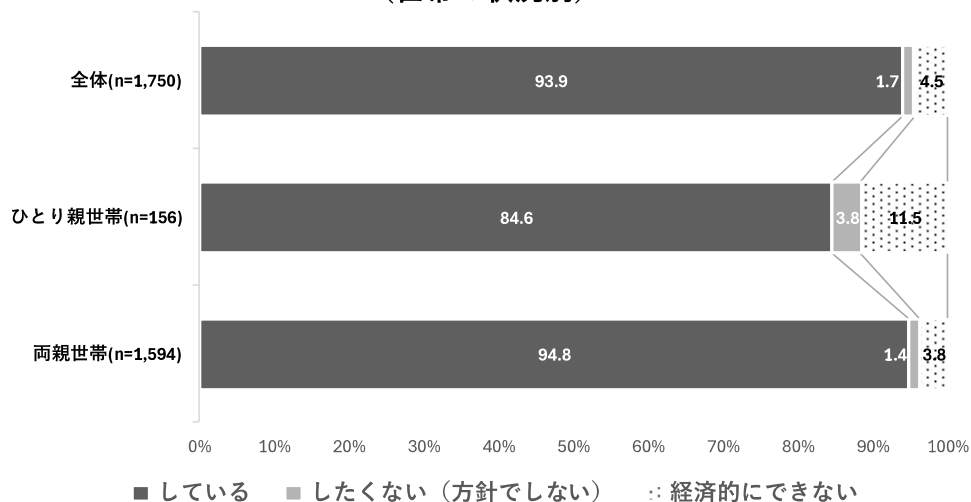
子どもの年齢に合った本を購入する（生活困難度別）



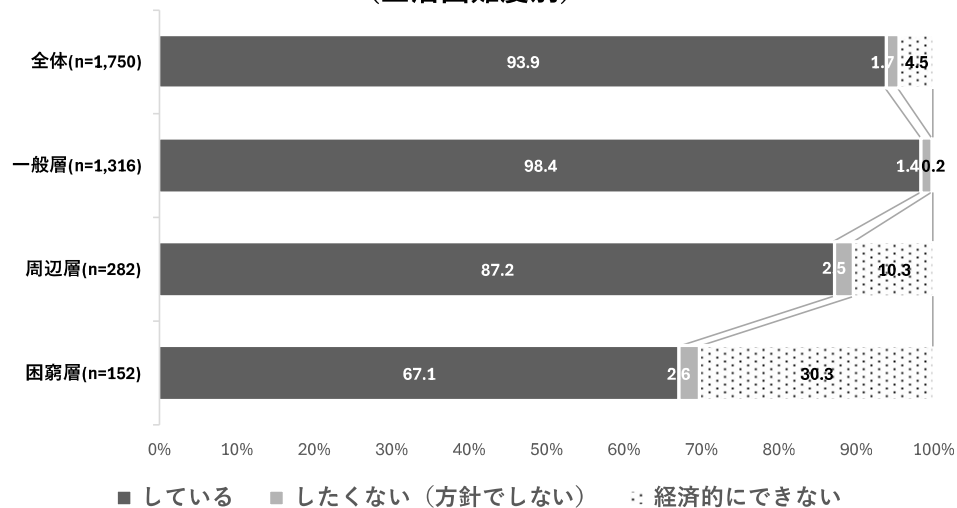
子ども用のスポーツ用品・おもちゃを購入する（年齢別）



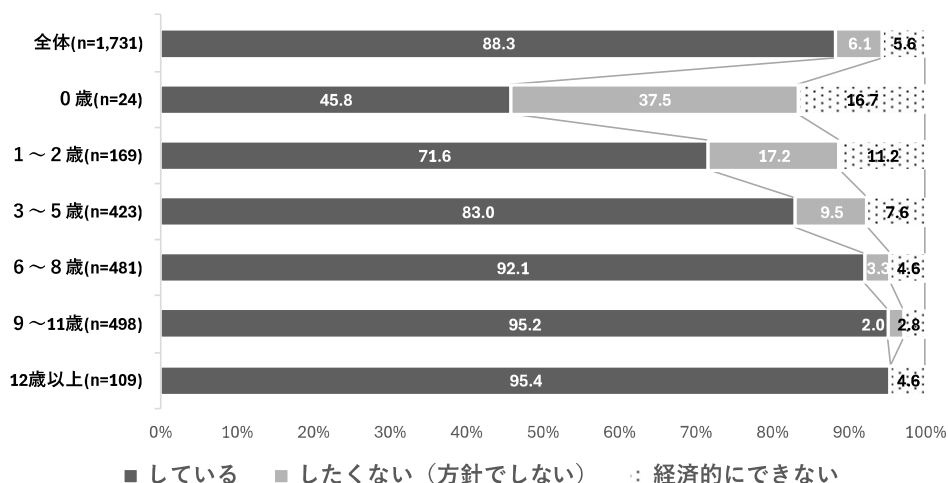
子ども用のスポーツ用品・おもちゃを購入する（世帯の状況別）



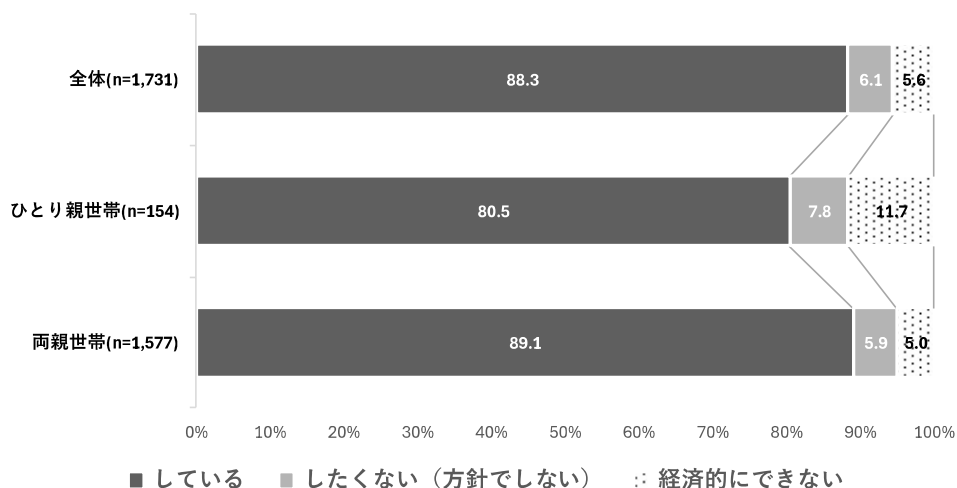
子ども用のスポーツ用品・おもちゃを購入する（生活困難度別）



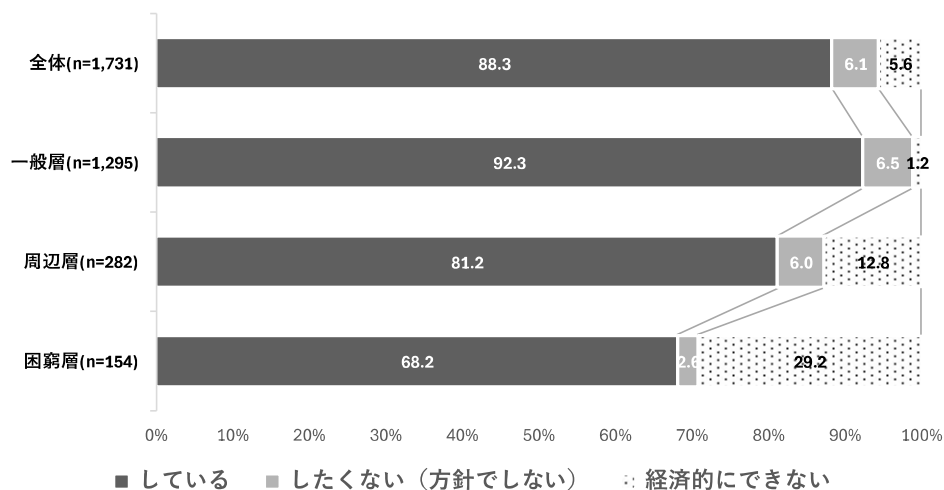
子どもが自宅で宿題（勉強）をすることができる
場所を用意する（年齢別）



子どもが自宅で宿題（勉強）をすることができる
場所を用意する（世帯の状況別）



子どもが自宅で宿題（勉強）をすることができる
場所を用意する（生活困難度別）



(8) 子どもの進学

問 51 あなたは、お子さんの進学について、どこまで希望されていますか。【〇は1つ】

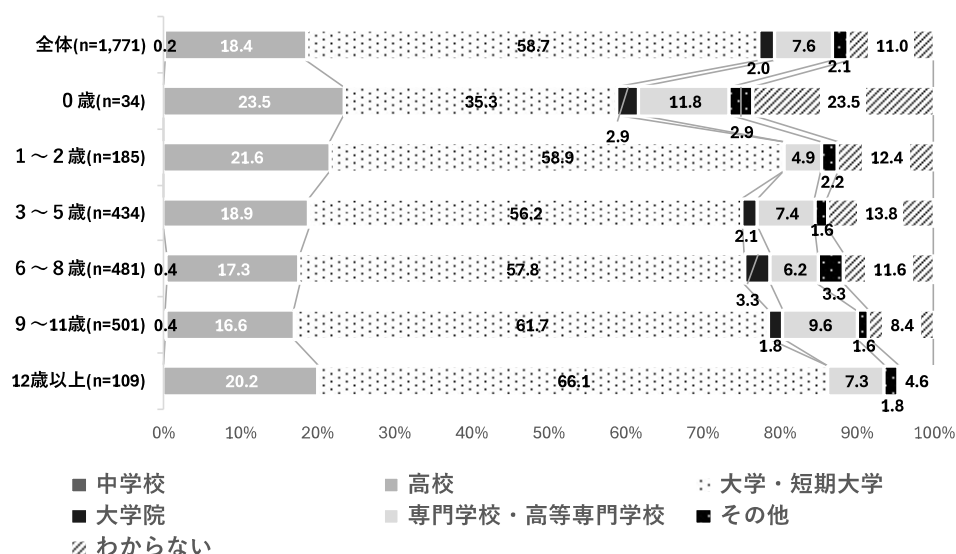
子どもの進学希望については、「大学・短期大学」と回答した割合が 58.7%、「高校」が 18.4%となっている。

年齢別にみると、9 歳以上では「大学・短期大学」と回答した割合が 60%を超えている。

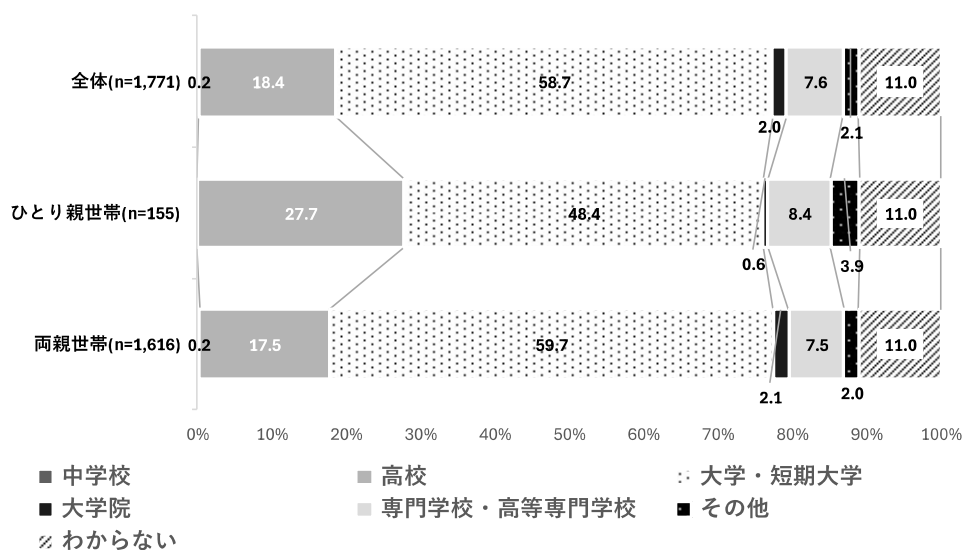
世帯の状況別にみると、ひとり親世帯における「大学・短期大学」との回答割合が 48.4%と、両親世帯よりも 10 ポイント程度低くなっている。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層において「大学・短期大学」との回答割合が 37.3%と、周辺層を 10 ポイント超、一般層を 25 ポイント程度と大きく下回っている。

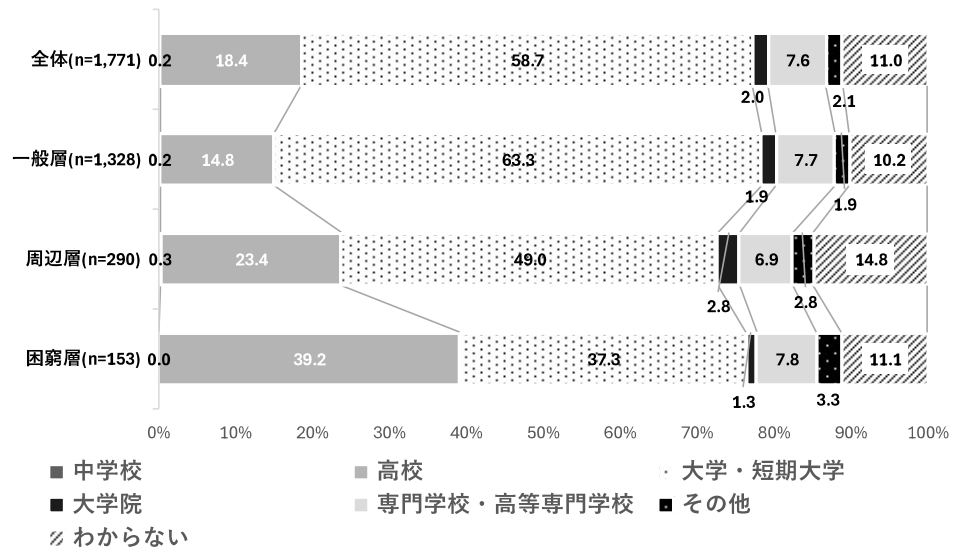
子どもの進学希望（年齢別）



子どもの進学希望（世帯の状況別）



子どもの進学希望（生活困難度別）



問 51 で「1」から「6」に○をつけた人のみ回答

問 51-1 あなたは、お子さんが問 51 の希望どおりの学校まで進むことになると思いますか。
【○は1つ】

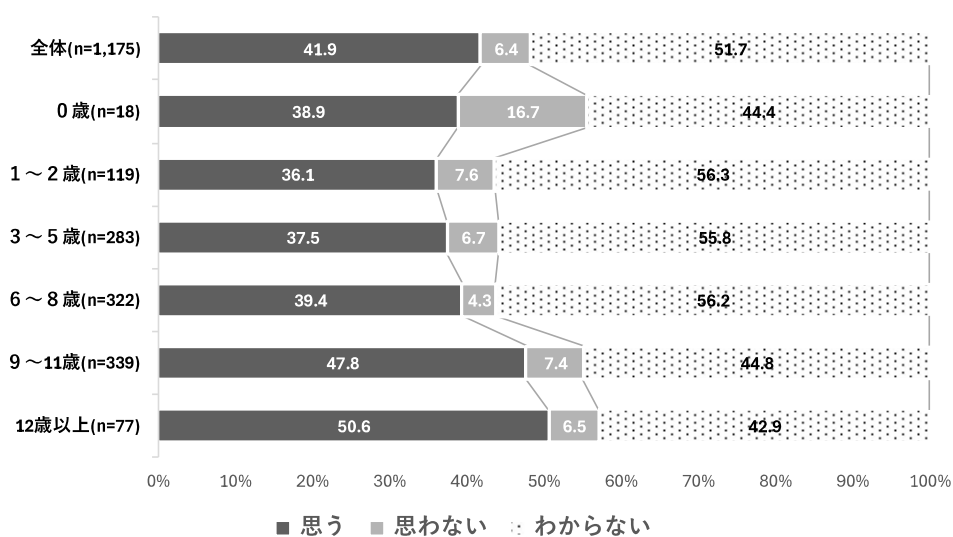
子どもの進学先希望について具体的に回答した保護者に、希望どおりの進学の可能性を尋ねたところ、進学すると「思う」と回答した割合が 41.9%となっている。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「思う」と回答した割合が高くなっている。

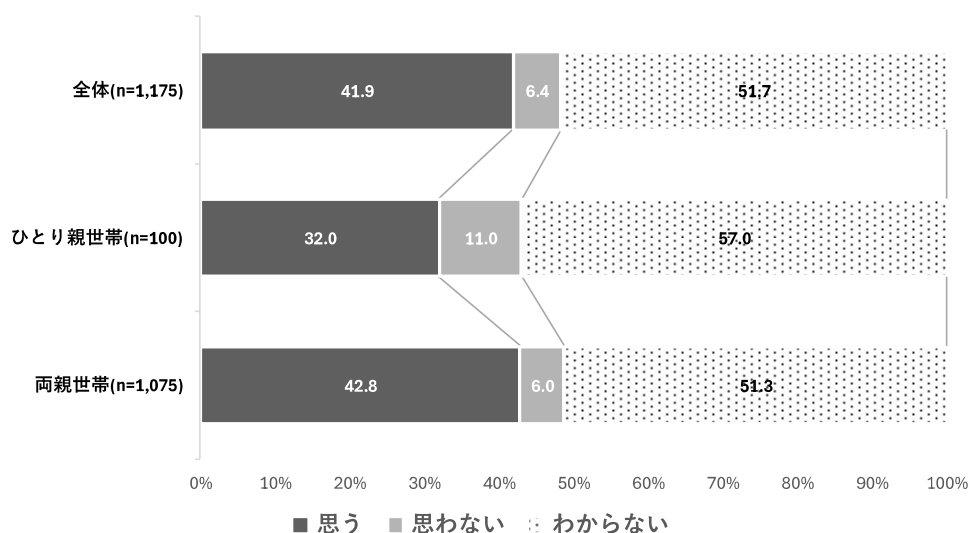
世帯の状況別にみると、ひとり親世帯における「思う」との回答割合が 32.0%と、両親世帯よりも 10 ポイント程度低くなっている。

生活困難層に係る分類でみると、周辺層や困窮層における「思う」との回答割合が 30%台で、一般層よりも 10 ポイント程度低くなっている。

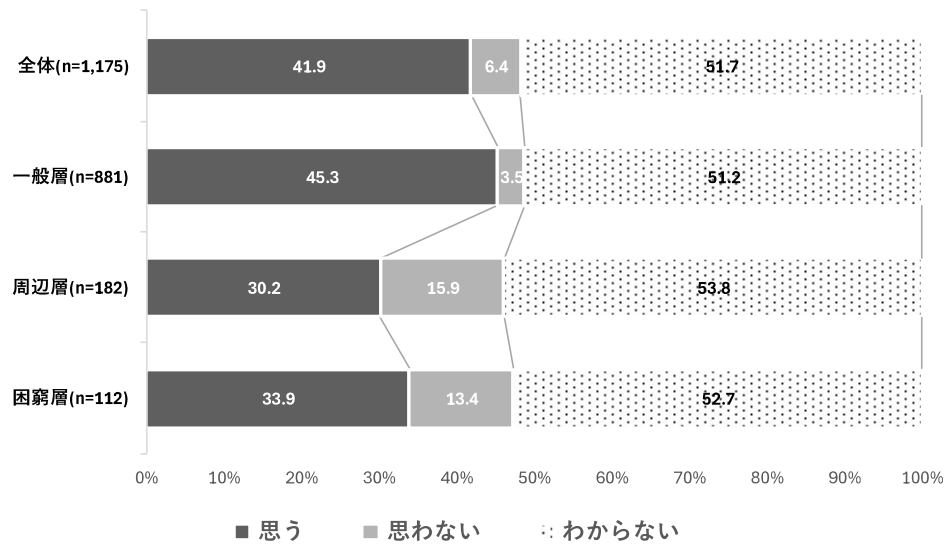
子どもの進学可能性（年齢別）



子どもの進学可能性（世帯の状況別）



子どもの進学可能性（生活困難度別）



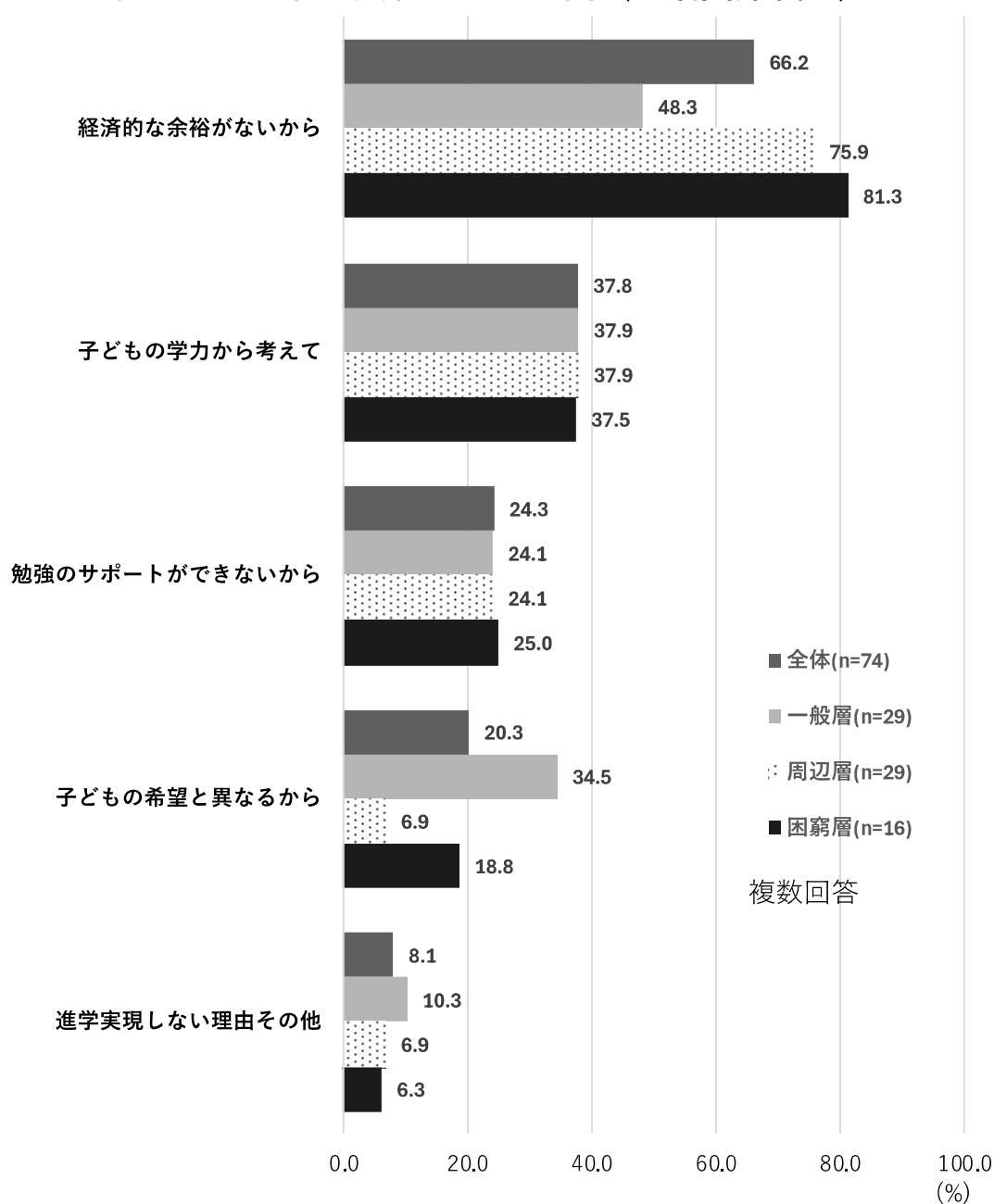
問 51-1 で「2. 思わない」に○をつけた人のみ回答

問 51-2 その理由について教えてください。【あてはまるもの全てに○】

子どもの希望どおりの進学の可能性について、進学すると「思わない」と回答した保護者に、その理由を尋ねたところ、「経済的な余裕がないから」と回答した割合が 66.2%と最も高く、次いで「子どもの学力から考えて」が 37.8%、「勉強のサポートができないから」が 24.3%となっている。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層や周辺層における「経済的な余裕がないから」との回答割合が 80%前後と高い水準になっているのに対し、一般層では「子どもの希望と異なるから」が 30%を超えている。

子どもの進学が実現しない理由（生活困難度別）



13 保護者の経験

(1) 父親と母親の経験

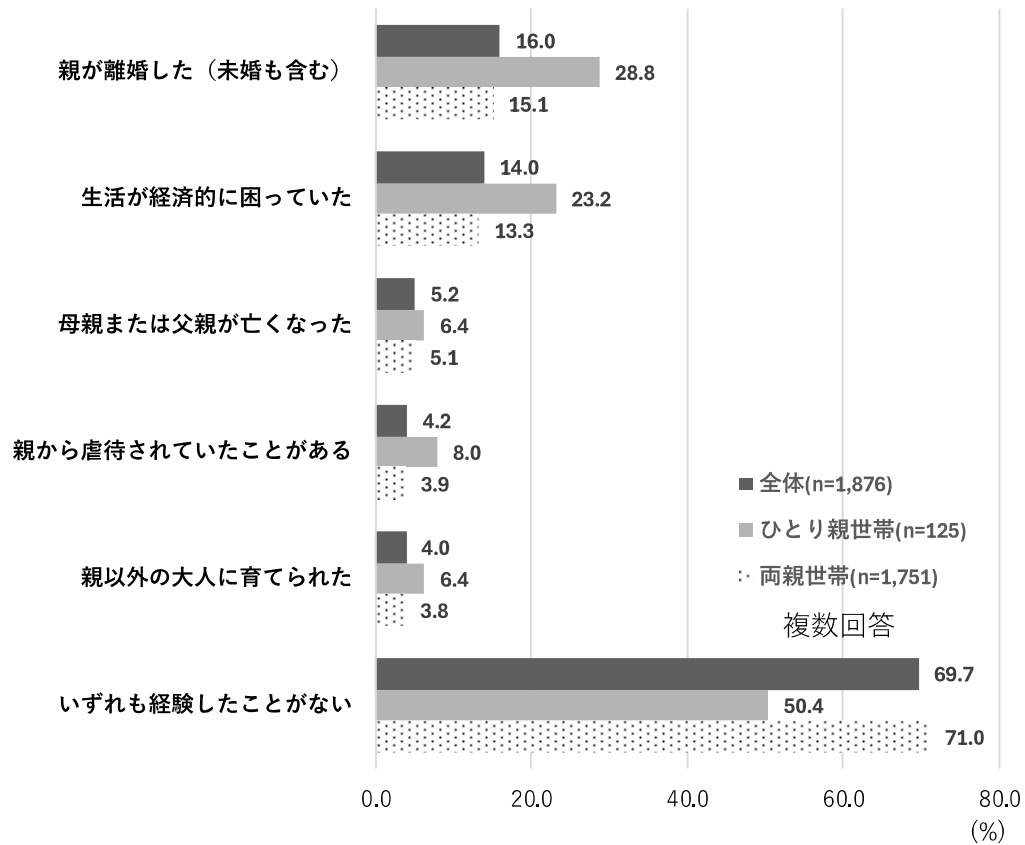
問 52 お子さんの親は、自身が成人する前、以下のような経験をしたことがありますか。【それぞれあてはまるもの全てに○】

母親と父親の成人前の経験については、どちらも「親が離婚した（未婚も含む）」と回答した割合が最も高くなっている。

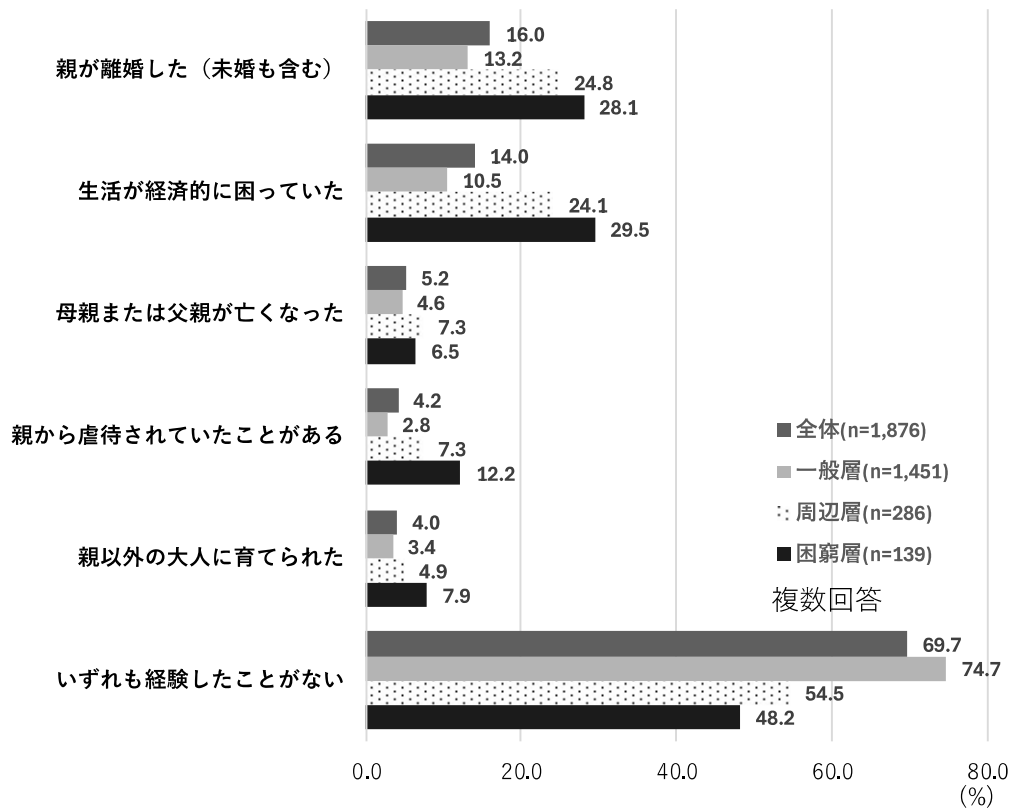
世帯の状況別にみると、母親・父親共に、ひとり親世帯において、経験に関する項目の回答割合が両親世帯を上回っており、中でも「親が離婚した（未婚も含む）」に関しては、回答割合が両親世帯の2倍程度となっている。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層の母親は「親が離婚した（未婚も含む）」、「生活が経済的に困っていた」、「親から虐待されていたことがある」、「親以外の大人に育てられた」の4項目で、父親は「親が離婚した（未婚も含む）」、「生活が経済的に困っていた」、「親から虐待されていたことがある」の3項目について、回答割合が周辺層や一般層を上回っている。

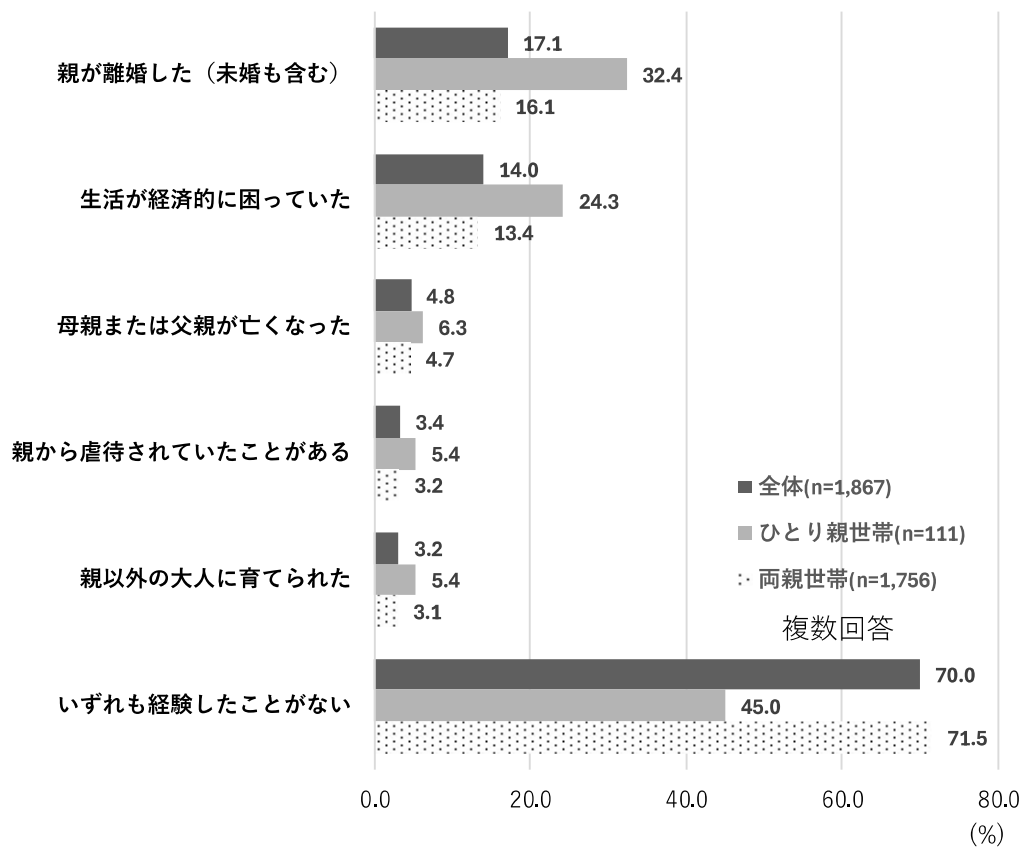
母親の経験（世帯の状況別）



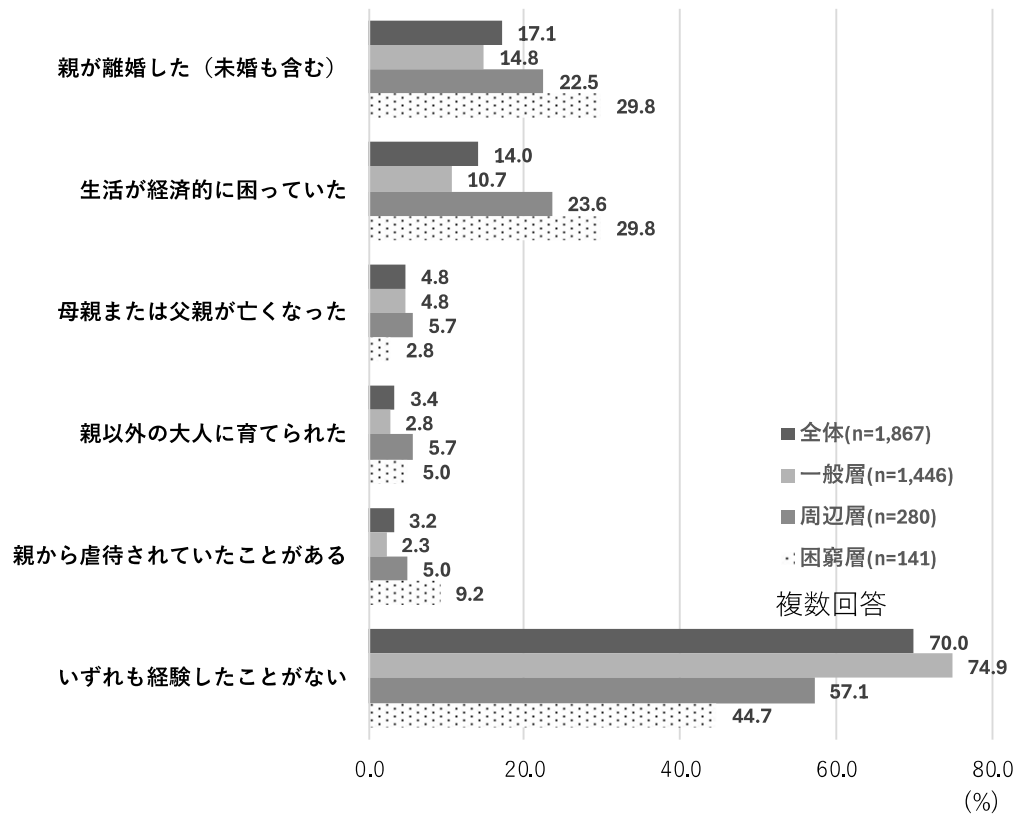
母親の経験（生活困難度別）



父親の経験（世帯の状況別）



父親の経験（生活困難度別）



14 世帯の経済状況

(1) 家計を支えている人

問 53 あなたの世帯で主に家計を支えている方はどなたですか。【主な方に○】お子さんからみた続柄で、回答してください。

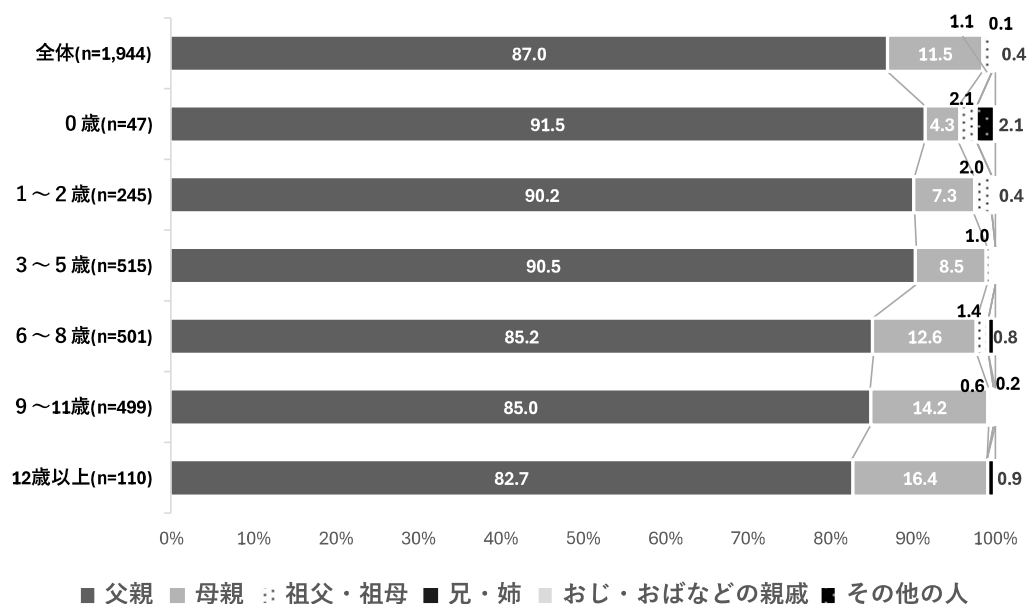
家計を支えている人については、「父親」と回答した割合が 87.0%、「母親」が 11.5%となっている。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「母親」の割合が高くなっている。

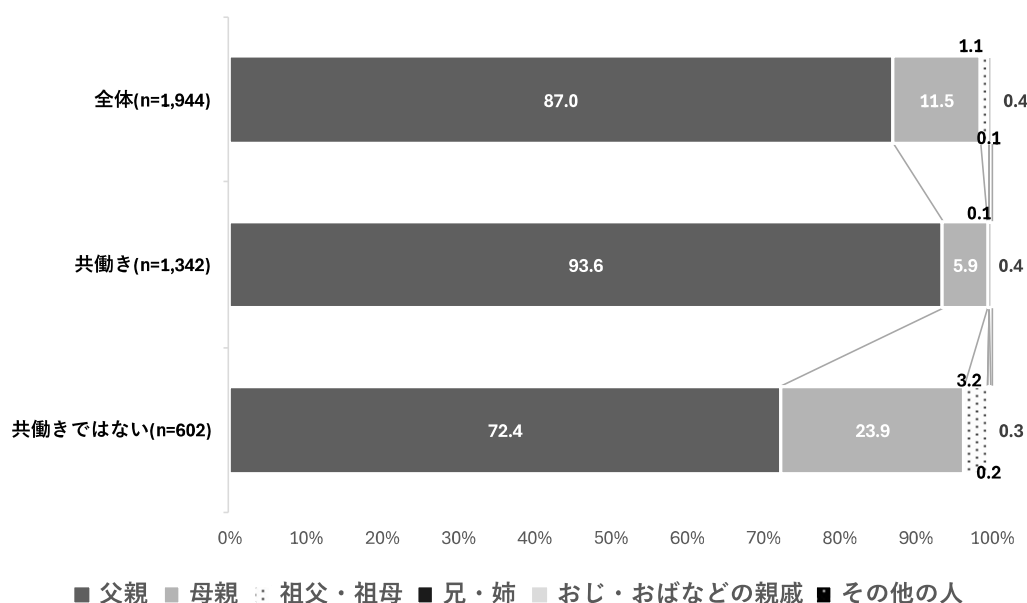
共働き世帯か否かで比較すると、共働きではない世帯において「母親」と回答した割合が高くなっている。

生活困難層に係る分類でも、困窮層では「母親」と回答した割合が高くなっている。

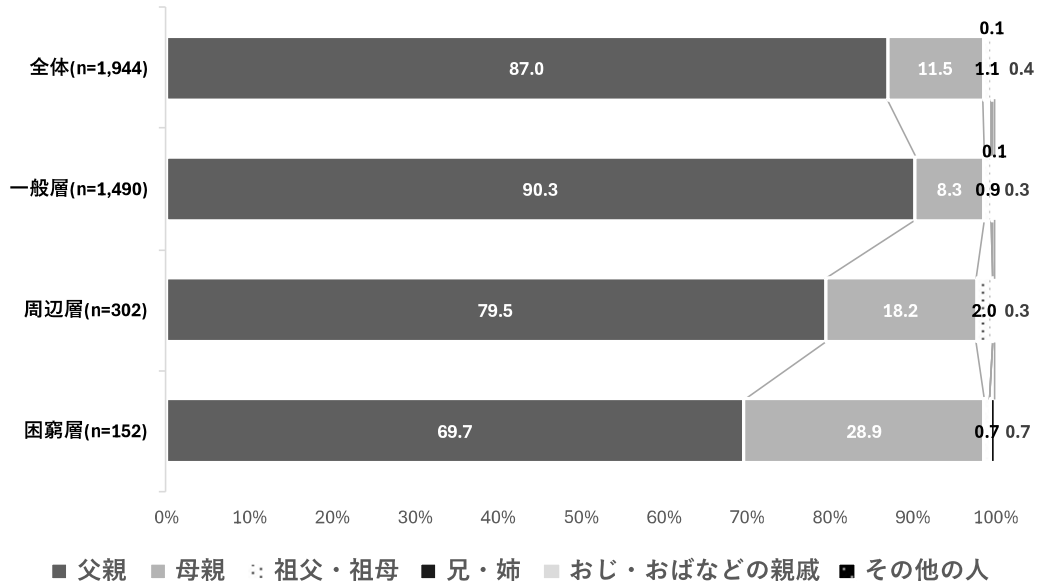
家計を支えている人（年齢別）



家計を支えている人（共働きか否か別）



家計を支えている人（生活困難度別）

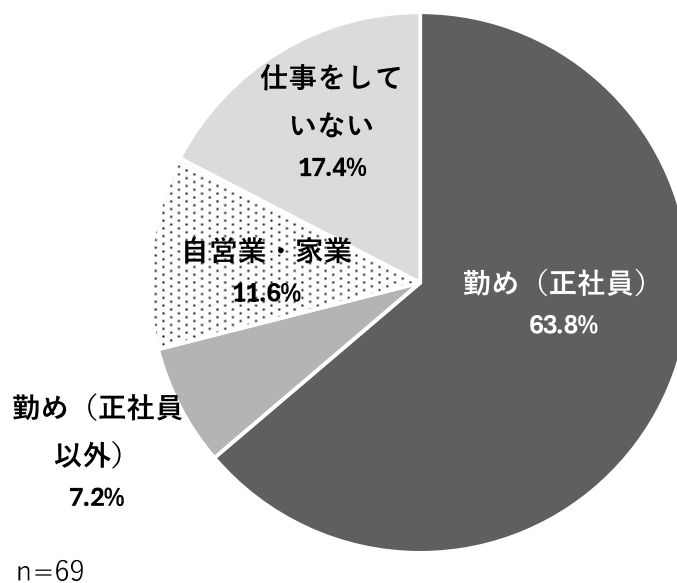


問 53 で「3. 祖父・祖母」「4. 兄・姉」「5. おじ・おばなどの親戚」「6. その他の人」に○をつけた人のみ回答

問 53-1 その方の就業状況について教えてください。【○は1つ】

家計を支えている人が父親や母親以外の場合の就業状況については、「勤め（正社員）」と回答した割合が 63.8%となっているほか、「仕事をしていない」が 17.4%となっている。

祖父母等の就業状況



(2) 世帯人数と年間収入

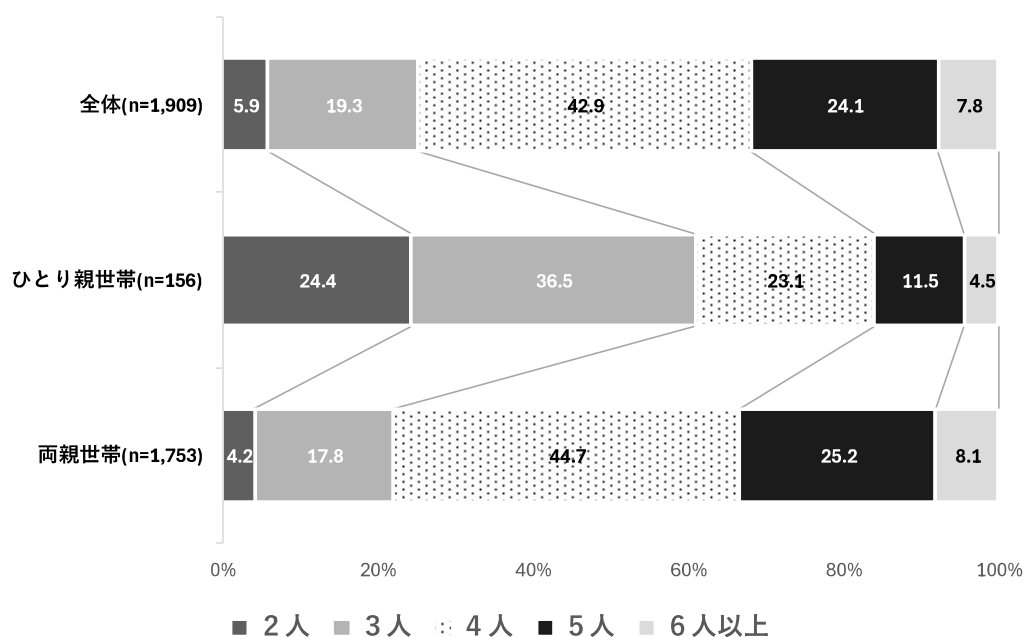
問 54 令和4年1月1日～12月31日のあなたの世帯員全員の人数と、その年間収入（税込）の合計額は、およそいくらでしたか。

世帯人数については、「4人」と回答した割合が42.9%と最も高く、次いで「5人」が24.1%となっている。

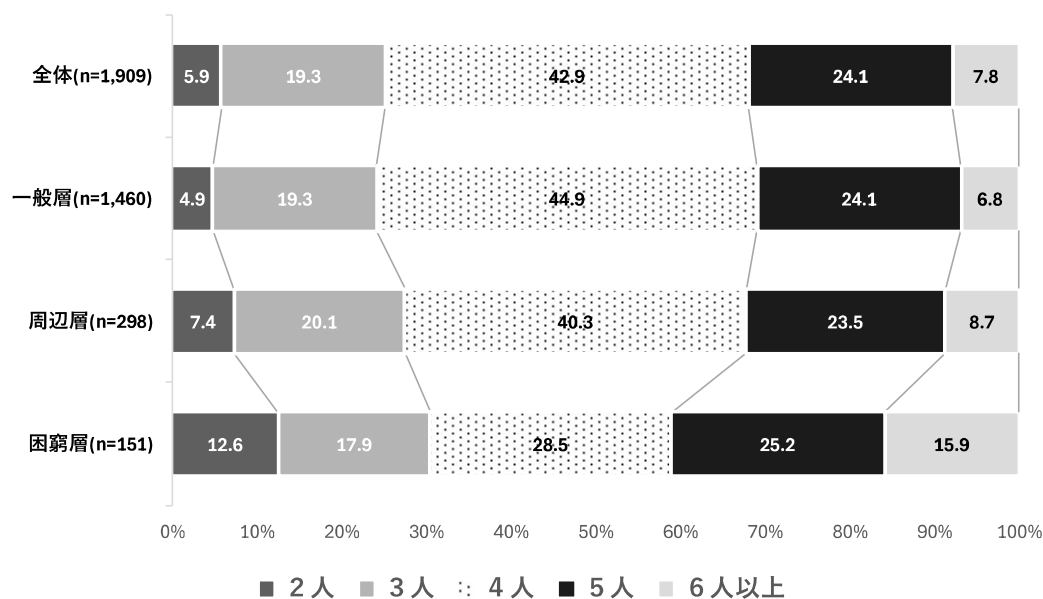
世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では「3人」が36.5%と最も多く、次いで「2人」が24.4%となっている。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層では「3人以下」および「5人以上」と回答した割合が周辺層や一般層より高い。

世帯人数（世帯の状況別）



世帯人数（生活困難度別）

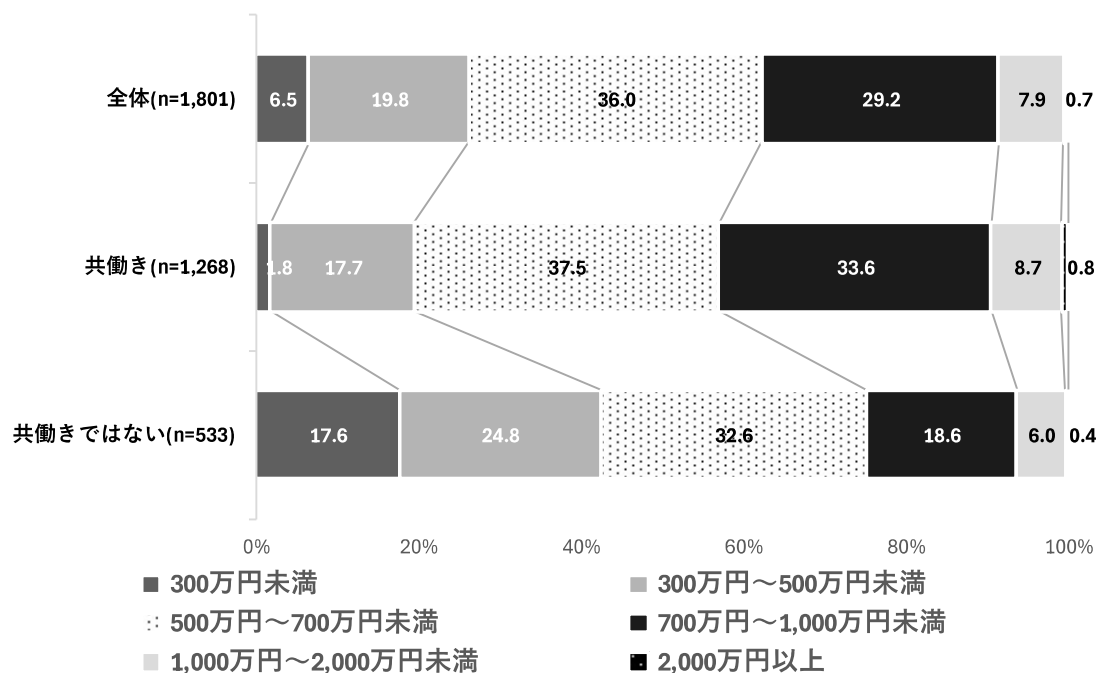


世帯の年間収入については、「500 万円～700 万円未満」と回答した割合が 36.0%と最も高く、次いで「700 万円～1,000 万円未満」が 29.2%となっている。

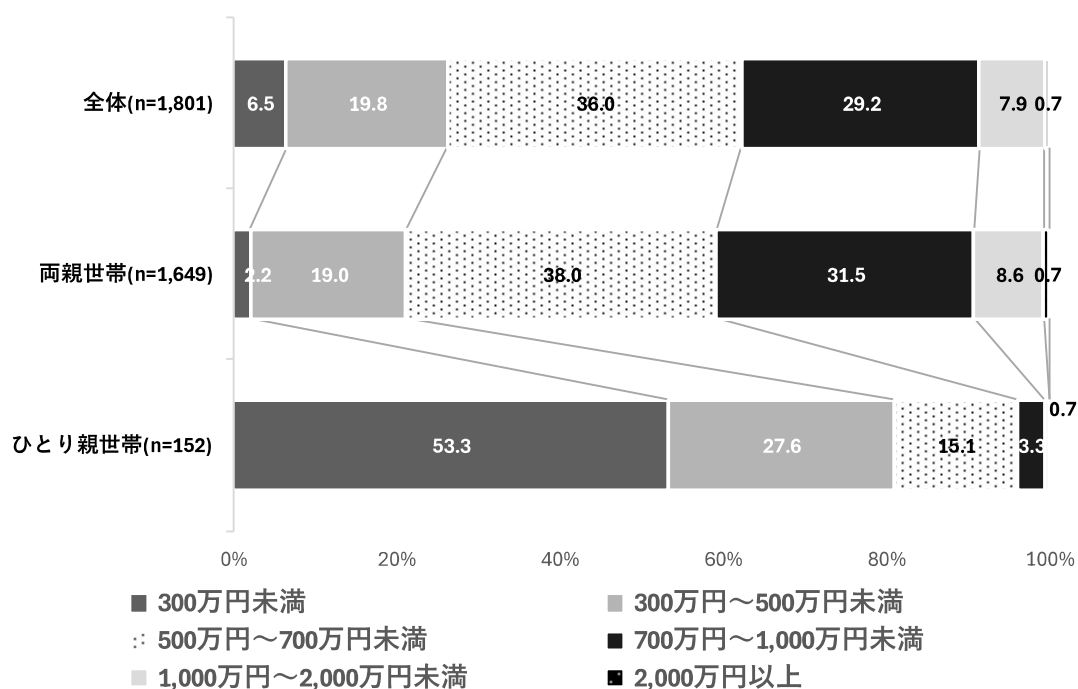
共働き世帯か否かでは共働き世帯の方が、両親世帯かひとり親世帯かでは両親世帯の方が高額収入の割合が高い。

「共働き世帯」と「両親世帯」とを比較すると年収分布が類似しているのに対して、「共働きでない世帯」と「ひとり親世帯」とを比較すると「ひとり親世帯」は「300 万円未満」の割合が 53.3%と「共働きでない世帯（17.6%）」の 3 倍以上の高い比率を占めている。

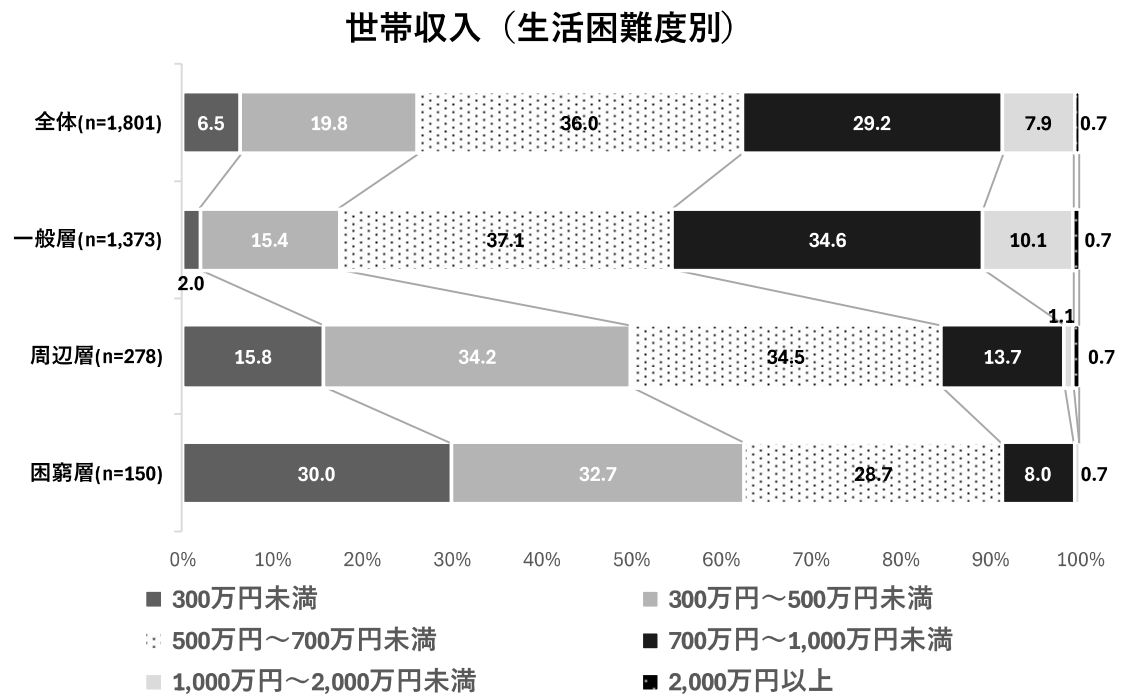
世帯収入（共働きか否か別）



世帯収入（世帯の状況別）



生活困難層に係る分類でみると、困窮層では「300 万円未満」が 30.0%と、周辺層の約 2 倍、一般層の 15 倍に達している。



(3) 経済的理由による経験

問 55 あなたの世帯では、おおむね 1 年の間に、経済的な理由で、次のような経験をしたことがありますか。【あてはまる番号全てに○】

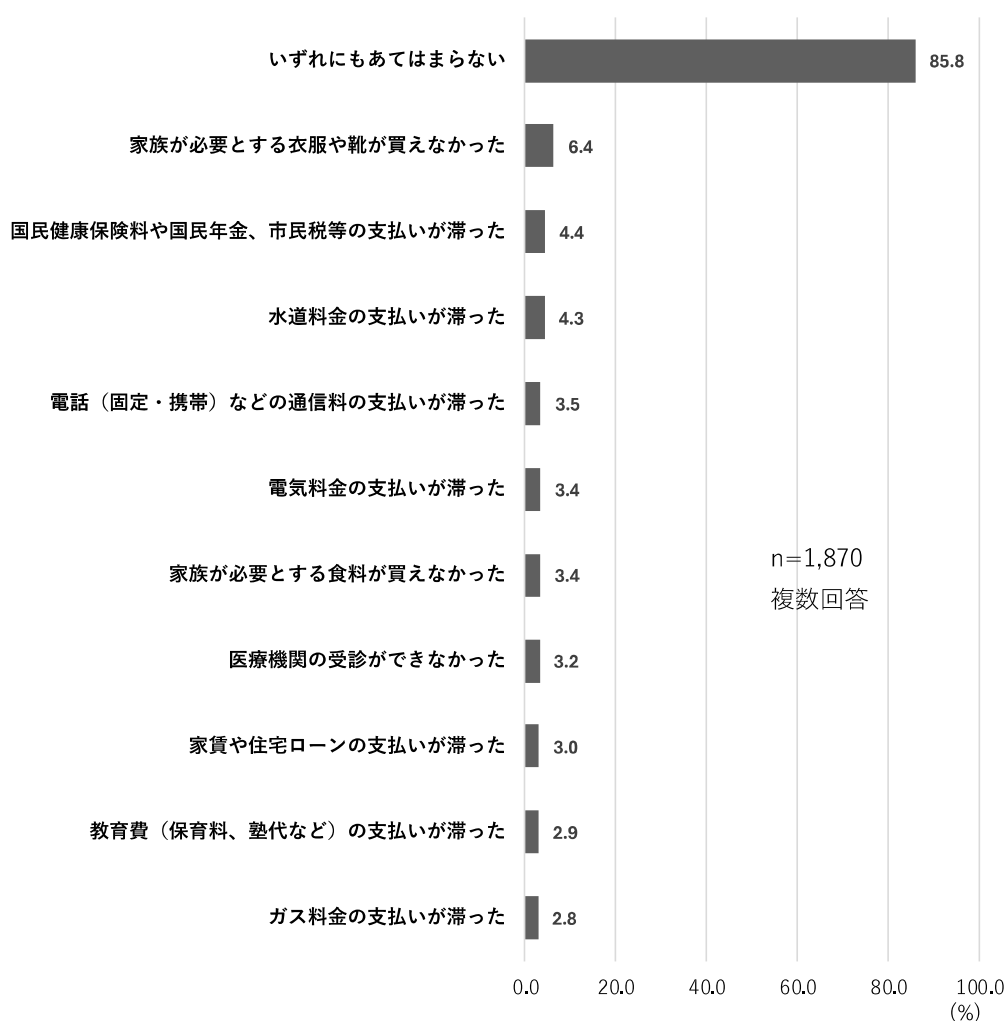
経済的理由による経験については、「いずれにもあてはまらない」(85.8%)を除くと、「家族が必要とする衣服や靴が買えなかった」と回答した割合が 6.4%と最も高く、次いで「国民健康保険料や国民年金、市民税等の支払いが滞った」が 4.4%、「水道料金の支払いが滞った」が 4.3%となっている。

「いずれにもあてはまらない」を除いた回答を年齢別にみると、回答数の少ない 0 歳（3 件）以外では大きな差はみられない。

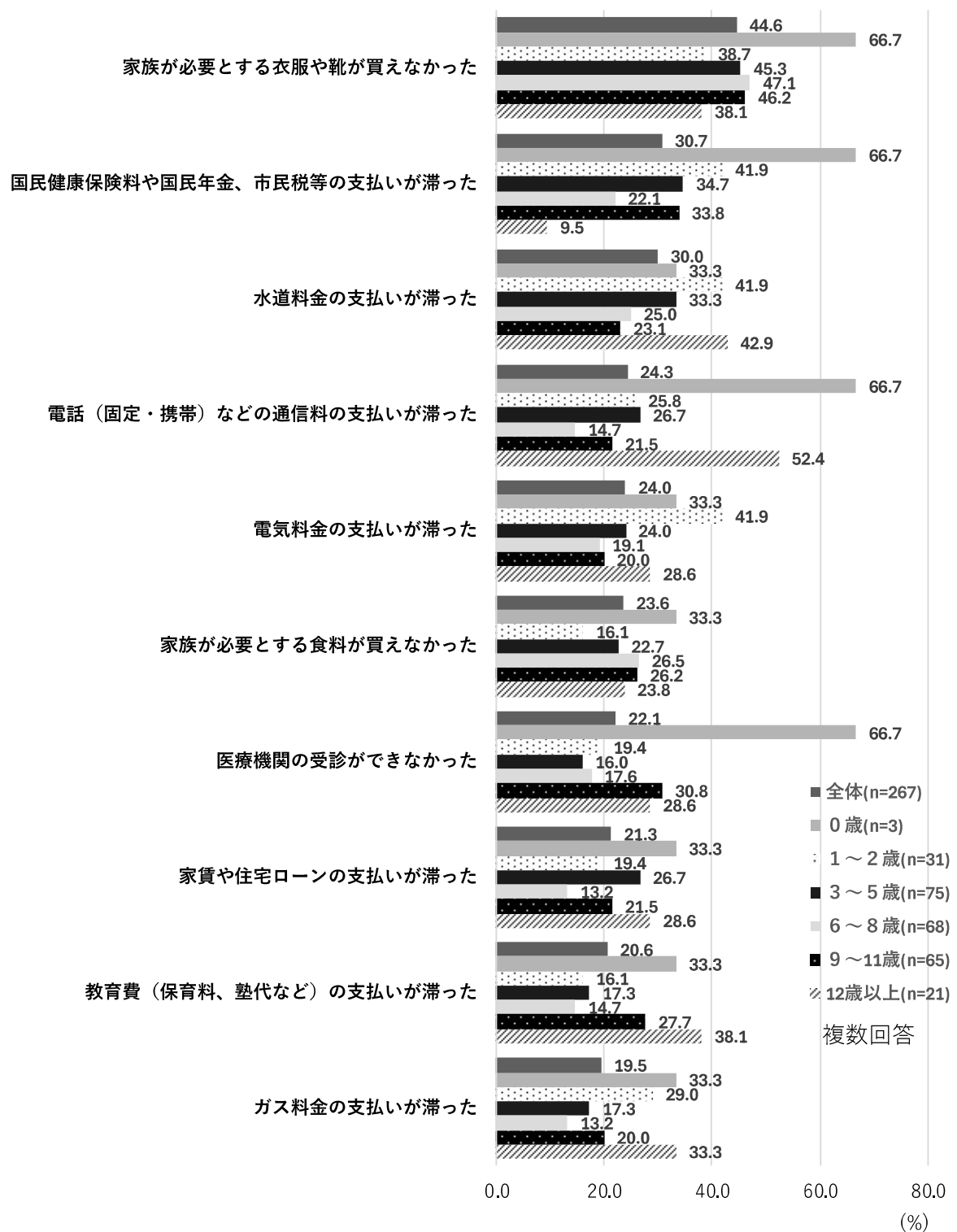
「いずれにもあてはまらない」を除いた回答を世帯の状況別にみると、具体的な経験に関する 10 項目のうち 8 項目で、ひとり親世帯の回答割合が両親世帯を上回っており、特にガスや電気、電話といった公共料金の支払いが滞ったという回答の割合は、両親世帯の約 2 倍～2 倍超となっている。

なお、本質問は生活困難層に係る判定要素の 1 つであり、分類ごとの結果（「いずれにもあてはまらない」を除く）をみると、困窮層では「家族が必要とする衣服や靴が買えなかった」や「家族が必要とする食料が買えなかった」の回答割合が周辺層の 2 倍近くに達している。

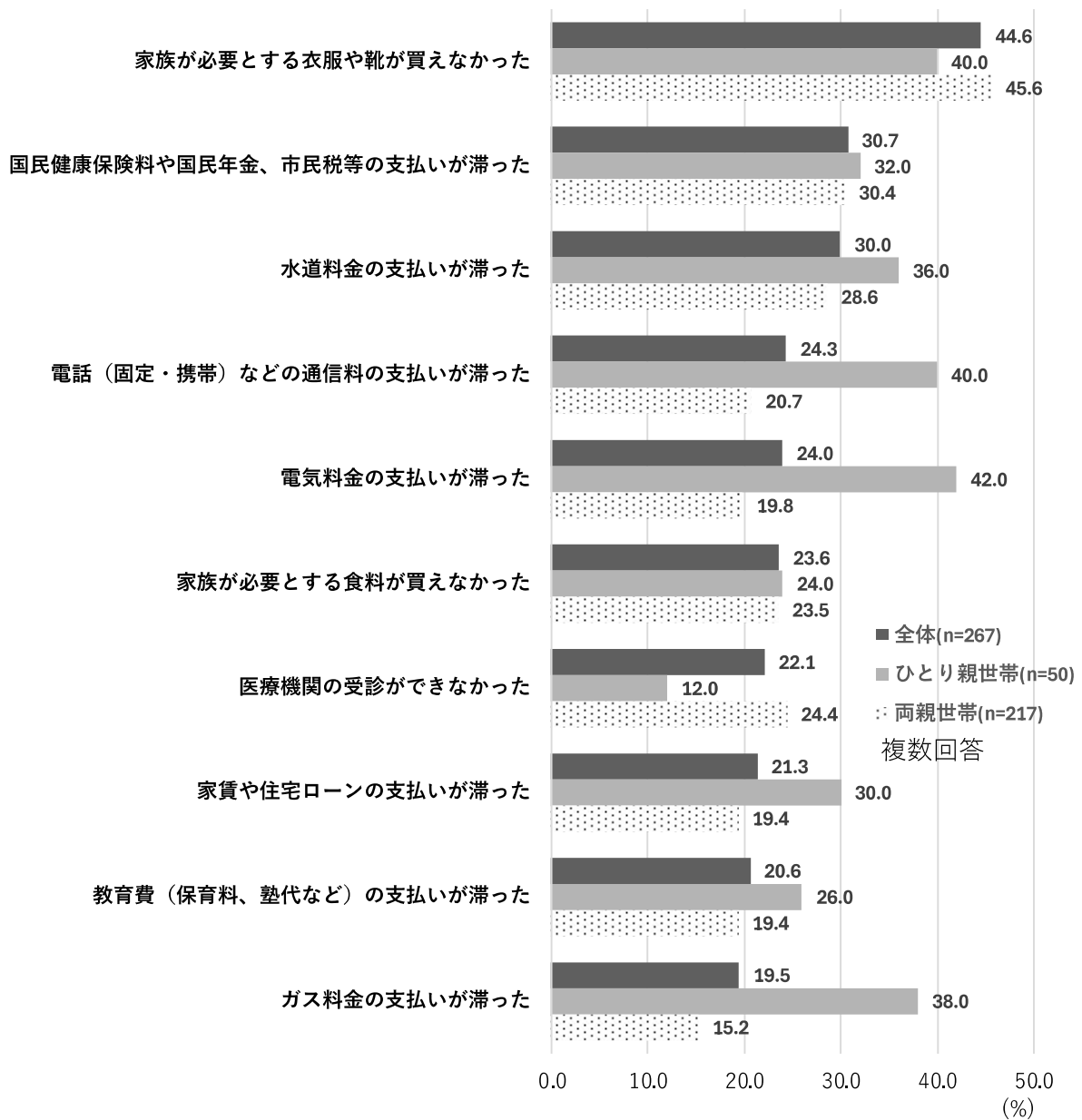
経済的理由による経験



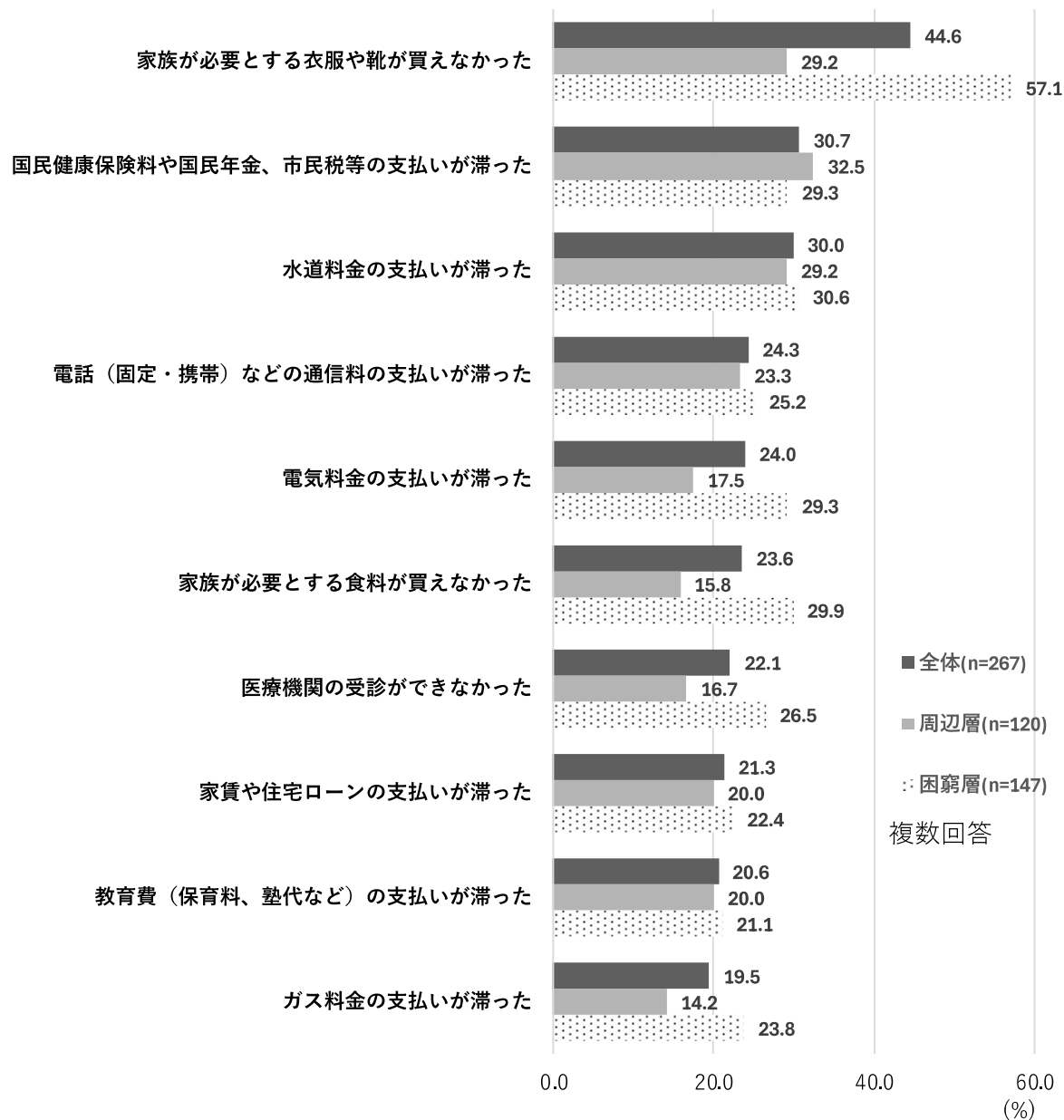
経済的理由による経験（経験ありのみ：年齢別）



経済的理由による経験（経験ありのみ：世帯の状況別）



経済的理由による経験（経験ありのみ：生活困難度別）



15 子育て全般

(1) 理想と現実の子どもの人数

問 56 あなたのご家庭では、子どもの人数は何人が理想だと思いますか。また、現実的に育てられる子どもの人数は何人だと思いますか。【数字を記入】

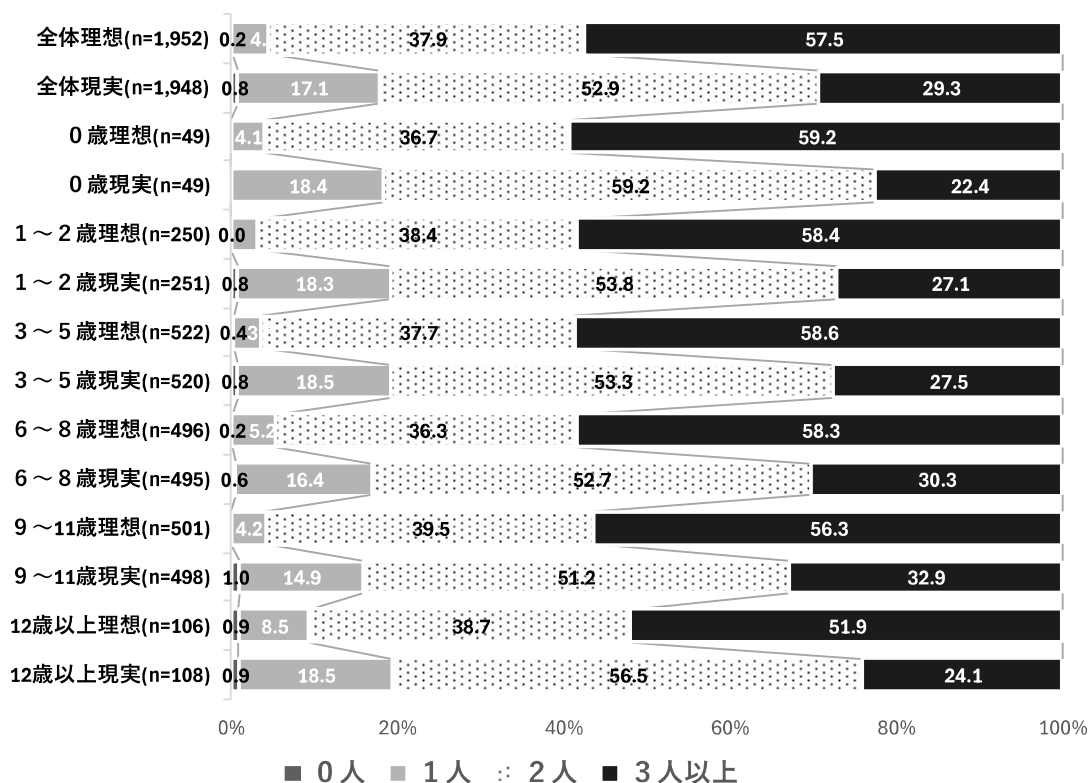
理想的な子どもの人数については、「3人以上」と回答した割合が57.5%と最も高くなっている一方、現実的な子どもの人数に関しては、「2人」が52.9%と最も高くなっている。

年齢別にみると、どの年齢層においても、理想は「3人以上」、現実には「2人以上」と回答した割合が最も高くなっている。

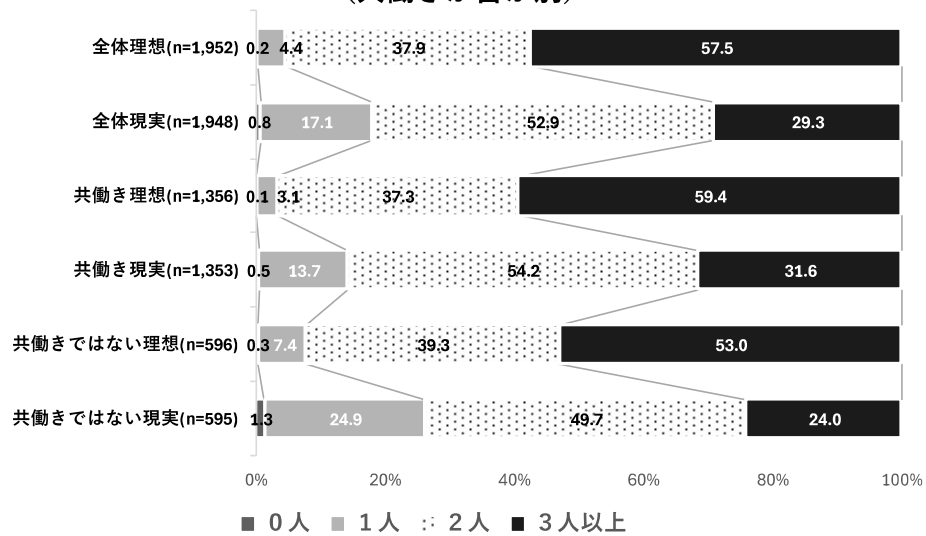
共働き世帯か否か、及びひとり親世帯や両親世帯かで比較すると、全ての階層で、理想は「3人以上」、現実には「2人以上」と回答した割合が最も高くなっているものの、共働きではない世帯、及びひとり親世帯においては、現実的な子どもの人数がもう一方の世帯よりも少なくなっており、中でもひとり親世帯に関しては、「1人」と回答した割合が42.6%と最も高くなっている。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層では現実的な子どもの人数を「1人」と回答した割合が32.5%と、他の層よりも高くなっている。

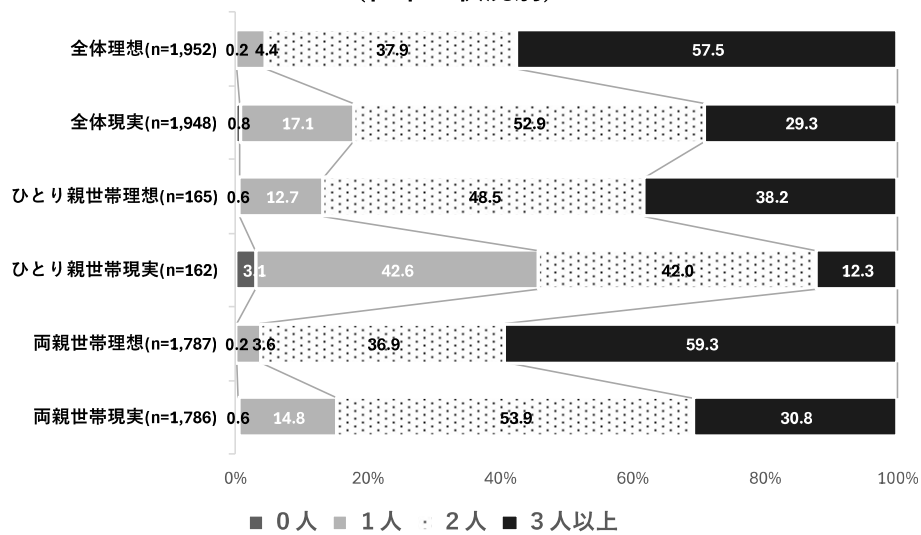
理想的な子どもの人数と現実的な子どもの人数（年齢別）



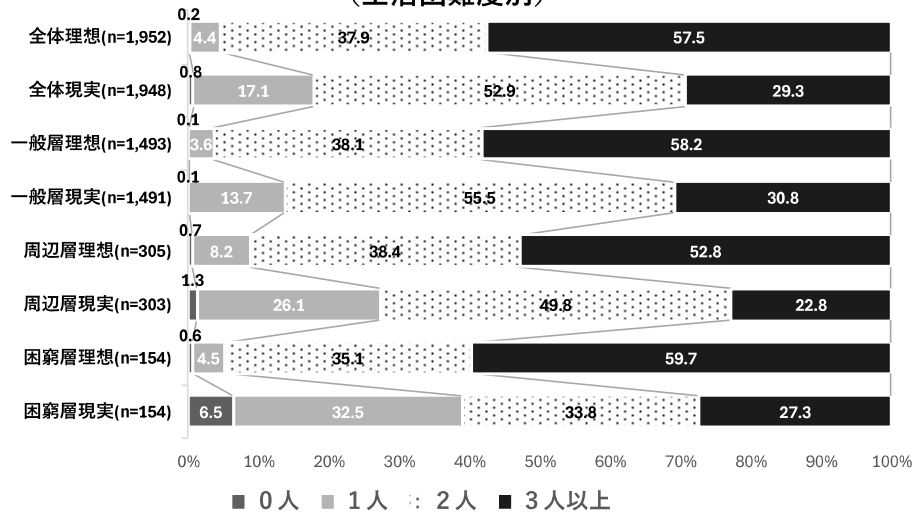
理想的な子どもの人数と現実的な子どもの人数
(共働きか否か別)



理想的な子どもの人数と現実的な子どもの人数
(世帯の状況別)



理想的な子どもの人数と現実的な子どもの人数
(生活困難度別)



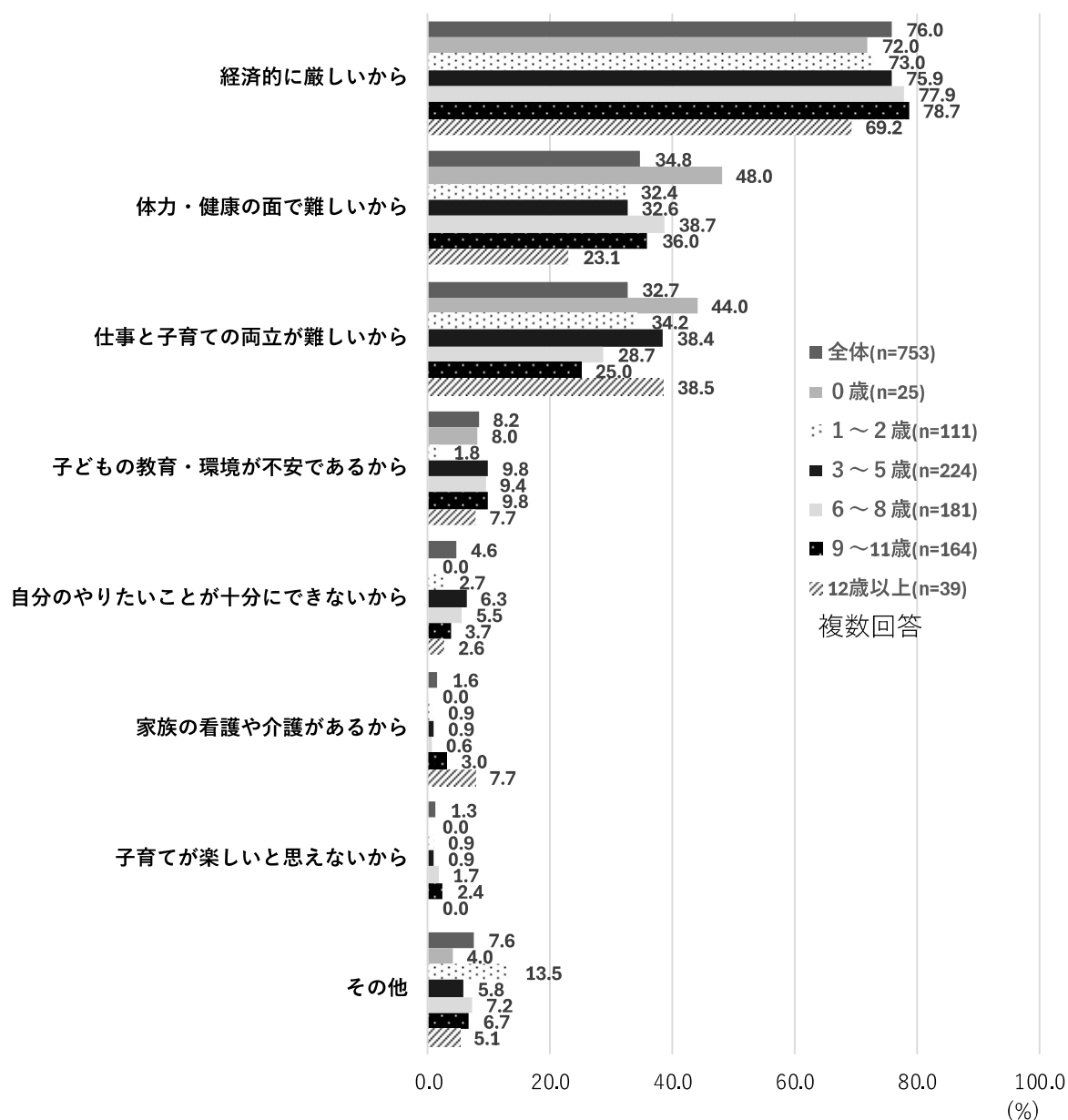
問 56 で現実的な子どもの人数が、理想の子どもの人数より少ない人のみ回答

問 56-1 ②現実的な子どもの人数が、①理想の子どもの人数より少ないのはどのような理由からですか。【○は主な理由2つまで】

現実的な子どもの人数が理想より少ない理由については、「経済的に厳しいから」と回答した割合が 76.0%と最も高く、次いで「体力・健康の面で難しいから」が 34.8%、「仕事と子育ての両立が難しいから」が 32.7%となっている。

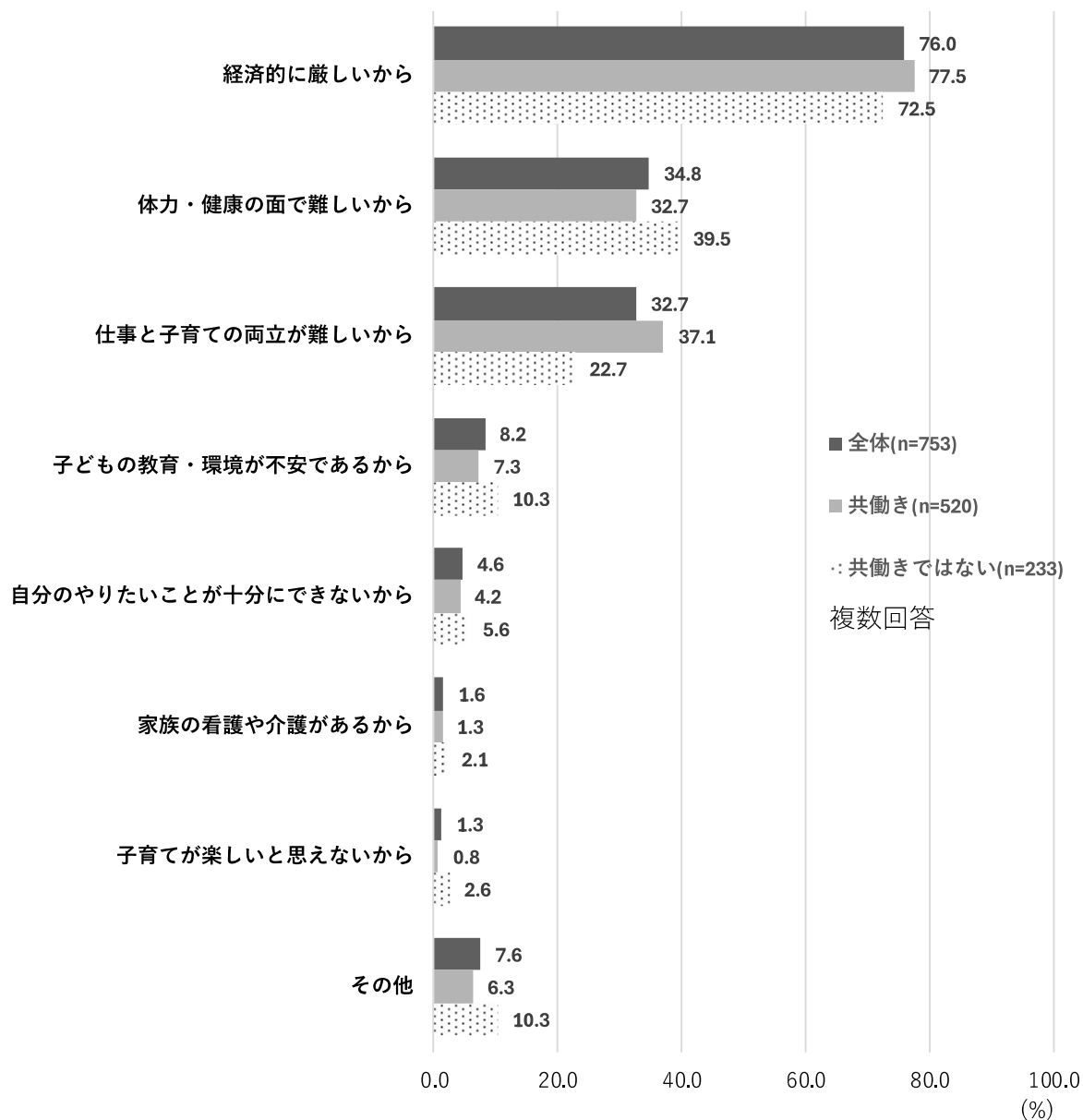
年齢別にみると、1～2歳、3～5歳、12歳以上では「仕事と子育ての両立が難しいから」が「体力・健康の面で難しいから」を上回っている。

理想的な子どもの人数より現実的な子どもの人数が少ない理由
(年齢別)



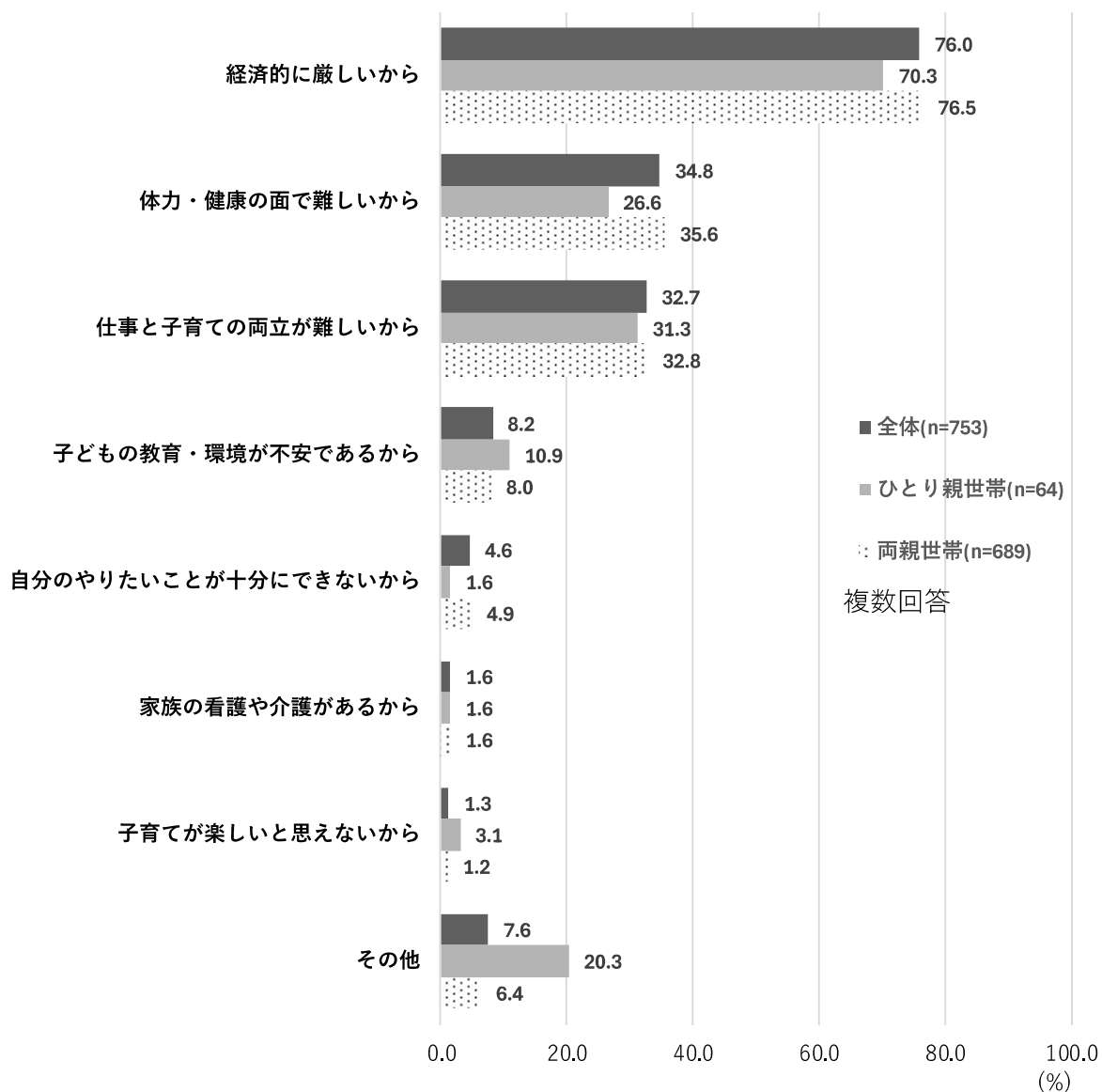
共働き世帯か否かで比較すると、共働き世帯では全体では3番目に多い「仕事と子育ての両立が難しいから」が、全体では2番目に多い「体力・健康の面で難しいから」を上回る高い割合を示している。

理想的な子どもの人数より現実的な子どもの人数が少ない理由 (共働きか否か別)



世帯の状況別にみると、ひとり親世帯は、両親世帯よりも「その他」以外の選択肢の回答割合が低く、両親世帯よりも具体的な理由を挙げる保護者が少ない状況にある。その中で例外的に「子どもの教育・環境が不安であるから」のみ 10.9%と、両親世帯の 8.0%を上回っている。

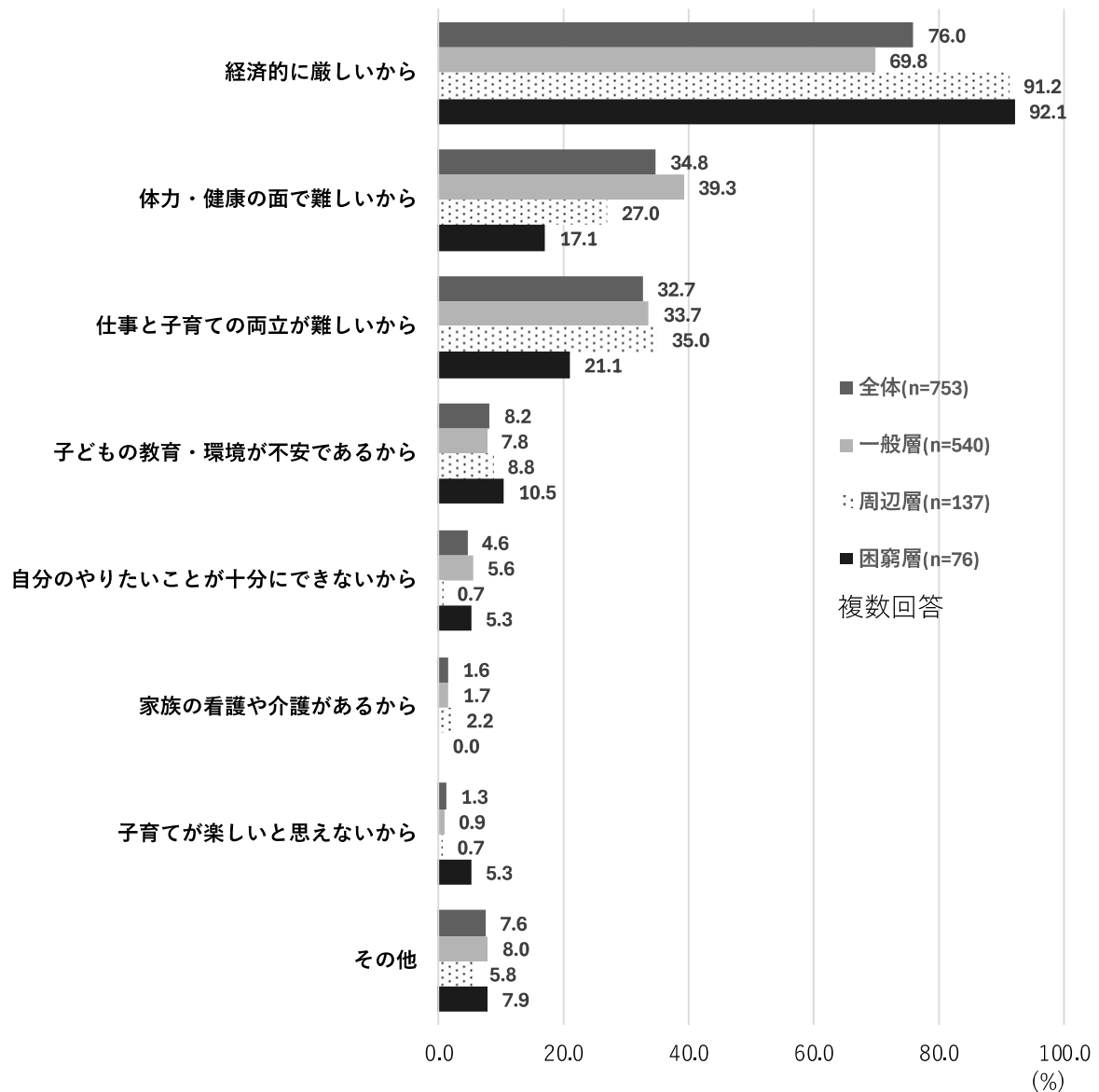
理想的な子どもの人数より現実的な子どもの人数が少ない理由 (世帯の状況別)



生活困難層に係る分類でみると、困窮層と周辺層では「経済的に厳しいから」と回答した割合が90%台と、一般層を20ポイント程度上回っている。

逆に「体力・健康の面で難しいから」の回答割合は一般層を10ポイント以上下回っている。

理想の子どもの人数より現実的な子どもの人数が少ない理由 (生活困難度別)



(2) 下関市の子育てのしやすさの程度

問 57 あなたは、下関市は子育てがしやすいまちだと思いますか。【〇は1つ】

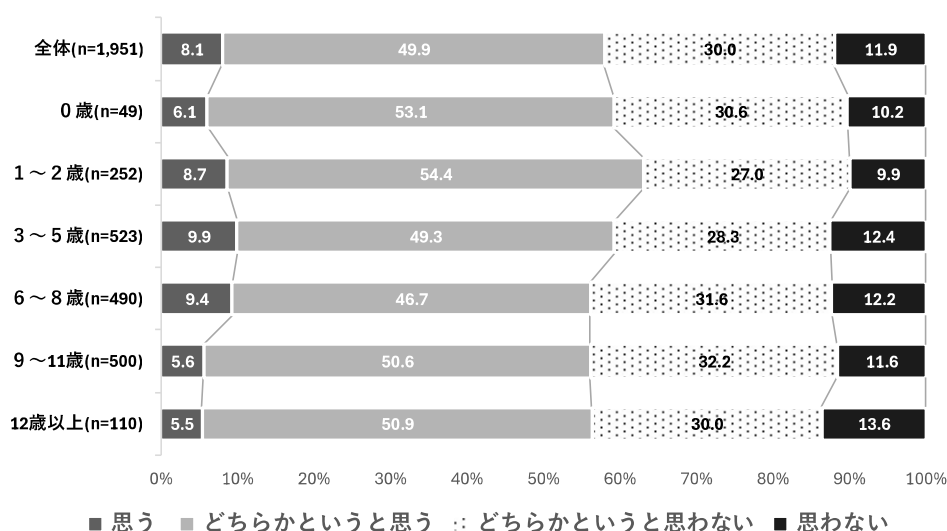
下関市の子育てのしやすさの程度については、子育てがしやすいまちだと『思う』（「思う」＋「どちらかというと思う」）と回答した割合は 58.0%と前回 2019 年と比較して 5.9 ポイント低下し、『思わない』（「どちらかというと思わない」＋「思わない」）と回答した割合は 41.9%と前回比 5.8 ポイント増加している。

年齢別にみると、子育てがしやすいまちだと『思う』と回答した割合は0歳を除き、年齢が低いほど高くなっている。「1～2歳」の『思う』は 63.1%と僅かながら前回割合（62.9%）を上回っている。

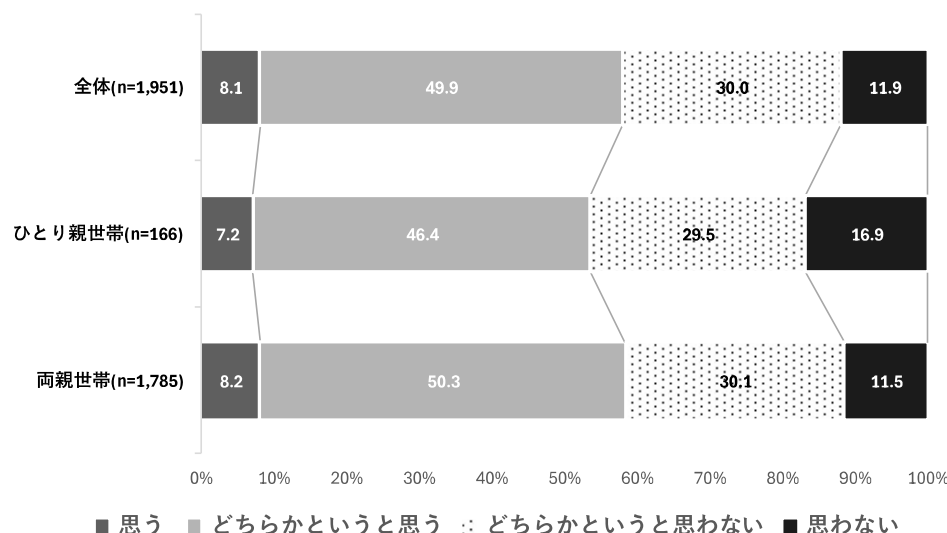
世帯の状況別にみると、ひとり親世帯における『思う』との回答割合が 53.6%と、両親世帯を 5 ポイント程度下回っている。

生活困難層に係る分類でみると、困窮層では『思う』との回答割合が 34.4%と、周辺層を 15 ポイント程度、一般層を 30 ポイント近く下回っている。

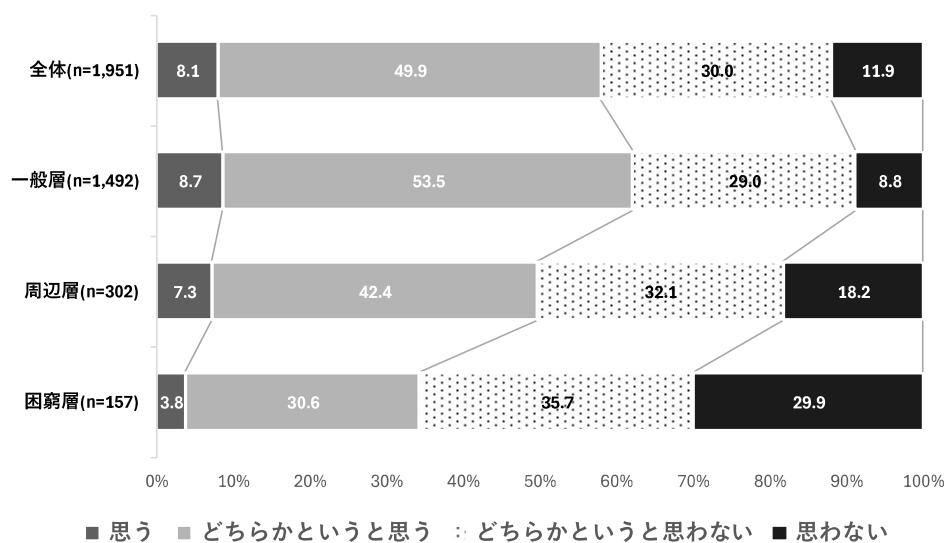
下関市は子育てしやすいまちだと思うか（年齢別）



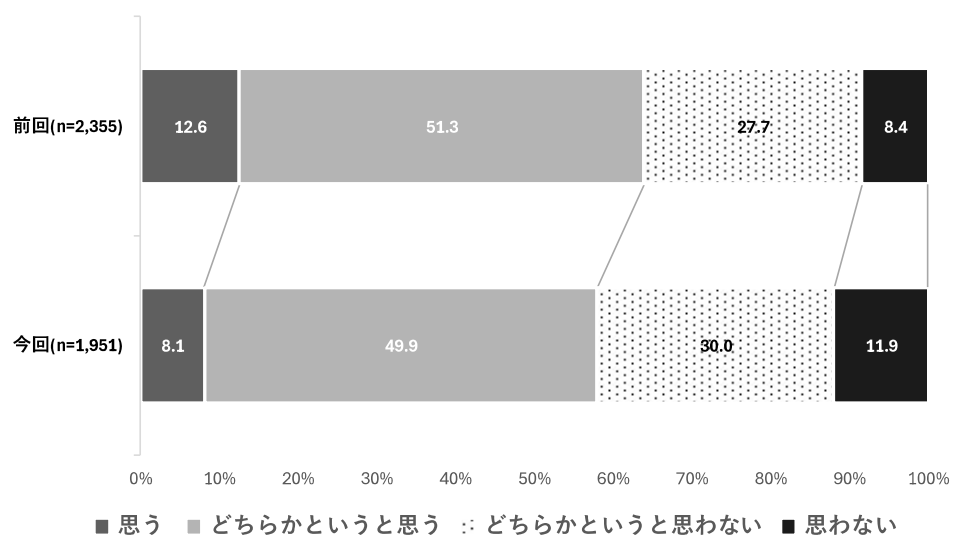
下関市は子育てしやすいまちだと思うか（世帯の状況別）



下関市は子育てしやすいまちだと思うか（生活困難度別）



下関市は子育てしやすいまちだと思うか（前回調査比）



(3) 充実を期待する子育て支援

問 58 市に対して、特に充実を期待する子育て支援はどのようなことですか。

【〇は5つまで】

充実を期待する子育て支援の内容については、「教育費など、子育てにかかる経済的負担を軽減してほしい」と回答した割合が 71.3%と最も高く、次いで「親子が安心して遊べる身近な場を増やしてほしい」が 36.7%、「幼稚園や保育園や認定こども園などにかかる費用負担を軽減してほしい」が 34.3%となっている。

年齢別にみると、「教育費など、子育てにかかる経済的負担を軽減してほしい」は全ての年齢層で6割以上を占めている。2番目に多い「親子が安心して遊べる身近な場を増やしてほしい」は8歳以下が4割程度と高い割合を占めている。

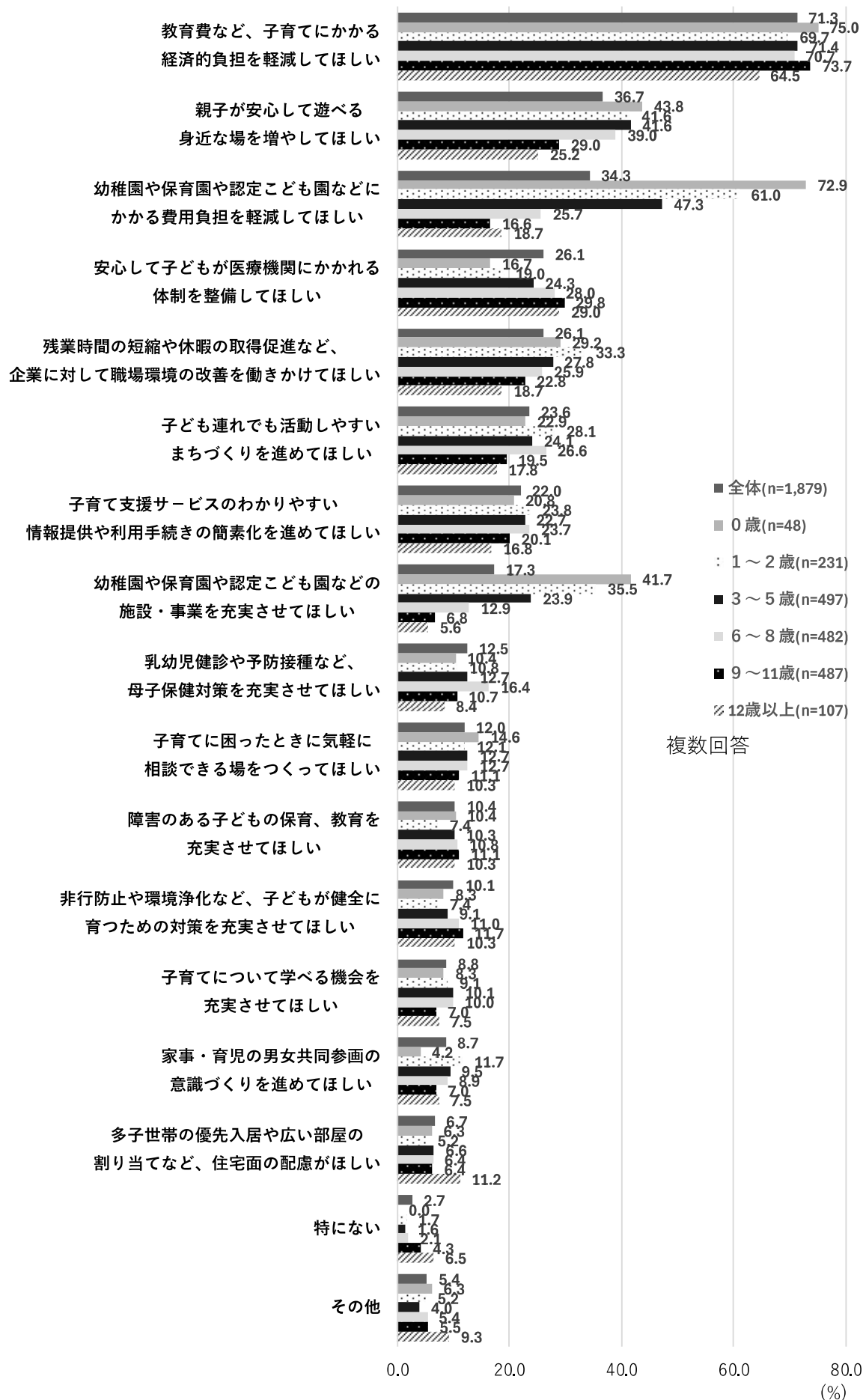
「幼稚園や保育園や認定こども園などにかかる費用負担を軽減してほしい」、「幼稚園や保育園や認定こども園などの施設・事業を充実させてほしい」と回答した割合は年齢が低いほど高く、0歳では前者が72.9%と、同年齢層で最も高い比率を占めた。後者も41.7%とほぼ半数が期待している。

逆に、「安心して子どもが医療機関にかかる体制を整備してほしい」と回答した割合は年齢が高いほど高くなっている。

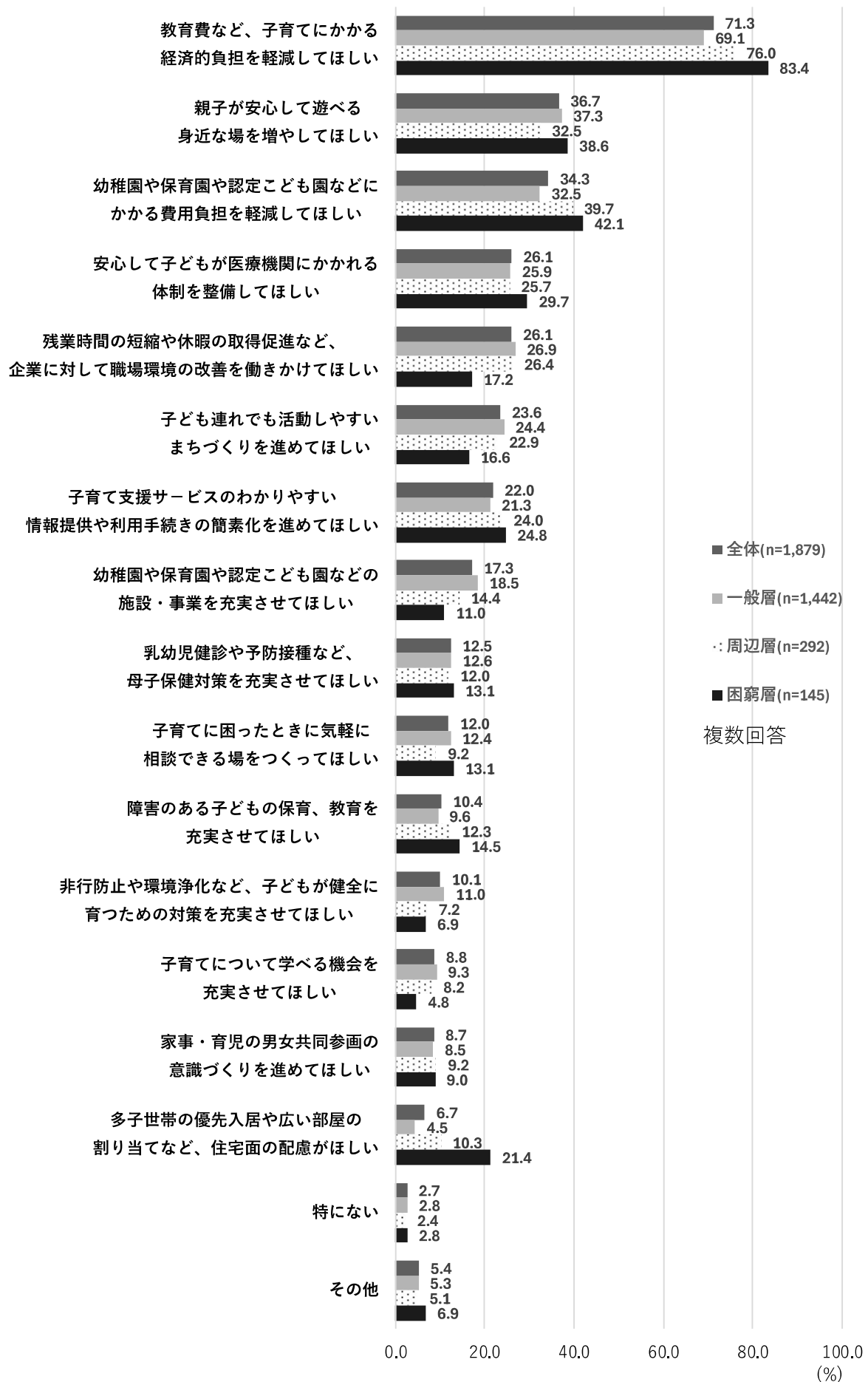
生活困難層に係る分類でみると、困窮層では「教育費など、子育てにかかる経済的負担を軽減してほしい」と回答した割合が83.4%となっているほか、「多子世帯の優先入居や広い部屋の割り当てなど、住宅面の配慮がほしい」との回答が21.4%で、他の層を10ポイント超上回っている。

子育てがしやすいまちの評価別にみると、「教育費など、子育てにかかる経済的負担を軽減してほしい」と回答した割合は、子育てしやすいまちと思わない層で80%近くに達している。

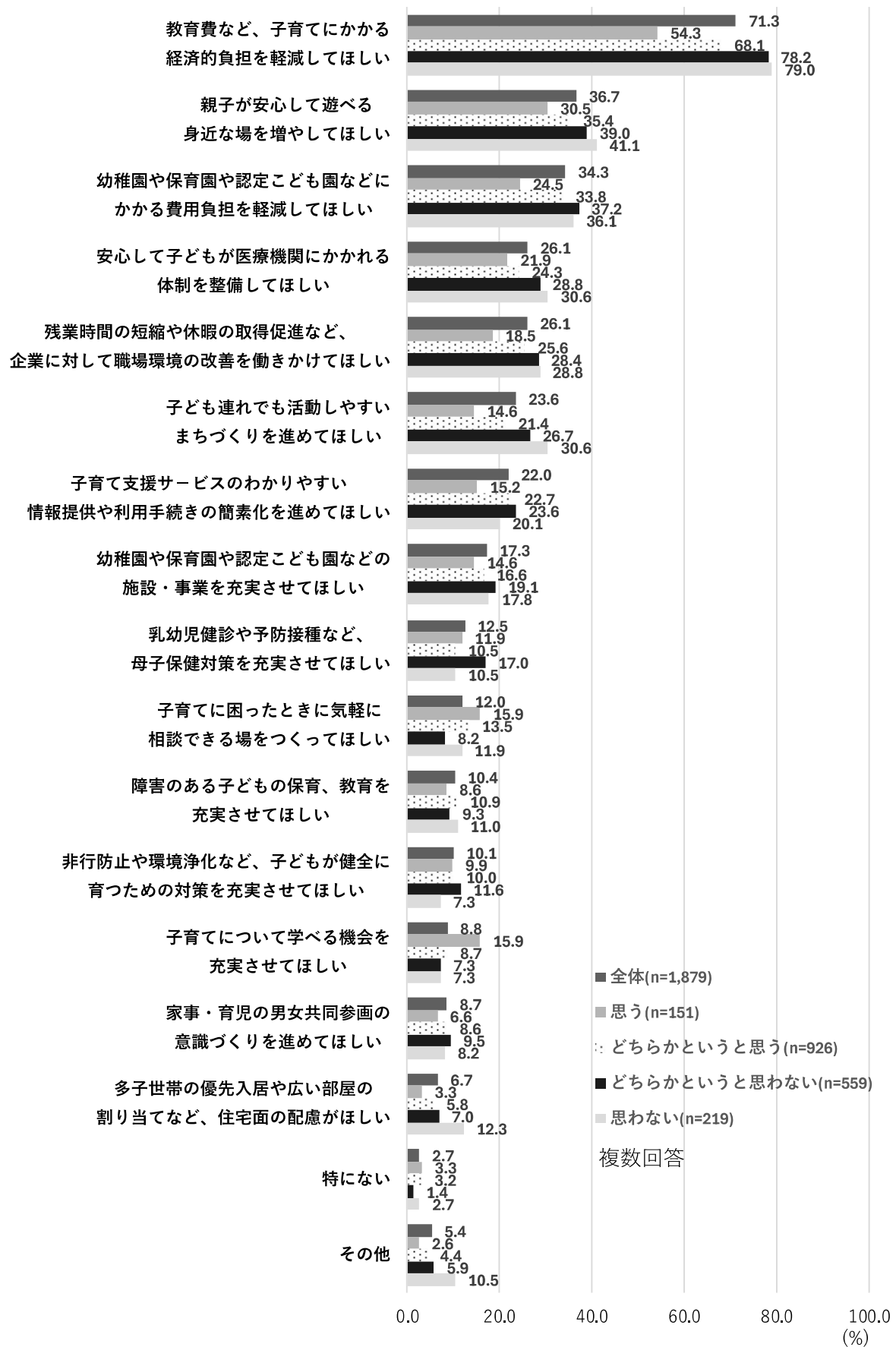
市に対して特に充実を期待する子育て支援（年齢別）



市に対して特に充実を期待する子育て支援（生活困難度別）



市に対して特に充実を期待する子育て支援 (下関市の子育てのしやすさ別)

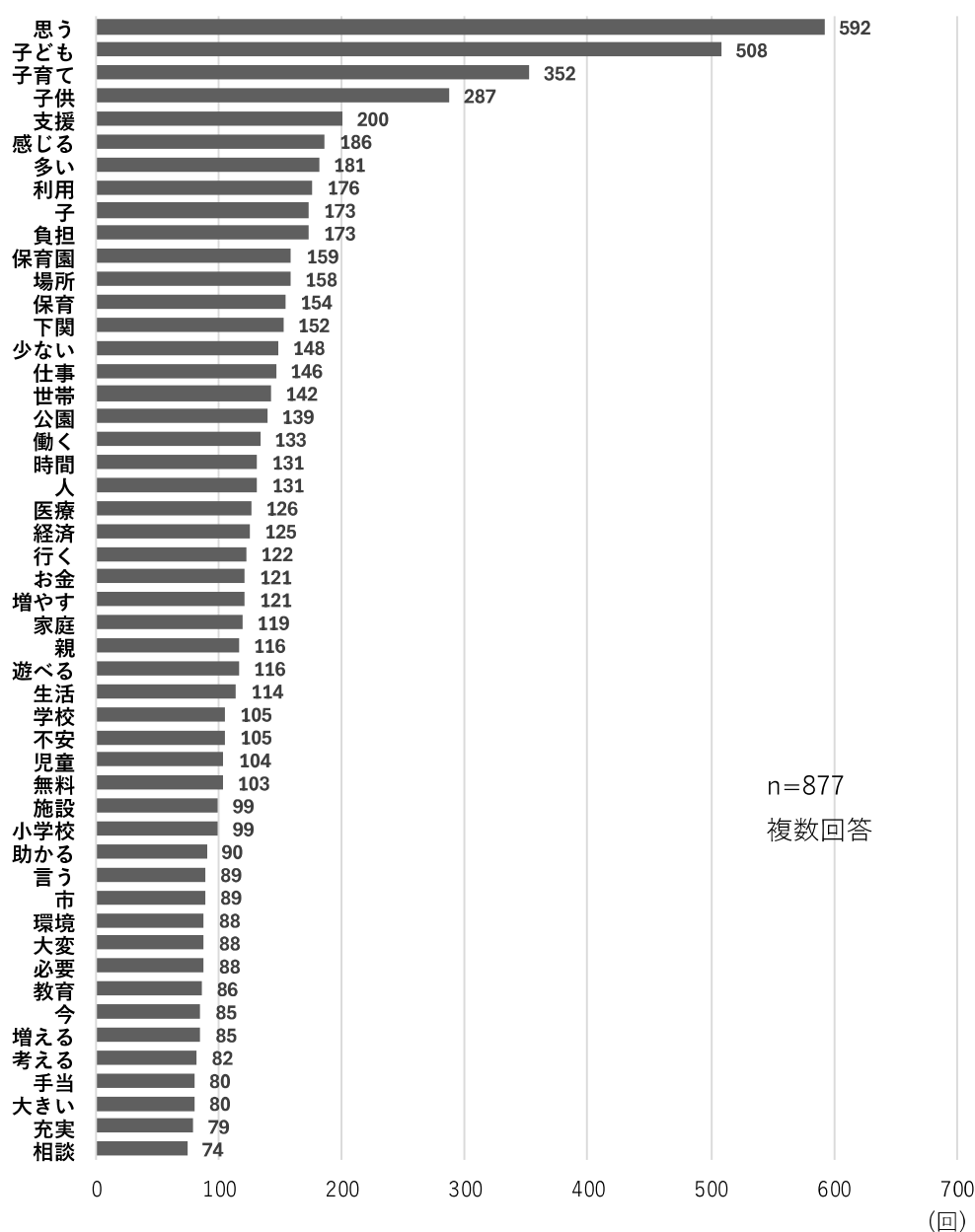


16 意見など

子育てに関する意見や要望、生活で感じていることなどについて、自由記述欄において、合計 877 件の記載があった。これらの意見等について、回答量が膨大であるため、テキストマイニング（大量のテキストデータから有益な情報を取り出す分析、専用の分析ツールを使用）の手法により、出現頻度の高い語句を抽出したところ、以下のとおりとなった。

結果をみると、「子ども」「子育て」「子供」の他には、「支援」「負担」「経済」「お金」といった経済的な負担・支援に関する言葉や、「保育園」「保育」といった保育関連、「仕事」「働く」といった就労関連、「公園」「遊べる」といった遊び場関連、さらには「医療」という言葉の出現回数が多かった。

就学前児童及び就学児童の保護者からの意見における
出現頻度の高い語句（上位50件）



結果をみると、「子育て」と「支援」との関係が強いほか、「保育園」や「保育」と「働く」や「仕事」、「利用」、「入れる」といった語句との結びつきが強く、就労に伴う保育ニーズの大きさが窺える。また、「負担」と「経済」、「無料」、「医療」、「給食」との関係が示された点は、医療費や給食費などの費用負担軽減に係るニーズを表すもので、「遊べる」と「場所」、「施設」、「公園」、「少ない」、「増やす」との関係は、遊び場の充実に関するニーズを示すものといえる。

[illegible]